

多数の長剛毛が約5層をなして輪生し、そのあるものは極めて長大である。柄部は無毛にして膨大部よりも短く、膨大部の直径と約同長である。前翅は薄黒くして薄黒き微毛を生じ、前縁には黒色の鱗片が密生してゐる。第三脈は翅端に於て縁脈に會し、第四脈は顯著ならず、第五脈は2分して1枝は後縁に達してゐる。平均棍は比較的大きく、柄部は白色、膨大部は帯赤色にして黒色の毛を粗生してゐる。肢脚は細長にして帯赤黄色であるが、黒色の毛と鱗とを生じて黒色觀を添へてゐる。

腹部は概して赤色にして背・腹の両面には黒色の鱗と長毛が生じ、且つ背面には各節毎に黒色の横走帯があり、此部には黒色の鱗が重疊してゐる。抱擁器は短大にして黒色を帯び、基節は多数の長毛を生じ、端節は無毛で單純である。

體長 1.6 耗。前翅長 1.4 耗。觸角長 1.4 耗。

(蟲 癭)

本種は「ウチハトコロ」*Dioscorea nipponica* MAKINO の葉裏及び蔓莖に寄生して、其の部の肥大を致し準球狀の蟲癭を形成する類である。蟲癭は直径5耗内外、表面は綠色にして平滑、毛茸を生ぜず、内質は準漿質にして粘液性を加味してゐる。壁は厚く中央部には1個の幼蟲室があり、ここに赤色の幼蟲が1頭宛棲息する。成蟲は葉の表面に面せる1端に穿孔されたる蛹孔より7月1日前後に羽化し出る。

盛岡市並に秋田縣小豆澤、八幡平等の各地で採集した。

シルベストリ屬 Genus *Silvestrina* KIEFFER

*Arthrocnonax* (part) KIEFFER, Boll. Labor. Zool. portici, IV, p. 133 (1910); *Silvestrina* KIEFFER, VI, p. 172 (1912); Gen. Ins. 214 (1913).  
複眼大にして殆んど相接し、鬚は長くして4節。雄の觸角節の基球の上位

は圓筒形であるが幅よりもあまり長からず、下位は幅よりも短い。柄は幅の約2倍長、下位の柄は幅よりも長い。雌蟲にては圓筒狀。肘脈は少々翅頂前に會する。爪は單純、雌の産卵管には2葉あり、雄の抱擁器の末節は基部膨大し、後半は細長となつて居る。*S. silvestrii* KIEFFER, Boll. Lab. Zool. Portici, IV, p. 153 (1910) はケーブタウン、ウェリントン及サマ・ベウロから記載されてゐる。

(44) ヨモギヌカタマバへ *Silvestria artemisiae* SHINJI

原記述 *Sitodiplosis artemisiae* SHIN, 昆蟲世界, 504號 p. 6. (1939).

(雌 蟲)

體は黄色にして小形。頭部は比較的小さく、複眼は黒色、後頭部は幾分黒くして黒色毛を生じ、口具は黄色。鬚は四節より成りて黄色、第一節は最短片、第二第三の兩片は約同大、第四節は最長片、各節は數個の剛毛を生じてゐる。觸角は15節より成り、體よりも幾分短く、全長に亘り薄黒い。第一節は第二節よりも長く、第二節は幅よりも短くして長毛を生じ、第三乃至第十四節は各有柄にして柄部は長幅約同大にして無毛、幹部は準圓筒狀にして基部に近く約12個の長毛を生じてゐる。第十五節は第十四節の幹部よりも短くなく、無柄である。

胸部は黄色なれども背、腹の両面は黒色である。前翅は透明にして縁脈には長毛を密生すれども鱗を缺き、第三脈は少しく曲りて翅頂に達し、第四脈は微毛列によりて表はれ、第五脈は2分してゐる。平均棍は黄色にして無數の微毛を密生してゐる。肢脚は細長にして淡褐色の長毛を生じ、爪は簡單にして分齒せず、黒色である。

腹部は黄色にして背腹両面には黄色の長毛を生じてゐる。産卵管は短小にして黄色、末端には二葉を着けてゐる。



體長 1.0 耗。 前翅長 1.5 耗。 觸角長 1.0 耗。

(雄 蟲)

體小形にして黄金色。複眼は黒色。後頭部は稍薄黒い。鬚は 4 節より成り、全長に亘りて淡黄色、各節は 5~6 個の短毛を生じてゐる。觸角は 15 節より成り、黒色乃至薄黒く、第一第二の兩節は無柄にして各 1 節より成り、第三乃至第十四節は各 2 節 2 柄より成り、柄部は幅の約 2 倍長、無毛。第一膨大部は準球状にして長幅約同大、14 個内外の長剛毛を生じ、第二膨大部は準卵状にして幅の 1 倍半大、其の後半部は約 12 個の剛毛を生じてゐる。

胸部は背、腹兩面が黒色、側面は黄金色である。脈相は雌蟲の場合と同様である。肢脚は細長にして黄色、黄色の長毛を密生してゐる。爪は簡單にして分齒せず、黒色である。

腹部は黄色にして腹、背兩面には黄色の長毛が多い。抱擁器は寧ろ短小、基節は黄色にして有毛、末節は黒色にして長く伸び、無毛である。

體長 0.9 耗。 前翅長 1.3 耗。 觸角長 0.9 耗。

(蟲 瘻)

本種は「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* var. *indica* の表皮下に潜在し、其部を波状に起伏せしめて 1 種の蟲瘻を形成し、蟲瘻は皮面上へ約 1 耗隆起し、概して紫赤色を帯びてゐる。成蟲は 8 月 10 日前後に出現する。盛岡市内に普通に見られる蟲瘻である。

(45) ノリウツギヌカタマバへ *Silvestria Hydrangeae* SHINJI n. sp.

(雌 蟲)

體は黄色にして微小。頭部は幾分薄黒く、複眼は黒色、後頭部には前方へ曲つてゐる長毛を並生してゐ、口具は黄色。鬚は 4 節より成りて少數の毛を

生じ、黄色。觸角は 15 節より成り、體よりも幾分短く、全長に亘り薄黒い。第一、第二の兩節は概して長幅約同大、第三~第十四節は皆有柄にして柄部は長幅約同大にして無毛、幹部は準圓筒状にして基部に近く 10 個内外の長毛を生じてゐる。第十五節は第十四節の幹部より短くなく、無柄である。

胸部は側面が淡黄色、背・腹兩面は黒色を帯びてゐる。前翅は透明にして、前縁脈には長毛を生じ、鱗を缺いてゐる。第三節は少しく曲つて翅頂に達し、第四脈は微毛によつて現はされ、第五脈は 2 分してゐる。平均棍は黄色にして長毛を生じ、産卵管は短小、黒色ではない。

體長 0.9 耗。 前翅長 1.3 耗。 觸角長 0.9 耗。

(46) タカトウダイタマバへ *Silvestria euphobiae* SHINJI

原記載 *Contarinia euphobiae* SHINJI, *Insect World*, 502, p. 3 (1939)

(雄 蟲)

體は寧ろ小形にして赤色乃至帶赤色。頭部は複眼以外は黄色、複眼は黒色。鬚は 4 節より成り、全長に亘り黄色にして短毛を粗生し、第一節は最短片、第四節が最長片、第二第三の兩節は約同長である。觸角は 15 節より成り、第一第二の兩節以外の各節は柄部と膨大部とより成り、膨大部と柄部とはまた 2 部より成る。各柄節は膨大部よりも長く、1 節隔に末端が黒色、故に黒色部より黒色部までを 1 節と見做せば全長は二膨大部を有する亞鈴形のもの 15 節より成る事となる。膨大部は 1 節毎に幅よりも長きか、若しくは短い。各約 10 個の長剛毛を生じてゐる。

胸部は背面が黒色を帯びてゐるが、菱形部は白色。前翅は準透明にして脈は黄色。前縁部には鱗を缺き長毛を生じ、第三脈は殆んど翅端に於て前縁脈に合し、第四脈は不明瞭、第五脈は 2 分して 1 枝は後縁へ向つてゐる。平均



棍は白色にして短毛を粗生してゐる。肢脚は帯赤黄色にして基轉兩節は黄色に近く、他節は黒色の長毛を密生して黒色觀を呈してゐる。爪は單純にして分齒せず、褥盤は短小である。

腹部は黄色、乃至帯赤黄色、背・腹の兩板には若干の長毛があり、抱擁器は寧ろ短大、基節は黒色にして有毛、2瓣に分れてゐる。末節は黒色にして無毛である。

體長 1.1 耗。 前翅長 1.1 耗。 觸角長 1.5 耗。

(雌 蟲)

體は中形にして黄褐色。頭部は幾分薄黒味を帯び、複眼は黒色。鬚は4節より成り、全長に亘りて黄色、第一節は最短片、第四節が最長片にして、第二、第三の兩節は約同大である。各節は3乃至5個の細毛を生じてゐる。觸角は14節より成り、第一節は黄色、第二乃至第十四節は黒色、第一第二の兩節は長幅約同大、殘餘の諸節は有柄にして基部なる膨大部は準依狀を呈し、約8個宛の長き黒色剛毛を約2層を成して輪生し、後半なる柄部は長幅約同大。第十四節は他節よりも小さくない。

胸部は背腹兩板が概して黒色であるが、中胸小楯板は赤色。前翅は準透明にして白色、脈は薄黒く、薄黒き細毛を粗生し、前縁には鱗が無く、第三脈は翅端に達し、第四は缺如し、第五脈は曲りて後縁へ達する。肢脚は概して淡黄色、基・轉兩節は黄色、他節は黒色毛を密生し、爪は單純にして分齒せず、黒色、褥盤は短小である。

腹部は赤色にして背・腹兩板には若干の長毛を生じてゐるが鱗を缺いてゐる。産卵管は短小にして黄色である。

體長 1.1 耗。 前翅長 1.1 耗。 觸角長 1.5 耗。

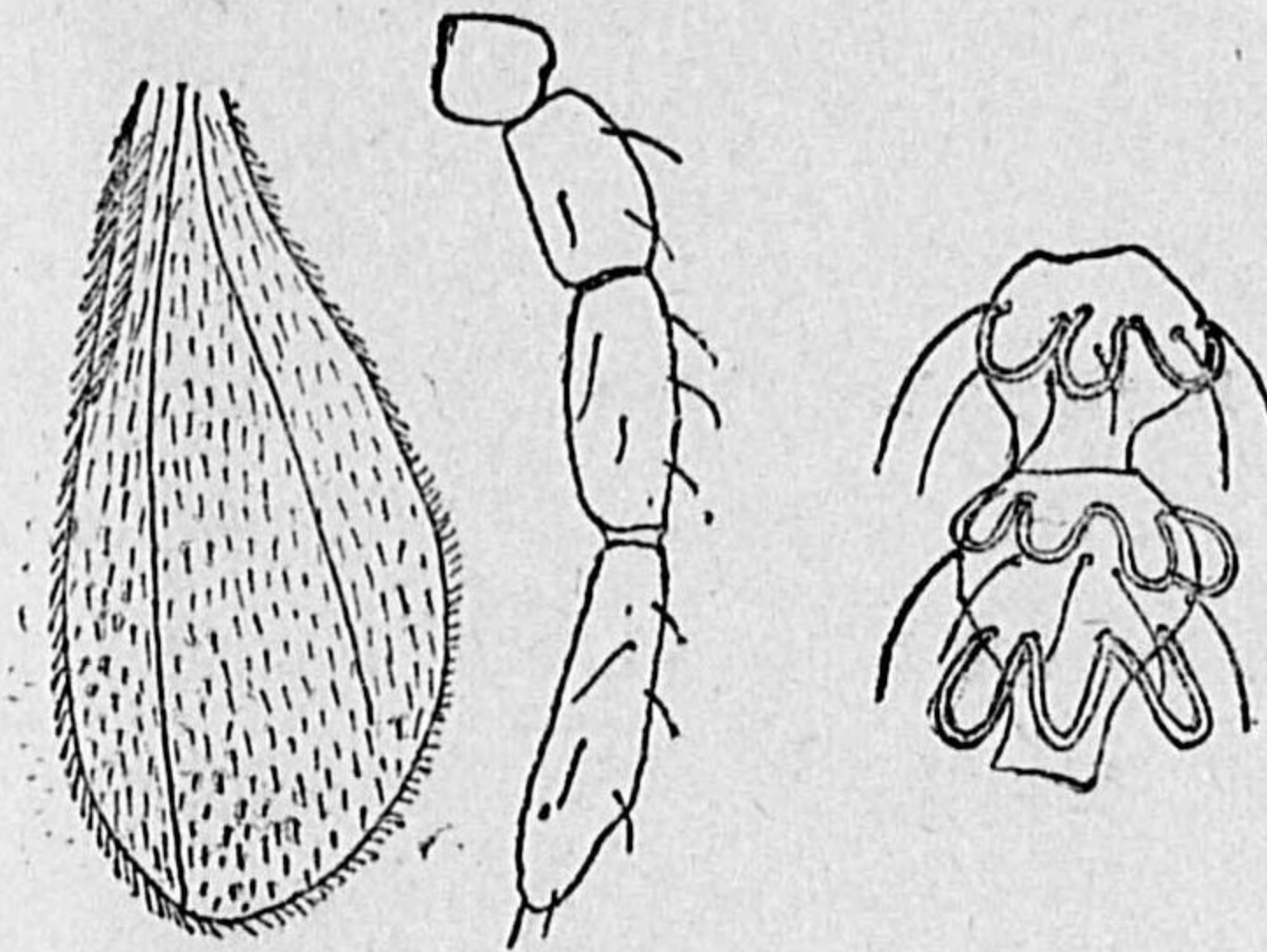
本種は「タカトウダイ」*Euphorbia pekinensis* RUPR. の生長端の嫩葉約10枚を堅く綴合し、其の葉間に棲息する。幼蟲は赤色にして一般には7月上旬

に地中に入りて越冬するが、稀には7月下旬に羽化する例がある。

標型地 盛岡市。全國に分布してゐる。

(47) ナラヌカタマバへ(新稱) *Silvestrina quercifoliae* SHINJI, n. sp.

體は黄色乃至淡黄色にして寧ろ小。頭部は概して黒色を帯び、複眼は黒色。後頭部よりは數十の前方へ嚮ふ黒色の剛毛が生じてゐる。鬚は4節より



第 26 圖

ナラヌカタマバへの雌蟲の翅(右)と鬚(中)と雄蟲の觸角第五節(左)

成りて幾分薄黒く、第一節は長幅約同大にして3個の長毛を生じ、第二節は幅の約2倍長にして約3箇の毛を生じ、第三節は第二節よりも長くして幅の約2倍半長、第四節は最長片にして毛を缺き、第二節の約2倍長である。觸角は14節より

成り、全長に亘り薄黒く、第一節は準圓錐形、第二節は長幅約同大、第三～第十四節は日本蠶繭形にして長さは幅の2倍強且つ末端部に柄を有し、之は幅の約1倍半長ある。各節は基半部及び後半部の各部に約6本の剛毛を生じてゐる。

胸部は背腹兩面が黒色、側面は黄色である。菱形部は1對の剛毛を生じてゐる。翅は割合に廣くして第三脈は前翅の3分1の所に於て前縁と合し、縁毛は長く、全面1様に短毛を生じてゐる。第四脈は翅頂よりも前に於て合縁し、第五脈は分枝し、第一枝は顯著でない。肢は黄色にして黒褐色の長毛を密生し、爪は單純にして分齒せず、黒色。褥盤は爪の2分の1よりも短い。



雄蟲の觸角は 14 節より成り、全長に亘りて黒色、第三～第十四節は中部の縊れたる 2 節型にして柄は長幅同大、各節の肥大部には 6 旋回よりなる纏繞器と約 16 本の長き剛毛とを具へてゐる。把握器は黒色にして、基・端の兩節共に角質、基節は多數の剛毛を生じ、末端節は其基部肥大し、此の部に約 10 本の毛を生じ、後半部には毛を缺いてゐる。

體長 1.2 耗内外。 翅長 1.2 耗内外。

宿主植物 ナラ *Quercus grandulifera* SIEB. et. ZUCC.

標型地 東京府下府中町

成蟲の出現期 6 月 6 日

Genus *Dicrodiplosis* KIEFFER

*Dicrodiplosis* KIEFFER, Bull. Soc. Ent. France LXIV, p. 194 (1895).

(雌蟲)鬚は 4 節、觸角の鞭狀部の各節は圓筒狀にして幅の 2 倍以上に長く、彎曲して横置纏繞器を 2 層に有し、肘脈は翅頂に於て縁脈に會し、爪は 1 齒を生じ、褥盤よりも長い。産卵管は體内に引込まれ得ず、2 個の長腮様葉を着けてゐる。

標型種 *D. fasciata* KIEFFER

(48) ヨモギチビタマバへ *Dicrodiplosis minuta* SHINJI

原記述 *Dicrodiplosis minuta* SHIN., Plants and Animals VII. 2, p. 384 (1939).

(雄 蟲)

體は淡黄色にして小形。頭部は淡黄色であるが複眼は黒色。鬚は 4 節より成り少しく薄黒く、各約 3 個の剛毛を生じてゐる。額は黄色にして 6 個内外の剛毛を生じ、後頭部は幾分薄黒く、黒色の剛毛を 10 個内外生じてゐる。

觸角は 14 節より成り、體と約同長にして薄黒い、第三乃至第十三節は前後の兩球部より成り、各球竝に各節は柄部によつて連絡されてゐる、柄部は長幅約同長、球部では前球は後球よりも幾分短くして約 10 個の剛毛と 1 個の波狀纏繞器とを具へ、後球部は幅よりも僅かに短くして約 10 個の剛毛と 2 個の波狀纏繞器とを有してゐる。

胸部は背面のみが黒色にして黒色の剛毛を粗生し、小楯板上には 8 個の長剛毛がある。前翅は準透明にして、周縁竝に表面には長毛を生じ、第三脈は殆んど翅頂に達し、第四脈は不明、第五脈は少しく曲りて後縁近くに伸びてゐる。脈は全て黄色である。肢脚は細長にして長毛を密生し、跗節の毛は薄黒くして脚に薄黒味を添へてゐる。爪は分齒せず、褥盤竝に褥毛は短小。

腹部は黄色にして黒色味を帯びず、腹板は後縁が葉狀に突出して剛毛を生じ、背板また剛毛を粗生してゐる。抱擁器は比較的大にして基部は太く有毛。牙狀部は寶珠形にして無毛、共に角質である。

(雌 蟲)

雄蟲に酷似してゐるが、體は稍赤色味を帯びたる黄色。鬚は 4 節より成る。觸角は 14 節より成りて體よりも僅かに短く、第一第二の兩節は長幅約同大、第三乃至第十三節は有柄にして柄部は長幅約同大、幹部は準俵狀にして恰も 2 球よりなるが如き觀を呈し、前後の兩部は各 6 個内外の剛毛を生じてゐる。末端なる第十四節は無柄にして幹部は他部のものと約同大である。産卵管は短く、微毛を生じ、黄色である。

(習 性)

「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* var. *indica* の生長端附近の莖の皮下に寄生し、幾分表皮面を隆起せしめた蟲瘻を形成するのが本種である。8 月 18 日前後に羽化して成蟲となる。蛹皮は樹皮面とは約直角に突出されてゐる。盛岡市附近に多い種である。



ミヂンタマバへ屬 Genus *Clinodiplosis* KIEFFER

*Cecidomyia*? (part) WALKER Ins. Britanica III, p. 111 (1856).

*Diplosis* KIEFFER, Ent. Nachr. Berlin, XV, p. 152 (1889).

*Clinodiplosis* KIEFFER, Feuille Jeunes. at. Paris, XXIV, p. 121 (1894).

" " Fam. Cecid., Gen. Ins. p. 237 (1913).

鬚は4節。觸角は14節、第一第二の兩節は圓錐形、第三以後の各節は2部より成り、第一(下)部には1層の纏繞器と剛毛を生じ、上節には2層の剛毛列と纏繞器とがあり、柄部は長い。雌の觸角節は圓筒形にして柄部の2倍以上に長い。翅の肘脈は翅頂後に翅縁に會し、脚の前中4爪は1齒を生じ、後2爪は單純、褥毛は爪よりも甚しく短い。雄蟲の抱擁器の末節は細長くして無毛。雌の産卵管の末端は3葉を着け、中葉は小さい。

KIEFFER氏は1913年 Gen. Ins. pp. 237—239に於て55種を揚げてゐる。

(49) ハシバミミヂンタマバへ *Clinodiplosis corylicola* SHINJI, n. sp.

(雌 蟲)

體は微小にして白色。頭部は白色、複眼のみ黑色、頬、額、及び口具は白色。觸角は十五節より成り全長に亘りて白色、第一節は倒圓錐狀、第二節は長幅約同長、第三乃至第十四節は各柄・幹の2部より成り、柄部は幹部の約3分の1長、幹部は幅の3倍長にして基、端の兩部よりは約10本内外の長き剛毛を二層に輪生してゐる。第十五節は短小にして準圓錐狀である。

胸部は筋束上の背面が薄黒く、他は白色である。前翅は準透明の灰白色にして寧ろ細長く、前縁部は鱗を缺きて長毛を生じ、第三脈は翅端を幾分越して後に翅縁に合し、第五脈は1枝を後縁へ送つてゐる。平均棍は白色にして

短毛を粗生し、肢脚は概して白色、爪は單純にして分齒せず、黑色である。

腹部は白色して各環節の接合部は幾分薄黒く、長毛を生じてゐる。産卵管は灰白色にして極めて短小、2個の乳嘴狀瓣を突出して居る。

體長1.4耗。體幅0.2耗。前翅長1.3耗。

(50) ノイバラミヂンタマバへ *Clinodiplosis rosiperda* SHINJI

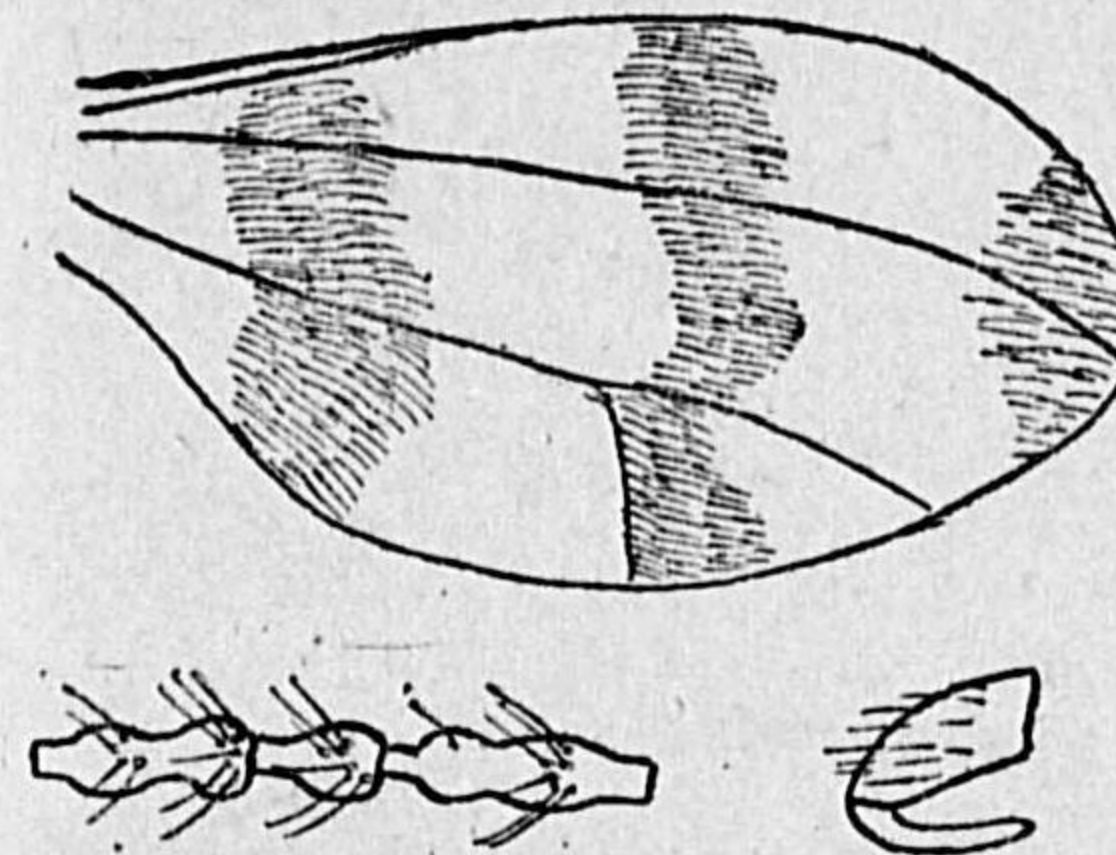
原記述 *Schizoneura rosaefoliae* SHINJI, Insect World, 499, p. 2 (1939)

(雌 蟲)

體は少しく黄色味を帯び、複眼のみ黑色、前翅は少しく薄黒い。

體は寧ろ小形にして纖細、淡黄色である。頭部は淡黄色にして後頭部には長毛が生じてゐる。鬚は4節より成り、全長に亘り淡黄色にして短毛を粗生し、第四節が最長、第一節が最短にして第二第三の兩節は約同大である。觸角は15節より成り、全長に亘りて幾分薄黒く、第一第二の兩節は長幅約同

大、第三乃至第十四節は各節共に幅よりも長く且つ基部なる柄と後部なる幹部とより成り、柄は幹部の約3分の1長よりは少しく短く、幹部は幅の約3倍長にして10個内外の極めて長き剛毛を基部に輪生し、第十五節は準圓錐狀にして、第十三節の約3分の1長である。後頭部は淡黄色にして長き剛毛を粗生してゐる。



第 27 圖

ノイバラミヂンタマバへの雄蟲の翅(上)と觸角の一部(下左)と把握器

胸部は淡黄色にして筋束背は薄黒く、菱形部は淡黄色である。肢脚は細長にして概して黄色、爪は單純にして黑色、褥盤は短小である。前翅は少しく



薄黒く、前縁には鱗を缺きて剛毛を密生し、第三脈は少しく上(前)方へ曲りて後に翅頂に達し、第四脈は單1、第五脈は曲りて後縁へ達し、共に基部は不明瞭である、平均棍は白色にして細毛を粗生する。

腹部は淡黄色にして各環節の背板上には極めて薄黒き横走帯があるが、鱗を缺き毛を生じてゐる。産卵管は短小にして黄色、兩瓣は顯著である。

體長 1.0 耗。 前翅長 1.0 耗。 觸角長 0.9 耗。

(雄 蟲)

體は淡黄色にして極めて小さい。頭部は淡黄色、鬚は4節より成り、淡黄色にして短毛を粗生し、第四節が最長、第一節が最短にして、第二第三の兩節は約同長である。觸角は26節より成り、全長に亘りて薄黒く、第一、第二の兩節は約同大にして共に長幅約同大、第三乃至第二十五節は柄部と幹部との二部よりなり、幹部は第三、第五と奇數節にありては準亞鈴狀を呈して幅よりも長く、偶數節にありては單1の膨大球をなし、長幅約同大、基部に於て約10個の長大なる剛毛を輪生し、且つ2乃至4個の纏繞器を前方へ生じてゐる。柄部は奇數節にありては幹部と約同長、偶數節に於ては幹部よりも長い。第二十六節は柄部を具へず、準圓錐狀にして短小である。

胸部は概して淡黄色であるが、背面筋束上は薄黒い。前翅は準透明にして脈は黄色、第三脈は少しく曲りて後に翅頂に於て縁脈と合し、第四脈は單1、第五脈は曲りて後縁に達してゐる。基部と中央部と末端部とは前縁より後縁へ亘る黒色帯が三條ある。肢脚は細長にして概して黄色、爪は黑色にして單純、分齒せず。平均棍は淡黄色にして短毛を粗生してゐる。

腹部は淡黄色にして背板は稍々薄黒味を帯び、鱗を缺如してゐる、抱擁器は比較的細長にして基節には多數の長毛が生じ、端節は無毛にして細長い。共に黄色で黑色ではない。

體長 1.0 耗。 前翅長 1.0 耗。 觸角長 0.9 耗。

蟲癭及生活史

本種は5月下旬に「ノイバラ」*Rose multiflora* THUNB. の葉柄、葉肋、花梗等に産卵し、産卵された部域は肥厚し、多少彎曲し、且つ一般には黄色の銹菌を外面へ生ぜしめる。内部には多數の淡黄色なる幼蟲が棲息する。2—5日間の蛹期を経て、7月1日前後に成蟲が羽化し出る。

(51) クマヤナギヌカタマバベ *Clinodiplosis kumayanagi* SHINJI

原記述 *Orthodiplosis kumayanagi* SHIN., 昆蟲世界第4卷 465 號, p. 8 (1938).

(雌 蟲)

體は中形にして赤色。頭部は黄色。複眼は黑色。鬚は4節より成りて薄黒く、第一節は最短片、第四節は最長片、第二第三の兩節は約同大である。觸角は14節より成り全長に亘りて薄黒く、第二節は長幅約同大、第三乃至第十四節は米俵狀にして且つ有柄、柄部は無毛にして幅よりも幾分長く、膨大部は中部が幾分縊れ、後半部は長幅約同大、基半部は幅の約2分の1長、10個内外の長毛を約二層をなして輪生し、第十四節は無柄にして他の膨大部と約同大である。額部には約8個の長き剛毛が生じてゐる。

胸部は背、腹共に黑色、肢脚は細長にして地色は黄色、薄黒色の鱗と毛とを生じ、爪は單純にして分齒せず、黑色である。前翅は準透明にして第三脈は殆んど直走して翅端に達し、第五脈は曲りて後縁に達してゐる。

腹部は背腹共に長き剛毛を生じ、産卵管は短小にして末端は2葉をなしてゐる。

體長 1 耗。 前翅長 1 耗。 觸角長 0.7 耗。

蟲癭及生活史

本種は「クマヤナギ」*Berkemia racemosa* SIEB. の葉柄に寄生し、其の部



を膨大せしめて1種の蟲瘻を形成する。蟲瘻は長さ 20 耗内外，直径 4 耗内外にして表面は平滑なれども普通に黒銹菌を寄生せしめ，内質は準漿質である。蟲室は 1 個，幼蟲は赤色，第 1 回の成蟲は 8 月 1 日前後に羽化して成蟲となる。各地に普通である。

(52) ハクウンボクチビタマバへ

*Clinodiplosis styracifoliae* SHINJI n. ep.

(雌・雄) 體は淡黄色にして寧ろ小形の部に屬し，頭部は概して黄色。複眼は黑色にして大，觸角は 14 節より成り，全長に亘り幾分薄黒く，第一，第二の兩節は約同大にして長幅略同大，第三～十三節は概して 2 部より成り，基部の膨大(幹)部と後半の柄部とは約同長，柄部は幅に於ては膨大部の約 2 分の 1 である。基幹部は中央に於て縊れて



第 28 圖  
ハクウンボクチビタマバへの雌蟲の觸角

準米俵形を呈し，約 10 本の長大なる剛毛を生じてゐる。末端なる第十二・第十三・第十四節の 3 節にありては，緊縮部顯著ならず，長毛も少数にして且つ短小である。後頭部には薄黒色の長毛が生じ，之等は前方へ曲つてゐる。鬚は 4 節より成りて第四節が最長，第一節は最短，第二，第三の兩節は約同大である。

胸部は背腹兩面が黒く側面は黄色で顯著なる鱗を缺いてゐる。小楯板には對の長毛が生じてゐる。翅は準透明にして脈は黄色，翅面には翅端の外に約 3 條の黒色毛帯がある。肢脚は黄色なれども黒色の毛を生じ，爪は單純にして黒色，彎曲してゐるが直角をなす程ではない。腹部は黄色なれども薄黒き長毛を生じてゐる。産卵管は割合に短小にして 2 葉を具へ，抱擁器の基部は有毛，末節は細長くして無毛である。

體長 12 耗内外。

キノコタマバへ屬 *Mycetodiplosis* KIEFFER

*Clinodiplosis* KIEFFER, Bull. Soc. Nat. Hist. Metz, XXVI, p. 19 (1909)

*Mycetodiplosis* KIEFFER, Neue Gall. Gatt. Bitsch, p. 1 (1912).

" " Gen. Ins. p. 239 (1913).

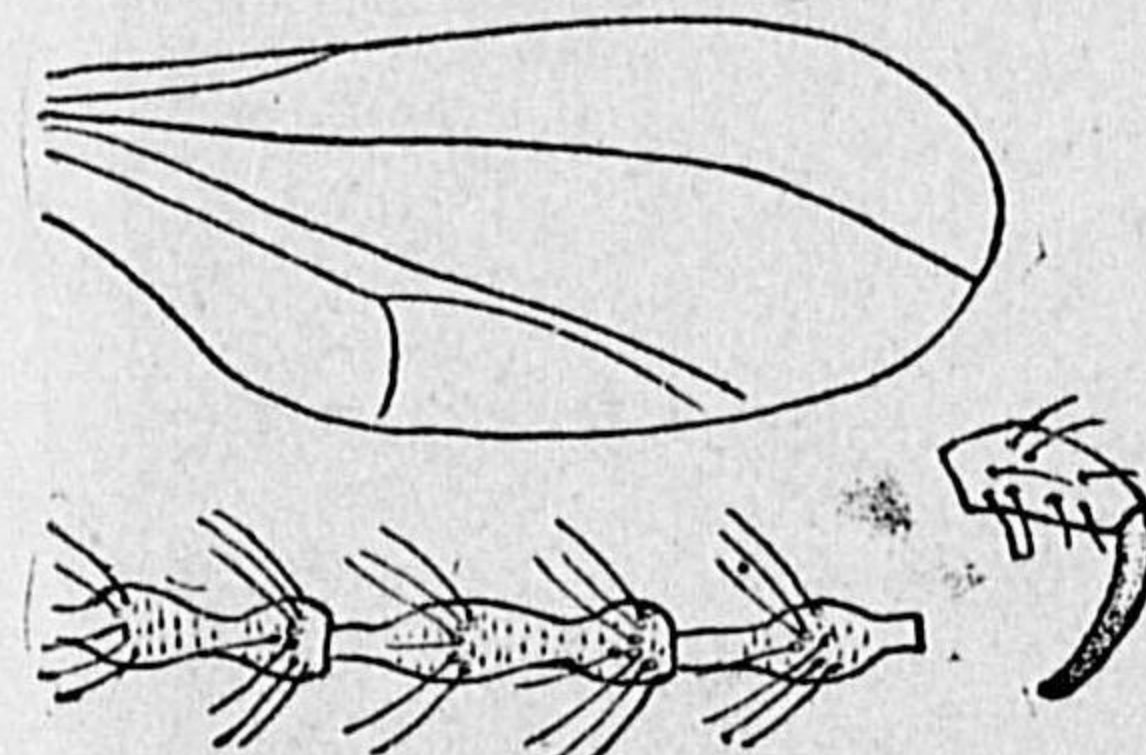
鬚は 4 節にして長く，觸角は 2 部より成り，基球上の纏繞器は毛よりも短く，端球上には 2 個あつて，柄は膨大部よりも長い。肘脈は翅頂後に來，褥盤は甚だ短小。抱擁器の末端節は細長である。

KIEFFER は Bull. Soc. Hist. Nat. Metz. XXVIII, p. 111 (1913) 及び Gen. Ins. p. 240 (1913) で一種 *M. boletin* を記載してゐる。

(53) トリアシヤウマキノコタマバへ *Mycetodiplosis astilbensis* SHINJI

原記述 *Shizoneura astilbensis* SHINJI, Insect World, p. 4 (1939).

前種に甚だよく似てゐるが，次の諸點で區別が出来る。(1)觸角は雌蟲で



第 29 圖  
トリアシヤウマヲマルタマバへの翅(上)と雌蟲の相握器(右)と觸角第三～第五節

は兩種共に 15 節よりなるが，雄蟲に於ては本種では 24 節，前種では 26 節である。(2)本種の雌蟲の觸角各節の柄部は幹部の約 4 分の 3 長，少くとも半長以上であり，前種の場合には約 3 分の 1 長で半長に達する事が無い。(3)柄節は基節の 2 倍若しくは 3 倍大であるのに前種では約同長である。(4)雄蟲の觸角の剛毛数は本種では約 20



個，前種では其の約半數である。

(雌 蟲)

體は小形にして淡黄色，僅かに複眼のみが黒色である。頭部は口具と共に淡黄色にして後頭部は若干の長き剛毛を具へ，鬚は4節より成り，全長に互りて淡黄色にして短毛を粗生し，第四節は最長，第一節が最短にして，第二第三の兩節は約同長である。觸角は15節より成り，全長に互りて幾分薄黒く，第十五節は準圓錐状にして他よりも著しく短小，第一，第二の兩節は共に同長にして長幅約同大，第三乃至第十四節は柄部と幹部との2部より成り，幹部は直径の約2倍長にして細毛を密生し，柄部は無毛にして幹部の約4分の3乃至少くとも半長よりは長である。

胸部は良く發育し，概して淡黄色であるが筋束上の表面は薄黒い。前翅は準透明にして微細毛を生じ，第三脈は少しく前方へ曲りて後に約翅端に於て終脈と會し，第四脈は基半部が不明瞭，第五脈は急に曲つて翅の後縁に達してゐる。平均棍は淡黄色。肢脚は細長にして概して爪の半長。褥盤は爪の半長。褥毛は盤よりも短い。

腹部は淡黄色にして背面には各環節毎に薄黒色の横走帯がある。産卵管は極めて短く，僅かに黄色なる一對の葉状體のみを示してゐる。

體長 1.2 耗。 前翅長 1.1 耗。 觸角長 0.7 耗。

(雄 蟲)

體は淡黄色にして小形，頭部は淡黄色にして後頭部は若干の長き剛毛を生じてゐる。口具は淡黄色，鬚は4節より成る。觸角は25節より成り，全長に互りて薄黒く，第一第二の兩節は概して幅よりも短く，第三乃至第二十四節は柄部と幹部との2部より成り，幹部は準球状の部と準亞鈴状の部とが交互し，奇數節に於ては柄部は幹部の約2倍長，偶數節に於ては約同長である。柄部は無毛，各幹部は約16本の甚だ長き剛毛と若干の毛とを輪生してゐる。

第二十五節は極めて短小である。

胸部は概して黄色なれども，筋束の上背面は薄黒い。前翅は準透明なれども，瘦基と瘦端との附近は黒色又は薄黒く，此の兩端の中中部も翅を横斷する薄黒帯を具へてゐる。第三脈は少しく前方へ曲りて後に翅縁と會し，第四脈は基部が不明，第五脈は單1にして急に曲りて後縁へ達してゐる。平均棍は白色にして短毛を粗生してゐる。肢脚は細長にして概して黄色，爪は單純にして分齒せず，褥盤は爪の2分の1よりも長く，淡黄色である。

腹部は淡黄色にして背板には各環節のものに薄黒い横走帯がある。抱擁器は寧ろ細長く，末端は薄黒，他は全て黄色，基部は多數の長毛を生じ，末端節は無毛である。

體長 1.1 耗。 前翅長 1.1 耗。 觸角長 0.9 耗。

(蟲 瘻)

本種は「トリアシシヤウマ」*Astilbe thunbergii* MIQ. の直立莖，葉莖乃至葉脈等に寄生する。寄生部は甚だしく肥大し且つ一般にはく字形に彎曲し且つ表面には一般に黒銹菌の繁殖を見る。蟲瘻は長さ 15 耗内外，短徑 3 耗内外，幼蟲は多數にして淡黄色である。7月1日前後に羽化して成蟲となる。東北地方に普通である。

(54) ホタンヅルキノコタマバへ *Mycetodiplosis cleamatidis* SHIN. n. sp.

(雌 蟲)

ノイバラヲマルタマバへによく似て居るが，次記は主なる相違點である。

1. 觸角は雌蟲では兩種共に 15 節より成るが，雄蟲に於ては本種では 14 節，前種では 15 節である。

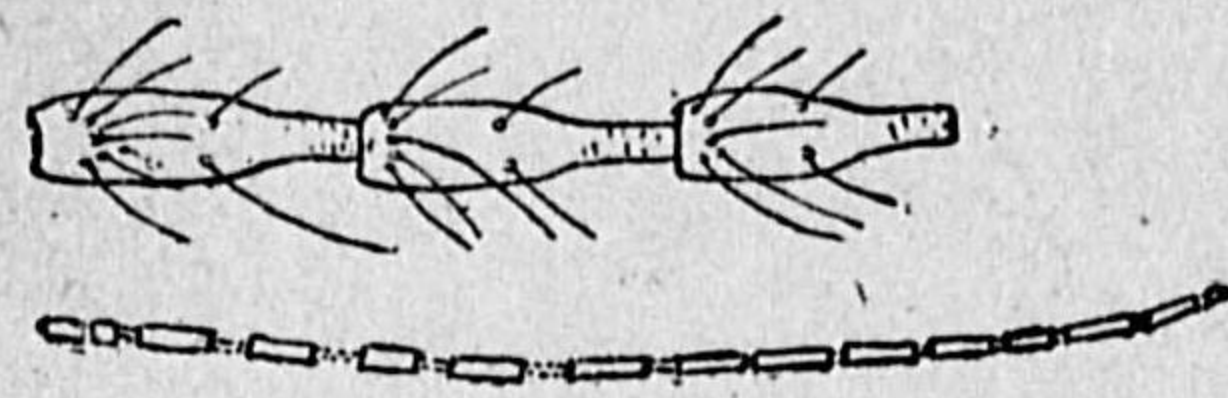
2. 本種の雌蟲の觸角各節の柄部は幹部の約4分の3長，少くとも半長以上であり，前種の場合には約3分の1長で半長に達する事がない。柄節は基



部の2倍若しくは3倍大であるのに前種では約同長である。雄蟲の觸角の剛毛数は本種では約20個、前種では其の約半数である。

(雄 蟲)

體は小形にして淡黄色、僅かに複眼のみが黒色である。頭部は口具と共に



第 30 圖

ポタンヅルキノコタマバへ雄蟲の觸角 5—8 節 (上)と雌蟲の觸角全長

淡黄色にして後頭部は若干の長き毛を具へ、鬚は4節より成り、全長に亘りて淡黄色にして

短毛を粗生し、第四節は最長、第一節が最短にして、第二、第

三の兩節は約同長である。觸角は15節より成り、全長に亘りて幾分薄黒く、第十五節は準圓錐狀にして他よりも著しく短小、第一、第二の兩節は共に同長にして長幅約同大第三乃至第十四節は柄部と幹部との2部より成り、幹部は直径の約2倍長にして細毛を密生し、柄部は無毛にして幹部の約4分の3乃至少くとも半長よりは長である。

胸部は良く發育し、概して淡黄色であるが筋束上の表面は薄黒い。前翅は準透明にして微細毛を生じ、第三脈は少しく前方へ曲りて後に約翅端に於て縁脈と會し、第四脈は基半部が不明瞭、第五脈は急に曲つて翅の後縁に達してゐる。平均棍は淡黄色、肢脚は細長にして概して爪の半長、褥盤は爪の半長、褥毛は盤よりも短い。

腹部は淡黄色にして背面には各環節毎に薄黒色の横走帯がある。産卵管は極めて短く、僅かに黄色なる1對の葉狀體のみを示してゐる。

體長 1.2 耗。前翅長 1.1 耗。觸角長 0.7 耗。

## 第二章 膜 翅 目 HYMENOPTERA

### 第一 瘿蜂(沒食子蜂)科 CYNIPIDAE

#### 瘿(沒食子)蜂科 CYNIPIDAE の特徴

體長6耗以下の小形蜂にして一般には黒色乃至褐色である。横脈少く翅は2對あれ共翅脈は少数にして縦脈は4以下、横脈少く第三縦脈、翅斑を缺いてゐる。肢脚の轉節は2部より成り、脛節端には距毛を生じ、爪は1對であるが、單1なる例と分齒する例とがある。Rhodite 屬のものは薔薇科植物に蟲癭を形成し、他の1屬 Charips は蚜蟲類に寄生し、他屬は凡て殼斗科の Quercus 屬の植物にのみ寄生して種々雑多の蟲癭を形成する。我國に産するもの30種内外ある。

DALLA TORRE und KIEFFER は Das Tierreich に於て瘿蜂科の特徴を次の如く記して居る (l. c. p. 1)。

Diplolepariae LATREILLE, Hist. Crust. Ins. XIII, p. 196 (1805); Cynipsida & Diplolepides LEACH in: Edinb. Enc. IX, p. 144 (1815); Cynipsea FALLEN, specim. Hym. Meth., p. 12 (1813); Gallicoles LATREILLE, in: Ent. Mag., II, p. 406 (1817); Gallicolse, Cyniphidae HALLIDAY, in: WESTWOOD, Introd. Class. Insect. II, Sym. p. 55 (1840); Cynipidae WESTWOOD, Intro. Class. Ins. II, p. 124, 125 (1840)

下腮は幅廣く且つ角皮質、外舌は肉質にして肥大し且つ剛毛を生じてゐる。下腮鬚は3—5節、下唇鬚は2若しくは3節より成つてゐる。觸角は12—16節より成るが、屈折せず、絲狀又は末端附近が肥厚してゐる。翅は常に發達してゐて1箇の明瞭乃至不鮮明な徑室を具へ、3個までの徑肘室がある。翅斑は之を具へるものが稀である。轉節は1見2節觀を呈するが、本來1節より



成り、腹部は有柄にして、之は幅が長さよりも大きい。第二若しくは第二及び第三節が甚だ発達してゐ、残節は多少とも退化してゐる。産卵管は腹面に生じてゐる。卵子は有柄、幼蟲は無肢にして平滑無毛にして角質の上脛を有し、之には1—3個の齒がある。一般に氣門數は9、肛門は裂開狀である。

**ダイプロレピス屬 Genus Diplolepis L. GEOFFROY**

本屬の既知種數は約60で、邦産種6種を含んでゐる。皆殼斗科中の *Quercus* 屬の植物にのみ寄生し、葉、芽、枝、幹及び花、即ち植物の殆ど全部に亘りて蟲癭を營み、歐洲、北亞弗利加、亞細亞、濠洲及び亞米利加に分布してゐる。

1758 *Cynips* (part). LINNE, Syst. Nat., ed. 10, p. 343, 553.

1762 *Diplolepis* (part), L. GEOFFROY, Hist. Ins., v. 2, p. 309.

1815 *Diplepis*, RAFINESQUE, Anal. Nat., p. 126.

1869 *Liadora*+*Dryophanta*, A. FORSTER, in: Verh. Ges. Wien. v. 19, Abh. p. 331, 334; 331, 335.

頭部は複眼の後方廣からず、體は概して黒色、體毛は少數。觸角は長からず、顯著なる毛なく、雌蟲にては14節より成り、後半部は特に肥厚しないが、第三節は第四節よりは幅大、第十三節は長幅約同大。雄蟲にては15節より成り、末端に近く細まつてゐる。胸・腹兩部には毛が少い。肢脚は長からず、長毛を生ぜず。雄蟲の腹部は明瞭に有柄である。

(1) **ナライガタマバチ** *Diplolepis japonica* ASHMEAD

*Dryophanta japonica* ASHMEAD, in; J. N. York Ent. Soc., vol. XII, p. 79 (1904)

*Diplolepis japonica* DALLA TORRE u d KIEFFER, Cynipidae, p. 354 (1910)

*Dryophanta mukaigawae* MUKAIGAWA, J. Zool (Japan), vol. 34, p. 206

(1922)

*Andricus japonicus* ASHMEAD? MONZEN, Saito Ho-on Kai Jigyo Nenpo, 5, p. 353 (1929).

(雌 蟲)

體は準卵狀で多數の顯微鏡的細毛を生じ、地色は栗褐色で屢々赤色味を帯びてゐる。頭部は栗褐色。複眼は大にして黒色、觸角は膝狀で14節より成り、全長に亘り黒色にして柄節は梗節の幅の $1\frac{1}{2}$ 、長さの約2倍大であつて、梗節は長幅約同大である。此の2節は屢々栗色を呈する。鞭節の第一節は長片にして第二節の $1\frac{1}{2}$ 長あり、第十三節と第六節とは約等長。第三節より第十二節までは各節毎に徐々に短くなり、爲に第十節は長幅約同大となつてゐる。胸部は良く發育して黄褐色である。中胸背板は黄褐色にして中部及び兩側縁には黒色の縦走線を具へてゐる。前後の兩胸背は黄褐色で兩側縁は黒色、小楯板は褐色で縁部は黒色である。肢脚は寧ろ短く、跗節と爪とは黒く、殘部は體と略同色である。翅は準透明で前翅の亞縁・徑・基・肘及び臀脈は肥厚し且つ暗褐色であり、脈間には黒色の斑紋を缺いてゐる。腹部は背・腹の兩面に於て栗褐色、兩側面は黄色である。各腹環節の背板上には1個の幅廣き黒色體が在る。産卵管は長くして黒色である。

體長4.3耗。前翅長5耗。

宿主植物 コナラ・ミヅナラ。

最近の採集日 昭和12年9月10日に癭を集め、12月20日に羽化した。

分布 本州、四國、九州、北海道。

(蟲 癭)

本種はコナラ及びミヅナラの小枝、特に伐採の翌年に切株より生ずる小枝上に徑3—4種大の毬癭狀蟲癭を造る種である。蟲癭は外部に多數(數百乃至數千、普通1列に50内外)の花辦狀乃至準針狀體を生じ、之等の長さは



15耗乃至20耗にして、夏期には緑色、秋季以後には黄褐色を呈し無数の毛茸を生じてゐる。各針狀體は中部なる木質部より生ずるものにして、木質部は倒卵狀で高徑15耗内外、側徑10耗内外にして尖端部は下位にして小枝面に連絡し、鈍端にして髓囊の中央に相當する部に1小室即ち幼蟲室を存し、此室は3×6耗内外にして、褐色の薄膜を内壁下に具へ内に白色の幼蟲を1個容れてゐる。

## (生 態)

著者が8月23日に盛岡市附近で採集した蟲癭の内25個を切開した結果、黄褐色の成蟲を含んでゐたもの僅かに1個、9月10日に採集した標本25個を切開した結果、成蟲を藏してゐたもの4個。之等兩回の標本25個を11月10日に切開した結果は成蟲11個を得た。而して殘部約35個からは1月30日までの間に32個の成蟲が癭外へ羽化し出た。しかも著者は未だに蛹を見得ない點より考ふれば蛹期は極めて短いと云はざるを得ぬ。

向川氏によれば此蜂の産卵期は12月から1月中に亘るもので、これが蟲癭となつて現はれるは7月頃であるとの事であり、「冬期中休眠中の芽苞中に産入せられた卵は春期發芽して新芽が伸長するに従ひ其儘運搬せられて數ヶ月の間其新芽に何等變異を起さず幼蟲の孵化に及んで突然其部分に變異を起すのである」と云つてゐる。冬季の1月、北國では零下20°Cにも降る寒冷な氣温の下に産卵する本蟲の堪寒性にも驚かされざるを得ない。

(2) クヌギキヒゲタマバチ *Diplolepis kunugi* SHINJI

動物學雜誌第50卷, 430頁(1938)

## (雌 蟲)

體は準卵狀にして光輝ある黒色、前種に比し著しく小さくして且つ頭胸部に黄褐色味を缺いてゐる。頭部は黒色。複眼は黒色にして顯著。觸角は14節より成り、全長に亘りて黄褐色であるが、第十四節の末端は稍々暗褐なる例

がある。第三乃至第八節までは幅の3倍以上の長さを有し、約同長であり、第十四節もまた約同長にして且全節の $\frac{1}{3}$ 長に達する尖端部は尖つてゐる。第九、第十一、第十三の3節は同長且最短片にして辛じて幅の2倍弱の長さを有するに過ぎず。第十二節は幾分長くして幅の2倍強の長さを有する。各節には縦走の缺刻がある。胸部は黒色。翅は準透明にして翅脈は黄色、肢脚は概して黄色乃至黄褐色であるが腿節の基本部は黒褐色である。爪は2個共に彎曲してゐる。腹部は背面は常に黒色なれども尾端に近き數環節の腹板は帯赤橙黄色を帯びてゐる標本がある。産卵管は長くして全長に亘りて黄褐色である。體長3.5耗、前翅長3.2耗。

## (蟲 癭)

本種はクヌギ及ナラの小枝に徑3cm内外の髓囊狀蟲癭を造る種である。蟲癭の外部の準針狀體は後出クヌギタマバチのものに似て捲縮狀であるが顯著に短小である。針狀體は内部の髓質蟲室より生じ、此の髓質部には數個の小蟲室があり、各小蟲室内には1頭の白色なる幼蟲が棲息する。成蟲は1月20日頃より羽化し出るものにして、本實驗室にては1月20日に3頭、2月10日頃5頭、2月20日前後に8頭現れたれ共、之等は各囊内の僅かに1乃至2頭に過ぎずして、殘部は尙ほ此時期にも幼蟲の有様であつた。尙ほ本種の蟲癭にありては中心部は數個體を含む髓質部を爲すに反し、後記クヌギタマバチのものにありては針狀體は木質壁より生じ、壁の内部は空室をなし、其中部にして且つ下端に1小蟲室を具へてゐる點に於て異つてゐる。

(3) ナラリンゴタマバチ *Diplolepis nawai* ASHMEAD

*Dryophanta nawia* ASHMEAD, in: J. N. York Ent. Soc. v. 12, p. 80 (1907); K. NAWA, Insect World (Japan), v. 10, p. 8 (190); NIJIMA, Forest. Ent., p. 289 (1911); MONZEN, Saito Ho-on



Kai Jigyo Ho-koku, p. (1929)

*Dip'olepis nawai* DALLA TORRE und KIEFFER, Cynipidae, p. 355  
(1910); MUKAIGAWA, J. Zool. (Japan), v. 34, p. 206 (1922)

本種は本邦の九州四國及本州の各地に廣く分布し、其營む蟲癭はナラダンゴ、カシハノダンゴ等と稱せられてゐる。名和靖氏が送附した3頭の成蟲に就て北米合衆國の ASHMEAD 氏が新種として發表したものであつて、原標本は合衆國々立博物館の模型標本の目録番號 7311 であると云ふ。

成 蟲 (雌 蟲)

成蟲の原記載は簡單であつて、獨文としては DALLA TORRE und KIEFFER により、邦文としては名和氏によりて紹介されてゐる。即ち體は黑色にして光輝あり、頭頂と前胸背とは葦狀紋を具へて黑色、中胸背は平滑にして光輝ある黑色である。觸角は 14 節より成りて體よりも遙かに短く、先端部は多少暗黒乃至暗褐色であるが、殘部は蜂蜜褐色である。翅は準透明で脈は褐色である。肢脚は基節を含む全長に亘りて蜂蜜色。腹部は背腹兩面が黑色。産卵管は黄褐色で長い。體長 4 耗。

(蟲 癭)

コナラ及カシハの頂芽に生じ、略球形にして直徑 3cm 内外、表面は平滑にして赤褐、林檎様の色彩を有し、内部は概して漿質なれども乾燥するにつれて海綿狀となる。此部内には 10 數個の小房即ち蟲室ありて各々幼蟲 1 頭を容れてゐる。成蟲は 5 月に現れて産卵し、蟲癭は 6 月に見頃にして 7 月には乾縮する。第一回の成蟲は 7 月下旬に現はれる。

ケタマフシ(剛毛癭蜂)屬 Genus *Trichagalma* MAYR.

*Trichagalma* MAYR, Marcellia VI, p. 3 (1907).

頭部は胸部よりも狭く、複眼の後方部は廣い。頬は皺溝を缺き複眼の半よ

りも短い。複眼は長幅約同大。觸角は 15 節より成り、各節約同大。中胸背には 3 個の廣く、淺く、光輝ある皺溝があつて白色毛を生じてゐる。翅はタマバチ屬のものと同じ脈相を有し、爪は分齒せず。腹部は卵狀である。本邦特産で、次の 1 種がある。

(4) クヌギタマバチ *Trichagalma serrata* ASHMEAD

*Dryophanta serrata* ASHMEAD, in: J. N. York Ent. Soc., vol. XII,  
p. 79 (1904)

*Diplolepis serrata* DALLA TORRE und KIEFFER, Cynipidae. p. 354  
(1910)

*Drynophanta serrata* ASHMEAD, MUKAIGAWA, J. Zool. (Japan), vol.  
34, p. 206 (1922)

*Trichagalma serrata* MONZEN, Saito Ho-on Kai Jigyo Nenpo, 5, p.  
353 (1929)

*Trichagalma serrata* YANO, in: Nippon Konchu Zukan p. 341 (1932);  
SHINJI, 動物學雜誌, 50 卷, p. 431 (1938)

(雌 蟲)

體は準卵狀にして顯著なる體毛を缺き、羽化當時の個體の地色は黄色なれども、時経たる個體は栗褐色を呈する。頭部は黄色。複眼は大きくして黑色。觸角は莖節と梗節とを合すれば 14 節より成り、頭胸兩部の和よりも遙かに長くして顯微鏡的細毛を少数生じ、全長に亘りて黑色である。莖節と梗節との和は第三節即ち鞭節の第一節と約同長であり、鞭節の第一節は全長中の最長片なれども次の 2 節の和よりは短い。第二鞭節以後第十二鞭節の末端に至る部分は大いに肥大して爲に各節は其の直徑と約同長なるか、若しくは幾分長いが、第十二鞭節は例外にして、第一節に次ぐ長片である。胸部は良く發達して背面へ高く隆起し、帶橙黄色にして前胸背には中央及び兩側に各 1 條宛の



黒色縦走條があり、中條は僅かに中・後兩縁部間の中途に達するに過ぎない。小楯板は圓くして黒色。腹部は卵狀にして肥大、羽化後間もなき個體にありては美麗なる黄色、かなり老熟せる個體にありては黄色地に赤色味を添へてゐる。各腹環節の背板上には各1個の横走黒色帶がある。肢脚は寧ろ短く、腿節の基部のみ黄色、殘餘の部分は黒褐色である。翅は準透明にして脈は暗褐色。亞縁脈、基及横走の肘脈は顯著に肥厚し、徑脈は可成り肥厚し且つ煤黒色である。前翅上には中脈と肘脈との間域に1大縦走黒色斑紋と約10個の連続乃至不連続性の黒色斑紋の外に中脈と肘脈の間には1個の大なるものと約7個の小なる黒色斑紋がある。腹部は肥大にして黄色地に各節の背板上には幅大なる黒色帶がある。産卵器は細長にして黒褐色である。

體長4.5耗。前翅長6.0耗。

(蟲 瘻)

クヌギ *Quercus serrata* THUNB. の樹枝で直径1匁以下のものの周圍に1—1.8匁大の毬糞狀蟲瘻を營む種である。蟲瘻は單獨存在する事があるが、多くの場合には5—6個乃至20、稀には30個も1塊をなして群生し、初期には綠色であるが老熟するにつれて秋季には黄褐色を呈するに至るものである。各蟲瘻は中部にして且つ附着部に接して1個の蟲室を有し、其内壁に接して比較的厚き薄膜が存在し、内に白色の幼蟲1頭を見る事前種の場合に於けるが如くである。幼蟲室は倒卵狀の木質部で覆はれ、此部よりは無數の菊花瓣狀を呈する針葉體が放射狀をなして生じ、各針葉體には白色顯微鏡的毛茸を生ずる事ナライガフシに於けるが如くであるが、針葉體は該種の蟲瘻にありては殆ど直立するに反し、本蟲瘻のものは幾分乃至大いに彎曲してゐる點が異なる。9月上旬までに採集したものは白色の幼蟲のみを藏してゐたが、10月4、5日頃に採集したものは黒色有翅の成蟲を含んでゐたものが約半数程を算し、殘部にして大型試験管内に貯藏してゐた蟲瘻の或ものからは1月の

24、25、28の3日間に羽化し出たものあり、尙ほ2月20日後には成蟲の脱出するを見なかつた。向川氏によれば本種の雌もナラタマバチ同様に1月頃に未開の芽蕾内へ産卵し、孵化した幼蟲が新芽に寄生するに及びて、初めて蟲瘻が生じ出すものであると云ふ。

新嶋喜直氏著、森林昆蟲學 291頁上の「クヌギタマバチ *Dryophanta serrata* ASH. 第194圖の蟲瘻はカシハの葉脈上に生ずる小球にして黄淡綠或は美紅色をなす……」の記事は本種の蟲瘻に就てでは無いらしく、また第194圖は成蟲の翅に黒色點の散在してゐない所を見れば此成蟲の圖も別種のものなる可く、又クヌギの葉面に存在する蟲瘻は小球形で毬糞狀でない點で別種のものとして即斷し得られる。

(5) アンドリクス屬 Gen. *Andricus* HARTIG

1758 *Cynips* (part.), LINNÉ, *Syst. Nat.*, ed. 10, p. 553; 1840 *Andricus* (part.), T. HARTIG, in: *Z. Ent. Germar*, v. 2, p. 185, 190; 1866 MANDERSTJERNIA, RADOSKOVSKY, in: *Bull. Soc. Moscou*, v. 39 ip. 304; 1869 *Andricus Aphilothrix*, A. FORSTER, in: *Verh. Ges. Wien*, v. 19, Abh. p. 331, 335; 331, 336; 1881 *Andricus*, G. MAYR, *Gen. gallenbew. Cynip.*, p. 12; 1887 *Trisolonia* (non Ehrenberg 1861, *Protozoa*), ASHMEAD, in: *Tr. Amer. Ent. So.*, v. 14, p. 142; 1866 T. ASHMEAD, in: *B. U. S. Mus.*, p. 129.

Genus *Andricus*

觸角は雌にては12節乃至16節、雄にては14節乃至17節より成り、何れの分節も明瞭であり、第三節は第四節よりも長く、雌の第三節は少くとも第五節よりも肥厚してゐる。前胸部は狹小にして絲狀、中胸部は革皮狀又は平滑なれども皺縁を缺く。小楯板は一般に前部に顯著なる2瘤を有する。爪は2分してゐる。腹部の第一節は雄にては柄狀を成さない。第二節は極めて大。皆



*Quercus* 屬の植物に蟲癭を形成する。

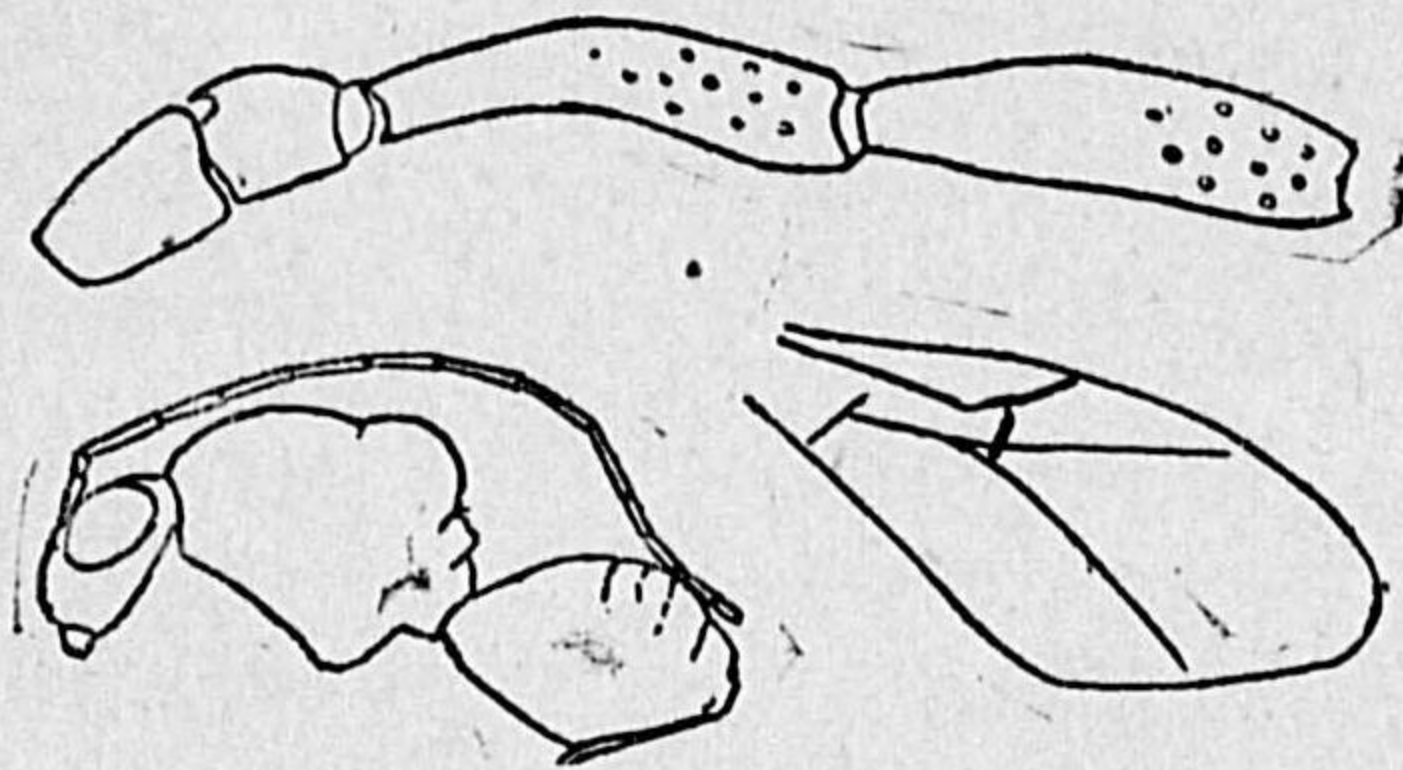
歐羅巴，亞細亞，北亞米利加及北亞弗利加に産する。

142 種中，本邦に産するもの約 10 種ある。

クヌギズキフシタマバチ *Andricus inflator* HART.

*Andricus inflator* HART. in: Z. Ent Germar. v. 2, p. 191 (1840).

體は圓く，顯著なる毛を缺き，光輝ある黑色である。複眼は赤色にして大。觸角は 14 節より成り，前半部をなす第三—第五の 3 節は薄黑色乃至黄色，後半部をなす各節は黑色である。第三—第十四節は所謂鞭狀部を成し，各節は各 10 個内外の縦走感覺器を具へてゐる。各節の比較長短は第一，第二，第十一，第十二，第十三，第十四，九，八，七，六，五，十四，三の順序に長くして第十二節にては長短約同大，第三節は幅の約 5 倍長である。



第 31 圖

クヌギズキフシタマバチ

觸角 1—4 (上) 體(下左) 前翅(下右)

胸部は黑色。翅は準透明にして全面へ互つて微毛を生じてゐる。肢脚にては前・中の兩腿節は脛節よりも幾分長大，第一附節は第二，第三兩節の和と約同長にして有毛，第四附節は最も短小，第五附節は第一節と約同

長。爪は黑色にして分齒せず，褥盤は黑色を帯び爪を越さない。

腹部は卵狀にして黑色，第一—第四節が大きくて殆んど腹部全體を成して居る。産卵管は黄色である。

體長 3 耗内外，前翅長 3 耗内外。

(6) カシハハグキタマバチ *Andricus noli-querciola* SHINJI

動物學雜誌，50 卷，433 頁 (1938).

本種は北米合衆國産の *Andricus quercus-petiolicola* BASSETT に似るのみならず，其蟲癭にもまた酷似してゐる。

(胎生雌蟲)

體小形にして準卵狀，若干の顯微鏡的細毛を生じてゐる。體全體としては黑色である。頭部は比較的小にして黑色。複眼は顯著にして黑色。鬚は黄色である。觸角は莖，梗兩節を合すれば 14 節より成り，莖節と梗節と第十二鞭狀節とは黒く，殘餘の諸節は黄色乃至少くとも茶褐色である。莖節が最長片にして第一鞭節が之に次いで長い。梗節もまた長くして鞭節の第十，十一及び第十二節以外の他の何れよりもあまり短くない。胸部は良く發達し且つ黑色。翅は準透明にして翅脈は黄色である。肢脚は寧ろ長くして，基節と腿節と爪とは黒く，殘餘の諸部分は概して黄色である。腹部は背腹の兩面が黑色，兩側面は薄黒い。産卵器は長く黄褐色である。

體長 2.2 耗。前翅長 2.5 耗。

(雄 蟲)

體は光輝ある黑色にして準卵狀，顯著なる體毛を缺いてゐる。頭部は概して黑色なれども頬は屢々黄褐色なる事がある。複眼は顯著にして黑色。觸角は雌と異りて 15 節より成り，第一，第二の兩節即ち梗節と莖節と竝に第三節とは長くして長さは幅の  $1\frac{1}{2}$  以上ある。第一節は最長片，第三，第十五の兩節が之に次ぎ，第四節は最小片，第五—第十四節は約等長である。第四節はまた幅に於ても最小であり，此節以外の各節は順次に膨大するを以て第十三乃至第十五節は第四節の  $1\frac{1}{2}$  以上の幅を有してゐる。各節上にはまた縦走缺刻が顯著である。尙ほ第一，第二，第十四，第十五の 4 節は黑色，他は黄褐色である。胸腹の兩部は光輝ある木炭黑色。翅は準透明で翅脈は薄黒く，徑肘の兩室は



顯著である。肢脚は寧ろ長く、基節と脛節とは概して黒く、轉節と腿節と脛節とは黄色又は黄褐黄である。爪は雌蟲に於けると同じく彎曲してゐる。

體長1.5耗。前翅長1.8耗。

宿主植物 カシハ *Quercus dentata* THUNB.

標型地 岩手縣盛岡市。

分布 本州、九州。

#### (蟲 瘻)

カシハ *Quercus dentata* THUNB. 及コナラ *Q. glandulifera* BL. の中軸葉脈の裏面に寄生して其部の肥厚を致し、略菱形の蟲瘻を造る。蟲瘻はコナラの場合には小形にして長徑 10mm, 短徑 5mm 内外であるが、カシハの場合には 15×6mm 大なるもの多く且つ數個が 1 列に配列されてゐる。蟲瘻そのものは主に木質(纖維質)より成り内に長卵狀の幼蟲室を有してゐる。蟲室の長さ 2mm, 幅 5mm 内外の大きにして各室に 1 頭の幼蟲が棲む、故に 1 葉は數頭の昆蟲を産する事となる。昆蟲は幼蟲時代には白色、成蟲となれば地色は茶褐色乃至黒褐色に變ずる。羽化は 8 月末より 11 月下旬までの間に行はれ、成蟲は多くの場合 12 月 20 日頃までに室蟲より脱出すれども、其儘越冬するものも少數でない(室内飼育の場合)。

宿主植物 カシハ。

#### (7) シラカシタマバチ(新稱) *Andricus shirakashi* SHINJI

原記述 *Andricus shirakashi* SHIN., 昆蟲世界, XLIV 卷, 518 號, 2 頁(1940)。

#### 成 體 (雌 雄)

頭胸の兩部は雌雄の兩個體に於て共に黒色、腹部は雌蟲にありては背面のみ僅かに黒色を帯び腹面は栗黄色なれども、雄蟲にありては腹面の基半部の

み栗黄色、殘部は黒色を帯びてゐる。觸角は雌にありては 13 節、雄に於ては 15 節を數へる。雌蟲に於ては、第十三節が最大節にして 2 輪の感覺板を具へ、第一節は第二節よりも長く、第三節は第二節より細長く、第十二節は最長にして第十三節の半よりも著しく短く、第十一節は第十二節よりは長く第十節よりは短小、第十、九、八、七、六、五節は概して同大である。雄蟲にありては、第一節が最大、第二節は最短、第三節は第二節と約同長なれども幅に於て劣り且つ内側面は彎入してゐる。第十五節は第十四節よりも甚だしく長からず、殘餘の節は第四節より十二節に亘り長さは遞減してゐる。雌雄の兩個體に於て末端觸角節は共に黒色味を帯びてゐる。胸部は全黒色、稜形部は準三角形にして末端は圓く終り、黒色である。翅は灰白色、準透明にして脈は幾分薄黒い。基脈は長くして第二緣脈と約同長。第一亞緣脈は第二亞緣脈の約 2 倍長、第三亞緣脈は第一徑脈と約同長。徑室は前縁が開き、小室は不明瞭なる例あれども概して準三角狀を呈し、中肘横脈が最短である。肢脚は雌・雄の兩個體に於て共に黄色なれども爪は何れの場合にも黒色單齒性である。腹部は雄蜂にありては長卵狀、雌蟲にありては肥大し且つ準截斷形、穿孔體は黄色にして尾板を越して末端の 1 部は外部へ突出してゐる。體長約 2 耗、前翅長 2 耗。

#### 蟲 瘻 と 生 活 史

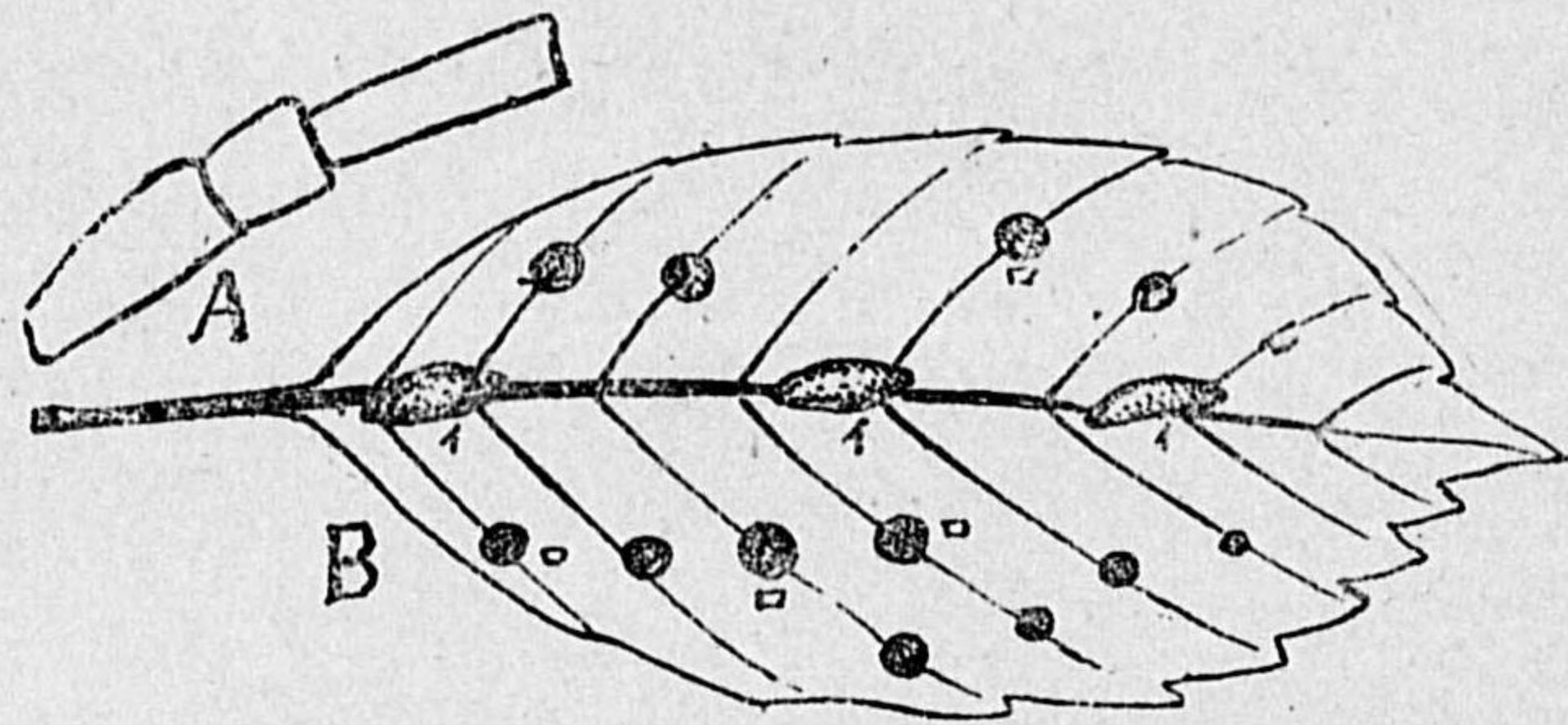
本種はシラカシ *Cyclonopsis myrsinofolia* Oest. の葉裏特に其の脈上に長紡錘形即ち脛節狀の蟲瘻を營む。蟲瘻は長さ約 9 耗、短徑約 2 耗、外面は平滑にして灰白色である。之は 6 月には葉面に現はれ、瘻内の幼蟲は越冬し、早きものは翌春 3 月 10 日頃、遅きものは 4 月 10 日後に羽化し、蟲瘻の大短軸よりは 1 方に偏して圓き 1 小孔を穿ちて外部へ出る。東京府下淺川驛附近に發見せられる。



(8) シラカシマルタマバチ *Andricus shirakashicola* SHINJI

原記述 *Andricus shirakashicola* SHIN., 昆蟲世界, XLIV巻, 523號, p. 2 (1941).

前記シラカシタマバチに酷似してゐる。頭・胸兩部は雌・雄の兩個體に於て共に概して黒色。腹部は雌蟲にては背・腹兩板は暗色。側面は淡黄色にして平滑, 雄蟲にありては腹面栗黄褐色, 他面は概して暗褐色である。觸角は雌蟲にては13節, 雄蟲にては15節より成り, 全長に互りて橙黄色であるが, 第一節と末節とは暗褐色なる例がある。雌蟲の觸角にありては第一節は第二節の約2倍長にして幅がより大である。第二節は幅よりも幾分長く, 第三節は第一節と約同長なれども幅は遙かに小, 第四節は第二節より短小, 第五節以端第十三節まで徐々に肥大してゐる。第四節は第二節と同長, 第五節は第四節よりも長く, 第六, 第七の兩節は約同長にして第五節よりも長きか, 若しくは約同長, 第九節—第十二節は各約同長にして共に幅の約1倍半長, 第



第32圖 A 雌蜂の觸角第一—第三節  
B シラカシの葉の裏面  
イ, シラカシタマバチの蟲癭  
ロ, シラカシマルタマバチの蟲癭

十三節は第一節よりも遙かに長い。頭頂と後頭部は黒色であるが兩頬は栗褐色である。胸部は概して黒色, 稜形部は準三角形にして末端は圓く終り, 黒色である。肢脚は飴黄色。附節は5節より成り, 第一及第五の兩節は約同長。第二, 三, 四の3節は順次に短くなつてゐる。爪は雌雄の兩個體に於て黒色で單純, 分齒しない。翅は灰白色準透明, 脈は淡黄色である。基脈は長くして第二緣脈と約同長, 第一亞緣脈は第二亞緣脈の約2倍長, 第三亞緣脈は第一徑脈と約同長, 徑室は前縁が開き, 小室は殆んど不明瞭なる例が多い。中肘横脈が最短である。腹部は雄蜂にありては長卵狀, 雌蟲にありては肥大し且つ準截斷形, 穿孔體は黄色にして尾板を越して末端の1部は外部へ突出してゐる。體長約1耗。

## 蟲癭と生活史

本種もまたシラカシ *Cyclonopsis myrsinifolia* Oest. の葉裏に蟲癭を形成して葉の内に棲息してゐる。シラカシタマバチの蟲癭は鏗節形即ち長紡錘形で其の表面は泥土色で粗であるに反し, 本種の蟲癭は準球形で表面は平滑, 褐色にして直徑2—3耗。内部は準髓質にして中央よりは稍一方に偏して1個の蟲室があり1個の幼蟲が棲む。幼蟲は白色にして無肢であり, 3月下旬に蛹化し4月中旬に成蟲となる。雌成蟲は白色の卵子を葉裏の小葉脈上に點點と産卵し, 産卵部は6月中旬には球狀の蟲癭となる。東京府下淺川驛附近の路傍の櫨の木に多數發見せられた。

標型地 東京北多摩郡。

(9) クヌギチビフシタマバチ *Andricus kunugifoliae* SHIN. n. sp.

體長1.1耗内外, 頭胸部長0.52耗, 腹部長0.58耗, 頭・胸・腹背及び複眼は黒色, 觸角及び肢は黄色。

觸角は13節(雌)より成り, 全長に互りて黄色。第一第二の兩節は幅の約



2倍長、第三節よりは幅大なれども2倍よりは幾分小さい。第三節は第二節よりも長く、第四、第五及び第六節は約同長にして幅の1倍半以上に長く、第三節の半長よりは幾分長い。第七節より末端節へ向ひ逐次膨大してゐる。第七、第八、第九の3節は約同長、共に第五節よりは幾分長く第十、第十一、第十二の3節は第九節よりも長く、何れも幅の2倍長。第十二節は最長片にして紡錘形である。各節の比較長は I 40, II 40, III 28, IV 30, V 30, XI 35, XII 35, IIX 32, IX 30, X 35, XI 35, XII 40, XIII 40, XIV 40, XV 75。(雄蟲)。

肢脚は全長に互り黄色。翅は準白色にして脈は淡黄色、縁室は開いてゐる。腹部は卵状にして背面は黒色であるが、腹面は赤褐色である。

本種の蟲癭はクヌギ上に9月に形成せられ、翌年7月15日前後に成蟲が羽化する。盛岡・東京・静岡にて採集した。

(10) **アサカハスチグロタマバチ** *Andricus asakawae* SHIN. n. sp.

頭部の背面、胸腹兩部の背・腹兩面は黒色を帯び、殘餘の部分は黄金色で美麗である。鬚は黄色にして3節より成り、各節は少數の短毛を生じてゐ、第三節は最長片、第二節が最短片である。複眼は濃赤色にして殆んど黒色に近い。觸角は雄蜂にては14節、雌蜂にては13節より成り、第一乃至第三節は黄色、第四一第十四節は黒色、各節は5個内外の感覺器を具へてゐる。第一節は倒圓錐形、第二節は長幅約同長、第三節は最も細く且つ長い、以下逐次に短小となり、第九節は第三節の約3分の1長にして長幅約同大且つ第十三節と約同長、第十節と第十一節とは約同大、第十四節は準紡錘形にして第三節の約半乃至第十三節の約2倍長。胸部は背腹の兩面が黒色を帯び側面は黄金色。肢脚は短大にして黄金色。爪は分齒せず、黄色である。翅は準透明、脈は黒褐、縁室は開いてゐる。腹部は準卵状にして背腹の兩面は黒色を帯び、兩側面は黄金色である。産卵管は黄色にして、直角に5齒を生ずる。

體長 2.4 耗内外、腹部長 1.1 耗内外、前翅長 2.7 耗。

宿主植物 春季にクヌギの雄花序に産卵し、之を變形せしめて沐浴海綿様の蟲癭を形成する。

東京府下淺川驛附近に生じ、成蟲は5月25日頃羽化し出る。

(11) **カナガハスチグロタマバチ** *Andricus kanagawae* SHIN. n. sp.

前種に酷似してゐるが、(1) 體は小形である、(2) 腹部は全體が黒色である、(3) 鬚は薄黒い、(4) 有毛の尾叉がある、(5) 産卵器の穿孔部には縦列する2齒がある事等によりて區別し得られる。

頭部は概して黒色、鬚は薄黒く、複眼は黒色、觸角は雄蜂にては14節、雌蜂にては13節より成り、第一、第二の兩節は黄褐色、第三、第四の兩節は黄色、第五一第十四節は黒色。胸部は背腹の兩面が黒色、兩側面は橙黄色、肢は全長に互りて黄色、爪は單1にして分齒せず、黄色。前翅は準透明にして多數の小毛を生じ、脈は薄黒い。腹部は卵状にして背・腹・側の4面ともに黒色、尾毛を生じ、薄黒く、産卵管は黄色にして縁部には2個の齒が縦列してゐる。

體長 2.1 耗、前翅長 2.1 耗内外。

宿主植物 クヌギの雄花に産卵し、全花序若しくは花序の1部を肥大ならしめて沐浴海綿様の蟲癭化し、成蟲は5月25日前後に羽化し出る。神奈川県厚木町附近に産し、東京府淺川附近のものとは甚だしく異つてゐる。

(12) **クヌギエボシフシタマバチ** *Callirhytis kunugicola* SHIN. n. sp.

體は細長く、黒色にして殆んど無毛である。複眼は黒色。觸角は雌蜂にては13節、雄蜂にては14節より成り、第一乃至第六節は黄色、第七一第十四節は黒色、第一節は幅よりも長く、第二節は長幅約同長、之等2節は幅に於て第三



節の約2倍大、第三節は最長片にして以下第十二節に至るまで逐次短小となり、第十三節は第十二節よりも短く且つ圓く終つてゐる。顔面・頬・額及び鬚は黒色。鬚は第三節が最長、第一節は之に次いで長く、第二節が最短である。胸部は黒色、肢脚は全長に互り鉛黄色。前翅は白色準透明にして多数の小毛を全面に生じ、脈は黄褐色である。縁室は開いてゐる。腹部は卵状ならずして甚だ長く、腹柄は短小、腹部の長さは中部に於ける幅の約5倍大である。第二腹環節は他よりも長く、第三乃至第七腹環節また長大、全長に互り黒色である。

體長1.8耗 腹部の長さ1.2耗、體幅6耗。

蟲癭 葉裏に形成せられる烏帽子状の小蟲癭で高さ5耗、徑3耗。

(13) ナラアヲタマバチ *Andricus quercicola* SHINJI

原記述 *Andricus quercicola* SHIN., 昆蟲世界 XLIV 卷, 517 號, p. 3 (1940).

(雌 雄)

體は木炭黒色。後頭部は複眼部よりも幅幾分廣い。觸角は體と約同長にして、雌蟲にありては13節、雄蟲にありては15節より成り、全長に互り概して黒色にして、第三乃至第十節は屢々黄色なる例がある。雌蟲にありては第三節が最長片にして以下順次に短く且つ廣くなりて、第十二節に至れば長幅約同大となる。第十三節は第十二節の2倍以上に長い。雄蟲にありては第十五節は第十四節の2倍に達しない。尙ほ第三節は外側が彎曲してゐない。胸部は全體として黒色、菱形部は準三角形にして末端は圓く終り黒色である。翅は灰白色準透明にして脈は黒色を帯びてゐる。基脈は長くして第三亞縁脈と約同長、第一亞縁脈は第二亞縁脈の2倍長、第三亞縁脈は第一亞縁脈と約同長、徑室は前縁が開き、小室は準三角状にして中肘横脈が最短である。肢脚は

雌雄の兩個體に於て黄色なれ共後腿節と爪とは黒色。爪は單齒性である。腹部は光輝ある黒色にして、雄蟲にありては長卵状、雌蟲にありては肥大し且つ後端は準截斷状である。穿孔體は黄色である。體長は1.8—2.5耗。

標型地 岩手縣盛岡市高松池附近。

蟲癭及習性

本種は初夏の候に新緑のコナラの葉裏乃至葉表の主に葉脈上に準球状(半圓ならざる)蟲癭を形成する種である。蟲癭は直徑2—3耗、常に綠色にして紅色を呈せず、表面は平滑である。6月1日前後には全く成熟し、内部の幼蟲は蛹化し、次で蟲癭の上面中央部に孔を穿ちて成蟲が羽化し出る。第二世代後の経過は未詳である。

スチタマバチ屬 Genus *Neuroterus* HARTIG

1758 *Cynips* (part.) LINNE, Syst. Nat., ed. 10, p. 343, 553.

1840 *Neuroterus* Spathegaster, T. HARTIG, in; Z. Ent. Germar. v. 2, p. 185.

1869 *Ameristus*, A. FORSTER, in: Verh. Ges. Wien. v. 19, Abh. p. 330, 333.

1887 *Dolichosrophus*, ASHMEAD, in Tr. Amer. Ent. Soc., v. 14, p. 129 nota.

複眼は大きく、觸角は雌蟲にて13—15節、雄蟲にては15節より成り、横生毛を缺き、各節は判然と分離し、末端節は雌蟲にありては第三節よりも肥厚してゐる。翅は準透明にして、徑室は長く、前縁は開いてゐる。脛節には横毛無く、爪は單1又は2齒に分れ、腹環節は殆んど塊状を呈し、第一腹環節は雄にては多少共柄状である。

(14) ナラハウラタマバチ *Neuroterus narae* SHINJI

動物學雜誌 50 卷 434 頁 (1938)



## (雄 蟲)

體は小形にして黒色。頭部は胸部よりも幅大にして黒色、白色顯微鏡的細毛を具へてゐる。複眼は甚大にして灰白色、常に頭側へ突出せしめてゐる。單眼は灰白色。鬚は顯著にして黄色。顔面また黄褐色である。觸角は15節より成り、第一節は黒色にして第四節と約等長、第二節は下面黄褐色にして準球形、幅よりも稍短い、第三節は最長片にして末端近くが著しく膨大し、中部は彎入し、下面は黒く、他面は黄褐色。第四節は第三節の4分の3長、2分の1幅である。第四節よりは順次に細く且つ短くなり、黄褐色、第十四節は幅の1½長、第十五節は卵状で黒色、各節には縦走彫刻がある。前胸部は狭く短く且つ黒色。中胸は隆起し黒色にして3條の縦走線を具へ小白毛を生じ絞革状を呈する。後胸部は側面へ棘状突起體を、後兩角へ指状體を1對生じ、黒色地に白色の細毛を生じてゐる。腹柄は顯著にして細く、黒色。他の腹環節は寄集し、概して黒色であるが、尾端の腹端の腹板は少しく橙黄色の部を具へてゐる。肢脚の轉・腿・脛の3節は概して黄色地に黒色部を具へ、跗節は第一―四節が黄褐色、第五節は少しく黒色味を帯びてゐる。爪は2個。翅は準透明にして翅脈は卵黄色。中室は短く且つ閉されてゐる。體長2耗、前翅長1.2耗。

## (雌 蟲)

體は雄蟲よりも大にして黒色。頭部は兩複眼を合すれば胸部よりも幅大にして光輝ある黒色。顔面及び口具は黄褐色。複眼は甚大にして灰白色、各半以上を頭側へ突出せしめてゐる。觸角は14節より成り、第一、第二及び第十四節は黒色、殘餘の諸節は黄色乃至黄褐色、第三節は最長片、第一節は第三節よりも短く第二節よりは長く、第四節と約同長にして長さは幅の約3倍ある。第四節以後の各節は順次に短くなる。第十二節は幅の約1½長に過ぎない。第十四節は第四節]と約等長にして中部は膨れ末端は尖つてゐる。胸・

腹の兩部は光輝ある黒色にして白色の短毛を粗生してゐる。翅は準透明にして諸脈は黄色、徑室は短くして前縁に沿ひ閉塞してゐる。後翅の翅鈎數は3個で黄色である。肢は割合に長く、腿節の末端と第一乃至四跗節とは蜂蜜様黄色、其他の諸節は黒色乃至黒色を帯びてゐる。産卵管は長く、黄褐色である。

體長2.5耗、前翅長2.8耗。

## (蟲 瘻)

本種の蟲瘻は前出門前博士の(25)ナラハウラエタマフシ(p. 356)Hymenop. Cynipidaeにして、ナラ *Quercus grandulifera* BLUME の葉裏に生ずる準球形のものにして表面は平滑、夏期には綠色であるが晩秋の候には紅色を帯びて美麗である。直徑5耗内外のものと、4耗前後のもの とがある。蟲室は下方にありて、1瘻1室、1室1頭性である。1月頃までは白色の幼蟲を見、3月に入れば蛹化し、3月15日前後に成蟲となりて羽化し出で芽蕾へ産卵する。1葉に數個を生ずる例が少くない。本州、四國、九州に分布してゐる。

(15) ナラウロコスヂタマバチ *Neuroterus Nawai* ASHMEAD

ASHMEAD, in; J. N. York Ent Soc., v. XII, p. 79 (1904).

DALLA TORRE und KIEFFER. Das Tierreich Cynipidae, p. 328 (1910).

## (雄 蟲)

體は概して小さく、地色は黒色である。頭部は黒色にして光輝あり、顯著なる毛を缺いてゐる。複眼は白色。複眼の後方の頭部は複眼よりあまり突出せず、毛を缺いてゐる。頬部は橙黄色、上顎は黄色にして齒状部のみが黒い。鬚は4節より成り、全長に亘り淡黄色にして多數の毛を生じ、第四節は最長片、第二節が之に次ぎ、第一節は最短片である。上唇は黄色。觸角は15節よ



り成り、第一、第二、及び第十五、第十四節は黒く、第十三、第十二、第十一、第十の4節は薄黒い。各節は短毛を密生し且つ縦走感覚溝を具へてゐる。第一節は長さの約2倍長、第二節は長幅約同大にして準球状、第三節は基部細く、末端部は肥大し、中部は外側が彎入し、長さは幅の約4倍ある。第四、第五、第六の3節は約同長、以後の諸節は順次に短く、且つ幾分か幅廣くなり、第十四節にては長さは幅の $1\frac{1}{4}$ 内外となつてゐる。第十五節は準圓状にして、第十四節よりも幾分長い。胸部は背腹共に黒色にして光輝あり、絞革状の中胸背には3條の縦走線が顯著である。小楯板は前位横走皺襞によりて中胸より劃せられ、後胸は兩側縁に瘤状體を具へてゐる。前翅は準透明にして脈は黄色。徑室は前縁が開いてゐる。肢は細毛を生じ、後基節は黒色、其他の部分は概して蜜黄色。爪は基部に於て1小齒を分出したる2齒型、褥盤は幾分薄黒い。腹部の柄部は顯著に長い。背面は概して黒色であるが、IV, V, VI, VII 腹環節の側面竝に背面は黄色を帯びてゐる。

體長 2.5耗, 前翅長 2.2耗, 觸角長約 1.8耗。

(雌 蟲)

體は稍中形にして地色は概して黒色である。頭部は黒色にして光輝あり。複眼は白色にして大きく、複眼の後方の頭部は著しく幅大ならず、額及び頬は黒色、上顎は概して黄色なれども齒状部は黒色、下顎及び下唇は黄色。鬚は4節より成り、全長に亘りて淡黄色にして若干の長毛を生じ、第四節が最長にして、第一節が最短片である。觸角は14節より成りて第一第二の兩節は上面薄黒く下面黄色、第九—第十四節は概して黒色である。第三節は最長片、第四節以後は順次に短かくしかも幾分宛太くなり、第十二節に於ては長さは幅の $1\frac{1}{4}$ 大となり、第十四節は末端部が準圓錐状となり、全長は第十五節よりも遙かに長い。胸部は背・腹兩面共に黒色、背板は絞皮状を呈し、光輝あり、小楯板は高く、後方尖らず、前方の皺溝は明瞭である。翅は準透明

にして脈は黄色、徑室は前縁部が開いてゐる。肢脚は基・轉兩節が黒色、腿・脛兩節は概して黒色を帯び、跗節は蜜黄色で、爪は1小齒を基部に於て分生して2齒形となり、褥盤は幾分黒い。腹柄は顯著にして黒色、第二節は腹部の大部分を占め、他節は幾分黄褐色部を具へ、産卵管は黄褐色である。

體長2.0耗, 前翅長 2.2耗, 觸角長1.8耗。

(蟲 瘿)

門前博士の所謂ナラウロコタマバチが之にして、コナラ *Quercus glandulifera* の新芽が開舒して未だ枝とならざるに先ちて3月中旬頃本種に産卵せられ、其儘生長を停止して形成された蟲瘿である。従つて外部は10層内外に、しかも覆瓦状に配列されたる小鱗状より成る準球形種にして、内部にして遊離端に近く1小幼蟲室在り、内に白色の幼蟲を1個容れてゐる。幼蟲の有様にて越年し、翌年3月中旬頃羽化して成蟲となり、新芽に行き、雌蟲は芽蕾の鱗片間に産卵管を挿入して産卵する。本邦各地に普通である。

(16) シロアシスチタマバチ(新稱) *Neuroterus iwatensis* SHINJI

動物學雜誌, 第50卷, 436頁 (1938).

(雄 蟲)

體は概して中形なれども飼育せるものには可なり小形のものが生ずる。地色は黒色である。頭部は黒色にして小窩を有し、額及び頬は黄色。上・下兩顎は黄色なれども上顎の齒状部は黒色である。鬚は淡黄色にして4節より成り、第四節が最長、長毛を生じてゐる。觸角は15節より成り、第十五節は薄黒く、他節は淡黄色である。第二節は第三節の基部と約同幅にして準球状を呈し、第三節は第一節よりも長くして末端部は肥厚し、中部は外側が彎入してゐる。第三、第四、第五の3節は約同長、以下の諸節は順次に短く且つ幾分か幅廣くなり、第十四節に至れば長さは幅の $1\frac{1}{4}$ 大となり、第十五節は第十四節よりも長い。各節は多數の短細毛を生じ、縦走感覚溝を具へてゐる。胸部は



黒色にして鮫皮状に凹突し、側翅溝は顯著である。翅は準透明にして脈は黄色、徑室は割合に短く、前縁が開いてゐる。肢脚は前肢の基・轉・腿の3節は栗褐色、他は灰白色。爪は栗褐色にして基部に於て1小分齒を生じてゐる。中肢は基節が黒色、腿節は栗褐色、殘節は灰白色。後肢は基・轉兩節は蜜黄色、殘節は灰白色である。腹部は黒色にして、第一環節は柄状を呈し、第二節は大きい。尾端に少しく黄褐色の部分がある。

體長3.5耗、前翅長3.2耗、觸角長約2.5耗。

(雌 蟲)

體は概して中形にして光輝ある黒色。頭部は黒色にして複眼の後方は複眼よりあまり幅大ならず、従つて著しく突出せず。複眼は白色。鬚は兩對共に淡黄色にして若干の毛を生じ、末端節が最長片である。額及び頬は黒色、上顎は基部黄色、齒狀部は黒色である。觸角は14節より成り、第一節稀には第二節も黒色、第十二—第十四節は薄黒、殘部は灰白色乃至黄色である。第三節は第一節よりも幾分長く、以後の各節は順次に幾分短く且つ幾分幅大となり、第十三節は幅の約 $1\frac{1}{2}$ 長となり、第十四節は第十三節の2倍長である。胸部は黒色にして鮫皮状に凹凸を示し、小楯板は前溝顯著、後方尖らず、側翅溝また顯著、中胸背には3縦走條が顯著である。翅は準透明、脈は黄色、徑室は寧ろ短く、前縁は開いてゐる。肢脚は腿節が栗褐色、脛・跗節は概して淡黄色、後肢は基・轉・腿の3部が黒色、殘部は蜜黄色であり、爪は淡褐色にして基部に於て1小分齒を生じてゐる。腹部は黒色にして光輝あり、第一節は長柄をなし第二節が腹部の $\frac{1}{2}$ を形成してゐる。産卵管は蜜黄色である。

體長4耗、前翅長3.2耗、觸角長2.5耗。

(蟲 瘻)

前出ナラノイガタマフシにして、イガタマバチのものと外形同一にして區別し得られず。もとコナラ *Quercus glandulifera* の小枝の芽が變形肥大した

るものにして、準球状、徑14—25耗、外側は10—15耗長の準針状體を叢生し、中部にして枝に附着する部分に準球状、10—15耗大の木質部ありて、茲に小蟲室數個を不規則に容れ、各室には各1個宛の白色幼蟲を見る。成蟲は3月下旬に現はれる。

スネルグス屬 Genus *Snergus*

複眼の後方なる頭部は複眼部よりも幅大ならず、頬には皺襞を缺く。觸角は雌にては14節、雄にては15節より成り、雄にては第三節は外方へ著しく曲り、末端は多少肥厚してゐる。

中胸部は彫刻状を呈し、小楯板は前方に2個の瘤状體を具へてゐる。翅の徑室は短く、全く閉ちてゐる。爪は2齒を成してゐる。

歐羅巴、亞細亞、北亞弗利加及び亞米利加に産する。約70既知種中、我が國に産するものは下記1種である。

(17) **ミヅナラタマバチ** *Snergus mizunarae* SHIN. n. sp.

原記述 *Snergus mizunarae* SHIN., Ins. World, XLIV, 517, p. 2 (1940).

體は黒色、翅は灰白色。頭部は黒色にして複眼の後方の幅も甚しく大ならず。觸角は雌蟲にては14節、雄蟲にては15節より成り、全長に亘りて黒色なれども、羽化直後のものにありては基半部の數節は黄色である。第二節は第一節の2分の1よりも小さく、第三節は最長にして次節よりも遙かに長く、第四乃至第七節は皆約同大、第八節以後は順次に短く且つ幅廣くなり、第十三節にありては長さは幅の約1倍半大となり、第十四節は長圓錐状にして、第十三節の2倍長以上ある。雄蟲にありては第三節は長幅共に最大にして外側へへ字形に彎曲し、第十五節は準圓錐状にして第十四節の3倍に達する程長い。胸部は革皮膚状にして黒色、白色の絨毛を生じてゐる。稜形部は準三



角形にして先端は圓く終つてゐる。翅は準透明灰白色にして長さは幅の2倍長以上ある。第二亞縁脈は基脈よりも幾分長く、第三亞縁脈は第一徑脈と約同長、徑室は前縁が開き、小室は鮮明ならざれども存在し、徑肘横脈は他脈よりも短い。肢脚は寧ろ短大にして6跗節と前・中の兩脛節とは黄色、他節は暗褐色、爪は黒色である。腹部は平滑にして光輝ある黒色。穿孔體及産卵管は栗褐色乃至黄色である。體長1.8耗乃至2.3耗。

蟲癭竝に習性

本種は春季ミヅナラの芽の開舒直後に於て早くも葉の下部、即ち一般には葉柄に近き半葉身の1半側に10數個の蟲癭を殆んど塊狀に形成する。蟲癭は直徑2耗内外、表面は隆起し綠色にして平滑である。6月10日前後には全く成熟し、表面の中央に1小孔を穿ちて1頭の成蟲が羽化し出る。

標型地 岩手縣盛岡市。

バラタマバチ(薔薇癭蜂)屬 Genus Rhodite HARTIG

Rhodite (+Aylax) HARTIG, Z. Ent. Germar, p. 186 (1758).

Hololexis, A. FÖRSTER, Verh. Ges. Wien, XIX abh., p. 330 (1869).

Rhodite, D. TORRE et KIEFFER, Das Tierreich, Cynipidae, p. 704 (1910).

頭部は複眼の後方も特に幅廣からず、頬は複眼よりも高くなく、觸角は14節若しくは15節より成り、末端部の諸節は薄黒く。第三觸角節は最長片にして第四節の1 $\frac{1}{3}$ —2倍長。前胸背は小さく、中胸側には深溝があり、後楯板には深い齧がある。翅は絨毛を生じ、徑室は閉ぢ、一般に短小であり、肘室は存する場合と否らざる例とがある。腹部は短く、金屬性光澤を有してゐる。本邦に産するもの4種あり、次の如くに區別され得る。

1. 翅は褐色を帯び、徑室端には長い黒色斑がある……ハマナスタマバチ

翅は透明、徑室端に黒色斑が無い……………2

2. 腹部は全體が赤色……………ハコネタマバチ

腹部には黒色の部がある……………ノイバラオホタマバチ

(18) ノイバラタマバチ Rhodite hakonensis ASHMEAD

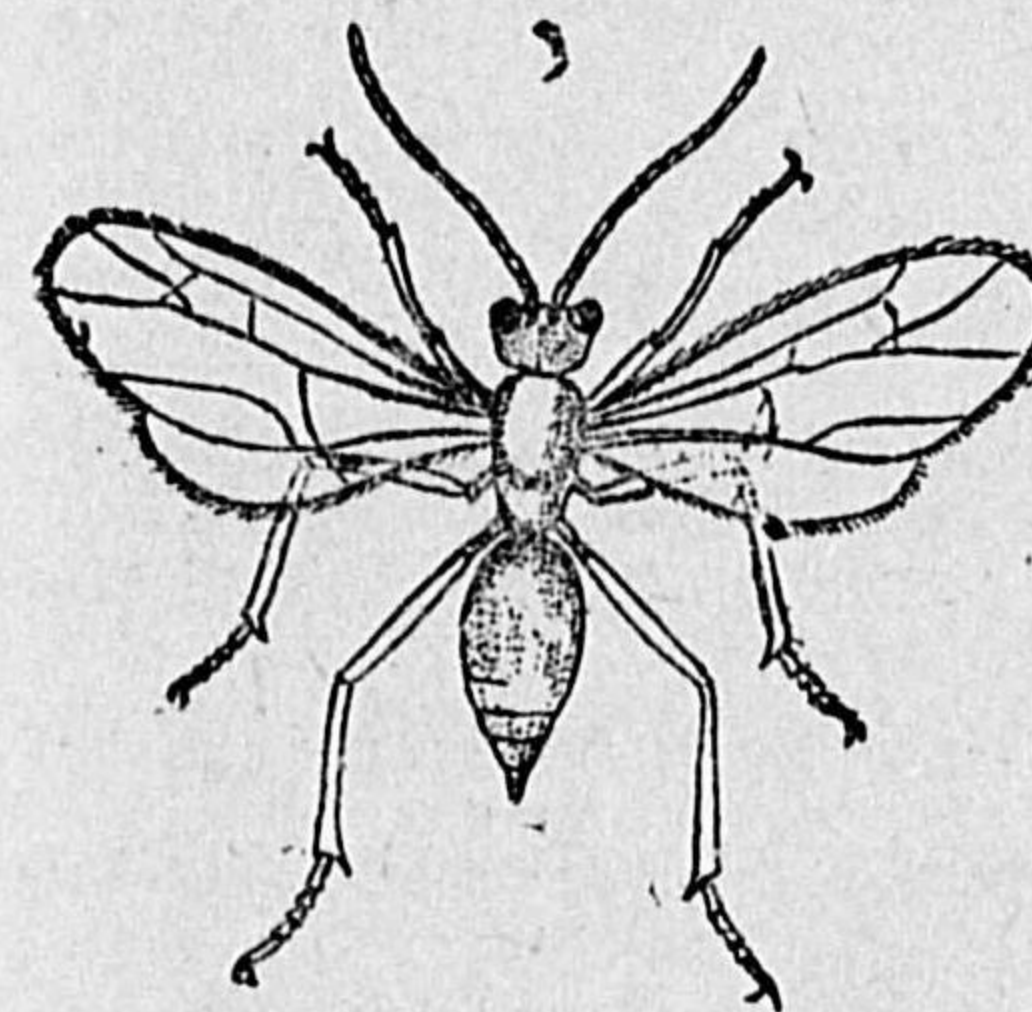
Rhodite hakonensis ASHMEAD, in: J. N. York Ent. Soc. vol. XII, p. 713 (1904).

DALLA TORRE und KIEFFER, Das Tierreich, Cynipidae, p. 370 (910).

(雌 蟲)

頭胸及び觸角は木炭黒色、腹部は概して帶赤黄色である。觸角は體長の約半長にして第一第二の兩節は黄色、殘部は黒色にして絨毛を生じ、第三節は最長にして第四節の約1倍半長である。胸部は黒色、前胸部は中部狭小にして殆んど絲狀、中胸の後縁は隆起線をなしてゐる。菱形部は黒色にして顯著なる窪を具へない。肢脚は概して黄色、後肢の第一跗節は第二跗節の約2倍長以下、第三節は第二節よりも短く、第四節は長幅同大にして第三節の約半

長、細毛は黄色である。翅は準透明灰白色、主脈は黒褐色にして同色に霞みたる部分を具へてゐる。小室は半圓形をなして小さく、第一第二の兩徑脈は薄黒く霞み、徑室は外縁が閉ぢてゐる。第一第二の兩肘脈は太からず、翅縁に達してゐる。中脈は細く、翅縁に達してゐない。腹部は黄樺色である。



第33圖 バラタマバチ

體長3.5耗内外



宿主植物 ノイバラ。

分布 北海道, 本州, 四國, 九州。

(19) ハマナスタマバチ *Rhodite japonicus* F. WALKER

原記述 *Rhodite japonicus* F. WALKER, in: *Chistula Ent.* vol. I, p. 309 (1874).

副記述 DALLA TORRE und KIEFFER, *Das Tierreich, Cynipidae*, p. 713 (1910)

(雌 蟲)

頭・胸及び觸角は木炭黒色, 腹部は概して帯赤黄色である。頭部は全部黒色にして複眼の後方も幅甚しく大ならず, 觸角は準絲狀にして雌にては14節より成り全長に亘りて黒色なれども, 第一第二の兩節に限り末端の關接部に於ては黄色なる例がある。各節は準圓筒狀にして多數の絨毛を生じ且つ4—5條の縱走感覺溝を具へてゐる。第一第二の兩節は約同大, 第三節は最長片にして以下順次に短くなつてゐるが, 第十四節は第七節と約同長である。胸部は頭部と約同長にして背面は平滑, 光輝ある黒色にして背側竝に翅側の兩溝は甚だ深く, 菱形部は準三角形にして末端は圓く終り, 平滑にして光輝ある黒色である。翅は薄黒くして翅基部は黒色, 脈は概して黒色である。第一亞縁脈は第二亞縁脈の約4倍長, 第二亞縁脈は第三亞縁脈の約1倍半長, 徑室は閉ち, 小室は半月形にして小さく, 第一第二の兩徑脈は薄黒く霞み, 第一第二の兩肘脈は大ならずまた翅縁に辛うじて達し, 中脈は細單條にして翅縁には達しない。肢脚は脛節全部と腿節の後半部とは黄色, 殘部は黒色である。爪は黒色である。腹部は概して黄色乃至赤棒色。尾瓣は概して黒色である。

(20) バラハウラタマバチ *Rhodite eglanteriae* HARTIG

原記述 *Rhodite eglanteriae* T. HARTIG, *Z. Ent. Germer.* II, p. 194 (1840).

副記述 P. CAMERON, *Monog. Brit. Hym.*, IV, p. 38 (1893); DALLA TORRE und KIEFFER, *Das Tierreich, Cynipidae*, p. 709 (1910).

(雌 蟲)

體は寧ろ大形にして, 頭部は黒色。複眼は汚褐色, 頬及口具は黒色。鬚は4節より成りて黒色。觸角は14節より, 體よりも短く, 全長に亘りて黒色である。第一, 第二の兩節は約同長, 第三節は最長片にして第五節の約2倍長, 第四節は第三節よりも短かけれども第五節よりは長く, 爾後順次に短くなり, 第十三節にては長さは幅の約2倍長である。胸部は黒色にして, 前・中兩胸背には白毛を生じ, 2對の隆起線を具へてゐる。複眼を含む頭部よりも幅は大でない。小楯板は著しく隆起し且黒色。肢は基・轉兩節と跗節と腿節の基半部とは黒色, 殘部は飴黄色である。翅は薄黒く霞める部分を具へ, 脈は概して黒色, 後翅の翅鈎は4本で黄色である。腹部は赤棒色なれども末端3節の背面の中央部と産卵管とは黒色である。

體長3.5耗内外。

(21) ハマナスクロバラタマバチ *Rhodite fukudae* SHIN.

原記述 *昆蟲世界*, 第45卷第12號, 2頁 (1941).

體は腰柄部小域と尾端部小域とが栗褐色なるを除けば全體として黒色にして殆んど平滑である。頭部は全部黒色にして複眼の後方の幅が甚だしく廣くない。觸角は準絲狀にして18節より成り, 全長に亘りて黒色であるが, 第一, 第二の兩節に限り黄色である。各節は準圓筒狀にして縱走せる感覺器を具へてゐる。第一, 第二の兩節は約同大にして共に長幅約同大にして黄色。第三節は最長片, 第四節は長さにて第三節に次ぎ, 第五, 第六, 第七節は約同



長にして第四節よりも幾分短く、第八節—第十四節は第七節より順次に短小となり、第十六、第十七の兩節は約同長にして第十五節よりも長く、第十八節は最短片にして末端は尖つてゐる。

胸部は黒色にして腹部と約同長、菱状部は準三角形にして末端は圓く終り、平滑にして黒色である。翅は薄黒くして閉室の外縁部と翅端部とは扇状に黒く霞んでゐる。脈は概して黄色であるが、各脈の兩縁部は黒色に霞んでゐる。第一亞縁脈は第二亞縁脈の約4倍長、第二亞縁脈は第三亞縁脈の約1倍半長、徑室は開き、小室は寧ろ大きく、第一、第二の兩徑脈は幅廣く霞み、肘脈は辛うじて翅縁に達し、中脈端は細くなり、翅縁には達しない。肢脚は全て栗褐色乃至黄色である。脛距また栗褐色である。

腰柄部は幾分赤樺色であり、腹部は黒色であるが、後端部は赤色を帯び、産卵管は黄色である。

體長3.2 耗，觸角長3 耗，前翅長3 耗。

標型地 青森縣八戸市。

附記 本種の発見者青森縣八戸市の福田彰氏の御手紙によれば、『蟲瘿はハマナスの幹及枝に形成され、始めは緑色ですが秋季に至れば褐色になります……1 瘿からは20—30頭の成蟲が羽化したし、成蟲の出現季は翌春5月中旬頃で……蟲瘿は栗の毬葉状で棘があり採集困難でございます……ハマナスタマバチの蟲瘿と混じて発見されます……』因に蟲瘿は準球状にして直徑40 耗内外、表面には多數の棘を生じ、内質は當初は漿質なれども、後にはバルブ質化する。

**キククワタマバチ(菊科瘿蜂)屬 Genus Aulacidea ASHMEAD**

Aulacidea ASHMEAD, Psyche, IIX, p. 68 (1897).

Cynips LINNE', Syst. Nat. ed. 10, p. 343 (1758).

Aylax (part.) T. HARTIG, Z. Ent. Germar, II, p. 186 (1840).

Aulax AEHENECK, Jahrb. ver Nasso, XIII, p. 219 (1863).

前翅の徑室は閉ち、觸角は雌蟲にては13若しくは14、稀には12節、雄蟲にては14節、稀には15節より成つてゐる。

(22) ヤナギハタンボボキククワタマバチ(假稱) Aulax hieracii KIEF.

原記述—D. TORRE, Tierreich, Cynipidae, p. 688 (1910).

體の地色は帶赤橙色。頭部は黒色。複眼は帶紅汚黄色。顔面は黒色なれども大腿は基部僅かに黄色、鬚は4節より成り、短毛を生じ、淡黄色で、末端節が最長である。複眼の後方の頭部は複眼よりも格別に大ならず、後頭部には毛が多い。觸角は14節より成り、第一、第二の兩節は概して黒く、殘節には縦溝と不顯著なる短毛とを生じてゐる。第十四節は最長片にして、第十二、第十三兩節の和よりも長く、後半部は細まり、短毛を生じてゐる。第二節は幅よりも幾分短く、第一乃至第四は約同長にして長さは幅の2倍以上である。第七乃至第十二節は幅の約1½長である。胸部は良く發達し、黒色。前胸部は幅小。中胸は大にして、背板上の縦線は顯著で黒色。後胸小楯板は黒色にして鮫皮状に凹凸し、後者の末端は光らない。共に短毛を生じてゐる。前翅は幅大にして準透明、脈は基部は赤色なるも、其他の部分は薄黒乃至黒色を帯びてゐる。徑室は寧ろ短く、前縁は少しく閉されたる例あれども、概して開いてゐる。後翅は小にして脈は黄色、鉤は3個にして淡黄色。肢脚は基・轉及腿節の基半部と第四、第五兩附節とは黒色、殘部は黄色なれども、後肢にありては脛節もまた幾分黒色を帯びてゐる。腹部の柄節は黒色にして顯著、其他の環節は概して赤橙色なれども、第二環節の背面は殆んど黒く、第三節の後端部と第四節の後部と中央部とは黒色である。尾端は黒色である。

體長1.8 耗内外，前翅長1.8 耗内外，觸角長1.7 内外。



## (雄 蟲)

體は雌蟲よりも小さく、地色は帯赤橙黄色である。頭部は黒く、複眼は帯紅汚黄色。鬚は4節より成り淡黄色にして第四節が最長片、各節には短剛毛が生じてゐる。大・小脛は淡黄色。觸角は14節より成り、體と約同等、第一、第二兩節と、第三節の基部と第十四節とは黒色を帯び、他は淡黄色である。第十四節は最長片。第四節以端は各節順次に太くなり、長さは常に幅の約2倍大である。第一節は甚だ太く、第二節は準球狀、第三節の基部は幅に於て最小にして、末端は基部の2倍に膨大してゐる。第二節の幅は第三節のものと同大となり、第四乃至第八節は約同長、以下少しく短くなつてゐる。頭部の後方は複眼よりもあまり幅大ならず。胸部は鮫皮狀を呈し、黒色にして縦線は顯著である。翅は準透明にして脈は薄墨色を呈し、徑室は前縁が開いてゐる。肢は基・轉兩節が黒く、腿節は少しく黒色を帯び、他は黄褐色である。腹部は黒色にして顯著、各節の背板の中央部(體の上面)は黒色の横走帶紋を具へ、腹面及側面は赤橙色である。ヤナギタンボボの莖を瘻化する。

體長1.4耗、前翅長1.4耗、觸角長1.4耗。

カハムグリタマバチ屬 Genus *Paraulax* KIEFFER

*Paraulax* KIEFFER, Bull. Soc. Metz, ser. 2, 11, p. 59 (1904).

觸角は雌では12節、雄蜂では15節より成り、末端節は肥大して紡錘形を呈し且つ其の直前の3節の和と約同長、雄蟲の第五節は基半部に於て、甚しく彎曲してゐる。胸背では小楯も他部同様に光澤なき黒色。翅は有毛、徑室は閉じてゐ、爪は2分してゐる。腹部は收縮してゐて胸部と約同長。柄節は輪狀に短小。産卵管は幅の約3倍長にして末端は毛を生じてゐる。従來は *P. perplexa* KIEFFER 1種のみが南米から知られてゐたに過ぎなかつた。

(23) ナラカハムグリタマバチ 櫛皮潜瘻蜂) *Paraulax quercicola* SHIN.

*Paraulax quercicola* SHIN., 蟲昆, XII, 6, p. 203 (1938).

## (雌 蟲)

體は小形にして黒色。頭部は黒色。複眼は汚灰白色。觸角は12節より成り、體よりも短く、第一節は黒色、殘節は黄色、第二節は第一節の約半長にして長幅約同大、第三節は幅に於て最小、長さは第四節よりも幾分長い。第五乃至第七節は約同大。第八乃至第十二節は順次に膨大して1聯の棍棒狀を呈し、第十二節は準紡錘狀にして第一節の約3倍、第三節の約2倍長である。鬚は淡黄色。胸部は鮫皮狀の凹凸を有し、前翅は準透明にして黒色の短毛を生じ、脈は薄黒く、徑室の前縁は閉じてゐる。肢脚は基轉の兩節と腿節の基半部とが黒く、殘部は黄色なれども、第五跗節は概して黒色、褥盤は爪と同長、爪は黄色。腹部は黒色、産卵管は黒色にして長く、長さは幅の3倍以上ある。

體長1.4耗内外、前翅長1.2耗内外、觸角長0.8耗。

宿主 ナラの小枝の皮下に棲む。

標型地 岩手縣盛岡市。

附記 蟲は5月10日前後に現はれて産卵し、産卵された枝の皮面は隆起する。

(24) クヌギウスフシタマバチ *Callirhytis hakonensis* Ashmead. (追加)

*Callirhytis hakonensis* Ashm: in J. N. York Ent. Soc, vol. 12, p. 81 (1904). DALLA TORRE, Cynipidae., p. 564 (1910).

體は黒褐色乃至黒色。觸角は雌蜂にては14節より成り體の約半長、少くとも體長程には長くない、全長に互り黒色なれども第一、第二の兩節は他節程



黒色ならずして褐色味を呈し、第三節は最も細い。以下逐次第六節に至るまで肥厚し、第三及び第十四節は最長片、第三節より第十節までは逐次短くなり、第九より第十三節までは短くして幅の1倍半長以下である。肢の腿節は濃褐色、第五跗節は殆んど黒色に近い。爪は分齒せず、黄色。翅は準透明、前翅の翅脈は黒褐色にして幾分霞んでゐる。徑室は長く、開いてゐる。腹部は卵状にして黒色である。體長4耗内外。

宿主及蟲癭 クヌギノキの葉裏に多數群生する帯赤黄色の蟲癭を形成する。東京、神奈川地方に多い。

(25) コナラムレフシタマバヘ *Diplolepis japonica* ASHMEAD. (追加)

*Dryophanta japonica* Ashmead: in J. N. York Ent. Soc. vol. 12. p. 79 (1904).

*Diplolepis japonica* Dalla Torre, Cynipidae, p. 354 (1910).

體は光輝ある黒色。鬚・脚は黄色。觸角は14節より成り、第一、第二の兩節は幅よりも長く、第三節は最も細いが最長片であり、以下逐次短く且つ幅廣くなり、第九節にては長幅殆んど同大である。肢は黄色であるが腿節は跗節よりも濃くて濃褐色。爪は2齒に分れてゐる。コナラの葉裏に蟲癭を營む。

體長3耗内外。

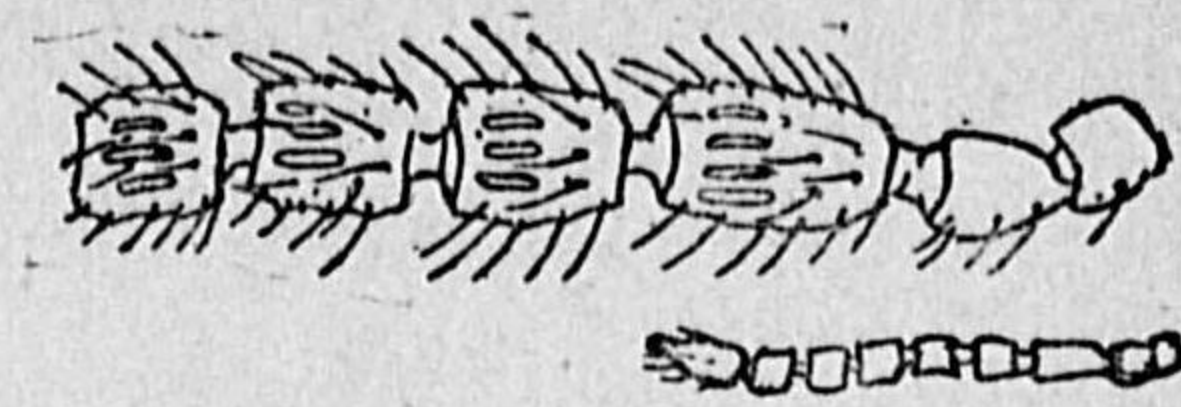
## 第二小蜂科

(26) タブウスフシコバチ *Isthmosoma ishikawae* SHIN.

*Isthmosoma ishikawae* SHIN., Insect World XLV, p. 2, (1941).

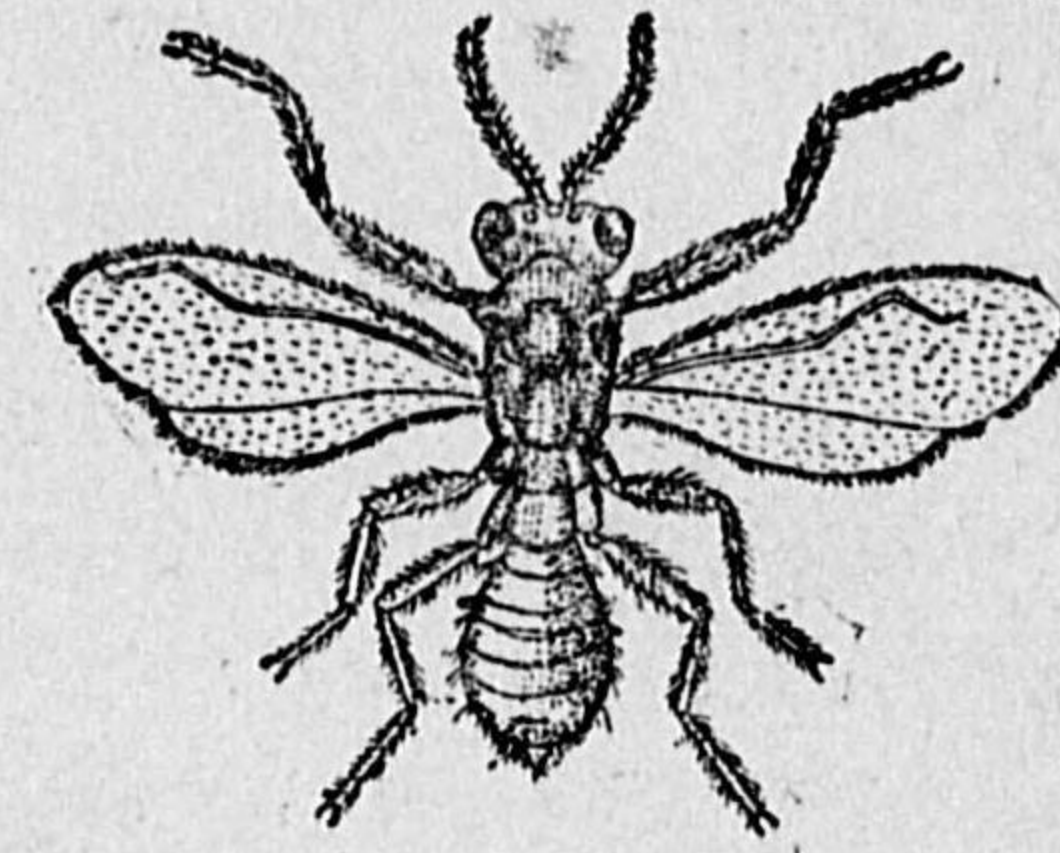
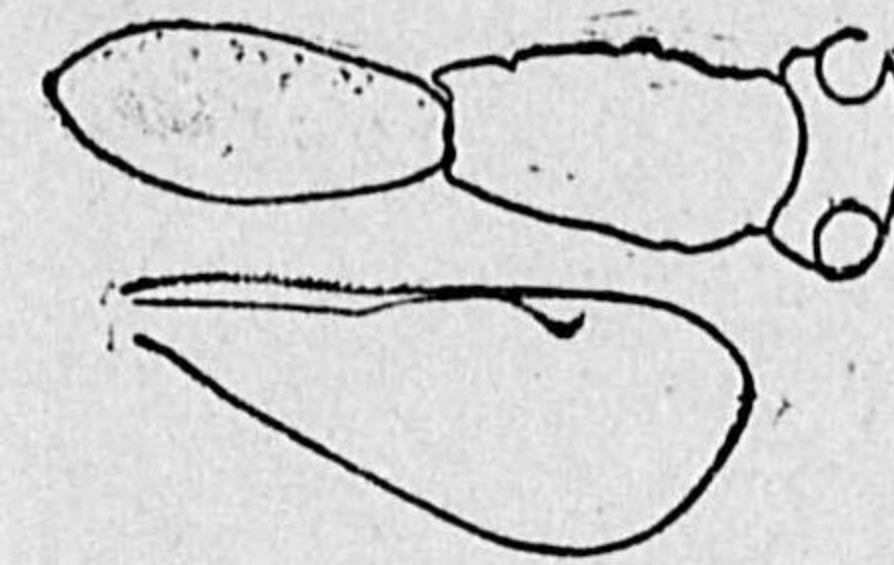
黒色。頭部は少しく毛を生じ、黒色、複眼は赤色にして大きい。上顎は其

齒状部と共に黒色。觸角は棍棒状にして10節より成り、第三—第十節が所謂鞭状部を成してゐる。第一及第二の兩節は黄色にして、第一節は第二節よりも長く且つ肥厚し、第二節は第一節の約半長にし



第34圖 タブウスフシコバチの觸角一〜六及び全長の

て細く、末端へ向ひ細まつてゐる。鞭状部は黒色にして、第三節は黒色なれども幅は最小、第三節以下の各節は順次に幅廣くなるも短く、第八—第十節は癒合して1節を成してゐる。各節には5—7個の縦走感覺器を具へてゐる。



第35圖 タブウスフシコバチ(上)と其の前翅(下) 第36圖 タブウスフシコバチ

胸部は黒色にして長く、短毛を生じ、菱形部は缺刻を缺き黒色。前伸腹節は短小なれ共顯著である。翅は準透明にして薄黒色の短剛毛を密生し、脈は黄褐色にして顯著、枝脈は顯著に降下して再び昇つてゐ、肢は概して黄色であるが、腿脛の兩節は稍黒く、前脛距は著しく長く且尖つて第一跗節と約同長である。

(27) ウコギタマバチ *Isthmosoma acanthopanaci* n. sp.

頭部は黒色。複眼は赤色。上顎は黄色にして赤色味を帯び、鬚は黄色である。觸角は12節より成り、第一、第二の兩節は長幅約同大、第三節以後の



各節も約同長にして、全體としては準棍棒状であつて第三—第十節が膨れ、最後の3節は殆んど癒合して居る。

胸部は背・腹・側の4側とも黒色。肢は概して黒色なれども跗節は黄色の例がある。翅は準透明にして脈は黄色、翅面には剛毛が生じてゐる。縁脈は前縁の中程を過ぎて伸び、枝脈は短かいが曲つて居る。腹部は黒色にして球形、雌の産卵管は腹部よりも長く、黒色にして長毛を生じてゐる。6月20日前後に羽化する。

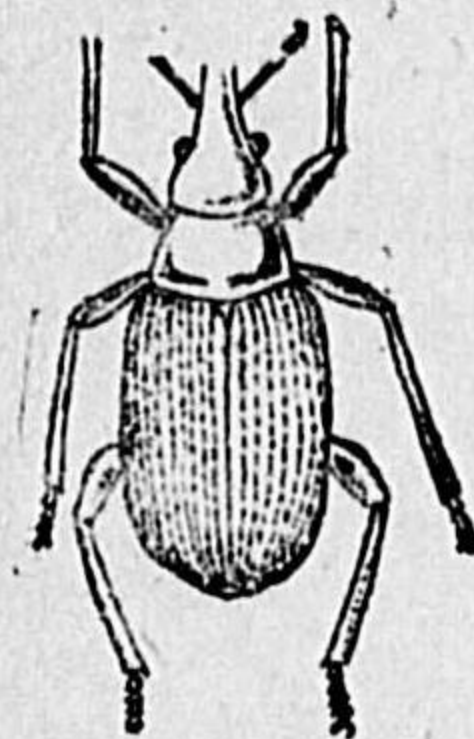
標型地 東京府下國分寺驛附近。

### 第三章 鞘翅目 COLEOPTERA

#### 第一 象鼻蟲科 CURCULIONIDAE

##### (1) センワウザウムシ APION sp.

概観は黒色。頭部は全體として木炭黒色にして中胸背よりも幾分長い。觸角は準棍棒状にして白色の毛を密生し、複眼は黒色。頭背は木炭黒色にして中胸部の4分の1よりも小。兩側には30—40個の圓形白色鱗より成る白色部を装うてゐる。鞘翅は概して黒色なれども、白色準圓形の鱗より成る白色



第37圖  
センワウザウムシ

斑點を約14個づゝ具へてゐる。肢脚は黒色なれども、全長に互りて白色準圓形の鱗状體を密生して白色觀を呈してゐる。6肢とも腿節は肥厚し且脛節よりも長く、跗節は4節より成り、第三節は8形に2分し、第四節は細長くして末端は黒色にして齒状ならざる2爪を着けてゐる。後胸部の腹板は廣大にして外縁には褐色の鱗状片を、内部には白色にして準圓形鱗状體を密生せしめてゐる。第一、第二及第

五腹環節の腹板は約同長、第三、第四の兩腹板はまた約同長にして共に第一板の2分の1長以下である。體長は吻部を除き約2.5耗—3耗。

##### (2) カシアシナガザウムシ *Alcides piceus* ROEF.

體は概して栗褐色。吻管は頭胸兩部の和若しくは前腿節と同長にして金屬性光輝を有する黒色。觸角は12節よりなり、全長に互り黒色にして各節末よりは白色の毛を生じ、球棒状である。頭部は概して黒色であるが、後縁即ち頸側部より前頸部へかけてミカヅキ形の美麗な黄金色の毛を叢生し、月の輪熊の場合と同じく本種の特徴の1をなしてゐる。複眼は顯著にして木炭黒色、單眼もまた黒い。前胸背は準截斷形を呈し、頭部の約2倍長、概して黒色であるが、背正中線に沿ふ部分と兩胸側縁とは汚黄色の斑部がある。鞘翅は羽化當初に於ては全體が栗褐色であるが、後には基部より後縁の中央へ斜走し、次で前縁へ斜走するく字形の部域が木炭黒色となる。各鞘翅には約10條の縦走稜と之と直角をなして走る多數の横走稜とがあつて網状を呈し、各網目の中央部が窪んでゐる。胸腹兩部の腹板は栗褐色にして黄色毛を密生してゐる。肢脚は老熟せる個體にありては全體に互り黒色にして汚黄色の短毛を生じてゐるが、羽化當初のものにありては栗褐色である。

體長吻管を除き5.5耗内外、吻管長2耗内外。

本種はシヒ、ナラ、シラカシ等の新芽に産卵して其部を紡錘形の蟲癭化する。成蟲は8月25日前後に羽化し出る。

#### 花蚤科 MORDELLIDAE

概して小形の昆蟲にして頭部は下方へ曲り、従ひて體と共にへの字を呈する。腹部は長圓錐形を呈し、尾端は背面なる尾板と腹面なる尾節とに分れ、何れも準三角形を呈し末端は尖つてゐる。觸角は準絲状にして11節より成



り、肢脚は比較的短く、跗節は前・中兩肢にありては5節、後肢にありては4節より成る。尙ほコハナノミ族のものにありては徑・跗兩節には段刻 Comb と稱する準横走溝を具へるものがある。約1200種、内、10屬60種が邦産種である。

ハナノミ科ノ亞科ノ檢索表

- 1. 後脛節に段刻があり、前胸背板は全長に互り鋭稜をなしてゐる  
.....ハナノミ亞科 Mordellinae
  - 後脛節は段刻を缺き、前胸背板は後半部のみが鋭稜をなしてゐる  
.....フナガタハナノミ亞科 Anaspidinae
- 舟形花蚤亞科には蟲癭を形成する種は無い。

ハナノミ亞科の族の檢索表

- 1. 小腮鬚は末端が棍棒状に肥大してゐる  
.....ヒゲナガハナノミ族 Higenagahananomini
  - 小腮鬚は末端が棍棒状でない..... 2
  - 2. 段刻は後脛節に1條あるのみである.....ハナノミ族 Mordellini
  - 段刻は後脛節並に後跗節に1條以上ある  
.....ヒメハナノミ族 Mordellistenini
- 既知の邦産蟲癭形成種はヒメハナノミ族に限られてゐる  
既知邦産種は皆ヒメハナノミ屬に屬する。

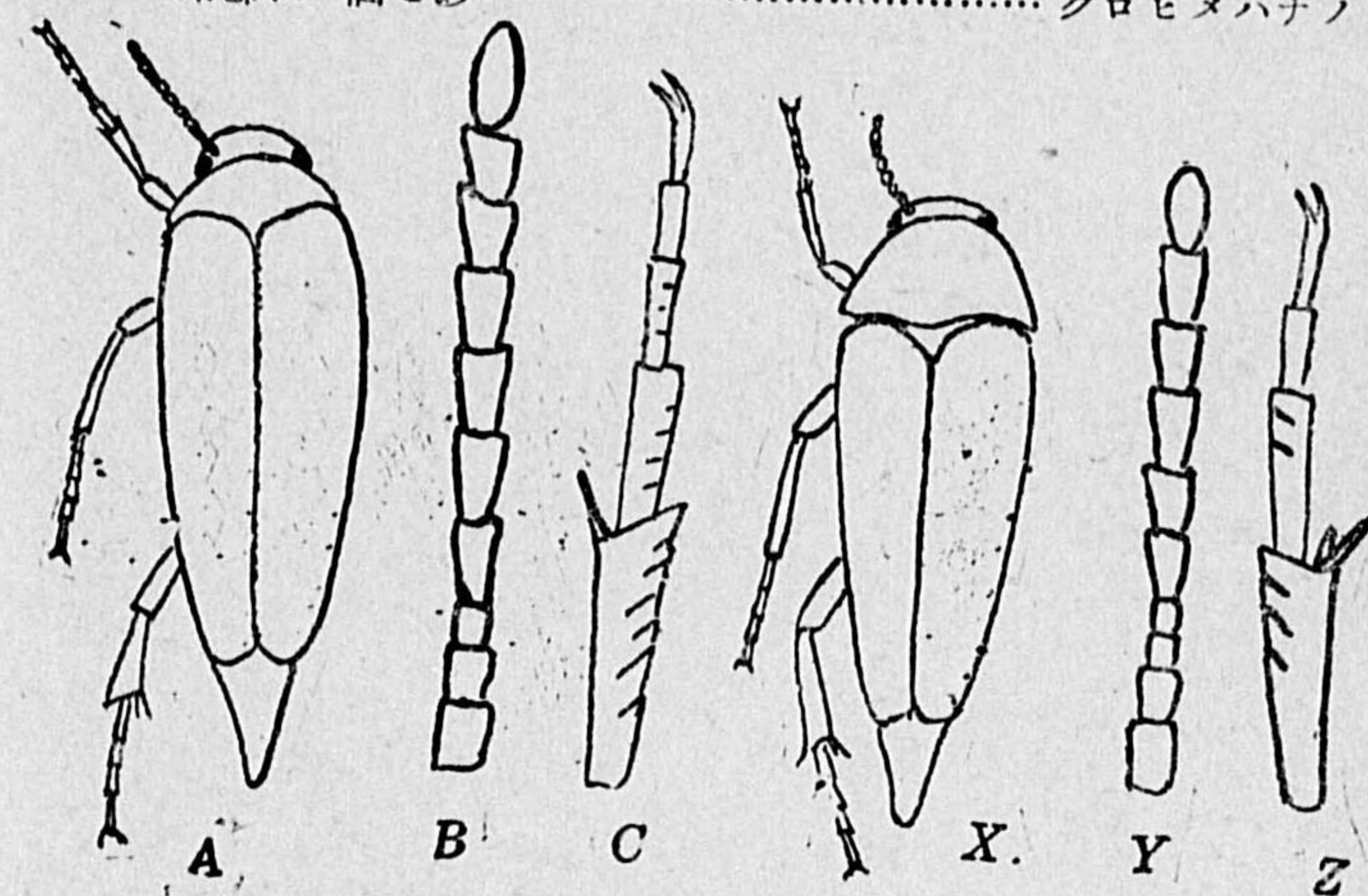
ヒメハナノミ屬 *Mordellistena* COSTA.

本邦領土内に産するもの28種、蟲癭を形成するものは下記2種である。

- (1) クロヒメハナノミ *Mordellistena pumila* (GYLLENHAL)
- (2) コクロヒメハナノミ *Mordellistena parvula* (GYLLENHAL)

(1) はアサ(麻)の莖部に橢圓形の蟲癭を形成し、(2) は蓬の莖に準球形乃至橢圓形の帶赤色蟲癭を形成する。共に黑色種であるが、次記特徴によりて區別し得られる。

- 2. 後肢の段刻は脛節に3、第一跗節に2、第二跗節に1、第三跗節に0個ある.....コクロヒメハナノミ
- 後肢の段刻は脛節に3—6、第一跗節に3—6、第二跗節に2—3、第三跗節に0個である.....クロヒメハナノミ



第38圖 クロハナノミABCとコクロハナノミXYZ  
A, X 成蟲 B, Y 觸角 C, Z 跗節と脛節

- (3) コクロヒメハナノミ *Mordellistena parvula* (GYLLENHAL)

河野廣道 日本動物分類學, 花蚤科頁, 51 (1936).

體は肥大にして地色は黑色である。頭部は概して黑色、僅かに鬚のみが黄色である。觸角は11節より成り、第三、第四の兩節は長幅共に最小、第四節は第十一節と約同長である。鞘翅は絨毛を生じ、之は暗色なれども光輝を放つ灰褐色乃至黄色に見える。複眼は卵状にして彎入部が無い。後肢の段刻式



は 3, 2, 1, 0。後脛節の外端刺は内端刺の約 3 倍長。尾板は雄蟲にては二尾節の 2 倍長、雌蟲にては 1 倍半長である。體長 2~3 耗。

寄主植物 ヨモギ。

(4) クロヒメハナノミ *Mordellistena pumila* (GYLLENHAL)

日本動物分類學, 花蚤科, 頁 4 (1936).

前種に似て體は黒色であるが、幾分か大きい。鞘翅に生ずる絨毛は黒色なれども黄褐色に見える事がある。複眼は卵形、觸角の第 3 節は前種同様に最小であるが、第 4 節は第 2 節よりも大きい。尾板は尾節の 2 倍乃至 2 倍半長、肢の段刻は脛節に 3—6, 第一跗節に 3—6, 第二跗節に 2—3, 第三跗節に 0 個ある。後脛節の外端刺は内端刺の約 3 分の 2 長である。

## 第四章 鱗翅目 LEPIDOPTERA

### 第一 透翅蛾科 AGERIIDAE

翅には多少とも透明の部分がある、之れ硝子蛾の稱ある所以である。後翅の亞縁脈と徑脈とが同じ所より生じてゐる事は他の顯著なる特徴をなしてゐる。翅そのものが概して小形にして、縁毛を有し、黄金色を混じて一見蜂に似たる形態を有してゐる。幼蟲には脚が 6 對ある。植物の髓質部にありて發育する。

(1) ブダウスカシバ *Aegeris regalis* BUTLER

*Sciapteron regalis*, 進士昆蟲學講義, 下卷, p. 185 (1925).

*Parantherene regalis* 河田, 日本昆蟲圖鑑, p. 1358 (1925).

體は黒色なれども腹部の後半の 2 環節には棒色の横走帯があり、頭部は黒色なれども、鬚と頭頂と後頭部とは黄褐色である。胸部も黒色なれども、後胸部の兩側は黄棒色である。前翅は帯赤褐色にして前縁と翅脈とは黒色。後翅は透明である。肢脚は概して 1 様の黒褐色にして同色の毛を生じてゐる。

體長 15 耗内外, 前翅の開張 30 耗内外。

幼蟲は 5—6 月 (6 月 10 日東京にて 2 頭を得た) に羽化し出る。

宿主 ブドウ及びヤマブドウの莖の髓質部に棲む。

(2) フタスデスカシバ *Aegeria bicincta* WALKER

原記述 *Aegeria bicincta* WALKER, Cat. Lep. Hep. Brit. Mus.

Suppl. I, p. 12 (1864).

異名記述 *Sciapteron bicincta* MATSUMURA, Cat. Ins. Japan, I, p. 187 (1905).

*Parantherene bicincta* MATSUMURA, 1000 Illust. Ins. Jap., I, p. 1015 (1931).

(雄 蟲)

體は黒色。頭部は黒色にして觸角は黒褐色、後頭部には黄色の毛が生じてゐる。胸部には各環節の側面に黄色斑がある。肢脚は概して黒色であるが中肢の跗節端は黄色である。前翅は赤褐色にして翅縁と各脈とは概して黒色である。後翅は概して透明にして脈と縁毛とは黒褐色である。尾總毛は黒色、兩側の末端は白色である。

體長 14 耗内外。

東京近郊に多産する。ヘクソカツラの蔓に寄生する。

(3) カシコスカシバ *Aegeria querceus* MATSUMURA



本種は松村博士の命名する所にして、其の記載によれば「體は紫褐色、前頭の兩側は白色、下唇鬚・觸角末端・頰・中胸背の3縦線、後胸背の兩側・各腹節の後縁及び兩側、體下竝に肢は橙黄色、雄は尾端に刷子様の黄褐色毛を2列に簇出し、其の末端に白色の部分をも具へ、腿節及び脛節に褐色の部分あり、翅は透明、前翅は黄色に及び前縁及び脈は金光ある暗褐、翅底の横脈及び前縁の縦條は橙黄色、後翅の横脈は黄色、縁毛は前翅と同様に金光ある暗褐。雄にては腹部細し。體長5分5厘。開張1寸内外、幼蟲は未だ判然せず、年1回の發生、7月中旬乃至8月成蟲發現する、幼蟲は血槿の樹幹に蠢入して大害を加ふ……」と。

#### 蝶 蛾 科 PYRALIDAE

前翅は長三角形、後翅は圓味を帯び後縁が甚だ廣く、概して斑紋を有してゐる。觸角は概して鞭狀。下顎鬚は退化して小さいが、下唇鬚は長大にして長く前方へ突出してゐる。

##### (1) アツサノメイガ *Omphisa plegialis* WILEMAN

體は褐色にして多少白色部を混へてゐ、頭部は褐色である。翅は概して白色にして白色地に黒褐色の横走帯を有してゐる。基部のものは2重線をなし、内横線は黒褐色。中室内と中室端とには黒色點があり、中室の下方には不規則な黒色の斑紋がある。外横線は黒褐色で波状を呈し、亞外縁線は同じく黒褐色にして之は外縁線とは第四脈の所に於て交つてゐる。脈は黒褐色、縁毛は白色である。後翅もまた3個の黒褐色線を有し、就中基半部のものが太い。外縁脈は亞外縁脈よりは太く且つ波状を呈し、亞外縁線は第四脈上で外縁脈に接してゐる。縁毛は白色である。翅の開張33耗内外。

#### 葉卷蛾科 TORTRICIDAE

前翅は廣くして長方形、11脈を具へ、後翅は廣く、斑紋を缺いてゐる。静止の時には翅は屋斜狀に保たれる。觸角は鞭狀。下唇鬚は短大にして細い毛を生じ、末端は絲狀である。

##### (2) ヨツスデヒメシンクヒ *Grapholitha quadristriana*

WALSINGHAM(?)

體は烏黒色の鱗を密生してゐる。頭部は黒色。鬚は白色、吻管は淡鉛色にして短く。觸角は絲狀にして體の約半長、下面へ伸せば後肢の基節を越して第二腹環節に達し下面は白色、上面は黒白の兩色が交互してゐる。胸部は下面は汚白色の鱗を密生し、背面は帶紫黒色。脚の腿節は肥厚して脛節よりも幅大に且つ幾分長く上面は黒色、下面は白色であり、他の脛節は茶褐色。前脛節は距を缺き、中・後兩脛節には2對の距を生じ、2對とも白色にして、第一跗節と約同長。跗節は概して黒色であるが各末端部は黄色、第一跗節は最長にして、2, 3, 4, 5と以下順次に短小。複眼は黒色・單眼は黄色である。

前翅は幅の3倍長で、翅端は尖らずして圓く、概して黒色、特に全長の3分の1に相當する基部は黒い。前縁部には9條の白色帯が矢筈狀に中部へ向つて走り其の内端は黄色に化してゐる。内縁の中部には4條の白色波狀帯があり、兩翅相會する時は兩側のもものが4條の半圓周を畫く。尙ほ外角よりも微かに2條の白色線が生じてゐる。外縁部の鱗毛は帶紫黒色である。體長6耗内外、前翅長6耗内外、觸角長4耗内外。

宿主植物 カラハナサウ及びカナムグラの莖に蟲癭を形成する。

成蟲は8月1日頃より出現する。



(3) カギモンハマキガ *Epiblema foenella* LINNE'

前翅は概して赤褐色，前縁は灰色を帯び，後半部の縁部には白く細い線が4—6 條外の方へ向つて走つてゐる，内縁にして翅基に近く大形で且つへ字状乃至く字状の白色帯が生じ，翅の中央部に於て曲つて外縁の方向をとり，外縁に達せずして終つてゐる。この白色帯の形状が本種にカギモンの名を興へたことと思はれる。後翅は暗褐色特に脈上の鱗が此の色に富んでゐる。體長9 耗内外，前翅長10 耗内外。

宿主植物 ヨモギの莖の髓内に棲む。(第79圖)

成蟲發生期 8月10—25日。

## 麥蛾科 GELECHIDAE

頭部は細鱗若しくは細毛を生じ，下顎鬚は長くして突出してゐる。前翅は細長く，12脈を有し，其の第七，八兩脈は第六脈よりの分岐である。後翅は卵状にして中室を缺いてゐる。

(1) コナラノバクガ *Stenolechia gemella* LINNE'(?)

頭部は黒色。胸腹部は蒼鉛色。肢は前・中兩肢は黒色，後肢は概して黄色である。跗節は第一跗節が最大にして第二，第三，第四跗節が之に次ぎ，第五跗節は細いが最長である。中肢の脛節は腿節よりも短く，黒色にして黄毛を生じ，大形の距を1個生じてゐる，之は跗節の約半長である。後腿及び脛節は約同長にして銀白色，脛節には末端距の外に尙ほ1個の同大なる白色距刺を生じてゐる。

口吻管は黄色。複眼は黒色にして白色毛を生じ，鬚は大にして黒色毛を生じてゐる。觸角は黒色にして鞭状，約50節を示し，各節は約同長にして後

脛節と約同長若しくはより長い。

前翅は概して細長く，長さは幅の約3倍長，中央部にして翅の約3分の1部域は濃黄金にして，基端兩部の3分の1域は概して黒色であるが，端部域には青・黄兩色の斑を若干加へてゐる。尙ほ黄色帯の前縁部には4個の黒點を具へ，左右兩側には白色細帯が1條づつ走つてゐる。縁毛は概して黒色，翅の裏面は概して薄黒色。小翅は概して薄黒色を呈するが，支端は廣く，縁毛は鼠色である。

宿主植物 ナラ *Quercus serrata* 及びクヌギ *Q. glandulifera* の生長端。

## 筒蛾科 COLEOPHORIDAE (ELACHISTIDAE)

前後の翅は末端へ向つて尖り，長い縁毛を生じてゐる。頭部は細鱗に掩はれ，下唇鬚を缺き，下顎鬚は胸部よりも短い。

(1) フタテンツツガ *Pelataea bicolar* WALSINGHAM

體の上背面は硫黄色，下(腹)面は白色である。觸角は準鞭状にして體と約同長なれども前翅よりは短い。鬚及び吻管は淡黄色にして白色に近い。頭・胸兩部は硫黄色。前翅は細長くして末端は尖り，淡黄色なれども脈の鱗は著しく黄色である。外縁部に近く2個の黒色斑點がある。縁毛は長くして翅幅と約同長，黄色である。後翅は表面黄色，裏面は銀白色の鱗を密生し，縁毛は翅幅よりも長い。

前肢の腿節は脛節よりも僅かに短くして茶黄色，脛節は黒色味を帯び，跗節よりも遙かに短く，腿節と共に茶黄色の鱗を生じてゐる。跗節には白色の鱗毛が生じてゐる。中肢は前肢と約同長。後肢は甚だ大きく，腿節はより肥厚し，白色の鱗を生じてゐる。後脛節は他脛節の約2倍長にして黄色鱗にて覆はれ且つ白色にして腿節と約同長の長毛を叢生してゐる。中脛及び脛末の



2對の距は銀白色の鱗を裝ひ、第二跗節と約同長、第二跗節は第三跗節よりも幅廣く且つ短く、第四は第五跗節よりも短小である。腹部は背面黄色、腹面白色である。

體長6耗内外、前翅長7耗内外、絨毛を含む鬚長10耗、觸角長6耗内外。

宿主植物 アカザの髓内に棲み、苞形の蟲癭を形成する。

成蟲發生期 8月4—10日。

## 第五章 同翅目 HOMOPTERA

### 第一 木蟲科 PSYLLIDAE

#### (1) アケビマダラキジラ *Aphalara akebiae* SHIN. n. sp.

額錐は頭部と約同長、綠色にして中央部は幾分縊れてゐ、多數の綠色長毛を生じてゐる。觸角は10節より成り、一、二及び九、十の4節は全長に亘りて黑色、第八節は後半部のみ黑色、第四—第七節の末端部のみ輪狀に黒褐色。頭胸兩部の和と約同長、兩複眼間の約2倍長である。第一、第二の兩節は第三節の幅の約3倍大の幅を有し長幅約同大、第三節は最長片にして第四節の約2倍長、第四節は末端に近く1個の圓狀感覺器を具へてゐる。第五節は第六節又は第七節と約同長にして末端に近く1個の圓狀感覺器を具へ、第七節は第六節よりは長いが第三節よりは短く、第八節は第六節と約同長にして末端に近く1個の感覺器を具へ、第九、第十の兩節は何れも最短片にして、第八節よりも僅かに短く、第十節は末端より長短2本の剛毛を生じ長剛毛は節幅よりも長い。複眼は濃赤色、單眼の周圍は赤色味を帯びてゐる。胸背は1對の大形なる白色蠟腺を具へてゐる。翅の脈は淡綠色、膜質部は基部が準透明、後半部には薄黑色の斑點が散在してゐる。亞緣脈の中片は中肘脈柄の約1倍

半長、肘脈柄は中脈柄の約3分の2長、翅の後半部は稍黄色味を帯び多數の薄黑色の斑點を散在せしめてゐる。頭胸兩部が橙黄色なるに反し、腹部の背面は橙黄色地に横走黑色帶を各節に具へてゐる。肢は短大にして腿節は異常に肥厚してゐる。黑色乃至褐色、後肢に限り、第一跗節には5個、第二跗節には黑色なる距爪4個と第二跗節端に約3個の剛毛を生じてゐる。雌蟲の産卵管は黄色にして上瓣は下瓣よりも長い。

#### (1) ミホシキジラミ *Aphalara multipunctata* Kuwayama

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., V., p. 18 (1920).

觸角は頭胸兩部の長さの和と約同長、10節より成り、第一、第二及び第九、第十の4節は全長に亘りて黑色、殘餘の節は綠色、第一、第二の兩節は幅に於て第三節のもの約3倍、第一、第二の兩節は約同長。第三節は最長片にして第二節の約1倍半長、第四節の2倍以上に長く、第四、第五の兩節は約同長、第五節には末端に近く1個の圓狀感覺器がある。第七節は第六節よりも幾分小さいが幅は幾分大、第八節は第三節に次いで長く、末端に近く1個の圓狀感覺器を具へてゐる。第九節は第八節と約同長なれども甚だしく膨れてゐ、第十節は第九節よりも短い、膨大してゐ、且つ末端よりは2本の剛毛を生じてゐる。口吻は長くして腹部に達し、末端節は黑色。

頭胸兩部は背側腹の4面に亘りて黒褐色にして、後胸部の腹面にある彈距は黒褐色である。複眼は濃赤色、單眼3個の周縁も赤色を帯びてゐる。肢は基・轉・腿の3節は概して黒褐色、其の他の節は綠色。腿節は甚だしく肥厚してゐ、脛節は腿節と約同長、第一、第二の兩跗節は約同長にして綠色。脛節端には約8個の太い黑色の剛毛を生じてゐる。爪は綠色にして黑色ではない。翅は體長よりも長く、長さは幅の2倍以上にして末端は尖らず圓く、基部に於ける幅は後半部に於ける幅よりも幾分小さい。脈は白色、膜質部には



全面に亘りて黒色の斑點を具へ、各脈もまた大部分黒點を具へてゐる。亞縁脈の中片は肘脈柄と約同長である。

腹部は背腹共に横走の黒色帯を各環節に具へ、雌蟲の陰具上片は下瓣よりも幾分長い。

宿主植物 クサボタン *Clematis*.

分布 長野縣上水内郡日里村、八ヶ岳々麓大泉驛、中央線大月驛前（採集日時 昭和十五年六月十五日）。

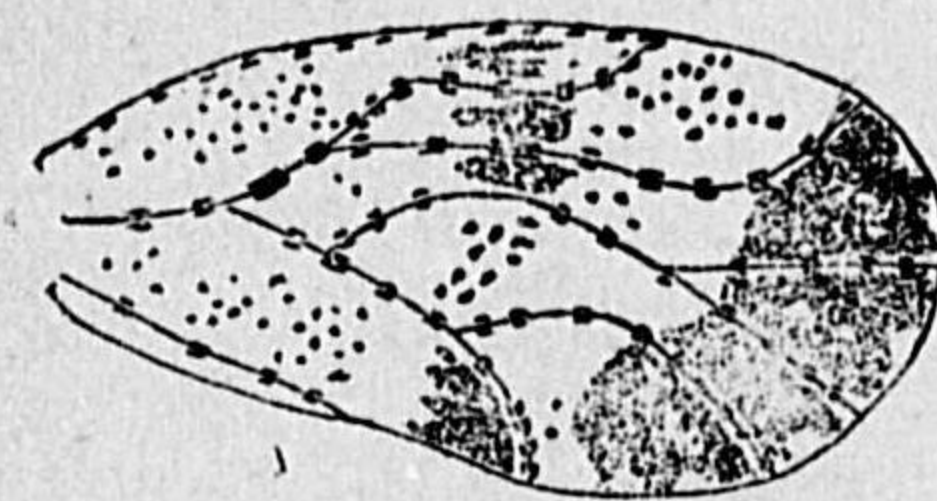
(2) サイカチマダラキジラミ *Metapsylla robiniae* SHINJI

*Metapsylla robiniae* SHINJI, Kontyu XII, No. 4, p. 147 (1938).

サイカチ *Gleditschia horrida* MAKINO の生長端部の葉を葉裏を外にし葉軸に並行に縦に折り重ね、其の内部に寄生して蕃殖し、各個躰からは青色味を帯びた綿絮體を長く葉裏外へ分泌突出せしめてゐる。かかる葉は生長後にも捲縮状態を續ける例がある。

(成 蟲)

體は帶黄淡綠色。額錐は黄色でU字形の突起體を生じてゐる。口吻は前肢



第 39 圖  
サイカチキジラミの前翅

を越して伸び末端は黒色である。複眼は濃赤色。頭部は黒色の縦線を具へてゐる。觸角は10節より成り第一、第二、第九、第十の4節と各節の末端部とは黒く第三—第七の6節の基半部は淡黄色である。

胸部の背面には5條の黒色縦走線があつて黒色を呈してゐる。肢は概して黒褐色である。翅は外縁を底邊とせる二等邊三角形を呈し、地色は灰白色であるが多數の黒色斑紋乃至斑點を散在せしめてゐる。黒斑の主なるものは次の如くである、即ち前縁脈に沿うて16小點、徑脈に沿うて7點、分脈

に沿うて10個、其の柄部に2—3個、交叉點に1點、MI上に5個、M2上に5個、之の交叉點に1點、之等の柄部に7點、C<sub>1</sub>上に8、C<sub>2</sub>上に4、その交叉點に1。其の柄部に3個、MC柄部に1、RMC柄部に3個、臂脈上に5個、縁脈とRMCとの間に16個、翅斑上に約32、RとRS間に約20、RとCⅢ間に約30個、Mの柄部とCの柄部との間に18個、RMC柄部と臂脈間に約55個が4、5列をなしてゐる。翅の長さ2.2耗内外。體長2.0耗内外。

(3) ベニキジラミ *Psylla coccinea* KUWAYAMA.

原記述 *Psylla coccinea* KUWAYAMA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. II, p. 171 (1907).

アケビ *Akebia kinata* DECNE の生長端に近い部分の葉に寄生する。本種の寄生を受けた葉は一般の例と異り葉裏を外、葉表を内側にして折れ重りて内に木虱が棲む。蟲體の直下に當る部分は幾分窪み且つ外側へ突出し、同時に葉上のものが肥厚するを以て恰も天狗巢病的に罹つてゐるが如くである。6月乃至10月に亘つて此種天狗巢病的蟲癭を成さぬアケビは殆んど絶無と云つて良い。此等折重する葉癭の内側には常に多量の水滴と蛻と木虱とが見られ、木虱は概して美麗な赤色であるが、樺色、黄色、綠色乃至白色に近い個體もある。赤色種も酒精中に保存する時は脱色して淡綠色となるものである。

(成 體)

體は概して美麗なる朱紅色で顯著な毛を缺き頭尾方向に細い菱形である。頭部は1縦走皺襞で左右兩部に分たれ、額錐は長い方で、少數の毛を生じてゐる。觸角は10節より成り體の約5分の3長で基部の2節は赤く末端の2節は黒く他の6節は白色である。第三節は最長片で第四又は第五節の約1倍



半長あり、第七節は第六節よりも長く、第六節は第五節よりも幾分短い。胸部は朱色、肢は概して朱色で脛節端には黒色の距毛を具へてゐる。翅は準透明で脈は黄色。脛切脈は少々上方へ曲り、中脈は肘脈幹の約4分の1点から生ずる。腹部の背面には黒斑無く、第三—第六節は隆起してゐる。雌の上位生殖板は下位生殖板よりも長い。

(4) ヤマトキジラミ *Psylla jamatonica* KUWAYAMA.

原記述 *Psylla jamatonica* KUWAYAMA. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., II, p. 167 (1907).

體は淡緑色。頭部は黒色を呈せず、複眼は黒色、單眼は赤色。額錐は大きくして長幅共に第三觸角節と約同長。觸角は10節より成り、概して黄色なれども、第五—第八節の後半部と第九及第十兩節の全部と黒色、第三節は第四節の約1倍半長、第九節は第三節と約同長、第六節が最短片である。端刺は第十節よりは短い。胸部黒色ならず、翅は準透明にして脈は黄色。肢の肘脈柄は中脈柄の約2分の1長。肢は黄色なれども後肢の距毛は黒色。腹部は黒色でなく黄緑色。上瓣は下瓣よりも幾分長い。



第40圖

ヤマトキジラミの前翅

體長雌 2 耗内外, 前翅長 2.1 耗内外。

宿主植物 ネムノキ *Albizia julibrissin* DURAZZ.

分布 全國的の分布をなし、成蟲は7月5日前後に現はれる。

(5) グミキジラミ *Psylla elaeagni* KUWAYAMA.

原記述 *Psylla Elaeagni* KUWAYAMA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., II, p. 164 (1907).

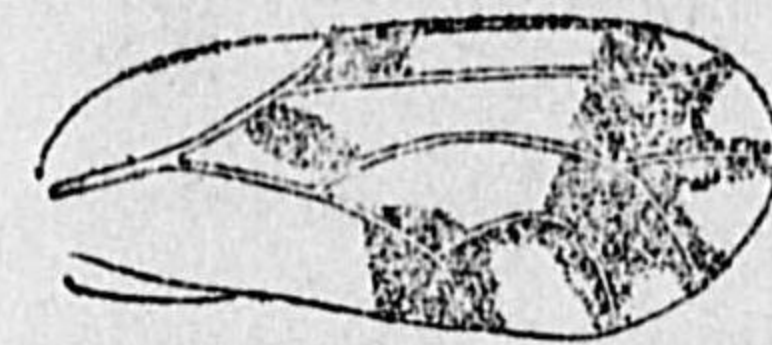
(成 蟲)

體は黄緑色にして頭部は黒色ならず、額錐の先端は尖り、緑色。複眼は黒色である。觸角は前翅の約半長にして黄白色なれども九、十の兩節は黒色である。肢は黄色にして脛距のみ黒色。翅は準透明にして脈は黄色。本種の見易き特徴としては前翅の内縁室端及び第一室より徑分脈に至る各脈間の外縁に接する部に各1個、計5個の黒褐色の斑點があることである。

(6) イタドリマダラキジラミ *Psylla itadori* SHINJI

*Psylla itadori* SHINJI. Kontyu vol. XII, no. 4, p. 149 (1938).

イタドリ *Polygonum Reynoutria* MAKINO の葉裏に寄生する扁平淡褐色



第41圖

種で北海道・本州・四國・九州に分布してゐる。本種に寄生せられた場合には比較的古い葉は變形しないが、生長端部の嫩葉は縦に捲縮せられる。9月、10月頃には花もまた寄生されて1塊をイタドリキジラミの前翅 成し恰も寄木が生じたかの如き觀を呈するに至るものである。6月—10月にかけて各地で採集し得られる。

(成 蟲)

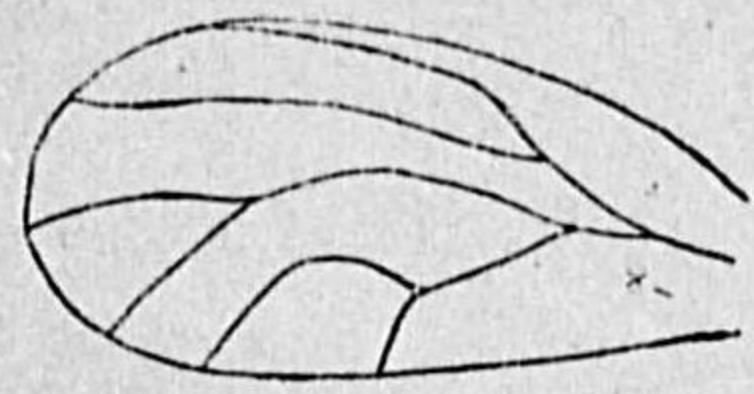
體は褐色味の勝れた黄色である。額錐は準圓錐狀で大きく幾分黒色味を帯びてゐる。額部は薄黒く灰白色の縦走線を具へてゐる。複眼は黒色、單眼は赤色を帯びてゐる。胸部は薄黒く、約5條の白色縦走線を具へてゐる。肢は割合に短小で脛附兩節は黒く残部は白色である。翅は準透明で末端は尖らず、前翅の脛脈端は亞縁脈と約直角をなしてゐる。肢は短く、腿節は黒色である。腹部は淡黄色の地色に黒色の横走帯を各環節上に具へてゐる。生殖瓣は栗色で、末端部は黒色、若干の毛を生じてゐる。體長1.7—2.0 耗、前翅長2.0 耗。



(7) サナヘタデキジラミ *Psylla fulvicola* SHINJI

原記述 *Psylla fulvicola* SHINJI, Insect World, vol. XLVI, no. 533, p. 4 (1942).

體は黄色。頭部は少しく赤色味を帯びてゐる。觸角は 10 節より成り、第九、第十の兩節は黒色、其他の諸節は黄色である。第一、第二の兩節は約同長、第三節は第四節の約 1 倍半長、第九、第十の兩節は他節の 2 倍の幅に肥



第 42 圖

上 ガマツミキジラミの前翅  
下 サナヘタデキジラミの前翅

大してゐる。第十節端に生ずる剛毛は第九節よりも長く、第十節は圓く終り、第九節よりも小である。胸部は黄色、腹部の各環節端は線状に黒い。後翅の 5 距毛は黒色にして長く、爪は長い。前翅は準透明にして脈は黄色、肘脈柄は中脈柄の約 4 分の 3 長である。

有翅蟲は 7 月 10 日前後に現はれる。全国的の發生をする。

標型地 東京都、杉並區荻窪。

宿主植物 サナヘタデ *Polygonum lapathifolium* L.

(8) サクラタデキジラミ *Psylla polygomifoliae* SHINJI

原記述 *Psylla polygomifoliae* SHIN., Insect World vol. XLVI, no. 533, p. 4 (1942).

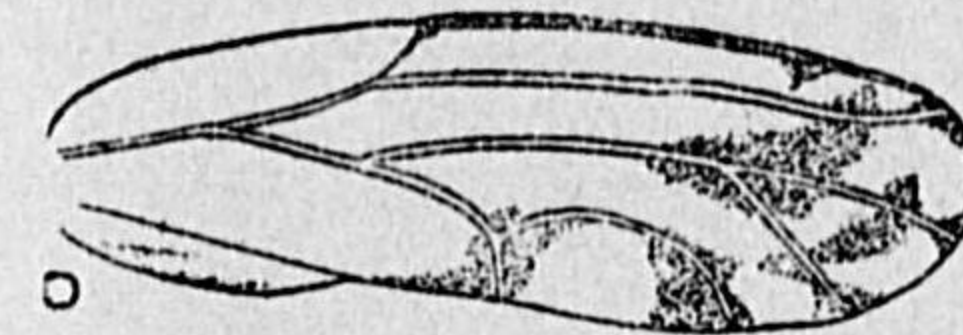
體は寧ろ少數の毛を生じ帶黄淡褐色である。頭部の背面は 1 縱走皺襞によつて 2 分割せられ、額錐は顯著で黄色。口吻は前肢の基節を過ぎて伸び末端節は黒色、殘節は黄色である。觸角は 10 節より成り、複眼を含む頭幅よりも遙かに長く、前肢の脛跗兩節の和と約同長である。末端の 2 節は黒く、他

節は黄色。第三節は最長、第四第五第六の 3 節と第七第八の 2 節とは夫々同長、第九、第十の兩節も亦同長で共に第七節よりも短い。複眼は濃紅色。胸部は良く發達し、背面の 4 側縁は黒く中部には縱走せる 4 條の灰白色部と黄色部とが交互に配列してゐる。

(9) ニハタデキジラミ *Psylla polygoni* SHINJI

*Psylla polygoni* SHIN., Kontyu, XII, 4, pp. 146—147 (1938).

ニハタデ(ミチヤナギ) *Polygonum aviculare* Linne の莖部並に葉面に寄生する。葉の場合には稀に葉面にも寄生するが、普通には葉裏を選ぶ。此場合兩葉縁は縦



第 43 圖

ニハタデキジラミの前翅

に葉裏へ向つて卷かれ其中に昆蟲が蕃殖するを見る。蟲體は帶青白色の綿絮物を分泌し、

之が線状をなして捲縮蟲瘻外へ突出する。7 月下旬から 10 月下旬に互つて採集し得られる。

## (成 蟲)

體は淡綠色で顯著なる毛を缺いてゐる。頭部は 1 縱走黒色線で 2 分割せられ、淡綠色地に黒色の斑紋を具へてゐる。複眼は濃赤色。額錐は準圓錐狀で高さは基部に於ける幅と約同大で白色、末端は鋭く尖らない。觸角は 10 節より成り、第一第二第九第十の 4 節は黒色、殘節は白色である。胸部は良く發育し、背面の 4 縁は黒く、地色は白色で筋肉は黄色である。肢は寧ろ短小で第二跗節と爪とは黒く、殘部は體と同色である。翅は準透明で脈は黄色。翅斑は細長で殆んど翅端に達し、第二肘脈は黒色である。腹部の背面には黒色の横走帯がある。生殖瓣は雌雄何れの場合にも上位のものが下位のものよりも長い。

體長約 2.1 耗、前翅長 3.1 耗、觸角長 0.95 耗。



(10) ナシキジラミ *Psylla pyrisuga* FOERSTER

原記述 *Psylla pyrisuga* FOERST., psyll. Ver. Nat. Ver. Preuss. Rheinl. 3, p. 78 (1848).

副記述 *Psylla pyrisuga* KUWAYAMA, Trans. Sapporo. Nat. Hist. Soc. II, 165 (1907).

異名記述 *Psylla austriaca* FLOR., K. d. Rhyn. p. 372 (1861).

*Psylla rutila* MEYER-DÜR, Psyll., p. 394 (1871).

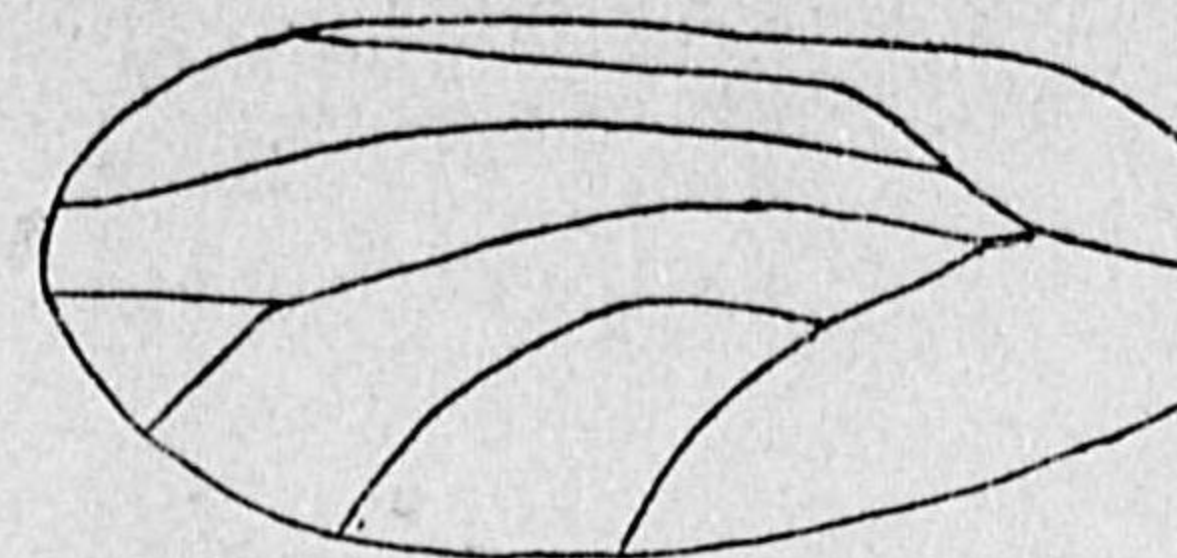
*Psylla rufitarsis* MEY.-DÜR., Psyll. p. 394 (1871).

*Chermes Pyra* SCHMIDBERGER, Beitr. z. Nat. Schaal. Ins., I, p. 179 (1827).

體は淡緑乃至淡黄色にして複眼は濃赤色にして黑色に近く、觸角は體の約3分の1長にして準絲狀、10節より成り、第九、第十の兩節は黑色、第四—第八節の末端部は黑色を帯び、殘餘の部域は淡黄色である。額錐は顯著にして淡黄色。肢脚は概して黄色。胸部は大體黄色。翅は準透明にして脈は黄褐色、肘脈柄は中脈柄の約3分の2長。雌の生殖器にありては上位瓣は下位瓣よりも遙かに長く、共に黄色である。體長3耗内外。北海道以南九州朝鮮にも分布し、4、5月頃に梨の枝梢、葉柄等に寄生し、或者は葉裏を侵し、此の場合には葉の卷縮を誘致する。

(11) ナナカマドキジラミ(新稱) *Psylla sorbii* SHINJI new sp.

體は黄色。頭部は薄黒く、複眼は黑色、單眼は赤色。觸角は10節より成り、第九、第十の兩節のみ黑色、他節は黄色、第三節は第四—第八節の和と約同長、第五節—第十節は幅よりも短くして球形、第四節は幅よりも幾分長い。端刺毛は第七—第十節よりも幾分短い。胸部は概して美麗なる黄色。6



第44圖 ナナカマドキジラミの前翅 翅は準透明にして脈は黄色、肘脈柄は中脈柄の約2分の1である。

宿主植物ナナカマド *Sorbus commista* Hedl.

成蟲採集 6月15日。

標型地東京都府中町。

(12) ガマツミキジラミ(新稱) *Psylla viburni* SHINJI

原記述 *Psylla viburni* SHIN., Insect World, vol. XLVI, no. 533, p. 2 (1942).

體は美麗なる黄金黄色にして蒼白色の白粉と綿絮物とを装着して居る。頭部は黄色。複眼は濃赤色にして黑色に近く、單眼は赤色である。觸角は10節より成り、第一、第二の兩節は長幅約同大、第三—第九の末端部と第十節の全長とは黑色、殘部と他節とは黄色である。第三節は第四節の約1倍半長、第四—第八節は約同長、第九及第十の兩節は同長にして第八節の約2分の1長。末端の2剛毛は黑色にして第八節と約同長。胸部は概して黄色、翅は準透明にして脈は黄色、肘脈柄は中脈柄の約2分の1長。肢は爪と後肢の4距毛と第一跗節の2距毛とが黑色。額錐は大きくして黄色、第十觸角節と約同長である。尾端の下瓣は上瓣よりも少しく長く、黄色である。

宿主植物 ガマツミ *Viburnum dilatatum* THUNB

採集年月及標型地、東京都府中町、6月20日。

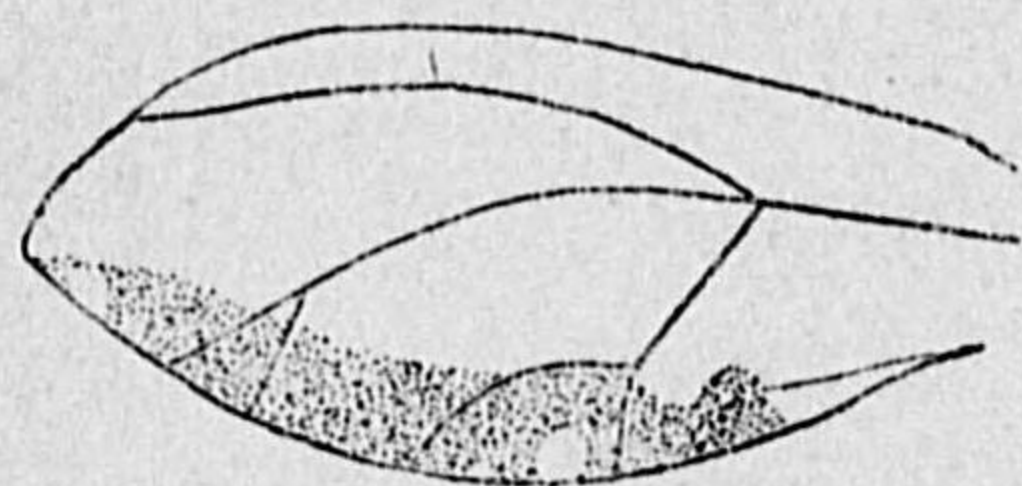


(13) クマヤナギトガリキジラミ *Trizoa berchemiae* SHINJI

原記述 *Trizoa berchemiae* SHIN., 昆虫世界 XLII 卷, 496 号, p. 2 (1938).

體長 2.9 耗内外, 前肢長 3.2 耗内外であるが, 概して早季に羽化するものは大きい。一般の體色は黄金黄色。僅かに翅の後縁近くに黒色の波状帯があるのみで體全體は黄色であるが, 老熟せるものにおいて複眼並に觸角の末端部なる 2 節もまた黒色である。

第 45 圖  
クマヤナギトガリキジラミの前翅



頭部は胸部よりも幅小く, 頭頂は寧ろ扁平にして長さは幅の半よりも大, 額錐は圓く終り, 微細なる毛を密生してゐる。觸角は 10 節より成り, 第一, 第二の兩節を除けば頭部の兩複眼間と約同長, 第一, 第二の兩節は共に他の節の數倍大の直徑を有し, 長幅約同大, 第九—第十の兩節は黒色にして第十節の末端よりは 2 個の剛毛が生じてゐる。複眼は半球形にして濃赤色乃至黒色味を帯びてゐる。

胸部は著しく隆起し, 黄色にして前胸背は短い。肢脚は短大にして寧ろ頭丈, 爪は 2 個にして黒色, 後肢の脛節端近くには 4 個の黒色なる距刺を具へてゐる。翅は準透明にして翅脈は黄色, 準葉状にして末端は光り, 長さは幅の 3 倍半以上ある。徑・中・肘の 3 脈は翅基よりも全翅長の約 4 分の 3 域に於ける 1 點より同時に生じ, 肘脈柄は缺如してゐる。翅頂より内縁に沿うて 1 條の黒色波状體があり, 他種との區別をするのに便利である。

雌蟲の生殖瓣は上瓣が下瓣よりも遙かに大, 兩瓣の末端は黒色を帯びてゐる。雄蟲のものは短小にして腹部の末端節と約同大である。腹部の背板は著しく隆起し, 各環節の接觸部は濃黄色である。

## 蟲 瘻

本種はクマヤナギ *Berchemia racemosa* SIEB. et ZUCC. の新芽に産卵し, 幼蟲は葉表に 1 種の蟲瘻を形成する。蟲瘻は葉脈間の部分が葉表へ半球形にして扁平なる囊狀體をなして突出したるものにして直徑 4 耗内外, 高さ 3 耗内外, 表面は平滑にして多くは紅色又は帶黄綠色を呈してゐる。蟲瘻形成の當初に於ては幼蟲は蟲囊の裂口の口縁に棲息するが, 長ずるに従つて蟲囊内に棲むに至る。幼蟲は孵化後約 4 週間を経て, 6 月 20 日前後に羽化して成蟲となる。年 1 回の發生をなし, 従つて 7 月以降に至れば本種の成蟲を得られなくなるものである。

(14) クロトガリキジラミ *Trizoa nigra* KUWAYAMA

原記述 *Calophya nigra* KUWAYAMA. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., II, p. 160 (1907).

體は黒色, 頭部は黒色。複眼は黒色にして大, 額錐は末端が尖つてゐる。觸



第 46 圖  
クロトガリキジラミの前翅

角は短くして僅かに胸部と約同長, 全長に互り黒色にして第一第二の兩節を除けば各節は圓筒状にして幅よりも長い。前翅は準透明にして脈は黄色, 翅端は尖つてゐる。腹部は全體としては黒色にして各節端は帶状に黄色である。雌蟲生殖器の上位瓣は下位瓣よりも長く, 末端は尖つてゐる。北海道より九州に互り分布してゐるが, 個體の發生數は割合に少い。

(15) ウコギトガリキジラミ *Trizoa ukogi* SHINJI

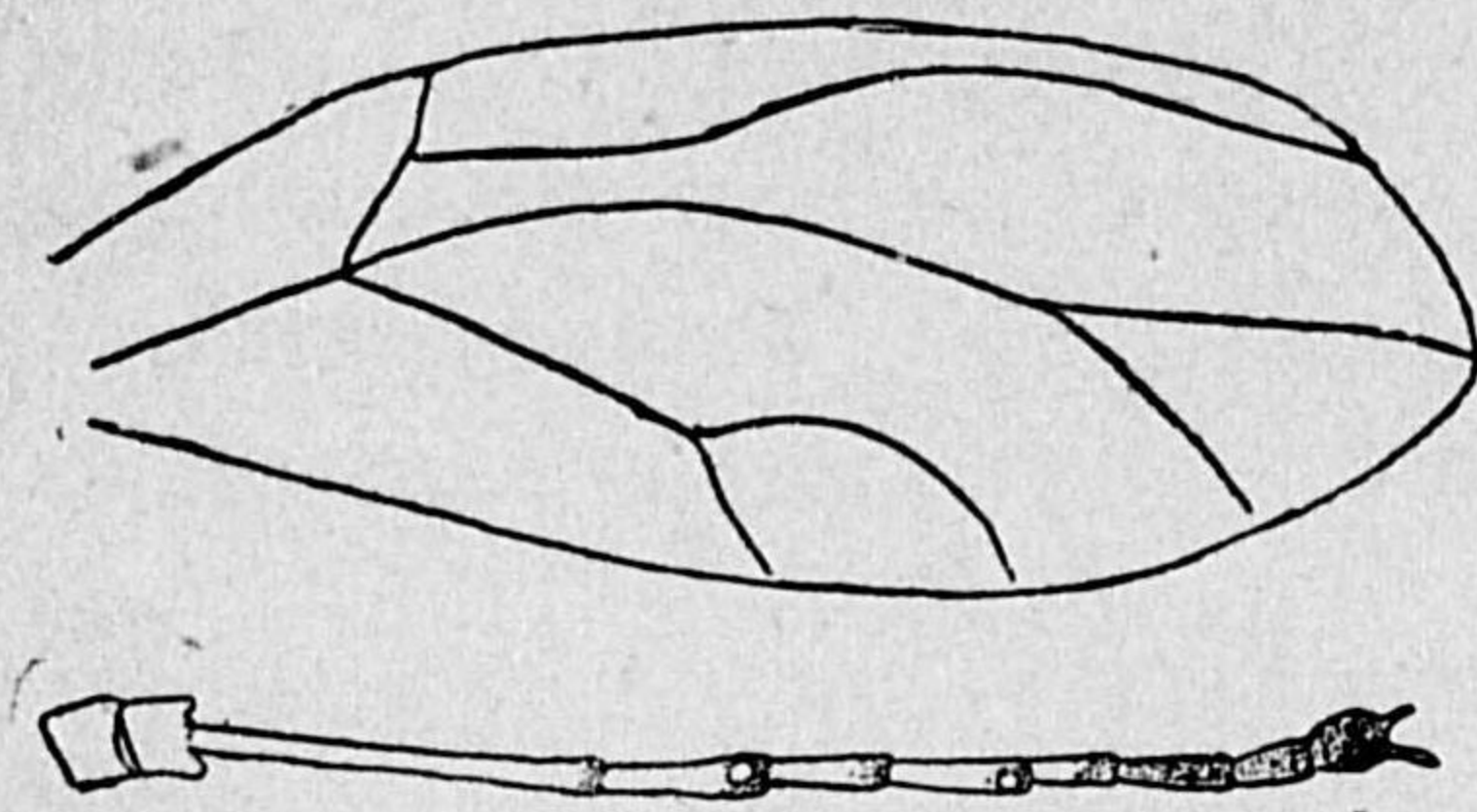
原記述 *Trizoa ukogi* SHIN., 昆虫世界 XLIV 卷, 511 号, p.2(194).



## (雌 蟲)

體は寧ろ大形にして、地色は黄樺色である。頭部は黒色部を有せず、複眼

第 47 圖  
ウコギトガリキジラミ  
(上) 前 翅 (下) 觸 角



は淡汚褐色。額錐は顯著なれども末端は尖らず、觸角は頭、胸兩部の和よりも短く、10節より成り、第一第二の兩節と第一乃至第五節の大部分とは黄色、他部は黒色、第三節は最長片にして第四、第五、第六の3節の和と約同長、第九、第十の兩節は第一第二兩節と約同長にして且つ膨大し、第五節は第四節の約半長である。翅は前後兩對ともに透明、脈は黄褐、翅長は翅幅の約4倍、翅端は尖つてゐる。徑中肘(合同)脈は中脈柄の2分の1、第一中脈は第二中脈よりも長く、中脈柄は第二中脈の約2倍長、徑脈柄は第一徑脈の約2倍長、第二徑脈は波状を呈し、翅頂に達せず、柄部の約6倍長。肘脈柄は第二肘脈の約3倍長、第一肘脈は第二中脈の約2倍長にして甚しく上(前)方へ彎曲してゐる。2肘脈間と二中脈間とは各1條づゝ點線より成る斑紋が翅縁近くにあり、また、前後兩翅の臀脈と翅縁との間域は黒色に霞んでゐる。肢脚は寧ろ短小にして概して黄色。距毛は黒色である。腹部は黄樺色の地色上に背面には黒色の横走帯がある。雄蟲の相握器は黄色にして角質、上(背)瓣は下瓣よりも幾分長い。

體長 3.5 耗 前翅長 4.5 耗。

## 蟲癭及生活史

本種はウコギ *Acanthopanax spinosum* D. et B. の葉柄の基部に大形の蟲癭を形成し、其内にありて生長する。蟲癭は苞狀乃至長紡錘形にして兩端が

は淡汚褐色。額錐は顯著なれども末端は尖らず、觸角は頭、胸兩部の和よりも短く、10節より成り、第一第二の兩節と第一乃至第五節の大部分とは黄色、他部は黒色、第三節は最

細く、中部が膨大してゐる。長徑10耗内外、短徑4耗内外。表面は綠色にして平滑、壁は厚さ約1耗、内部は1乃至3室に隔離され、各室は1幼蟲を容れてゐる。幼蟲は綠色にして扁平蒼白色の綿絮物を分泌する。蟲癭は6月中旬頃までには殆んど成長し終るものなれども、幼蟲は生長遅々として進まず、10月20日頃より成長し終りて蟲癭の中央部を裂開して外部に出て羽化して成蟲となり、次で交尾後に雌蟲は芽蕾の基部に産卵するものと、離脱落下する蟲癭内に幼蟲の有様にて越年し、翌年4月下旬—5月に羽化し出る個體とがある。

標型地 岩手縣盛岡市外浅岸村、東京都府中町。

宿主植物 ウコギ

(16) クハキジラミ *Anomoneura mori* SCHWARZ

體は黄色にして寧ろ大形の部に屬し、雌の體長は4耗内外、前翅長 4.5 耗内外を測る。複眼は黒色。觸角は10節より成り、第四~第八節の末端部と第九、第十兩節とは黒く、残域と残節とは黄色である。胸腹兩部は概して黄色なれども若干の灰白色體が認められる。肢脚は黄色。前翅は準透明にして諸脈は黄色、徑分脈は單1ならずして前方に3—4枝を生じてゐる。翅端附近並に中央部には黒色に霞んだ部分がある。幼蟲の生殖器は先端が尖り、上位瓣は下位瓣と約同長若しくは幾分より長い。桑の葉裏に寄生して白色の長い綿絮物を分泌してゐる。嫩葉に寄生する場合に限り葉の卷縮を誘致する。全國的の分布をなしてゐる。

(17) タカトウダイキジラミ *Trizoa Euphobiae* SHIN.

原記述 昆蟲第46卷、2號、2頁。(1942)。

(雌蟲) 體は中形、寧ろ扁平にして淡綠色乃至淡黄色地に黒色の斑帯を具へてゐる。頭部は淡黄色にして黒色部を有せず、額錐は甚だ短く且つ末端は



圓く終つてゐ、黄色である。複眼は顯著にして濃赤色、殆んど黒色に近い。單眼は複眼とは明瞭に分離し、赤色である。觸角は頭胸兩部の和よりは著しく短く、10節よりなり、第八節の後半部以後第十節の末端に至る部域は黒色にして覆瓦状を呈し、殘餘の節と部域とは體と同色の淡黄色である。第一節は幅よりも長さが劣り、第二節は長幅約同大にして幅は第一節の幅の約2倍大、第三節は最長片にして第四・第五・第六節の和と約同大、第四節は第六節と約同長、第五節は第四節の約2分の1長、第七節は第八～第六兩節の何れよりも短い、第九節又は第五節よりも半分長く、第十節は第九節よりも幾分長くして末端には黒色の2剛毛を生じてゐる。胸部特に背板は黄色にして楯、後楯板は甚だ長く、各楯板は黒色縁を以て堺してゐる。肢は寧ろ短大にして淡黄色であるが第二跗節と爪とは黒色、脛節は脛節よりも幾分短く、後脛節端には黒色なる剛毛が3個稀には4個生じてゐ、褥は爪よりも幾分長くして淡黄色である。前翅はトガリキジラミ形ではあるが、末端は甚しく尖らない。翅長は翅幅の約3倍大、脈は黄色、徑中肘の3脈は同じ點に於て分れ、徑脈枝より生ずる徑脈は途中に於て少しく前方へ曲りて後に翅端前に於て前縁脈に合し、中脈枝は分離後殆んど直ちに上方へ彎入して後に翅端に達し、之れより生ずる第二中脈は外縁に於て且つ徑脈が前縁に交ると同じ距離に於て交つてゐ、第一肘脈は第二肘脈と第二中脈との中間を走つてゐる。後翅に於ては肘脈板は脛中脈の分離前に分離し、中・徑兩脈は翅頂の上・下兩縁に於ける等距離の點に於て翅縁に出會つてゐる。腹部の地色は淡黄色であるが、第一乃至第七腹環節の背、腹兩板は黒く第七以後の諸節は淡綠色である。雌蟲の尾端なる兩瓣は共に淡綠色にして上瓣が下瓣よりも幾分長い。成蟲の出現期は11月5日前後である。

(蟲癭) 本種は東京附近に於てはタカトウダイの地上莖に産卵し、此の部に生ずる側枝5—7個に幼蟲が寄生する時は芽は變形して殆んど叢出葉塊

をなし、幼蟲は各捲縮葉間に白色扁平の蟲體をなして寄生し、晩秋の候に成蟲化する。

(18) クリトガリキジラミ *Trizoa quercicola* SHIN n. sp.

體は小形にして淡綠色乃至淡黄色。頭部は胸部よりも幅小く、複眼は薄黒い。額錐は額と約同長程に長大にして長圓錐形、末端より約3分の1位の所が縊れてゐる。全長に互り淡綠色にして多數の長毛を生じてゐる。觸角は胸部よりも長く、7—9節より成り、第一第二の兩節は長幅約同大にして淡綠色、第三節—第七若しくは第九節は黒色にして絲状である。第三節は第四節の約2倍大、第四節は第五節よりも長く、第五節は最短片、第六節、第七節及び第八節は第三節と約等長、第九、第十の兩節は約等長にして共に第八節の約半長である。

胸部は隆起甚しからず、全長に互り淡綠色乃至淡黄色。肢脚は寧ろ短大、爪は2個にして黒褐色、後肢の脛節近くには3個の黒色なる距刺を具へてゐる。翅は準透明にして翅脈は黄色、準葉状にして翅端は尖り、長さは幅の約3倍長ある。徑・中・肘の3脈は翅基より全翅長の約4分の1域に於ける1點より同時に生じ、肘脈は全長の2分の1長を過ぎて1枝を生じ、中、肘兩脈間と肘脈兩枝間との翅縁部には點線部がある。雌蟲の生殖瓣は上瓣が下瓣よりも長い。體長雌蟲2.4耗、雄蟲2.2耗、翅長3耗、觸角長1耗。

標形地 東京都下府中町

蟲癭及生活史 本種はコナラ・クヌギ及びクリの葉裏に囊状の蟲癭を形成し其の囊状蟲癭の入口部に寄生する。蟲癭は葉裏に開口し、此の部の長徑は4耗内外、短徑2.5耗内外、深さ3—4耗、葉表方面に突出し、葉表部の色は黄色なれども、先端の尖れる部分は褐色である。第1回の幼蟲は6月10日頃に現はれ、これが7月20日前後に成蟲となり、第二世代の幼蟲は8月10日



前後に現はれ、成蟲は 10 月 20 日前後に現はれる。]

### 介殼蟲科 COCCIDAE

肢脚の跗節は 1 節より成り末端には 1 爪をつけ、觸角は連鎖状にして 6—25 節よりなる。雌蟲は終生無翅にして、多くは幼蟲期にのみ移動し、成蟲となれば固着生活をなすが、産卵期に入るまで移動し得る類もある。後者は所謂裸介殼類 *Unarmed scales* であり、前者は有殼介殼類 *Armed scales* であつて、自體より分泌する角質様物質と脱皮とより成る 1 種の介殼にて覆はれてゐる類である。共に雌蟲は無翅、雄蟲は小形にして且つ 2 回の蛹期を経て後に有翅の成蟲となる。雄蟲の前翅には翅脈少く、後翅は退化して平均棍と化し飛翔の用をなさない。本科にはサンノゼカヒガラのように果樹の大害蟲が多數あるが、蟲癭昆蟲としては下記 3 種が主なるものである。

#### 堅介殼蟲亞科 SUBFAMILY LECANIINAE

幼蟲及雌蟲の腹部の臀板部には深い罅隙がありまた之に接して 1 對の準キチン質の三角板がある。肢脚は多くのものに存し、下唇は 1 環節より成つてゐる。皆概して大形である。

#### 綿介殼蟲屬 Genus Pulvinaria

雌蟲は充分生育して産卵期に入れば腹端より白色綿絮様の蠟質物を分泌して所謂卵囊を形成し、其の内に産卵する。卵囊は體の 1 部を覆ふ事あるも全體を被覆する事はない。

##### (1) クハノワタカヒガラムシ *Pulvinaria kuwanae* KUWANA

體は楕圓形にして扁平、桑樹の皮面竝に葉裏に寄生し、嫩葉は爲めに捲縮する。體の地色は淡黄色、卵囊は白色にして體よりも長く、背面に凹線が縦走してゐる。觸角は 8 節より成り、第三節は最長片、第四節は之に亞ぐ長片、第二節は幾分短い。第七節は最短片で末端近くに若干の長毛を生じてゐる。肢は 3 對共顯著にして約同大、跗節は脛節の約 1/2 長、體側の縊込は浅く、3 個の刺毛を生じてゐる。三角板は小さく、底邊と外邊とは約同長にして頂點には數本の剛毛を生じてゐる。

體長 7 耗内外、卵囊長約 10 耗。

分布 本州に普通の種である。

嫩葉のみが捲縮して蟲癭をなす。

#### カヒガラモドキ屬 Genus Phenacoccus

體は楕圓形にして觸角は 9 節より成り、6 肢は顯著、肛門輪には 6 個の剛毛が生じてゐる。産卵期に入る前には體に白粉を着けてゐる。卵子は白色綿絮物よりなり卵囊内に産せられ、産卵後の體は萎縮して僅かに卵囊の前端に残る 1 小部分のみ囊外に顯はれるに至るものである。

##### (2) オホワタカヒガラモドキ *Phenacoccus pergandeia* COCQUEREL

體は楕圓形にして扁平、腹部の環節は判然してゐる。概して紫褐色にして、産卵を終りたる個體にありては體は僅かに卵囊の前端のみを現し、他は卵囊にて被包されてゐる。卵囊は甚だ長くして體の約 10 倍長である。觸角は 9 節より成り、第三節は最長片、第二節が之に次ぎ、第八節が最短である。之を觸角式で表はせば 3, 2 (1, 4, 5, 6, 9), 7, 8 となる。脚は判然し、爪は内縁に鋸齒を有し、冠球毛は 2 對ありて跗節の末端より生ずるものは細長く、爪の基部にあるものは短大である。肛門輪には 6 個の剛毛を



具へ、腹部の末端は2瓣を成し、1個の長毛と若干の剛毛とを生じてゐる。

本種は「クハ」「カキ」「イチヂク」「トネリコ」「マルメロ」「リンゴ」「ナナカマド」等に寄生するが、葉を捲縮せしめて蟲癭を形成するは「クハ」「ナナカマド」「トネリコ」等の嫩葉の場合に於てである。

### 瘧 蟲 科 PHYLLOXERIDAE

卵生にして幼蟲を産せず、觸角は短くして5節より成り、第五節の中央にのみ有翅蟲の場合には大形の感覺板を1個具へてゐる。翅は準透明にして前翅の中・肘兩脈は同所より生じてゐる。静止の時は翅は水平に保持される。有翅雌蟲は口具の針狀體を缺いてゐる。

#### (1) ブドウコブムシ *Phylloxera vastatrix* PLANCHEON

ブドウ *Vitis vinifera* LINNÉ の細根に寄生し、寄生甚だしき時はブドウ蔓の枯死を致す恐る可き害蟲である。

有翅雌蟲の體は幾分赤色を帯びたる黄色である。複眼は赤色、觸角は5節より成り、第一、第二の兩節は約等大にして共に長幅約同大、第三—第五の3節は幅よりも長く、第五節の中央部が窪みて大形なる感覺板をなしてゐる。翅は準透明にして脈は黄色。前翅の中・肘兩脈は同所より生じてゐる。肢脚は黄色である。體長1耗内外、翅の長さ2耗内外。

無翅雌蟲の體は黄色にして卵狀である。

#### (2) クヌギコブムシ *Phylloxera kunugi* SHIN.

*Phylloxera kunugi* SHIN., 昆蟲世界第46卷(1942)

(有翅雌蟲) 體は中形にして黄金色乃至蜜柑色なれども紅色乃至紅色を帯びてゐる個體は無い。頭頂は概して圓く終つてゐ且つ1對の小さい瘧狀體を

具へ、これより各1個の短毛が生じてゐる。頭部全體としては木炭黒色。複眼は顯著にして黒色、單眼の周縁も黒色である。觸角は4節より成り、全長に亘りて黒色、各節は無毛である。第一節は幅よりも短く、第二節は長幅約同長、第三節は細き柄部を以て第二節と關節し、柄部は約3個の輪狀體より成つてゐる。第三節の幹部は幅の約2倍長、柄部の幅の約3倍太く、1個の橢圓形なる感覺板を具へ、其の裏面には2條の縦走溝と4—5條の細き線狀體とを具へてゐる。第四節もまた柄部を有し、此の部は約8個の輪狀體より成り、幅の約3倍長である。幹部は幅の約6倍長にして、殆んど全長に亘る大形橢圓形の感覺板を1個具へ、裏面には約2個の縦走溝がある。鞭狀部は疣狀に小さい。

前胸部は暗褐色にして網狀を呈し、中・後の兩胸部は黒色である。肢は短く、全長に亘り概して黒色であるが、腿節は全長乃至基半部が黄色なる例がある。翅は長大にして薄黒味を帯び、幅の約2倍半、體の約2倍長である。準透明にして脈は薄黒い。縁脈は太く、亞縁脈は前縁の約中部に達し、徑脈は顯著であるが、縁脈と亞縁脈とで圍まれたる部分が黄褐色を呈して居るを以て翅斑は此の部と同様の觀を呈してゐる。中脈は單一にして分枝せず、基部を缺いてゐる。肘脈の基部また缺けてゐる、臀脈は全長に亘り明瞭である。後翅は準三角形にして比較的短小、縁・亞縁兩脈間は薄黒くして翅斑の如き觀を呈する。中・肘兩脈は缺如してゐる。腹部は黄金色乃至橙色にして背面には黒色の斑紋を缺いてゐる。産卵管は準圓筒狀にして黄金色、末端に近く縊れ、幅の約2倍長である。

體長 1.65 耗, 體幅 0.8 耗, 前翅長 2.7 耗, 翅幅 1.1 耗。

觸角各節の比較長は第二節 5, 第三節 7, 第四節 12。

### 瘧 蟲 科 CHERMESIDAE



卵生にして幼蟲を産する事なく、觸角は短くして5節より成り、第三—第五節上には大形圓狀の感覺板が1個ある。前翅の第三脈は單一にして分支する事なく、中・肘の兩斜脈は基部に於て相分離して生じてゐる。静止の時は翅は屋斜狀に保たれ、體には角狀管も尾片も無い。

(1) トウヒタマムシ *Chermes japonicus* MONZEN

「トウヒ」*Picea jezoensis* CARR. var. *hondoensis* MAKINO の梢端に準球果狀蟲癭を形成する種である。蟲癭は長徑 20 耗内外、短徑 15 耗内外にして帶黄綠色。マツカサの如くに側面へ鱗狀瓣を出し、其末端は針狀であり、各瓣の内側に小孔があつて、茲より毬蟲が羽化し出る。

有翅胎生雌蟲

體は卵狀にして顯著なる毛を生ぜず。頭部は黒色。觸角は5節より成り、全長に互り黒色にして、第二節は第一節より長く、第三節は第二節よりは長く、第四節とは同長、第五節よりは短い。第三・第四・第五の3節上には各1個の大形感覺器がある。胸部は黒色、翅は準透明にして翅斑は長く、黄褐色、脈は黄色。前翅の中脈は單一、後翅には肘脈が缺如してゐる。肢は短く、腿・脛兩節の基部は綠色、殘部は褐色である。體長2耗内外。

アブラムシ(蚜蟲)科 FAMILY APHIDIDAE

本科のものは温帶地方即ち我が北海道・朝鮮・滿洲及び本州・四國・九州の内地に於ては4月より10月10日頃までの間は雄蟲の生ずる事なくして、雌蟲は單爲的に、しかも幼蟲を産する類であつて、觸角は3—6節より成り、之れの第三節特に有翅個體のものには圓形、橢圓形乃至輪環狀の感覺板が2個以上備はり、翅は2雙あつて、前翅には概して3條の斜脈(中・肘・臀)があり、腹部の1側には各1個の角狀管と云ふ蚜蟲獨特の器管を具へてゐる。

アブラムシ(蚜蟲)亞科 SUBFAMILY APHIDINAE

葉面及び樹皮面に自在生活を営むか、葉を卷縮して開口蟲癭を形成すれども眞の閉鎖蟲癭を形成する事はない。蠟腺はハアブラ屬とワタフキハアブラ屬以外に之を具へるものが無い。觸角は概して體の半長以上、感覺器は準圓狀楕圓狀であるが溝狀若しくは輪狀なることが無い。前翅の中脈は1、2例を除き、3枝に分れ、後翅には概して中・肘の兩脈があり、角狀管の形狀竝に大小は著しく異れども、之を全く缺如する族屬はない。

ムレアブラ(群蚜)族 TRIBE THELAXINI

體は剛毛を生じ、觸角は長毛を生じ、卵狀又は半圓形の感覺器を具へ、尾片は半圓形若しくは瘤狀を呈してゐる。雌雄の兩個體は小形、無翅にして口吻を具へてゐる。

ミツアブラ(蜜蚜)屬 Genus *Glyphina* KOCH.

體は剛毛を粗生し、頭部は1縱走皺襞によりて左右に劃せられ、觸角は5節より成りて細毛を生じ、感覺器は卵狀若しくは準圓狀である。翅は準透明にして、前翅の中脈は2枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は突出したる輪狀體にして、尾片は瘤狀でなく、幾分丸く終つてゐる。

(1) サハグルミミツアブラ (P. 116) *Glyphina onigurumi* SHINJI

*Anoecia onigurumi* SHINJI, Jour. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. XXXV, p. 304 (1923).

*Kurisakia juglandicola* TAKAHASHI, Philippine Journ. Sc., vol. XXIV, p. 715, (1924).



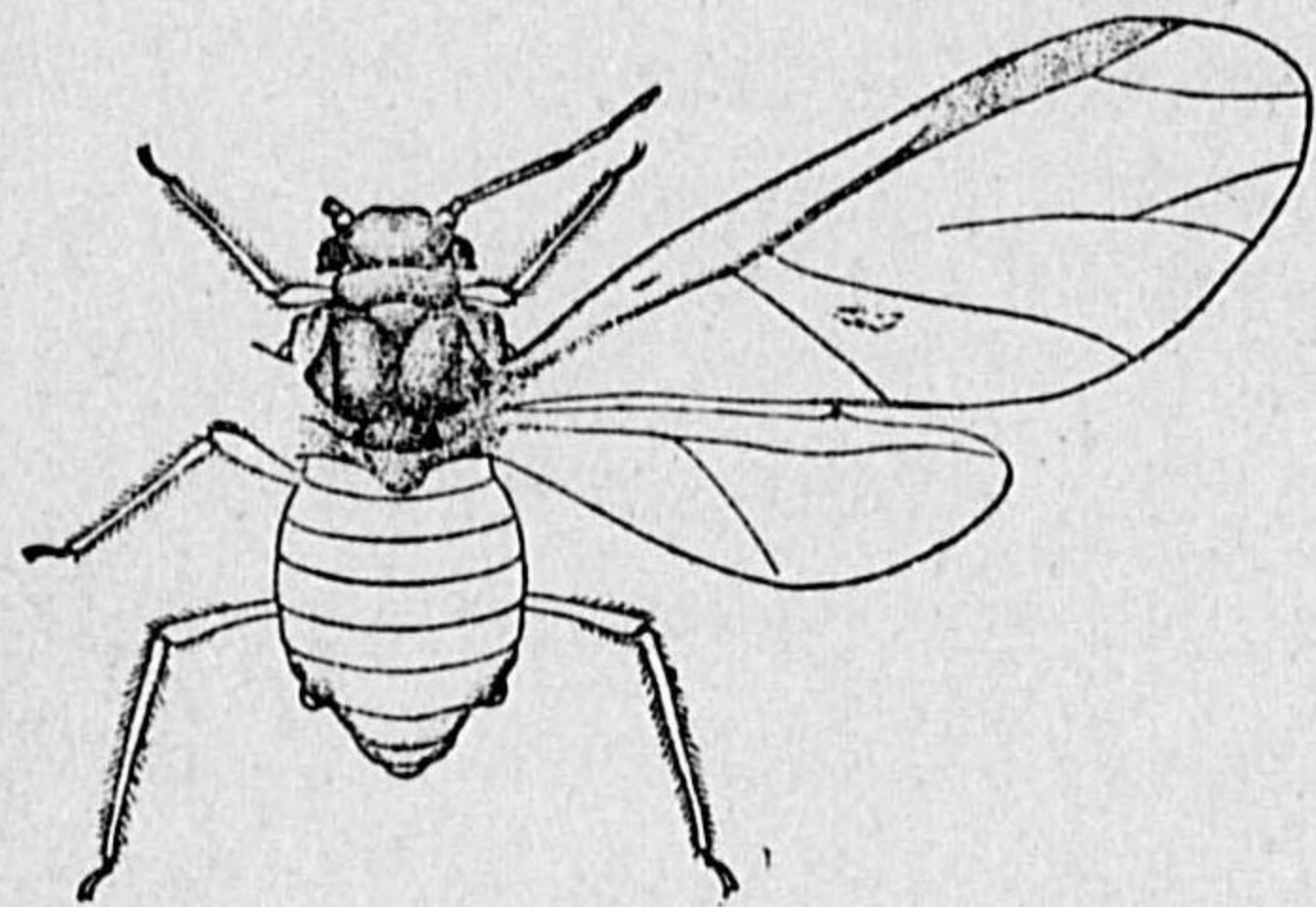
*Glyphina onigurumi* SHINJI, Journ. Zool., vol. XXXVI, p. 344 (1924).

*Glyphina pterocaryae* MO: ZEN, 盛岡高農同窓會學術彙報第四卷, p. 18 (1927).

*Glyphina onigurumi* SHIN. 日本蚜蟲總說, p. 285 (1941).

無翅胎生雌蟲

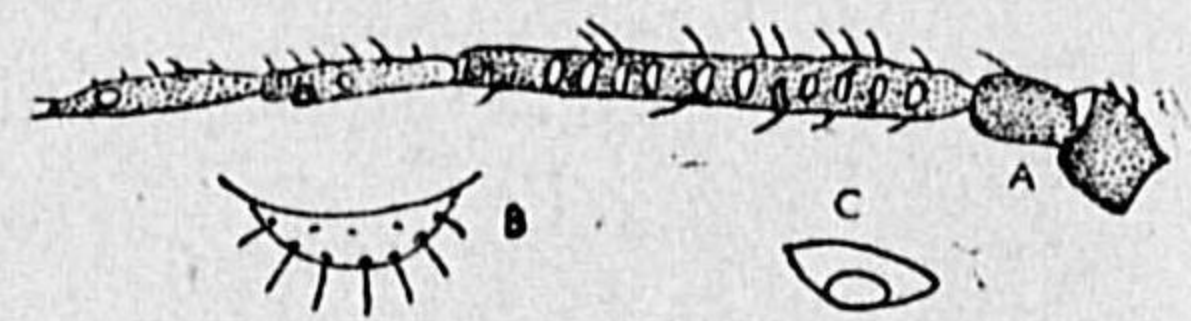
本種は春季にはサハグルミ *Pterocarya* sp. の葉裏に寄生して其の複葉を  
第 48 圖 サハグルミミツアブラの有翅胎生雌蟲



卷縮するが、(三世代のものは皆有翅蟲となる。夏季には葉面に極めて微小なる白色透明な無翅胎生の雌蟲のみを産する。本種はもと「オニグルミ」の葉上に発見せる數個體によつて命名した所であるが、後に該樹の上層に繁茂する「サハグルミ」が本種の眞の宿主なる事が知れた。

有翅胎生雌蟲

體は綠色地に黑色部を具へてゐる。頭部は若干の毛を生じ、兩複眼間の幅は頭長と約同長である。口吻は中肢の基節窩に達し、概して黑色。觸角は體の約半長で5節より成り、若干の剛毛を生じ、第一節は第二節よりも幅に於て優り長きで於て劣つてゐる。第二節は幅よりも長く、第三節は最長片で第四、第五兩節の和と同長に乃至14個の半圓形感覺器を具へ、之等の直徑の大なるものは節の直徑と相同じい。第四第五の兩節は約同長、第五節



第 49 圖 サハグルミミツアブラの有翅胎生雌蟲の A 觸角 B 尾片 C 角狀管

の鞭狀部は基部の約 1/3 の長さである。翅は準透明で前翅の中脈は 2 枝をなすのみ。腹部の背面には黑色の斑紋がある。角狀管は準圓錐狀の突起上にある小孔に過ぎない。角狀管と尾片とは圓く終り、黑色である。

マダラアブラ(斑蚜)族 TRIBE CALLIPTERINI

形態の 1 様ならざる類であるが、角狀管は普通截斷形であり、然らざる例では尾片が瘤狀にして尾板が 2 葉を成してゐるか、若しくは觸角が顯著に有毛である。一般に體及び觸角は黒緑の斑を成してゐる。雄蟲はミヅギワ亞族にては無翅、其他の亞族にては有翅、産卵性雌蟲は葉蚜亞族にては有翅、其他の亞族にては無翅である。

ハアブラ(葉蚜)屬 Genus Phyllaphis KOCH

觸角は 6 節より成り、第二節は異常に長い。翅は準透明にして、前翅の中脈は 2 枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は低き圓錐體基上に位し、低き輪狀體を成してゐる。尾片は瘤狀である。尾板は 2 葉を成してゐる。

(2) ブナハアブラ (P. 120) *Phyllaphis fagi* LINNE.

原記述 *Aphis fagi* LINNÉ, Syst. Nat., II, p. 735 (1767).

異名記述 *Lachnus fagi* BURMEISTER, Handbuch Entom., II (1839).

*Phyllaphis fagi* KOCH, Die Pflanzenläuse p. 248 (1856).

*Phyllaphis fagi* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog., 1. p. 44 (1929).

*Phyllaphis fagifoliae* TAKAHASHI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., VII, p. 194 (1919).

*Phyllaphis fagi* 進士, 日本蚜蟲總說, p. 290 (1941).

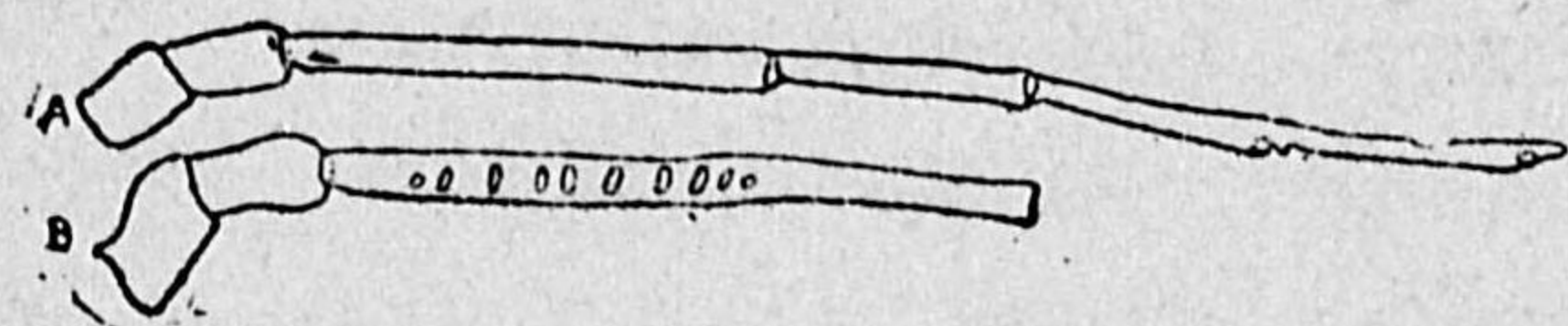
本種は春夏の候にはブナ *Fagus sylvatica* L. var *sieboldi* MAXIM. の枝



端なる嫩葉裏に寄生し、寄生された葉身は全體として斜に卷縮し且つ幾分肥厚し、此偽蟲癭からは白色綿絮絲が突出して異觀を呈する。秋季には老葉にも寄生する。夏季宿主なるもの無く、10月下旬に樹面へ産せられる冬卵は翌春孵化して葉裏に移り、爾後同一植物上に於て10月上旬まで蕃殖し、其頃有翅雄蟲と無翅産卵性雌蟲とが現はれて産卵する。

有翅胎生雌蟲

體は卵狀で長く淡黄色。頭部は少しく薄黒く額瘤は顯著でない。觸角は體



第50圖 フナハアブラの觸角  
A 無翅胎生雌蟲  
B 有翅胎生雌蟲 1-3節

よりも僅かに長く、6節より成り、第四節の基部は體と同色、残部は黑色を帯

びてゐる。第三節は最長片で約10個の準橢圓狀乃至半月狀の感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長く、第六節の輪狀部は基部よりも短小である。胸部は薄黒く、肢は概して薄黒いが脛節は淡綠色である。翅は準透明で、前翅の中脈は3枝を成し、後翅には肘中の兩脈がある。腹部の背面には黑色の斑紋が無い。角狀管は輪狀。尾片は瘤狀で尾端から突出する。體長2.5耗。觸角長2.2耗。

(3) コナラハアブラ (P. 120) *Phyllaphis konarae* SHINJI.

原記述 *Phloeomyzus konarae* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. XXXVI no. 431, p. 369 (1924).

副記述 *Phyllaphis konarae* SHINJI, Kontyu (Insect) vol. VII, no. 4, p. 155 (1933).

*Phyllaphis konarae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 295 (1941).

本種はコナラ、クヌギ及びカシハの葉裏乃至葉表に寄生し、葉を卷縮せしめ、其内にありて生活し、普通には尾端より長き綿絮物を分泌してゐる。第二觸角節が著しく長いのがハアブラ屬に共通な特徴である。

無翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして顯著な毛を缺き、淡黄乃至帶赤淡黄色にして白色の綿様分泌物で覆はれてゐる。頭部は黑色を呈せず、複眼は赤色、觸角は6節より成り、體の約半長。第五、第六の兩節は幾分薄黒く、殘餘の諸節は淡綠色である。第一節は第二節よりも幅廣く、第三節は鞭狀部を含む第六節に亞ぐ長片で第四、第五兩節の和よりも長い。第四節は第五節よりも短く、第三節と第六節とは約同長、第六節の鞭狀部は基部の約3分の1長に過ぎない。胸部には黑色部無く、腹部は背面に黑色の斑紋を缺き多數の蠟腺を具へてゐる。角狀管は輪狀で薄黒く、尾片は圓く、薄黒い。

ケアブラ(毛蚜)亞族 SUBTRIBE CHAITOPHORINA

體は長毛乃至準剛毛を生じ、腹部特に角狀管の基部なる第七環節附近が幅大である。觸角は6節より成り長毛乃至準剛毛を多數に生じてゐる。翅は準透明にして、前翅の中脈は2枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準截斷形、尾片は瘤狀若しくは圓形である。

ケアブラ(毛蚜)屬 Genus *Chaitophorus* KOCH.

體は長毛を粗生し、觸角には長毛乃至剛毛粗生し、角狀管は截斷形にして網狀を呈し、尾片は瘤狀にして顯著且若干の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終りて有毛、前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。

夏季に有鋸の異態個體を生ずる事無き點は本種と次記二態毛蚜屬とを區別するに必要な特徴である。



(4) ヤマナラシケアブラ *Chaitophorus yamanarashi* SHINJI原記述 *Chaitophorus yamanarashi* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 418(1941).

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で長い剛毛を生じ, 地色は淡綠色であるが, 體背には多數の黒色斑紋を具へてゐる爲に黒色觀を呈してゐる。頭部は黒色。複眼及び眼瘤は赤色で顯著, 口吻は後肢の基部に達し, 末端のみ黒色, 殘部は綠色である。觸角は6節より成つて體よりも短く, 第一・第五・第六の3節は黒色, 他は綠色, 第三節は5—6個の長毛を生じ, 第四第五兩節の和と殆んど同長であり, 第四節と第五節とは等長, 第六節の鞭狀部は基部の約2倍半長である。

胸腹兩部ともに背面は黒色。肢脚には長毛生じ, 跗節と爪とは黒く, 殘部は綠色である。角狀管は截斷形にして跗節よりも短く, 黒色である。尾片は瘤狀にして淡綠色である。

宿主植物 ヤマナラシ。

標型地 岩手縣盛岡市。

## ニタイケアブラ(ニ態毛蚜)屬

Genus *Periphyllus* VAN DER HOEVEN

體は長毛を生じ, 觸角は6節より成り若干の長毛を生じ, 圓狀の感覺器を具へてゐる。角狀管は準截斷形にして網狀を呈し, 尾片は瘤狀にして有毛である。

夏季には小形の變形種を生ずる點に於て本屬は同族中の他屬とは異つてゐる。

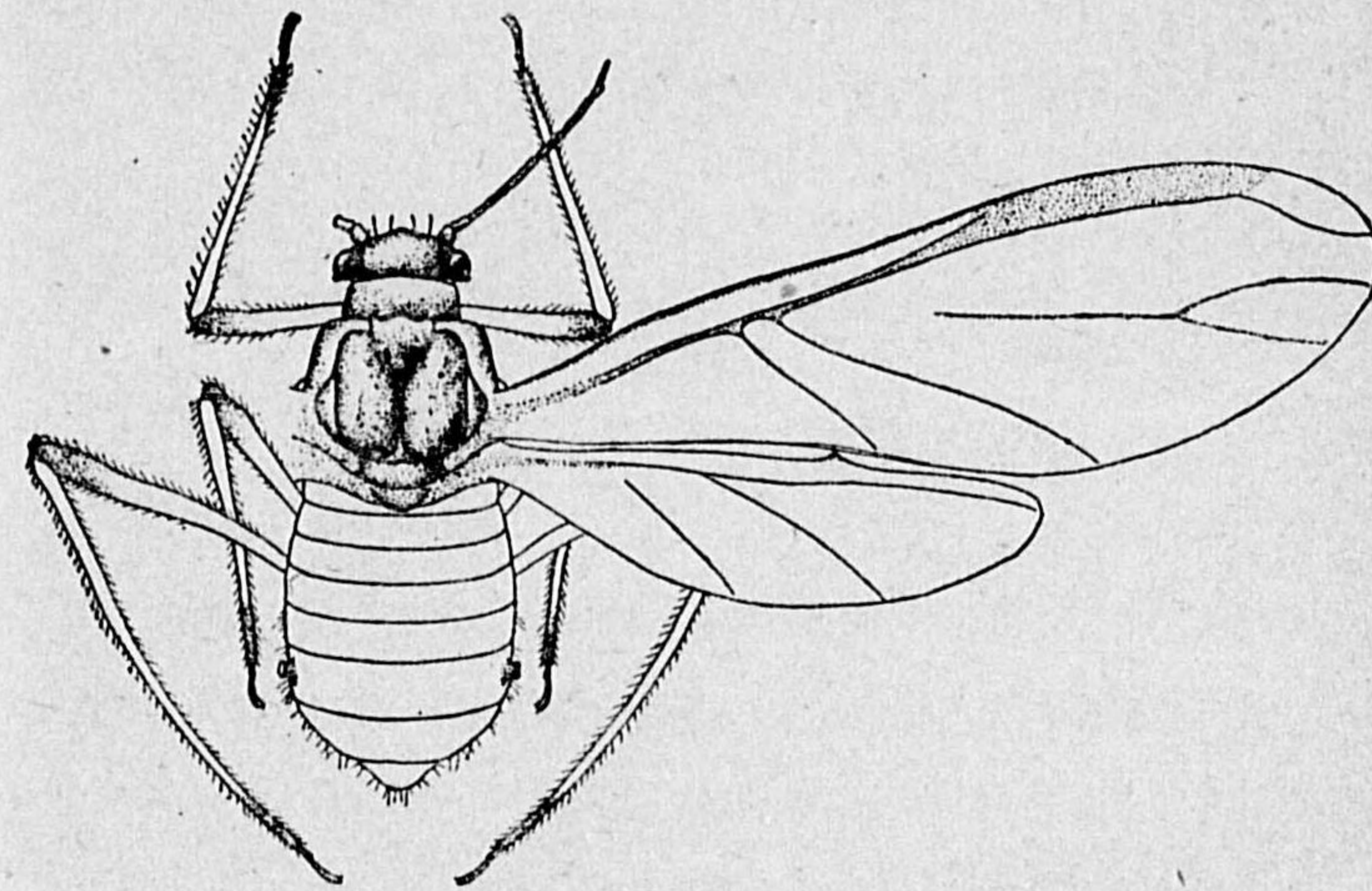
## (5) モクゲンヂニタイケアブラ(P. 139)

*Periphyllus koelreuteriae* TAKAHASHI.原記述 *Periphyllus koelreuteriae* TAKAHASHI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), no. 371, p. 227 (1919).副記述 *Periphyllus koelreuteriae* SHINJI, Bull. no. XI, Morioka Coll. Agri. et Forestry, p. 47 (1927).*Periphyllus koelreuteriae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 426 (1941).

「モクゲンヂ」*Koelreuteria paniculata* MAX. の葉裏に寄生し, 老熟せる葉は奇態を呈しないが, 幼葉は甚しく卷縮する。盛に蜜を分泌し, 其爲に黒黴の發生夥しく, 宿主植物は累年萎縮状態を示し, 終には全く枯死するに至るものがある。

無翅胎生雌蟲

大形卵狀にして體の地色は綠色である。額瘤は顯著ならず, 口吻は中肢に達し, 末端のみ黒色, 殘部は體と同色である。複眼は顯著にして赤色。觸角



第51圖 モクゲンヂニタイケアブラの有翅胎生雌蟲

は6節より成り體よりも遙かに短い。各節は剛毛を生じ, 第三節の基部は綠色殘部は黒色を呈してゐる。第三節は最長片にして23個内外の剛毛を生



じ、第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭状部は基部の2倍長である。胸腹兩部の背面には黒色の斑紋列がある。肢脚は概して黒色。角状管は準截斷形にして黒色。尾片は瘤状、尾板は圓く終り、共に黒色である。

#### 有翅胎生雌蟲

體は大形にして多數の長毛を生じ、地色は綠色にして、背・側・腹の各面に黒色の大班紋を具へ、其爲に體全體としては黒色を呈する。頭部は黒色、複眼は赤色。觸角は6節より成りて、體と約同長、第三節の全部の綠色なるを除けば全長に亘り黒色。第三節は最長片にして25個内外の剛毛と34個内外の感覺器とを具へ、第四節は第五節よりも長くして14個の長毛を生じ、第六節の鞭状部は基部の約2倍半長である。胸部は黒色。翅は準透明にして前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は背面に黒色の斑紋を具へてゐる。角状管は準截斷形にして、網状を呈し、黒色である。尾片は瘤状にして體と同色、約3對の剛毛を生じ、尾板は圓く終り、黒色である。體長3.6mm内外、前翅長3.6mm。

#### アブラ(蚜)族 TRIBE APHIDINI

無翅胎生雌蟲と有翅胎生雌蟲との兩個體が生じ、觸角は2, 3屬の例外を除き一般に6節より成り、其の第六節の鞭状部は基部の2倍以上に長い。感覺器は圓状にして節の直徑の半以上のものは無い。翅は3, 4屬以外の屬に於ては中脈が2回分れて3枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。角状管は微小なるものより長大なるものもあり、形狀大小一定でないが、必ず具つてゐる、尾片また長短を異にするが、必ず具つてゐる。

#### アブラ(蚜)亞族 SUBTRIBE APHIDINA

頭部は幅が長さよりも大、額窩を缺いてゐる。觸角は6節より成りて體よ

りも幾分短く、第六節の鞭状部は基部の2倍半以上長く、感覺器は準圓状である。前翅の中脈は概して3枝に分れ、後翅には概して中・肘の兩脈がある。角状管は一般に準圓筒状であるが甚だ短いものもある。尾片は準圓錐状で、概して中部が縊れ、後半部には3—4對の剛毛がある。尾板は圓く終つてゐる。

#### ヲマルアブラ(尾圓蚜)屬 Genus Anuraphis Del GUERCIO.

體は中形にして體側乳嘴状突起は顯著である。額窩は顯著ならず、觸角は6節より成りて體よりも短く、全長に亘り覆瓦状を呈し、第六節の鞭状部は長く、第三第五兩節上の感覺器は準圓状である。前翅の中脈は2回分れて3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の角状管は準圓筒状にして割合に短く、覆瓦状を呈し、末端は鏢状である。尾片は短く廣くして卒如として圓錐状となつてゐる。尾板は圓く終り若干の毛を生じてゐる。

#### (6) カヒサイクヲマルアブラ

##### Anuraphis helichrysi KALTENBACH

原記述 *Aphis helichrysi* KALT. Mon. p. 102 (1843).

異名記述 *Brachycandus helichrysi* VAN. DER GOOT, Beitr. kenutn. Holland Blatl., p. 256 (1915).

*Aphis pruni* KOCH, Die Pflanz., p. 68 (1857).

*Brachycaudus pruni* DAS, Men. Ind. Mus, VI, p. 222 (1918).

#### 有翅胎生雌蟲

頭胸兩部は黒色、腹部は綠色にして背面には黒色乃至暗褐色の中央斑紋と2—3對の側縁斑紋とを具へてゐる、複眼は濃赤色にして同色の眼窩を伴ひ



單眼3個の周縁は赤色である。口吻は中肢の基節窩を越して伸び概して緑色であるが末端近くは黒色。觸角は6節より成り全長に互つて薄黒乃至黒色にして體と約同長、第三節は鞭狀部を含む第六節と約同長にして29—35個の感覺孔を有し、第四節は第五節よりも遙かに長くして2—17個の圓狀感覺器を具へ、第五節は第六節の基部よりも幾分短くして後生感覺器を缺き原生感覺器1個を具へ、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。

胸部は黒色。翅は準透明にして脈は薄色く、前翅の中脈は2回分枝して3枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。肢は概して緑色であるが、腿・脛兩節の末端に近き部分と附節と爪とは黒色である。腹部は綠色にして背面には中央に1大黒褐色の斑紋を有する外に背側部にも2—3對の黒色斑紋がある。尾片は稍扁平、末端は圓く終り、多數の毛を生じてゐる。角狀管は準圓筒狀にして短く、第五觸角節と約同長にして基部は綠色、後半部は黒色である。

體長 1.5 耗。

#### 無翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形にして綠色乃至淡黃色。複眼は褐色。觸角は6節より成り體の約3分の1長にして各節の末端部は黒く、殘餘の部分は綠色である。第三節は第四節よりは長いが第六節よりは短く、第四節は第五節よりも幾分長く、第五節は第六節の基部と約同長、鞭狀部は基部の約2倍長である。角狀管は準圓筒狀なれども基部に於て幅大、基部は綠色、末端は薄黒い。尾片は圓く終り綠色である。

體長 1.6—2 耗

附記 本種の觸角第三第四兩節上の感覺板の數は宿主別個體に於て著しく異り、爲めに多數の同種異名を有してゐる。

#### (7) コ、ホヲマルアブラ (P. 151) *Anuraphis kochi* SCHOUTEDEN.

原記述 *Aphis pyri* KOCH, Pflanzenläuse. p. 60 (1857).

改稱記述 *Aphis kochi*, SHOUTEDEN, Ann. Soc. Ent. Belg. XLVII, p. 185 (1906).

*Anuraphis kochi* THEOBALD, Plant Lice Brit. vol. II. p. 227 (1927); SHINJI, Journ. Applied Zool., vol. IV, no. 3, p. 2 (1932); 進士日本蚜蟲總説, p. 476 (1941).

本種は春秋の兩季には梨、夏季にはヨモギ(蓬) *Artemisia vulgaris* L. var. *indica* MAXIM. の地下莖に寄生する。蓬の根莖に寄生する場合には宿主の奇態を誘致しないが、春季ナシ(梨) *Pirus sinensis* LINDL. の嫩葉裏に寄生する時には葉は葉表を外面として2重に折れ重なり且つ肥厚し内に昆蟲を藏するに至るものである。

#### 有翅胎生雌蟲

體は長卵狀で細毛を生じ、地色は黄樺色(地下に寄生するものは黄色)である。頭部薄黒し。複眼は朱赤色、觸角は6節より成り、體と約同長、第一第二の兩節は薄黒く、第三乃至第六節は黒色である。第三節は前腿節よりも長くして90乃至100個の突出性感覺器を不規則に具へ、第四節は第五節よりも長くして40—60個の感覺器を有し、第五節に20—40個の感覺器がある。第六節の鞭狀部は基部の約3倍長である。胸部は黒色。翅は準透明で脈は薄黒く、前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の斑紋がある。角狀管は短小で末端は基部に於ける幅の2分の1長さは幅の1倍半。全長に互つて黒色である。尾片は黒く且短小である。

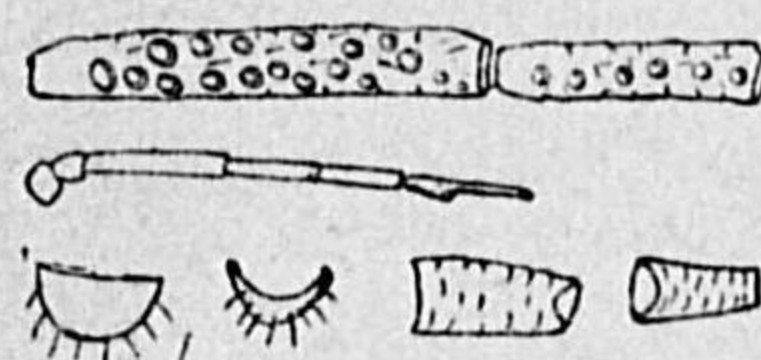
#### (8) ナシキイロヲマルアブラ(新稱) *Anuraphis nishii* SHINJI, new sp.



## 有翅胎生雌蟲

頭部は黒色、複眼は濃赤色にして顯著、單眼3個の周縁も濃赤色である。觸角は體よりも短く、6節より成りて黒色、第三節は第四節の約2倍長、第四節は第五節よりも幾分短く、第五節は第六節の基部の約3倍、第六節の基部は割合に短小にして鞭状部は第4節と約同長である。感覺板の数は第三節では約24、第四節では約6個である。

第52圖  
ナシキイロヲナシアブラの有翅胎生雌蟲の第三、第四觸角節(上)と無翅胎生雌蟲の觸角(中)と無翅(下左)、有翅(下右)の尾片及び角狀管



胸部は良く發達し、概して黒色なれ共脱皮直後のものにおいて黄色乃至薄黒色である事勿論である。肢脚は腿節の基半部と脛節の中部とは黄色、其他の部分と爪とは黒褐色である。翅は準透明にして脈は黒褐色、前翅の中脈は2回分枝して3枝をなし、第三枝は第二枝の約中程から分岐してゐる。後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は肥厚し、稍々平く、背面には各節上に中央及び兩側縁に黒色の斑帯がある。角狀管は準管状にして基部に於ける幅の約2倍長ある。尾片竝に尾板は共に圓く終り、黒色である。

附記 著者はもと本種を農事試験場から送つて頂いた時に *Anuraphis helichrysi* KALT. ならんと推定したが、今夏幾百頭もの標本を、しかも自分の教室續きの場所から得るに及び、再検討の結果、本種は全く異なるものである事を識り、こゝに新種として發表する事にした。六一七月頃梨の葉に寄生して葉を捲縮せしめる。

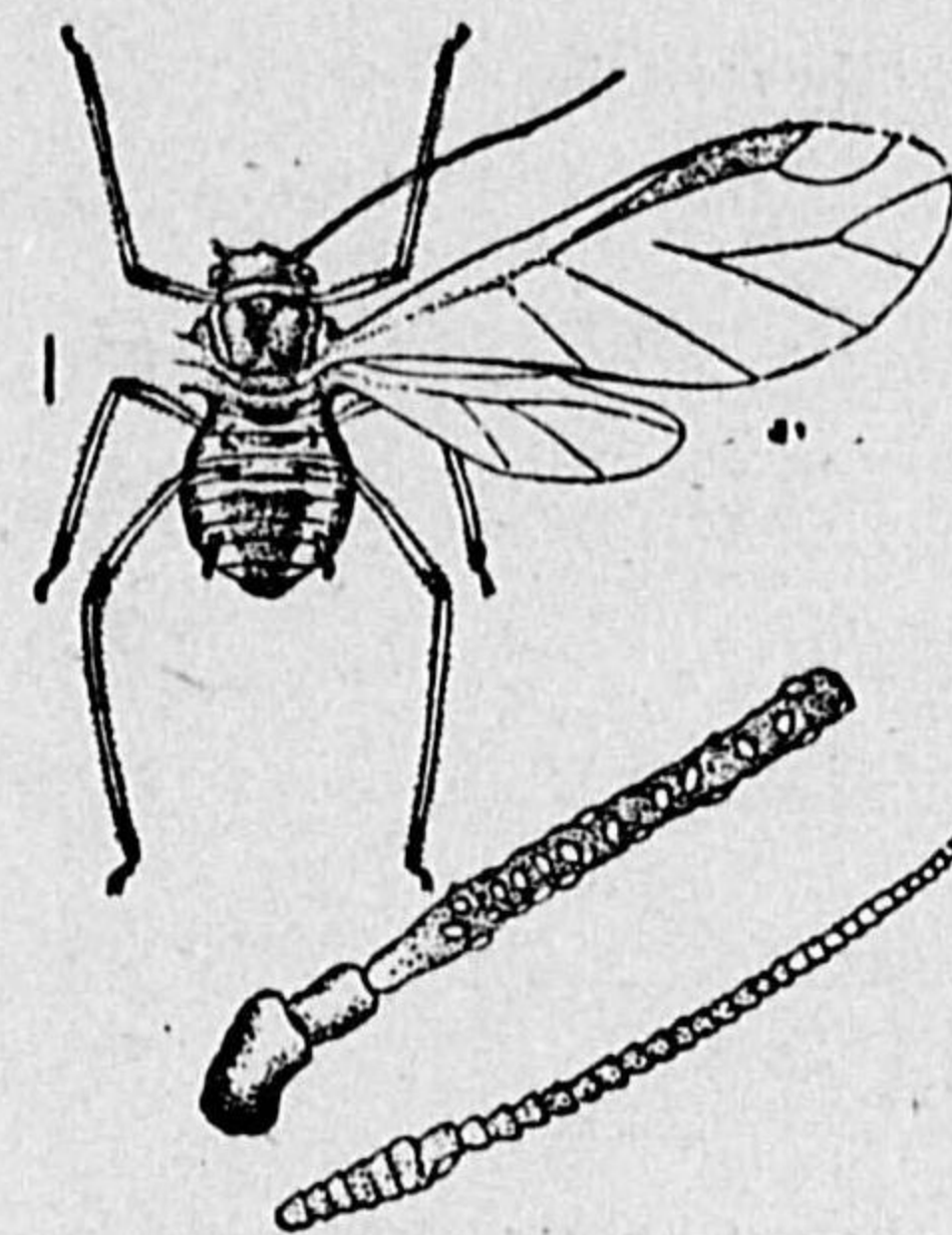
(9) ナシヨマルアブラ *Anuraphis piricola* OKAMOTO et TAKAHASHI

原記載 *Sappaphis piri* MATSUMURA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., VII, p. 18 (1918).

副記載 *Anuraphis piricola* OKAMOTO and TAKAHASHI, Insecta Matsumura, 1, p. 139 (1927); Hori, Hokkaido Agr. Expt. St. Rept. no. 33, p. 149 (1929). 進士, 日本蚜蟲總説, p. 480 (1941).

臺灣を除き本邦全土に分布し、夏季には中間宿主なる「ヨモギ」 *Artemisia*

第53圖  
ナシヨマルアブラの有翅胎生雌蟲(上)と觸角(下)



*vulgaris* L. var. *indica* MAX. の根莖に寄生すれども蟲瘻を形成せず。晩秋の候に至れば「ヨモギ」の主莖に沿うて地中より羽化し出る有翅の胎生雌蟲は梨の葉裏に移住し行きて蕃殖し、雌蟲は雄蟲と交尾後に卵子を梨樹の芽蕾の基部に産し、之等の所謂冬卵は翌春孵化して梨の嫩葉に寄生し、茲に前種に見られる如き蟲瘻が形成せられる。蟲瘻は普通葉縁が中筋方向へ折り重なり且つ同時に肥厚したものである。

## 無翅胎生雌蟲

體は卵状にして地色は緑・黄・赤等一定でない。頭部は黒色ならず、複眼は濃赤色。觸角は6節より成り、體の約半長。第三節は最長片にして第六節は之に次ぐ長片である。角狀管は短小にして、覆瓦状を呈し、黒色。尾片は短小。尾板は黒色である。體長2. 耗内外。

## 有翅胎生雌蟲

體は楕圓に近く、地色は無翅胎生雌蟲に於ける場合と同じく一樣でない。頭部は薄黒く、額瘤は顯著でない。口吻は中肢を過ぎて伸び、後半部は薄黒く、基半部は淡黄色である。觸角は6節より成り、短大にして體よりも短く、全長に亘りて薄黒く、多數の短毛を生じ、第三節は最長片にして30個内外



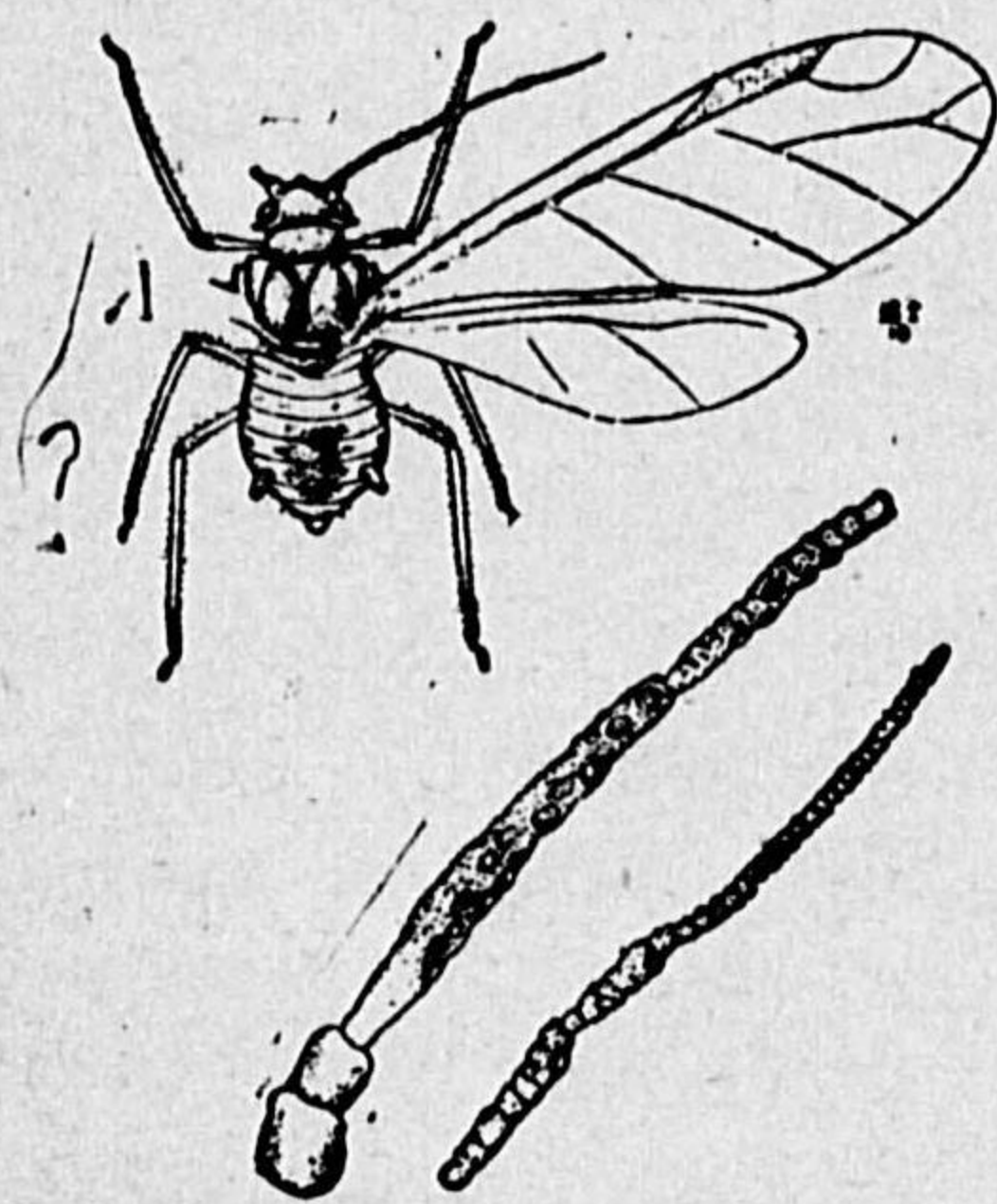
の圓狀感覺器を不整齊に具へ、第四節は第五節よりも短くして4—9個の感覺器を有し、第五節は第六節の基部の2倍長あつて、0—2個の感覺器を具へ、第六節の鞭狀部は基部の約1倍半長である。胸部は黒色、肢脚は腿脛兩節の基部は體と同色、殘部は黒色を帯びてゐる。腹部には各環節の背板上に黒色の横走帯がある。角狀管は短くして、長さは幅の約3倍長、覆瓦状を呈し、黒色である。尾片は短小にして4—5對の長毛を生じ、體と同色である。體長 1.6—1.8 耗。前翅長 2.6 耗。

(10) **アンスラマルアブラ** (P. 151) *Anuraphis pruni* SHINJI

原記述 *Aphis Pruni* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi) vol. XXXIV, no. 407, p. 798 (1922).

異名記述 *Anuraphis mumecola* SHINJI, Lausania, Tokyo, vol. II, no. 20, p. 156 (1930).

第 54 圖  
アンスラマルアブラ  
有翅胎生雌蟲(上)と觸角(下)



杏及梅の生長端附近の嫩葉に寄生し、寄生された葉は葉の中軸筋とは直角方向に捲かれ且收縮する。北海道・本州・四國・九州に分布して居る。

有翅胎生雌蟲

地色は綠色又は帶黃綠色。體側乳嘴突起體は顯著で綠色である。頭部は薄黒く、複眼は濃赤色である。觸角は體よりも短く、6節より成り、全長に互り黒色である。第三節は第六節の鞭狀部と約同長で20—30個の

感覺器を不規則に具へ、第四節は第五節よりも長くして8乃至12個の感覺器を具へ、第五節には常規の感覺器1個あり、第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。

胸部は黒色。肢脚は殆んど全長に互つて黒色である。翅は準透明で脈と翅斑とは黒色味を帯びた褐色。前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の1大斑紋塊がある。角狀管は準圓筒狀で長さは基部に於ける幅の約3倍大である。基部は末端よりも幅大に、全長に互つて黒色である。尾片は小さく、圓く終り、若干の毛を生じ、中部は縊れ、黒色である。

アブラ(蚜)屬 Genus *Aphis*

體は中乃至小形、若干の體毛を生じてゐる。額瘤は顯著ならず、觸角は6節より成りて、第六節の鞭狀部は基部の數倍長あり、第三節並に第五節上の感覺器は圓狀。前肢の中脈は2回分枝して3枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。肢脚は普通形。角狀管は準圓筒狀にして基部は末端よりも幅大、全長に互り覆瓦状を呈してゐる。尾片は準圓錐形にして中部は幾分縊れ、後半部には3—5對の剛毛を生じ、尾板は圓く終り、若干の長毛を生じてゐる。

(11) **フキアブラ** (P. 153) *Aphis fukii* SHINJI

原記述 *Aphis fukii* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi) vol. XXXIV, no. 405, p. 795 (1922).

異名記述 *Aphis fukis* MONZEN, Monog. Saito Hō-on Kai Monog. no. I, p. 64 (1929).

本州・四國・九州に互り4月頃から10月にかけてフキ(落)の葉の裏面特に

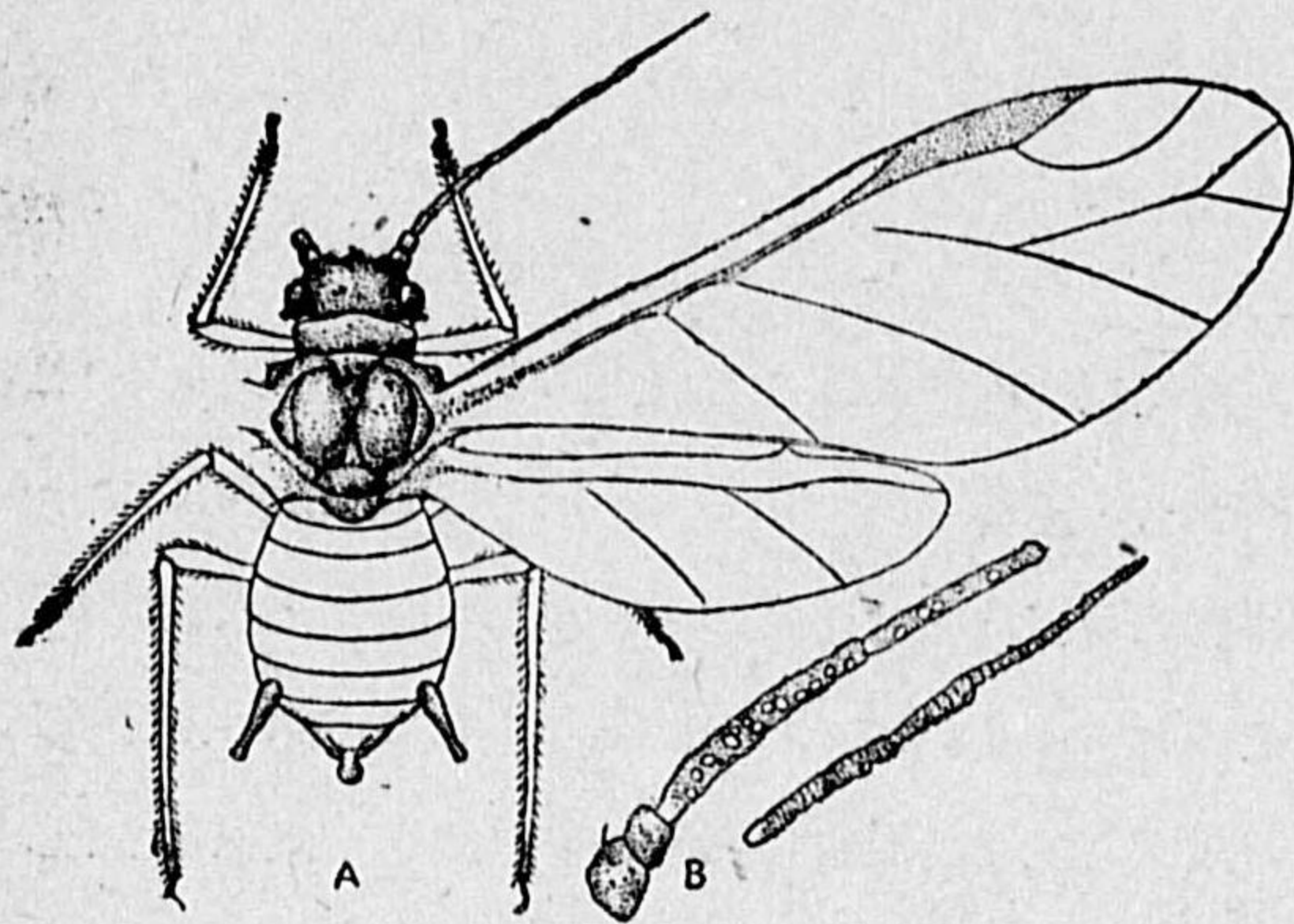


葉筋に沿って寄生する褐色の蚜蟲である。寄生せられた葉は葉裏を内側にし、四方から捲縮れ、葉の大小によつて直径4種から10種位の蟲癭を成すが、葉肉はあまり肥厚しない。盛岡地方では殆んどフキと云ふ落葉が嫩葉時代には蟲癭を形成するが、葉が成長するにつれて開舒して蟲癭状態は消失する。

#### 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で若干の毛を生じ濃褐色乃至濃煉瓦色である。頭部は薄黒又は黒色、額瘤は顯著でなく黒色である。口吻は後肢に達し黒色、眼は濃赤色である。觸角は6節より成り、第三節の全部と第四、第五兩節の基半部とは體と

第55圖  
フキアブラの有翅胎生雌蟲(上)と同觸角(下)



同色、残部は黒色である。第六節の鞭狀部は基部の約3倍長ある。胸部は薄黒色乃至黒色。腹部の背面には黒色の斑紋を缺いてゐる。

角狀管は尾片よりも長く準圓筒狀で覆瓦狀を呈し、尾片は準圓錐狀で中部が縊れ、約4對の長毛を生じ體と同色で、黒色でない。

#### 有翅胎生雌蟲

體は煉瓦褐色で體側乳嘴狀突起體は顯著である。頭部並に胸部は黒色。口吻は殆んど後肢に達し概して黒く。觸角は6節より成り全長に互つて黒色、第三節には15-17個、第四節には約12個、第五節には1個の感覺器があり、第六節の鞭狀部は基部の約3倍長ある。翅は準透明で脈は黒色を呈し脈

相は常規である。腹部の上面に黒色の斑紋がある。角狀管は準圓筒狀で覆瓦狀を呈し黒色である。

#### (12) ダイゾアブラ *Aphis glycines* MATSUMURA

原記述 *Aphis glycines* MATSUMURA, Journ. Coll. Agri. Tohoku Imp. Univ., vol. VII, pt. 6, p. 387 (1917).

副記述 *Aphis glycines* HORI, Hokkaido Agri. Expt. St., Rept. no. 23, p. 107 (1917); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 504 (1941).

本種の夏季宿主は大豆 *Glycine Soja* BENTH. で春秋宿主はキノコヅチ *Achyranthes bidentata* BL. var. *japonica* MIQ. である。10月下旬より11月上旬に互つてキノコヅチの根莖へ移住し來る無翅胎生雌蟲は産卵性雌蟲と雄蟲とを産し、次で根莖部へ産卵する。5月初旬には卵より孵化する無翅胎生雌蟲が現れ、之等は6月下旬乃至7月初旬には大豆の嫩葉に移住し其の裏面に寄生すると、葉は葉裏へ向つて横に捲縮する。有翅胎生雌蟲は10月上旬にはキノコヅチの莖へ轉住する。

#### 有翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形で黄金色乃至帶黄緑色である。頭部は黒く、複眼は濃赤色である。觸角は6節より成り全長に互つて黒色、第三乃至第六節は覆瓦狀を呈してゐる。第三節は第四節よりも長くして6乃至8個の圓狀感覺器を具へ、第四節には感覺器無く、第六節の鞭狀部は基部の約3倍長である。胸部は黒色。翅は準透明で脈と翅斑とは黒い。前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中肘の兩脈がある。腹部は黄金色で背面には黒色の斑紋が無い。角狀管は準圓筒狀で黒色。尾板は圓く終り、尾片は準圓錐狀で約3對の長毛を生じてゐる。



(13) **ワタアブラ** *Aphis gossypii* GLOVER

原記述 *Aphis gossypii* GLOVER, Rept. Comm. U. S. A. 1879, p. 36 (1877).

副記述 *Aphis gossypii* THEOBALD, Plant Lice Brit. vol. XX, p. 1419 (1927); HORI, Hokkaido Agri. Exp. St. Rept. 23, p. 109 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 510 (1941).

異名記述 *Aphis malvae* KOCH, Die Pflanzenläuse, p. 125 (1857); TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. I, p. 46 (1921).

*Aphis tectonae* v. d. GOOT, Contr. Fauna Indes Neerl. vol. I, no. III, p. 3 (1917).

*Aphis Shirakii* TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. I, p. 58 (1921).

*Aphis cleodendori* MATSUMURA, Journ. Coll. Agri. Sapporo, vol. VII, p. 385 (1917).

*Aphis colocasiae* MATSUMURA, loc. cit., p. 386 (1918).

*Aphis gossypii* GLOV. var. *callicarpae* TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. I, p. 46 (1921).

*Aphis vitifoliae* SHINJI, Journ. Zool., vol. XXXIV, p. 800 (1922).

*Aphis inugomae* SHINJI, loc. cit. p. 796 (1922).

*Aphis bryophyllae* SHINJI, loc. cit. p. 793 (1922).

*Toxoptera odorikonis* MATSUMURA, Jour. Coll. Agri. Sapporo, vol. VII, p. 387 (1917).

*Toxoptera leonuri* TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. I, p. 41 (1921).

我が國では茄子, 胡瓜, 西瓜, 里芋類等の害蟲であるのみならずムクゲ,

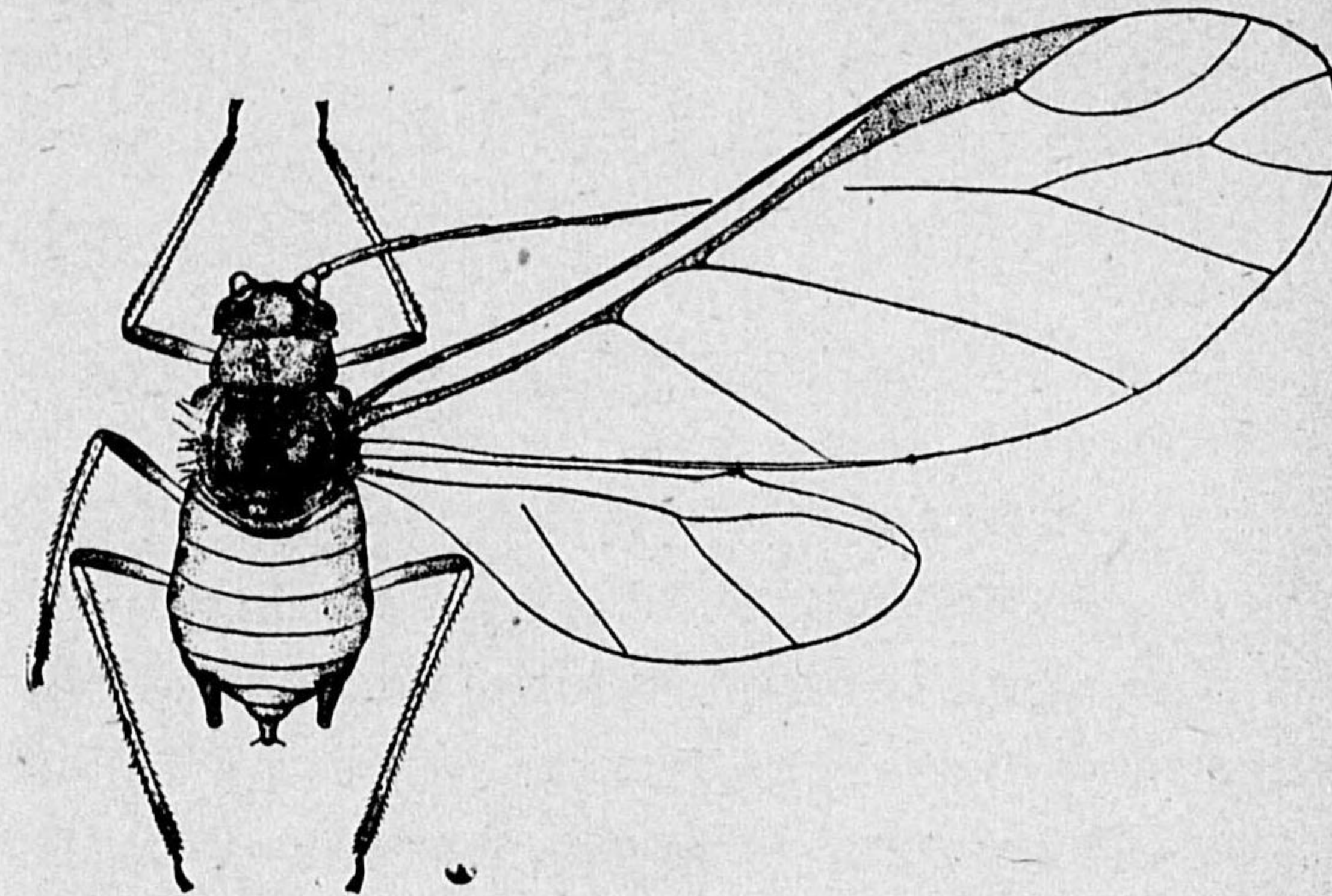
クサアオエ・アオギリ・キリ等多数の植物に寄生し, 滿洲國・支那・印度・米國等では棉の恐るべき害蟲であるが, 顯著な蟲癭は(1)クサギと(2)メハヂキ(3)とに營まれる。

## 無翅胎生雌蟲

淡綠色で殆んど灰色に近いものから綠色乃至帶青綠色である。頭部には顯著な額瘤無く, 觸角は6節より成り, 第四, 第五兩節の末端部と第六節の全長とは黑色を帯び, 残部と残節とは體と同色である。胸・腹兩部の背面には黑色の斑點乃至斑紋が無く, 角狀管は準圓筒狀で末端よりも基部が幅大である。全長に互り黑色を呈し且つ覆瓦狀である。尾片は準圓錐狀で約中部が縊れて居, 各側へ3個の長毛を生じてゐる。一般には黑色であるが, 殆んど黑色を帯びない個體もある。

## 有翅胎生雌蟲

體は概して淡綠色又は綠色であるが, 黄色を帯びる個體も稀で無い。複



第 56 圖 ワタアブラの有翅胎生雌蟲

眼は顯著で濃赤色, 口吻は中肢を過ぎて伸び後半部のみが黑色, 残部は淡綠



色である。觸角は6節より成り、全長に互り黒色を帯びてゐる。第三節は第四、第五の何れの節よりも長くして5-8個の圓狀感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長いが感覺器を缺き第五節には末端に近く1個の常規感覺器がある。鞭狀部は第六節の基部の約3倍長ある。翅脈は常規、腹部の背面には黒色の斑紋を缺いてゐる。角狀管は準圓筒狀で、全長に至り黒色である。

(14) イチゴアブラ *Aphis ichigo* SHINJI

原記述 *Aphis ichigo* SHIN., J. Z. (動物學雜誌) XXXIV, 405, p. 799 (1922).

副記述 *Aphis ichigo* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 517 (1941).

本種はクマイチゴ *Rubus sp.* の莖幹竝に葉裏に寄生する。嫩葉に寄生する場合には葉は充分に開舒し得ず捲縮し、捲縮したる葉は老熟したる後にも猶ほ捲縮状態を保つか、若しくは異常を呈するものである。本邦全土に分布してゐる。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして帶青綠色。乳嘴狀突起體は顯著で、頭部は黒色ならず、額瘤は顯著でない。複眼は濃赤色、口吻は辛じて後肢に達し、後半部は黒色を呈する。觸角は體よりも短くして覆瓦狀を呈し、第三節の基半部のみ綠色、残部は黒色である。胸・腹兩部は黒色ならず。肢脚は腿・脛兩節の基半部は綠色、残部は黒色である。角狀管は準圓筒狀にして後腿節と約同長、全長に互り黒色にして覆瓦狀を呈する。尾片は黒色にして約4對の剛毛を生じ、黒色。尾板は圓く終り黒色である。

有翅胎生雌蟲

體は長卵狀。地色は帶濃青綠色である。頭部は黒色にして額瘤を缺き、複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴つて居る。觸角は9節より成り、全長に互



第 57 圖  
イチゴアブラの有翅胎生雌蟲の  
A 觸角 B 角狀管 C 尾片

つて黒色にして且覆瓦狀を呈する。第三節は第四節に次ぐ長片にして4-5個の小圓狀感覺器を1列に具へ、第四節は第五節よりも幾分長い。胸部は黒色。肢脚は腿・脛兩節の基半部は綠色、残部は黒色である。翅は準透明にして、前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は背面に黒色の斑紋を缺いてゐる。角狀管は準圓筒狀にして、全長に互り覆瓦狀を呈し黒色である。尾片は圓く終り、約3對の剛毛を生じ、黒色。尾板は圓く終り黒色である。

(15) ケフチクタウアブラ *Aphis nerii* FONSCOLOMBE

原記述 *Aphis nerii* BOYER DE FONSCOLOMBE, Ann. Ent. France, X, p. 179 (1841).

副記述 *Aphis nerii* DAS, Mem. Ind. Mus. VI. p. 204 (1910); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 356 (1941).

本種は九州の鹿児島市附近にては「ケフチクタウ」に、東北盛岡市附近にては「ガガイモ」の莖幹竝に葉裏に寄生し、寄生された葉は旋捲された形態を呈するものである。世界的の分布をなしてゐる。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で美麗なる黄金色。體側乳嘴狀突起體は顯著である。頭部は黒色ならず、額瘤は顯著でない。複眼は濃赤色にして赤色の眼瘤を伴つてゐる。口吻は中肢を超して伸び、後半部は黒色、基本部は黄色である。觸角は6節より成り、體よりも甚だ短く、第三節の基半部は體と同色、残部は黒色。胸部は黒色を呈せず。肢脚は腿脛兩節の基半部は體と同色、残部は黒色である。腹部は黄色であるが、各角狀管の基部近くには1個宛の黒色なる斑紋を



具へてゐる。角状管は準圓筒状にして覆瓦状を呈し、黒色。尾片は準圓錐状にして、中部は縊れ、黒色を呈し、3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終り、黒色である。體長 1.8 耗内外。

#### 有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形で地色は黄金色。頭部は黒色、額瘤は之を缺いてゐる。複眼は濃赤色。口吻は後肢の基節に差し、全長に亘りて黒色。觸角は6節より成り、體よりも短く、黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片にして10—12個の小圓形感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして1—5個の感覺器を具へてゐる。胸部は黒色。肢脚は腿節の基部の黄色なるを除けば概して黒色。翅は準透明にして、前翅の中脈は3枝を爲し、後脈には中・肘の兩脈がある。腹部は黄金色なれども、各角状管の基部には各1個の黒色斑紋がある。角状管は準圓筒状にして覆瓦状を呈し、黒色。尾片は圓く終り、黒色である。

體長 1.9 耗 前翅長 3.60 耗 觸角長 1.6 耗。

#### (16) シソアブラ *Aphis perillae* SHINJI

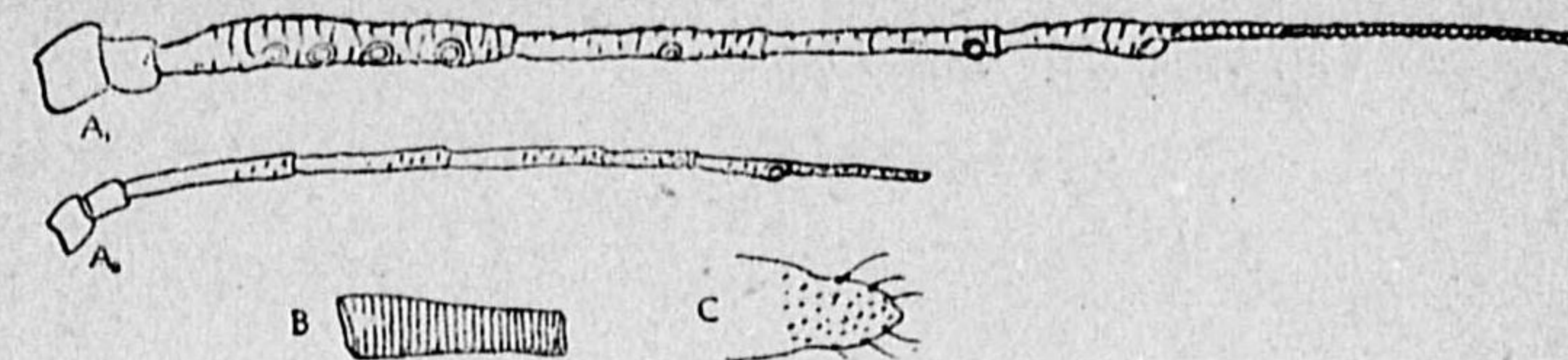
原記述 *Aphis perillae* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. 34, no. 405, p. 798 (1922).

副記述 *Aphis perillae* HORI, Hokkaido Agri. Expt. St. Rept. 23, p. 115 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 546 (1941).

5月から10月に亘つてシソ *Perilla nankinensis* DCNE, の葉裏に寄生する黄金色小形の蚜蟲である。寄生された幼葉は一般としては裏面を内にして捲縮するが、表面が内側を成す例が稀にある。葉の捲縮度は嫩葉の場合に於て甚しく、葉の成長につれて捲縮された部分が開いて行くものである。北海道・本州・四國・九州・朝鮮の各地に極めて普通である。

#### 無翅胎生雌蟲

體は卵状で美麗なる黄金色乃至帶黄淡綠色である。頭部は黒色を呈せず。



第 58 圖

シソアブラの有翅胎生雌蟲の觸角 A<sub>1</sub>, 角状管 B, 尾片 C 及び無翅胎生雌蟲の觸角 A<sub>2</sub>.

額瘤は顯著でない。觸角は6節より成り、第四節の末端より第六節の末端に至る部域は黒色で残部は淡黄色である。第三節は第四、第五の何れよりも長くして無感覺器、第四節は第五節よりも幾分長く、第五節には末端近くに常規の感覺孔が1個あり、第六節の鞭状部は基部の約3倍長である。胸腹部にも背面に黒色の斑紋を缺いてゐる。角状管は準圓筒状で全長に亘り覆瓦状を呈し黒色である。尾片は準圓錐状で中部が縊れ、約3對の長毛を生じ黒色である。

#### 有翅胎生雌蟲

體は小形で地色は帶黄淡綠色である。頭部は黒色、額瘤は顯著でない。口吻は中肢を過ぎて伸び、概して黒色。胸部は良く發育し且つ黒色である。翅は準透明で脈は黒色、脈相は常規で前翅の中脈は2回分れて3枝をなしてゐる。觸角は6節より成り全長に亘つて黒色である。第三節は4—6個の準圓状感覺器を具へてゐる。

#### (17) リンゴアブラ *Aphis pomi* DE GEER

原記述 *Aphis pomi* DE GEER, Mem. des Ins. III, p. 53 (1773).

副記述 *Aphis pomi* VAN DER GOOT, Kennntn. Holland. Blattl., p. 210 (1915); Hori, Hokkaido Agr. Expt. St. Rept.,



23, p. 117 (1927); 進士, 日本蚜蟲總說, p. 555.

異名記述 *Aphis kogomecola* MATSUMURA, Journ. Coll. Agr. Sapporo, VII, 6, p. 388 (1917).

*Aphis croomia* SHIN, Journ. Zool. XXXIV, p. 794 (1922).

*Aphis deutziae* SHIN, Journ. Zool. XXXIV, p. 794 (1922).

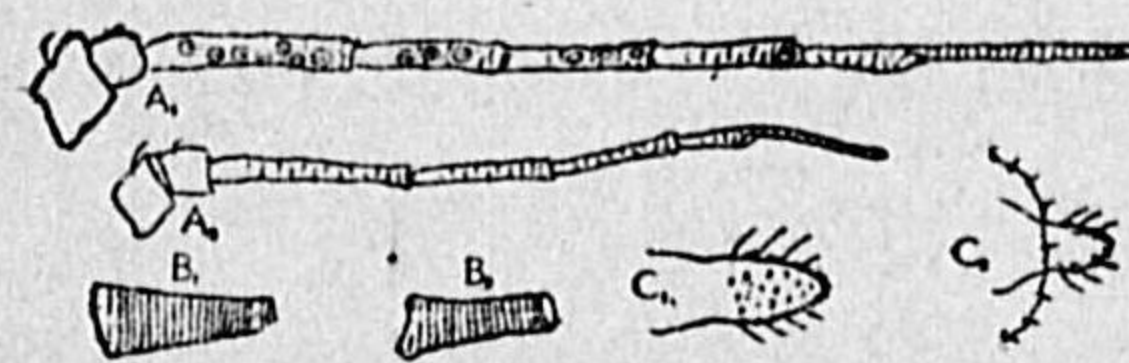
本種もまた前種同様世界各地に於て多数の樹木草本に寄生するが、顕著な蟲瘻はリンゴ、ナシ、マルメロ、ツルウメモドキ及びウツギに寄生した場合に造られる。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で帶黄綠色乃至黄金色、體側乳嘴狀突起體は顯著である。體背にも黒色の斑紋を缺き、角狀管は準圓筒狀で全長に亘り覆瓦狀を呈し且黒色である。尾片は準圓錐狀で中部が縊れ、黒色で約3對の長毛を生じてゐる。

有翅胎生雌蟲

體は綠色乃至帶黄淡綠色である。頭部は薄黒乃至黒色で、額瘤は顯著でない。口吻は中肢を過ぎ概して黒色である。觸角は6節より成り、全長に亘りて黒色を帯び、第三節は第四、第五の何れの節よりも長くして6—10個の



第59圖  
リンゴアブラの觸角A, 角狀管B, 尾片C, A<sub>1</sub>B<sub>1</sub>C<sub>1</sub> は有翅胎生雌蟲, A<sub>2</sub>B<sub>2</sub>C<sub>2</sub> は無翅胎生雌蟲

圓狀感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして1—4個の感覺孔を有し、第五節には常規の原生感覺器1個ある。第六節の鞭狀部は基部の約2倍長ある。

胸部は黒く、肢は脛節の中部のみが體と同色、殘部は黒色を帯びてゐる。翅脈は常規である。

腹部は背面に黒色の斑紋を缺いてゐる。角狀管は準圓筒狀で全長に亘り覆瓦狀を呈し且つ黒色である。尾片は準圓錐狀で中部が縊れ、全長に亘り黒色

で約3對の長毛を生じてゐる。

體毛 1.1 耗 前翅長 13 耗。

(18) ギンギシアブラ *Aphis rumicis* LINNÉ

原記述 *Aphis rumicis* LINNÉ, Syst. Nat. Ed. 10, vol. I, p. 451 (1758).

副記述 *Aphis rumicis* KOCH, Die Pflanzenläuse, pp. 50 and 122 (1857); BUCKTON, Monog. Brit. Aphid. vol. II, p. 87 (1877); 進士, 日本蚜蟲總說, p. 561 (1941).

異名記述 *Aphis atriplicis* FABRICIUS, Syst. Ent. p. 739 (1775).

*Aphis euonymi* FABRICIUS, loc. cit., p. 736 (1775).

*Aphis papaveris* FABRICIUS, Gene. Ins., p. 303 (1776).

*Aphis viciae* FABRICIUS, Spec. Ins., p. 390 (1731).

*Aphis thlaspeos* SCHRANK, Fn. Boica, vol. II, p. 118 (1801).

*Aphis armata* HAUSMANN, Ill Mag., vol. I, p. 439 (1802).

本種はギンギシに寄生する。葉裏花梗の別なく寄生すれども、莖及花には異狀を起さしめず、葉裏に寄生する場合には葉を縦に裏面へ捲縮せしめ乃至葉縁を部分的に捲縮せしめる。世界各國に分布してゐる。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして濃煉瓦褐色である。體側乳嘴狀突起體は顯著である。頭部は黒色。額瘤は顯著で無い。複眼は濃赤色で同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は6節より成り、體軀の約半長、若干の短毛を生じてゐる。第三節と第四節の基部とは淡綠色、殘部と他節とは黒色である。第三節は最長片、第四節は第五節よりも長い。胸・腹の兩部は背面にも黒色の斑紋を缺いてゐる。角狀管は準圓筒狀、全長に亘り覆瓦狀を呈し黒色である。尾片は準圓錐狀で中部は



縊れ、黒色。尾板は圓く終り黒色である。

有翅胎生雌蟲

體は中形にして地色は濃煉瓦褐色である。若干の毛を生じ、體側乳嘴突起體は顯著である。頭部は黒色、額瘤は顯著でない。複眼は濃赤色、口吻は辛じて後肢に達し、概して黒色である。觸角は6節より成りて體よりも短く、若干の剛毛を生じ、全長に亘り黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片にして6—10個の準圓狀なる感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして0—5個、第五節は第六節の基部よりも長くして1—2個の感覺器を具へてゐる。胸部は背・腹兩面共に黒色。肢脚は脛節の基部と脛節の中部とが淡綠色、殘部は黒色である。翅は準透明にして前翅の中脈は3枝を爲し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は濃煉瓦色にして、各節の背板上には黒色の横走帯がある。角狀管は準圓筒狀にして全長に亘り覆瓦狀を呈し、黒色である。尾片は準圓錐狀で、中部縊れ、黒色。尾板は圓く終り、若干の毛を生じ、黒色である。

體長 1.8 耗、前翅長 1.8 耗、角狀管長 0.4 耗、尾片長 0.2 耗。

(19) ニハトコアブラ *Aphis sambuci* LINNÉ

原記述 *Aphis sambuci* L, Syst. Nat. I, 735 (1767).

副記述 *Aphis sambuci* KALTENBACH, Mon. Pflanzenl. p. 83 (1843); KOCH, Die Pflanzenl. p. 83 (1854); BUCKTON, Monog. Brit. Aphid. II, p. 99 (1877); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 572 (1941).

異名記述 *Aphis sambucifoliae* FITCH, Cat. Homop. Ins., N. Y., p. 66 (1855).

本種は「ニハトコ」の葉裏に寄生して葉を裏面へ捲縮せしめる。多くは葉筋を侵すが、其他の部分にも群生する。世界共通の種である。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で帶青濃綠色であり、體側乳嘴狀突起體は顯著である。額瘤は顯著ならず、觸角は6節より成りて體よりも短く、全長に亘りて覆瓦狀を呈し、第一第二の兩節は黒く、殘餘の諸節は薄黒い。胸・腹兩部の背面には黒色の斑紋が無い。肢脚は頑丈にして、脛節の基半部と脛節の中部とは綠色、殘餘の部分は黒色である。角狀管は準圓筒狀にして第三觸角節よりも幾分長く、全長に亘り覆瓦狀を呈し、黒色である。尾片は準圓錐狀にして第四觸角節と約同長、黒色にして中部は幾分縊れ、約3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終り黒色である。

有翅胎生雌蟲

體は準楕圓形にして若干の毛を生じ、地色は帶青濃綠色である。口吻は中肢を越して伸び、概して黒色である。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は6節より成りて體よりも短く、覆瓦狀を呈し、黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片にして30—36個の小圓感覺器を不規則に具へ、第四節は第五節よりも長くして1—8個の感覺器を具へてゐる。胸部は黒色、肢脚は概して黒色。腹部は背面に黒色の横走帯と斑紋とを具へてゐる。角狀管は尾片を越して伸び、覆瓦狀を呈し黒色である。尾板は圓く終り黒色。尾片は準圓錐形にして中部は縊れ、約3對の剛毛を生じ、黒色である。

(20) タウコギアブラ *Aphis taukogi* SHINJI

原記述 *Aphis taukogi* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 577 (1941).

有翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして綠色である。頭部は綠色、長さよりも幅が廣い。複眼は顯著にして濃赤色。口具は中肢の基節窩を越して伸び、概して黒色。觸角は6節より、體よりも短く、全長に亘り黒色にして、第三節は第六節に次ぐ長



片にして 28—32 個の小圓狀感覺板を具へ、第四節は第五節よりも長くして 8—18 個の感覺器を具へ、第五節は第六節の基部よりは長い、其の 2 倍よりは短くして 1—8 個の圓狀感覺器を具へてゐる。第六節の鞭狀部は基部の約 3 倍長である。

胸部は背・腹兩面共に黒く、肢は腿節と脛節との末端部は黒く、他部は綠色、翅は準透明にして前翅の中脈は分れて 3 枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の斑紋が無く、角狀管は準圓筒狀にして割合に長く、全長に亘り黒色で覆瓦狀を呈してゐる。尾片は準圓錐狀にして中部が縊れ、體と同色の綠色にして 3 對内外の長い剛毛を生じてゐる。

體長 1.8 耗、前翅長 1.9 耗。

本種はタウコギに寄生して葉を捲縮せしめる。

コナフキアブラ(粉吹蚜)屬 Genus *Brevicoryne* VAN DER GOOT

體には各側に乳嘴突起體を生じ、額瘤は顯著ならず、觸角は體よりも短く、6 節より成つてゐる。前翅の中脈は 2 回分れて 3 枝を成し、角狀管は短小にして中部は膨大してゐる。尾片は角狀管よりも大きく圓錐形である。

(21) タマナコナフキアブラ *Brevicoryne brassicae* LINNÉ

原記述 *Aphis brassicae* L., Syst. Nat., II, 732, p. 12 (1758).

異名記述 *Aphis raphani* SCHRANK, Fr. Boic., II, 119, p. 1228 (1801).

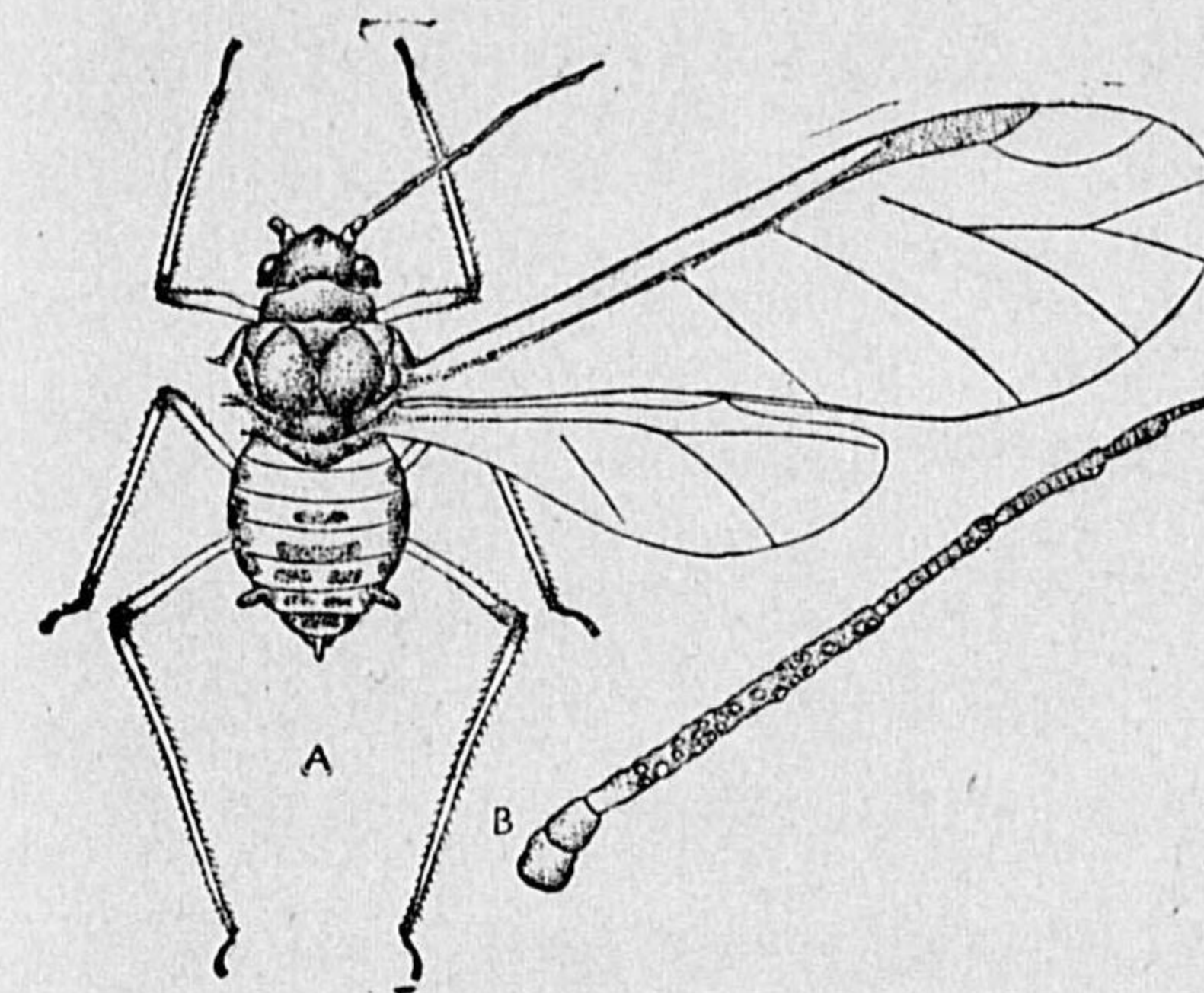
副記述 *Brevicoryne brassicae* VAN DER GOOT, Beitr. Kemtn. Holland Blattl. p. 246 (1915); THEOBALD, plant lice Brit., II, p. 45 (1927); MONZEN, Saito Ho-on Kai Monog. 1, p. 46 (1929); HORI, Hokkaido Agr. Expt. Stat. Rept., 23, p. 121 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説 p. 597 (1941).

「タマナ」「ハクサイ」「ダイコン」等の *Brassica* 屬植物に寄生し、其の葉を捲縮せしめる蚜蟲である。世界の各地に分布してゐる。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして帶黃綠色、普通には白粉様の分泌物を體長全表に着けてゐる。口吻は後半部のみ黒色、残部は綠色。頭部は黒色でない。複眼は濃赤色で赤色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は 6 節より成り、體の半長にも達しない。第三節は概して綠色、他節は黒色。第三節は最長片にして、第四、第五の兩節は約同長である。胸腹部には黄色地に黒色の斑紋を各環節に各 8 個宛具へてゐる。肢脚は腿脛兩節の基半部が綠色、残部は黒い。角狀管は短小にして中部は膨れてゐる。全長に亘り黒色である。尾片は準圓錐狀を成し、黒色、約 3 對の長毛を生じてゐる。尾板は黒色。體長 1.8 耗内外。

有翅胎生雌蟲



第 60 圖 タマナコナフキアブラ  
A 有翅胎生雌蟲 B 同觸角

體は橢圓形にして、體色は綠色。頭部は黒色、額瘤は顯著でない。複眼は暗赤色。口吻は中肢に達し、後半部のみ黒色、基部は體と同色である。觸角は 6 節より成り、體と約同長、全長に亘り黒色。第三節は第六節に次ぐ長片にして 50 個



内外の小圓狀感覺器を具へ、第6節の鞭狀部は基部の約4倍長である。胸部は黒色。肢脚は腿脛兩節の基部の黄色なるを除けば、概して黒色。翅は半透明にして翅斑並に脈は黒色を呈し、前翅の中脈は2回分れて3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は各環節の背面に黒色帯を具へてゐる。角狀管は短小で第二觸角節と約同長、中部は幾分膨れ、黒色である。尾片は準圓錐形で、中部縊れ、約3對の剛毛を生じてゐる。體長 1.6 耗、前翅長 2.9 耗。

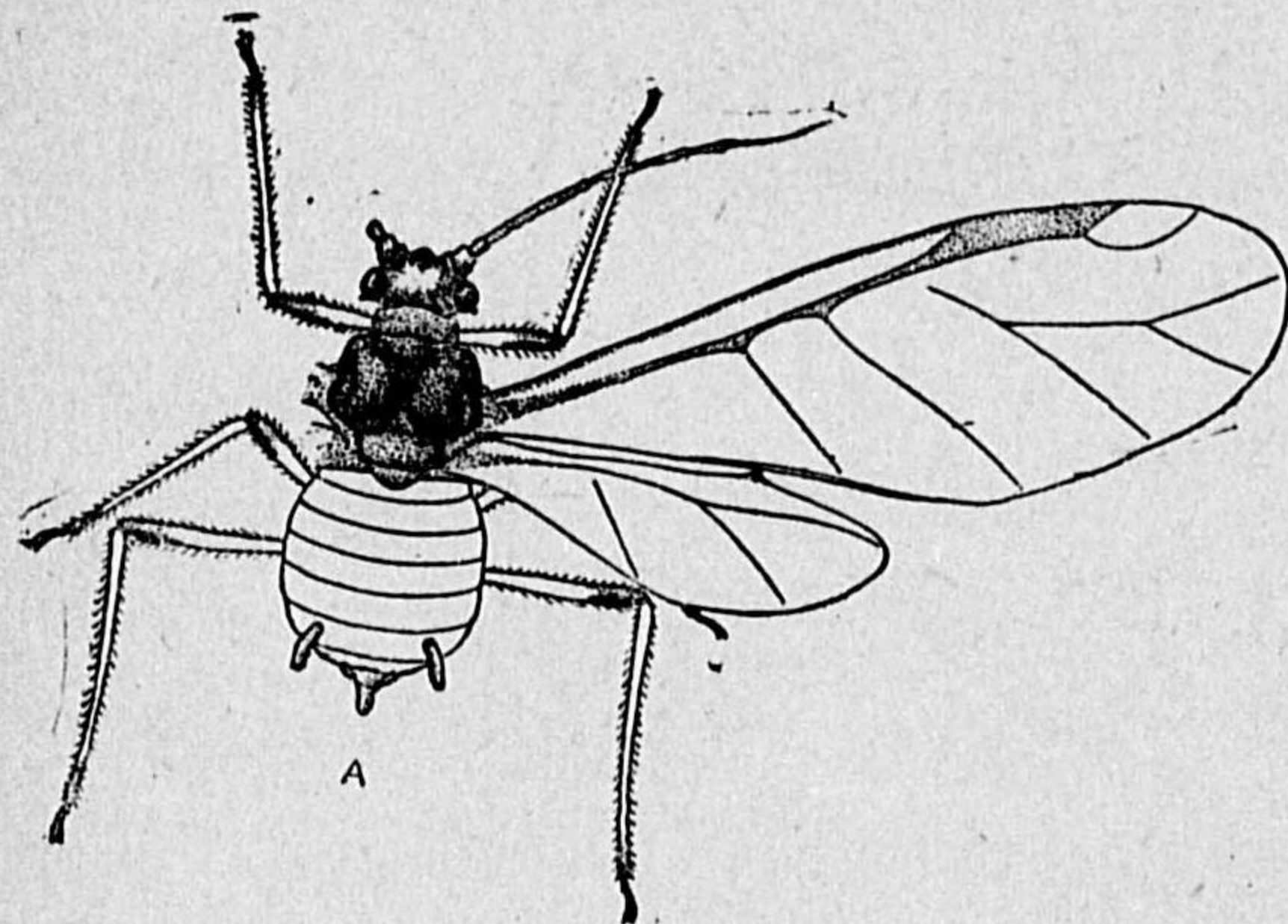
(22) **ウグヒスカヅラチビクダアブラ** *Brachycolus lonicerae* SHIN.

原記述 *Brachycolus lonicerae* SHIN., Kontyu, XII, 1, p.39 (1939)

有翅胎生雌蟲

體は長橢圓形にして若干の短毛を生じ綠色である。頭部並に複眼は黒色、

第 61 圖 ウグヒスカヅラチビクダアブラ



單眼は赤色味を帯びてゐる。口吻は中肢の基節に達し、後半は黒色、前半は綠色。觸角は6節より成りて體の約4分の3長、全長に亘り黒色にして、第三節の後半以後は覆瓦狀を呈してゐる。第三節

は第四節の約2倍長あつて32個内外の準圓筒狀感覺板を具へ、第四節は第五節よりも長くして6個内外の比較的大形なる感覺板を具へ、第五節は第四節よりは短く、第六節の鞭狀部は基部の約五倍長である。胸部は黒色。翅は

半透明にして脈は黄褐色、前翅の第三斜脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は基部に於ける幅よりも幾分長く、全長に亘り覆瓦狀を呈し黒色である。尾板尾片は黒く、後者には3對の長毛が生じてゐる。

體長 1.2 耗、翅長 1.8 耗。

無翅胎生雌蟲

體は準卵狀にして綠色、尾板、尾片及角狀管は有翅胎生雌蟲に於けると同様である。

體長 1.2 耗、角狀管長 0.03、尾片長 0.13 耗、宿主植物 ウグヒスカヅラ *Lonicera gracilipes* MIQ. var *gennia* MAKINO.

**ゴセツアブラ(五節蚜)屬 Genus Cerosipha**

體は小形の部に屬し、若干の體毛を生じてゐる。額瘤は顯著ならず、觸角は5節よりなりて體よりも短く、第五節の鞭狀部は基部の少くとも3倍長以上であり、第三節及第五節上の感覺器は圓い。前翅の中脈は2回分れて2枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。肢脚は普通形、腹部の角狀管はアブラ屬のものに似て準圓筒狀であるが基部より末端へ向ひ順次に細くなつてゐる。尾片はアブラ屬のものに似、尾板は圓く終り、若干の毛を生じてゐる。

(23) **イチゴゴセツアブラ** *Cerosipha ichigocola* SHINJI

原記述 *Aphis ichigocola* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. XXXVI, no. 431, p. 354 (1924).

副記述 *Cerosipha ichigocola* SHINJI, 日本蚜蟲總說, p. 614 (1941).

本種はサナヘイチゴ *Rubus morifolius* SIEB の嫩葉並に芽に寄生する。本種に寄生された嫩葉は葉の中筋とは直角方向に裏面を内側にして捲き且收縮し其内部に蟲體を藏する。中間なる夏季宿主なく、北海道・本州・四國

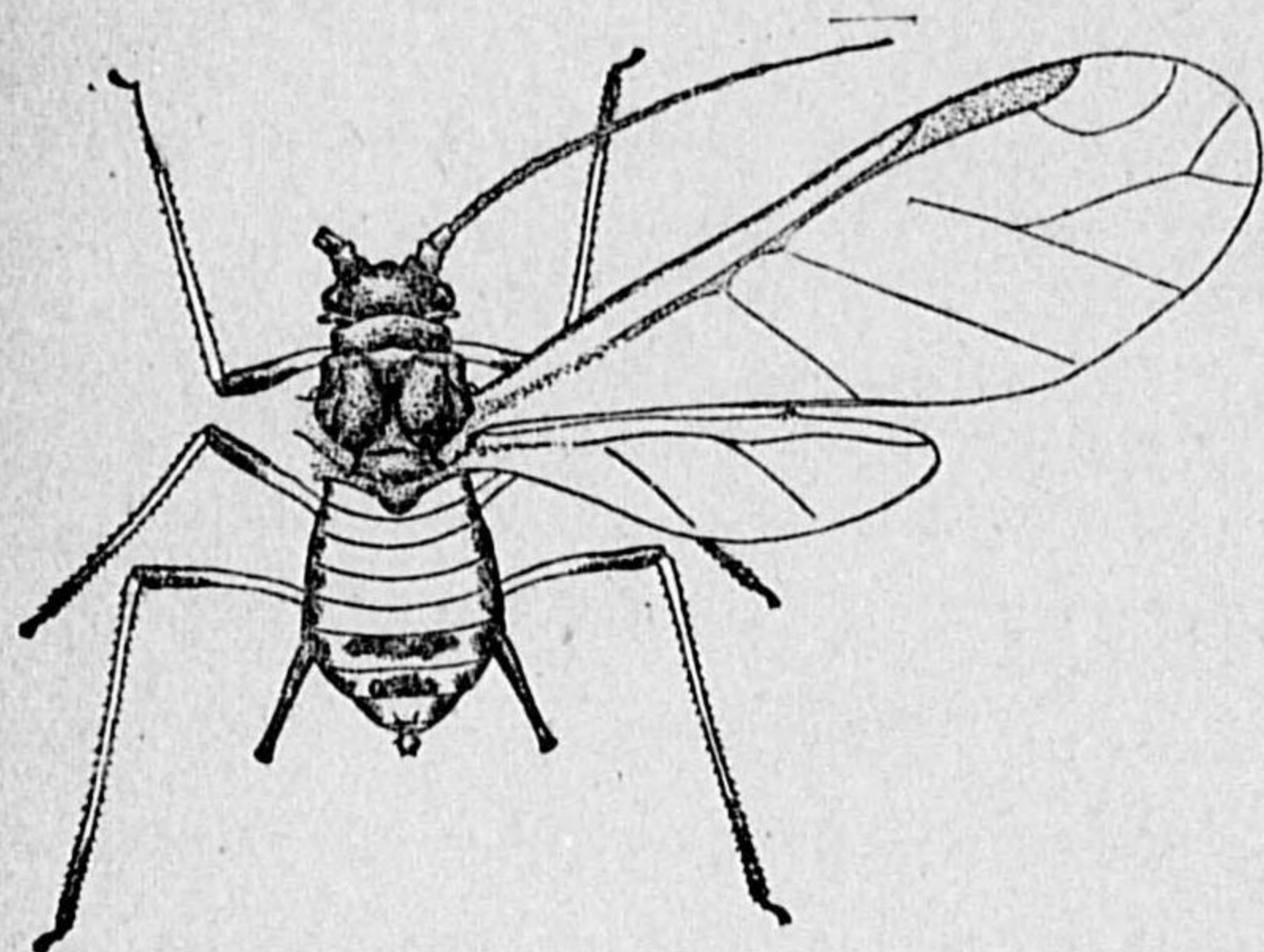


九州に分布してゐる。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で淡綠色乃至黄金色である。複眼は濃赤色。觸角は5節より成り第三節は第四節の約2倍長ある。腹部は背面に黒色の斑紋を缺き、角狀管は準圓筒狀で黒い。

有翅胎生雌蟲



第 62 圖 イチゴゴセツアブラの有翅胎生雌蟲 體は綠色乃至黄色。頭部黒色。複眼赤色。觸角は5節より成り、全長に亘り黒色。第三節は第四節の2倍よりは短く、其基半部には約4個の小圓狀感覺器がある。第四節には感覺器なく、第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。胸部は黒色。翅は準透明で脈と翅斑とは黒い。腹部の背面には黒色の斑紋と横走帯とがある。尾片は綠色。角狀管は準圓筒狀で全長に亘り黒色で覆瓦狀を呈してゐる。

體長 1.3 耗, 前翅長 1.3 耗。

(24) シロネゴセツアブラ *Cerosipha lycopicola* SHINJI

原記述 *Cerosipha lycopicola* SHINJI, Zool. Mag. vol. 51, 7, p. 432 (1939).

副記述 *Cerosipha lycopicola* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 617 (1941).

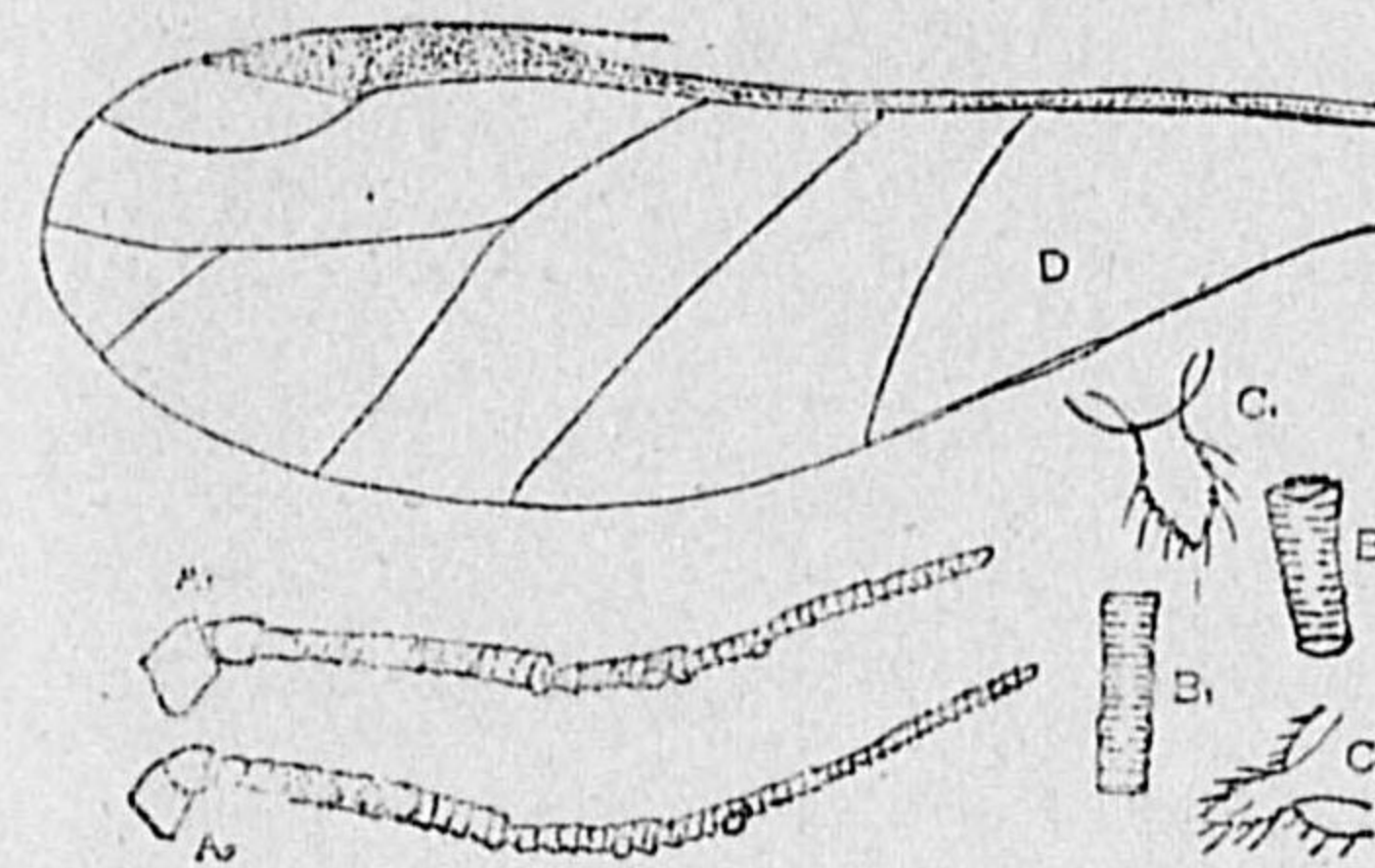
本種はコシロネ *Lycopium Maackianum* MAXIMOW. の成長端部附近の嫩

葉の裏面に寄生する。寄生された葉は裏面を内側とし中筋とは直角方面に捲き且收縮する。本州に特産のものらしい。夏季寄主は無い。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で黄色乃至帶黄綠色である。觸角は5節より成り體よりも短く、

第 63 圖 シロネゴセツアブラ A<sub>1</sub>B<sub>1</sub>C<sub>1</sub> 無翅胎生雌蟲 A<sub>2</sub>B<sub>2</sub>C<sub>2</sub> 有翅胎生雌蟲



第一, 第二, 第五の3節は全長に亘り, 第四節は末端のみ黒く第三節は黄色である。腹部の背面には黒色の斑紋が無く, 角狀管は準圓筒狀で黒色。尾片は黒色である。

有翅胎生雌蟲

體は帶黄綠色で頭部は黒く複眼は濃赤色である。觸角は5節より成り體と約同長, 全長に亘り薄黒い。第三節は第四節の2倍以上長くして約5個の感覺器を基半部に具へてゐる。第五節の鞭狀部は基部の約3倍長ある。胸部は黒色。翅は準透明で脈と翅斑とは黄褐色, 前翅の中脈は3枝に岐れ, 後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には兩角狀管の基部に1個宛の黒色斑紋がある。角狀管は準圓筒狀で全長に亘り覆瓦狀を呈し且黒色。尾片は準圓錐狀で中部縊れ, 黒色である。

體長 1.3 耗, 前翅長 1.4 耗。

クダナシアブラ(管蚜)屬 Genus *Cryptosiphum* BUCKTON.

*Cryptosiphum* BUCKTON, Monog. Brit. Aphid. II, p. 114 (1879).

體は小さく, 額瘤を缺き, 常規の體毛を生じてゐる。觸角は6節より成り, 第三節の後半部以後は覆瓦狀を呈する。感覺板は小形圓狀。前翅の中脈は3



枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。尾片は甚だ短小にして幅は長さに優る。尾片は短くして圓く終り突出しない。尾板は圓く、長毛を生じてゐる。

(25) ヨモギクダナシアブラ *Cryptosiphum gallarum* KALTENBACH

原記述 *Aphis gallarum* KALTENBACH, Verb. Nat. V. Preuss. Rein West, p. 203 (1856).

副記述 *Cryptosiphum gallarum* THEOBALD, plant Lice Gr. Britain, vol. II, p. 325 (1927); MONZEN, Saito Ho-on Kai Monog. no. I, p. 48 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 623 (1941).

異名記述 *Cryptosiphum artemisiae* BUCKTON, Monog. Gr. Britain, vol. II, p. 145 (1877).

*Pseudolachnus yomogi* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. XXXIV, p. 730 (1922).

ヨモギ(蓬) *Artemisia vulgaris* var. *indica* MAXIM. の嫩葉裏に寄生する種である。寄生された葉の周縁は裏面へ捲縮し幾分肥厚すると同時に紅赤色を呈するに至るものである。歐羅巴及亞細亞に分布してゐる。

無翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形で卵狀、帶赤煉瓦様褐色で常に白粉を裝着してゐる。1

有翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形で煉瓦様の帶赤色である。頭部は黒色。複眼は濃赤色。口吻は殆んど後肢の基節窩に達し概して紅黒色である。觸角は6節より成りて黒色。第三節は第六節の全長又は第四第五の兩節の和よりも幾分長く、5乃至6個の圓狀感覺器を具へてゐる。胸部は黒色。肢脚は寧ろ短く、脛節の基半部は黄色、殘部並に他節は黒色である。翅は半透明で脈と翅斑とは黒く、中脈は3枝を成してゐる。腹部は煉瓦褐色地に黒色の斑紋を具へてゐる。角狀管は短小で長幅約同大で黒色である。尾片は圓く終り黒色である。

體長 0.8 耗, 前翅長 0.7 耗。

フトヲアブラ(太尾蚜)屬 *Hyalopterus* KOCH

*Hyalopterus* KOCH, Die Pflanzenläuse, p. 16 (1854).

*Hayherstia* DEL GUERCIO, XXII, p. 203 (1917).

體は概して長楕圓にして稍扁平。額瘤は顯著でない。觸角は6節より成り、有翅蟲は小形の後生感覺器を具へてゐる。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には肘・中の兩脈がある。角狀管は甚だ短い、基端兩部が縊れ中部が膨大してゐる。尾片は長大にして角狀管よりも長い。

(26) ヨシフトヲアブラ *Hyalopterus arundinis* FABRICIUS

原記述 *Aphis arundinis* FABR. Ent. Syst., IV, p. 321 (1781).

副記述 *Hyalopterus arundinis* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 629 (1941).

異名記述 *Aphis pruni* FABR, Ent. Syst., IV, p. 213 (1781).

*Aphis gracilis* WALKER, Ann. Nat. Hist. Soc., 2, V, p. 82 (1941).

*Hyalopterus pruni* KOCH, Die Pflanzent. p. 21 (1354); KALTENBACH, Mong. Pflanzel., p. 54 (1843); BUCKTON, Mong. Brit. Aphid. II, p. 110 (1877); HORI, Agr. Exp. Sta., Rept. 22, p. 140 (1929).

*Hyaloperus phragmiticola* OESTL., Aphid. Minnesota, p. 44 (1886).

本種の春秋宿主は「スモモ」*Prunus salicina* LINDL, 「ウメ」*p. mume* 及「モモ」*p. persica* BATSCH にして夏季宿主は「ヨシ」である。卵子は10-11月の候に梅・桃・李等の枝上特に潜芽の基部に産せられて越冬し、翌春孵化し出る幼蟲は嫩葉に移り、其葉裏に寄生して生殖を続け、6、7月の候に



は有翅の胎生雌蟲夥しく産せられ、之等は多くは「ヨシ」に轉移して蕃殖を續け、10, 11月の候には之等の子孫が再び梅・桃・李等に轉移し來り、産卵性雌蟲と雄蟲とを産する。「ヨシ」は本種に寄生されて甚しき奇態を示さぬが、梅・桃・李はかゝる場合には葉を卷縮するものである。世界的の分布をなしてゐる。

#### 無翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして、地色は綠色、一般には白粉を著けてゐる。頭部は黑色ならず、額瘤は顯著でない。口吻は辛じて中肢に達し、末端は黑色、基部は體と同色である。複眼は赤色。觸角は體よりも短く、6節より成り、第三節の基半部は綠色、殘部は黑色である。胸・腹の兩部は背面に黑色の斑紋を具へてゐない。肢脚は概して體と同色であるが、跗節の末端と爪とは黒い。角狀管は短小にして薄黒く、長さは幅の約2倍大。尾片は大きくして薄黒く、約3對の剛毛を生じてゐる。體長 1.75 耗内外。

#### 有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形にして帶橙黃色。頭部は黒く、額瘤は顯著でない。複眼は濃赤色。觸角は體よりも僅かに短く、6節より成り、第三節の基部は綠色、其の他の節は體と同色である。第三節は前腿節と同長にして30—35個の感覺器を具へ、第四節は第三節に次で長く3—4個の感覺器を具へてゐる。胸部は黑色。肢脚は腿・脛兩節の基部は黄色、殘部は黑色。翅は準透明にして脈は黒く、翅斑は黄褐色、前翅の中脈は分れて3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は背面に黑色の斑紋を具へてゐる。角狀管は短小にして覆瓦狀を呈し、黑色である。尾片は準圓錐狀にして幾分縊れ、黑色にして約3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終り、黑色である。

體長 1.8 耗、前翅長 1.9 耗。

#### (27) アカザフトヲアブラ *Hyalopterus atriplicis* LINNE

原記述 *Aphis atriplicis* LINNE, En. Sue., p. 1000 (1746).

異名記述 *Aphis atamaria* WALKER, List. Homop. (B. M.), vol. IV, p. 982 (1849).

*Aphis chenopodi* KALTENBACH, Monog., p. 107 (1843).

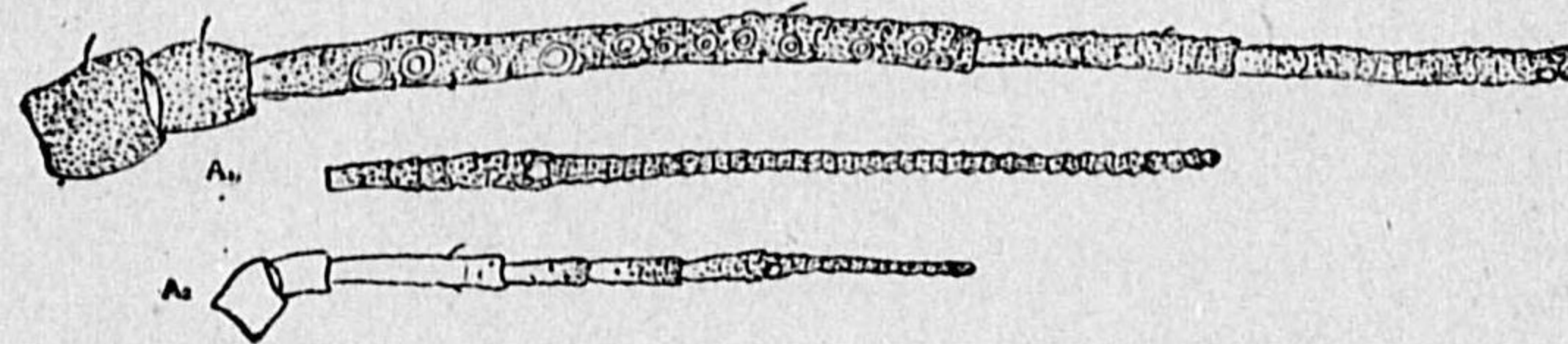
*Brevicoryne chenopodi* DAS, Memo. Ind. Mus., vol. VI, p. 183 (1918).

副記述 *Hyalopterus atriplicis* HORI, Hokkaido Agri. Expert. St., Sp. Rept., no. 23, p. 140 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 634 (1941).

アカザ *Chenopodium album* LINN.の葉裏に寄生する種である。寄生された葉は葉筋に沿うて折重り且つ幾分肥厚して偽蟲瘻をなす。偽蟲瘻内には昆蟲及び脱皮の外に常に水滴が分泌されてゐる。歐米諸國の外、朝鮮・九州・四國・本州に汎く分布してゐる。

#### 無翅胎生雌蟲

體は準卵狀で淡綠色である。複眼は赤色。觸角は6節より成り、體よりも短く、第三節は第六節に次ぐ長片、第六節の鞭狀部は基部の約2倍長ある。胸腹兩部の背面には黑色の斑紋が無い。角狀管は尾片よりも短く、基部は中部よりも幅小である。



第 64 圖 アカザフトヲアブラの觸角  
A<sub>1</sub> 有翅胎生雌蟲 A<sub>2</sub> 無翅胎生雌蟲



有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形で地色は綠色である。頭部は黒色、複眼は暗赤色である。觸角は6節より成り第三節には約12個の小圓狀感覺器を具へてゐる。第六節の鞭狀部は基部の約3倍長である。翅は準透明で脈は薄黒く、前翅の中脈は3枝を成してゐる。腹部の背面には黒色の斑紋なく、角狀管は短小で黒色。尾片は角狀管よりも大きく、黒色を呈してゐる。

體長 1.6 耗, 前翅長 1.8 耗。

ヲナガアブラ(尾長蚜)屬 Genus Pergandeida SCHOUTEDEN

頭部は顯著なる額瘤を缺き、觸角は6節よりなり、第三節は第四・第五兩節の和よりも長い。前翅には中・肘の兩脈があり、中脈は3枝に分れてゐる。角狀管は短小にして長さとは幅とは約同長である。尾片は長く且つ幅廣い。

(28) ハマナスヲナガアブラ Pergandeida trirhodus WALKER

原記述 *Aphis trirhodus* WALKER, Ann. Nat. Hist. Soc., se, 2, vol. IV, p. 45 (1809).

異名記述 *Hyalopterus aquilegiae* KOCH, Die Pflanzenläuse, p. 19 (1857).

*Hyalopterus trirhodus* BUCKTON, Monog. Brit. Aphid., vol. II, p. 114 (1877).

*Hyalopterus flavus* SCHOUTEDEN, Mem. Soc. Ent. Belg., vol. XII, p. 230 (1906).

*Longicaudus trirhodus* THEOBALD, Plant Lice Brit., vol. II, p. 35 (1927).

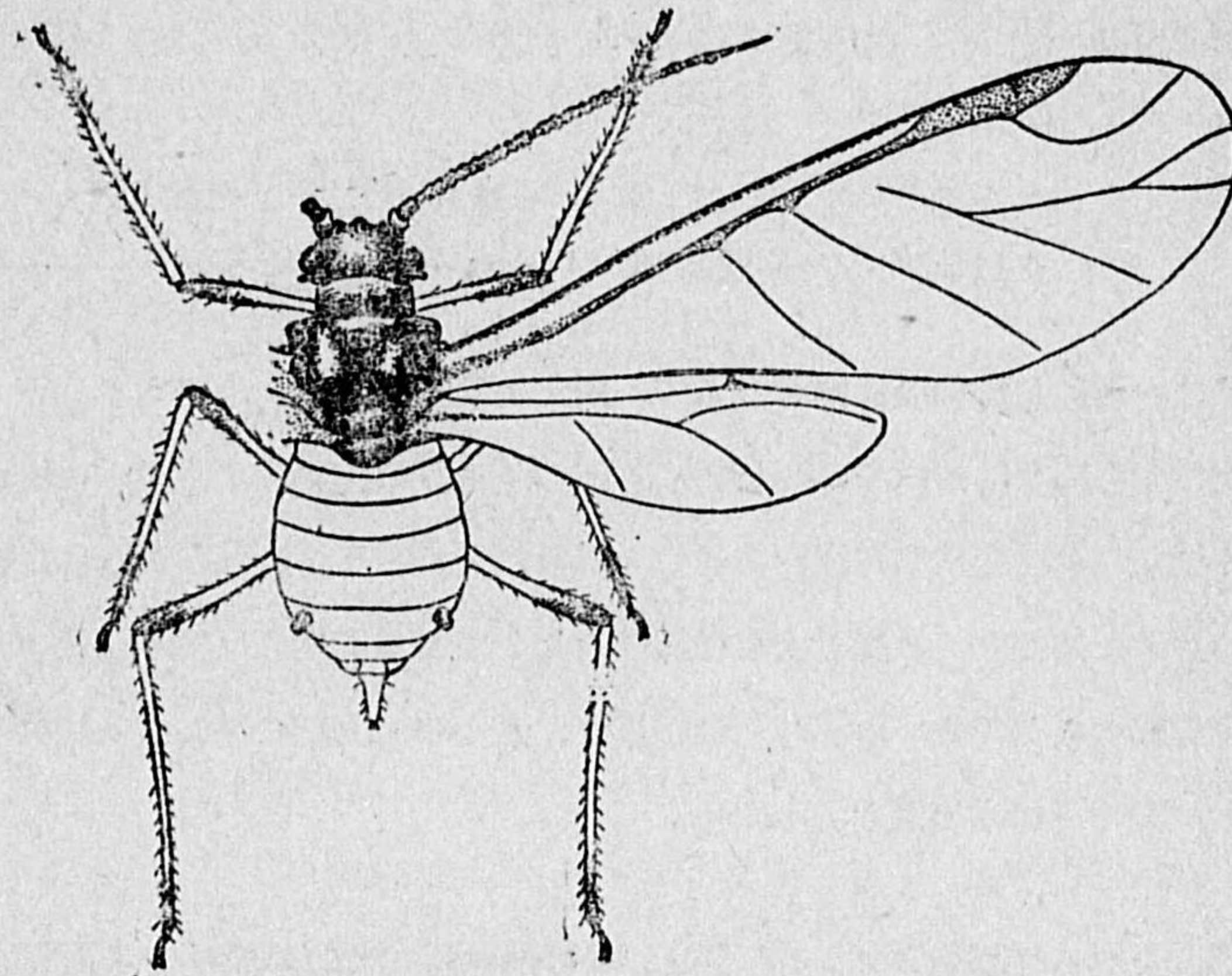
副記述 *Pergandeida trirhodus* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 651 (1941).

本種は「アキカラマツサウ」「コスモス」「シユウメイギク」「イバラ」「バラ」

「ナシ」「ハマナス」等に寄生するが植物の被害は大ならず、たゞ晩秋の候には梨樹の葉上に大發生をなすが、時既に落葉に頻してゐるので梨樹が大害を蒙る事はない。また葉の卷縮を誘導するはアキカラマツサウの場合に限られてゐるやうである。

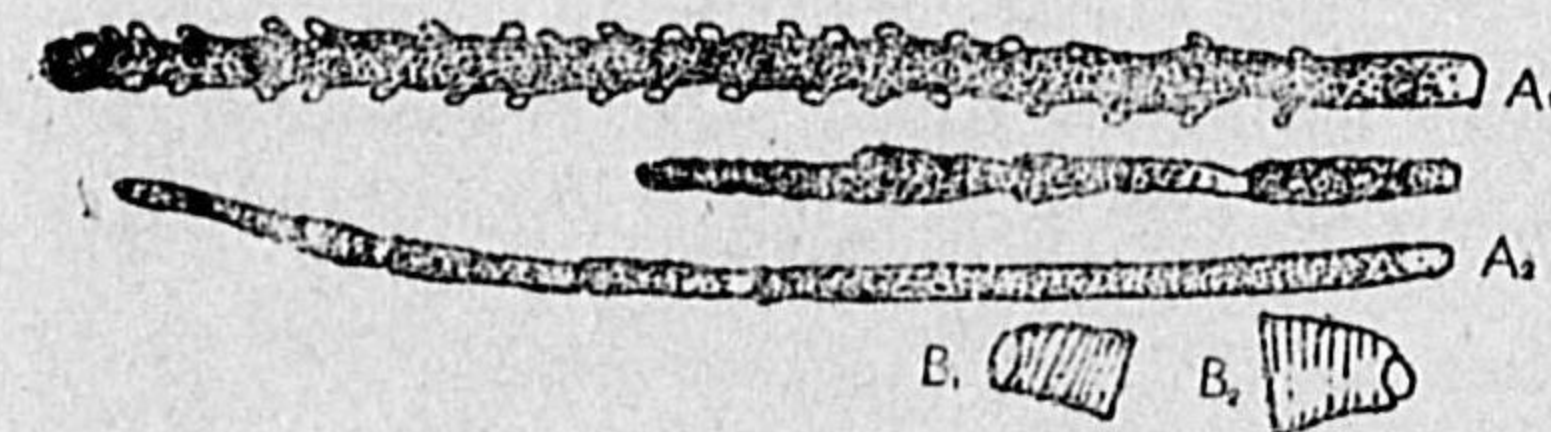
有翅胎生雌蟲

體は淡綠色。頭部は顯著なる額瘤を缺く。複眼は濃赤色。口吻は辛じて中



第 65 圖 ハマナスヲナガアブラの有翅胎生雌蟲

肢に達し、基半部は綠色、後半部は黒色である。觸角は體と約同長、第三節以後は覆瓦狀を呈し、黒色である。第三節は最長片にして第四一第六節の和と約同長、70



第 67 圖 ハマナスヲナガアブラの觸角Aと角狀管B A1B1 有翅胎生雌蟲 A2B2 無翅胎生雌蟲

個内外の多少突出性感



覺器を具へてゐる。第四、第五の兩節は約同長にして共に感覺器は1個以上、第六節の鞭狀部は基部の約1倍半長である。

胸部は背腹共に黒色。腹部の背面には黒色の斑帯乃至斑紋を缺いてゐる。角狀管は短小にして基部に於ける幅の3倍長であり、尾片は顯著に長くして長毛を生じ、綠色である。尾板は圓く終り、綠色にして、若干の短毛を生じてゐる。

體長 1.20 耗内外、前翅長 3 耗内外、角狀管長 0.09、尾片長 0.16 耗内外。

#### クビレアブラ(縊槽蚜)屬 Genus Rhopalosiphum

體は中形にして額瘤は顯著ならず、觸角は6節より成り、體よりも短く、感覺器は準圓狀、第六節の鞭狀部は基部の3倍長以上ある。前翅の中脈は2回分枝して3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の角狀管は概して細長く、末端近くは膨れ末端は鏢狀を呈してゐる。尾片は寧ろ細長い、角狀管程には長くない。尾板は圓く終り、若干の毛を生じてゐる。腹部の背面には尾片上に突出體を具へない。

#### (29) ハスクビレアブラ(P. 166) *Rhopalosiphum nymphaeae* LINNÉ

原記述 *Aphis nymphaeae* LINNÉ, *Syt. Nat.*, vol. II, p. 714 (1767);  
KALTENBACH, *Monogr.*, p. 104 (1843).

異名記述 *Rhopalosiphum nymphaeae* KOCH, *Die Pflanzenlause*, p. 44 (1857); BUCKTON, *Monogr. Brit. Aphid.*, vol. II, 12, (1877);  
THEOBALD, *plant lice Brit.*, vol. II, p. 60 (1927).

*Siphocoryne nymphaeae* DAS, *Memo. Ind. Mus.*, vol. VI, p. 191 (1918).

*Siphonaphis nymphaeae* VAN DER GOOT, *Beitr. Kennt. Holland. Blattl.*, p. 239 (1915).

副記述 *Rhopalosiphum nymphaeae* 進士, *日本蚜蟲總説*, p. 662 (1941).

本種は春季には梅 *Prunus Mume* SIEB. et ZUCC. 桃 *Prunus persica* SIEB. et ZUCC. var? *vulgaris* MAKINO 櫻等の葉裏及び幼梢の樹皮面に群生し屢々樹木を枯死せしめる事すらあるが、夏季にはハス *Nelumbo nucifera* GAERTH クワキ *Sagittara sagittifolia* L. オモダカ *Sagittara sagittifolia* LINNE 等の水草の葉裏及び水上莖に移住して宿主に大害をなすものであるが、偽蟲瘻は梅等の春季宿主に寄生する場合で、寄生された葉は中軸葉筋と直角方向に卷縮するものである。

#### 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で濃綠色乃至帶赤褐色である。頭部は幾分黒く、觸角は6節より成る。胸腹部は顯著なる黒色の斑紋を缺き、角狀管は準圓筒狀で基部と末端とは縊れ、黒色である。尾片は黒色である。

#### 有翅胎生雌蟲

體の地色は淡褐色乃至濃煉瓦褐色。頭部は黒色。複眼は濃赤色。胸部黒色。腹部は背面特に側縁部に黒色の斑紋を具へてゐる。觸角は6節より成り、全長に亘り黒色。第三節には19個の感覺器を具へ、第四節は第三節より短くして約2個の感覺器を具へ、第五節は第六節の基部の2倍よりも長くして1個の常位感覺器を具へ、第六節の鞭狀部は基部の約4倍半長である。翅は準透明で脈は暗褐色、前翅の中脈は3枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準圓筒狀で基部と末端とは縊れてゐる。全長に亘り黒色である。尾片は準圓錐狀で黒色である。

#### (30) ムギクビレアブラ *Rhopalosiphum prunifoliae* FITCH



原記述 *Aphis prunifoliae* FITCH, 1st Rept. Nox. and Ben. Ins., N. Y., p. 122 (1855).

副記述 *Rhopalosiphum prunifoliae* HORI, Hokkaido Agr. Expt. St. Rept. 23, p. 124 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 666 (1941).

異名記述 *Rhopalosiphum avenae* TAKAH., Aphid. Formosa, 2, 34 (1923).

*Yamataphis paperveris* TAKAH., loc. cit., p. 39 (1921).

*Toxoptera rufiabdominalis* SASAKI, Inj. Ins. Crops Japan, p. 202 (1899).

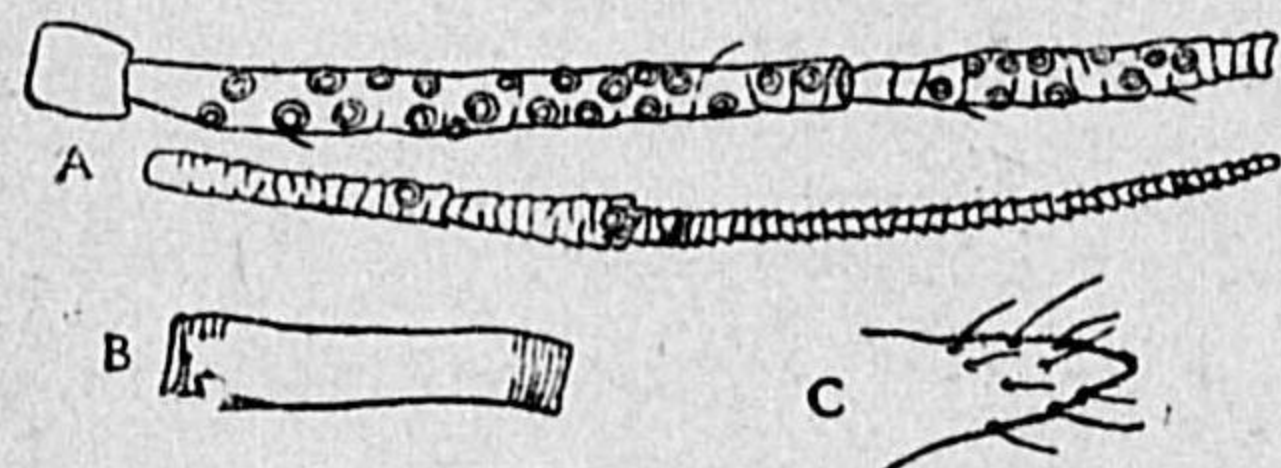
*Yamataphis rufiabdominalis* MATS. J. C. A. Tohoku Imp. Univ., VII, p. 368 (1917).

*Yamataphis oryzae* MATS. ibid., p. 416 (1917).

本種の夏季宿主は「コムギ」*Triticum sativum* LAM. var. *vulgare* HACK. 「イネ」*Oryza sativa* LINNE, 「タウモロコシ」*Zea Meyes* LINNE 「コムギ」「アハ」「ヒエ」等で春秋宿主は「イヌザクラ」「ウメ」等であつて、春秋宿主に寄生した場合にのみ葉を卷縮して偽蟲癭を生ずるものである。汎く歐洲・北米及び亞細亞の諸國に分布してゐる農園藝作物の害蟲である。

無翅胎生雌蟲

體は夏季には濃綠色、春秋には煉瓦褐色である。頭部は幾分黒く、眼瘤は濃赤色である。觸角は6節より成つて體よりも遙かに短く、第六節の鞭狀部は基部の約2倍半長である。胸腹部には黒色の斑紋がない。角狀管及び尾片は黒色である。



第 67 圖  
サクラツトアブラの有翅胎生雌蟲のA觸角 B角狀管 C尾片

有翅胎生雌蟲

體は綠色(夏季)乃至濃煉瓦褐色である。觸角は6節より成り、全長に亘つて黒色、第三節上には約 15 個

第四節上には約8個、第五節上には2個乃至4個の感覺器があり、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。胸部は黒色。腹部の背面特に側縁部には黒色の斑紋がある。角狀管は準圓筒狀で基部と末端部とは縊れ、全長に亘つて黒色。尾片また黒色である。

(31) ナヅナクビレアブラ *Rhopalosiphum pseudobrassicae* DAVIS

原記述 *Aphis pseudobrassicae* DAVIS, Canadian Ent., vol. XLVI, p. 281 (1914); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 669 (1941).

異名記述 *Aphis prunifoliae* MAKI, Agri. Exprt. St., Formosa, Bull. no. 108, p. 28 (1916).

*Siphocoryne pseudobrassicae* VAN DER GOOT, Contr. Fauna Indes Neerl., vol. I, no. 3 p. 64 (1917).

*Rhopalosiphum pseudobrassicae* HORI, Hokkaido Agri. Expt. St., Rept. no. 23, p. 134 (1929).

*Siphocoryne indobrassicae* DAS, Mem. Indes Mus., vol. VI, p. 188 (1918).

*Rhopalosiphum paperveris* TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. I, p. 34 (1921).

「タマナ」「ダイコン」には他種に混じて寄生するが、「ナヅナ」にては多くの場合に本種のみが寄生し、寄生甚しき葉は卷縮するものである。

無翅胎生雌蟲

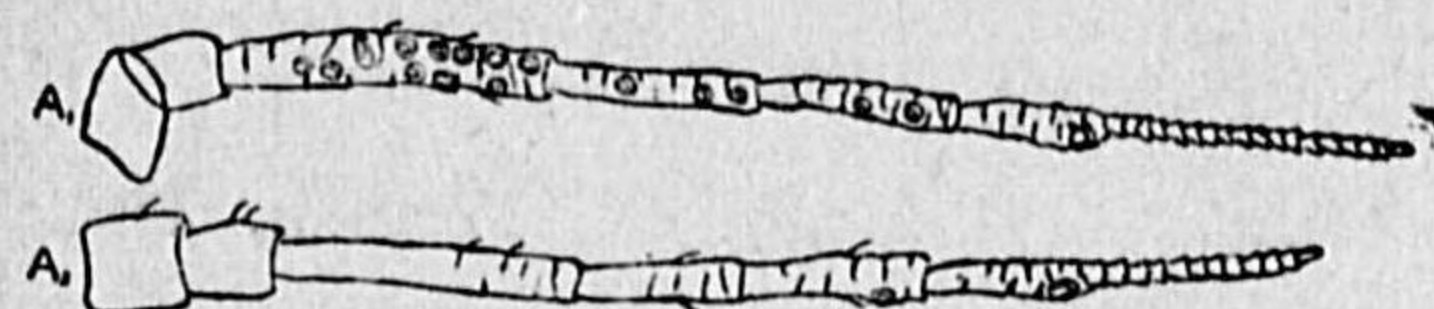
體は卵狀にして帶黃綠色、概して體背に白粉を装着する。頭部は黒色ならず、額瘤を缺いてゐる。複眼は濃赤色。觸角は體よりも短く、6節より成り、第三節の基半部は黄色、残部は黒色を帯びてゐる。胸・腹兩部には背面の中央に黒色の横走帯を、側縁部には同色の小點とを具へてゐる。肢脚は腿・脛兩節の基部の綠色なるを除けば概して黒色。角狀管は準圓筒狀にして、中部の



終り頃が膨れ後再び縊れてゐる。尾片は準圓錐状にして、後半部よりは3對の剛毛を生じ、體と同色である。體長約 1.7 耗。

有翅胎生雌蟲

體は橢圓形にして帶黃綠色。頭部は黒く、額瘤は顯著でない。口吻は中肢の基部に達し、後半部は黒色、前半部は黄色である。複眼は赤色。觸角は6節より成り、體よりも短く、概して黒色。第三節は第六節の鞭状部と約同長にして 20—30 個の小圓形感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして



第 68 圖 ナツナクビレアブラの觸角  
A<sub>1</sub> 有翅胎生雌蟲 A<sub>2</sub> 無翅胎生雌蟲

5—7 個の感覺孔を、第五節は 0—2 個の感覺器を具へてゐる。胸部は黒色。肢脚は腿・脛兩節の基半部の綠色なる以外の部は黒色である。翅は準透明にして、脈は帶褐黒色である。腹部は背面に黒色の横走帯と小點とを具へてゐる。角状管は準圓筒状にして中部以後は膨れ、末端に近く再び細まつてゐ、覆瓦状を呈し、黒色である。尾片は準圓錐状にして中部は縊れ、3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終り、體と同色である。體長 1.6 耗、前翅長 2.7 耗。

(32) サクラクビレアブラ *Rhopalosiphum donarium* Mats.

原記述 *Siphocoryne donarium* MATS., Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. VII, 1, p. 6 (1918).

副記述 *Rhopalosiphum donarium* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 672 (1941). 「イヌザクラ」 *Prunus Buergeriana* MIQ. に寄生し、寄生された葉は裏面へ向ひ卷縮する。北海道及び東北地方に分布してゐる。

無翅胎生雌蟲

體は卵状にして、體側乳嘴状突起體は顯著、地色は帶黃赤褐色にして煉瓦

色に近い、白粉を着けてゐる。額瘤は顯著でなく、複眼は濃赤色、口吻は後肢に達し、末端部は黒色。觸角は6節より成りて體よりも短く、第四節の後半部以後は覆瓦状を呈し且つ黒色である。胸・腹の兩部は黒色ならず、肢脚は普通型。角状管は準圓筒状にして、中央を越して膨れ、末端は再び細まり、全長に亘り黒色である。尾片は準圓錐形にして、中部は幾分縊れ、後半部には3對の長毛が生じてゐる。體長 1.9 耗内外。

有翅胎生雌蟲

體は橢圓形にして、地色は帶黃赤褐色である。頭部は黒色。複眼は濃赤色。觸角は6節より成りて體よりも幾分長く覆瓦状を呈し、黒色。第三節は第六節に次ぐ長片にして 26—32 個の感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして 8—12 個の感覺器を具へ、第五節には 4—10 個の圓形感覺器がある。胸部は黒色。翅は準透明にして翅斑と脈とは黄褐色であり、前翅の中脈は3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。肢脚は脛節の中部が黒く、殘部は概して黒色である。腹部の背面には黒色の斑紋があり、角状管は準圓筒状にして、第五觸角節よりは幾分短い。全長に亘り覆瓦状を呈し、黒色である。尾片は準圓錐状にして、中部は縊れ、後半部には約3對の剛毛を生じ、黒色である。尾片は丸く終り、黒色である。體長 1.5 耗内外。

フタマタアブラ(二岐蚜)屬 Genus *Toxoptera*

體は小形乃至中形にして體毛を生じてゐる。觸角は6節より成りて體よりも短く、第六節の鞭状部は基部の2倍以上に長く、第三及び第五節上の感覺器は準圓状にして大きくない。前翅の中脈は僅かに1回分れて2枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の角状管は準圓筒状にして、基部より順次に末端へ向ひ細まり、全長に亘り覆瓦状を呈し、末端は鐮形を呈する。尾片は準圓錐状にして中部は縊れ、後半部に約3對の剛毛を生ずる。尾板は圓



く終り、若干の毛を生ずる。

(33) ミカンフタマダアブラ *Toxoptera aurantii* BOYER

原記述 *Aphis aurantii* BOYER, Ann. Soc. Ent. France, X, p. 178 (1841).

副記述 *Toxoptera aurantii* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 675 (1941).

異名記述 *Toxoptera citrifoliae* SHIRAKI, Agr. Exp. St. Formosa, spec. Rept. 8, 123 (1913).

本種は茶樹竝に柑橘樹に寄生し主に葉裏を侵害する種である。被害されたる葉は葉縁より巻き込まれて準圓筒状を呈するに至る事がある。本種の分布の北限は宮城縣の仙臺市であつて、同市浅岡墓所附近の茶樹は屢々本種の被害を見てゐる。

無翅胎生雌蟲

體は長卵状にして濃赤煉瓦褐色。頭部は黒色。複眼濃赤色。觸角は6節より成り、第三全節と第四・第五兩節の基半部とは黄綠色、残部は黒色である。第三節は最長片、第四節は第五節よりも長い。胸・腹の兩部は背面に黒色の斑紋を具へない。肢脚は脛節の中部が黄色なるを除けば概して黒色。角狀管は準圓筒状にして、全長に亘りて覆瓦状を呈し且つ黒色。尾片は中部縊れ3—4對の剛毛を生じ、全長に亘りて覆瓦状を呈し、黒色である。

體長 1.7 耗内外。

有翅胎生雌蟲

體は長卵状にして地色は煉瓦褐色。頭部は黒色。複眼は赤色。觸角は6節より成り體よりも短く、第四・第五兩節の基半部が黄色なるを除けば全長が



第 69 圖 ミカンフタマダアブラの有翅胎生雌蟲の觸角

黒色。第三節は6個内外の感覺器を有し、第四節は第五節よりも長い。胸部は背・腹兩板共に黒色。肢脚は普通にして、脛節の基部が黄色なるを除けば概して黒色である。翅は準透明にして脈と翅斑とは黒い。前翅の中脈は2枝を成すに過ぎず、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の斑紋がない。角狀管は準圓筒状にして、全長に亘り覆瓦状を呈し且つ黒色。尾片は準圓錐状にして中部は縊れ、黒色にして若干の毛を生じてゐる。

(34) キンミヅヒキフタマダアブラ *Toxoptera argimoniae* SHINJI

原記述 *Toxoptera argimoniae* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. XXXVI, p. 371 (1924).

副記述 *Toxoptera argimoniae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 683 (1941).

本種は初夏の候にはキンミヅヒキ *Argemonia Eupatria* L. var. *pilosa* MAKINO の生長端なる嫩葉裏に寄生し、寄生された葉は裏面へ向つて卷縮

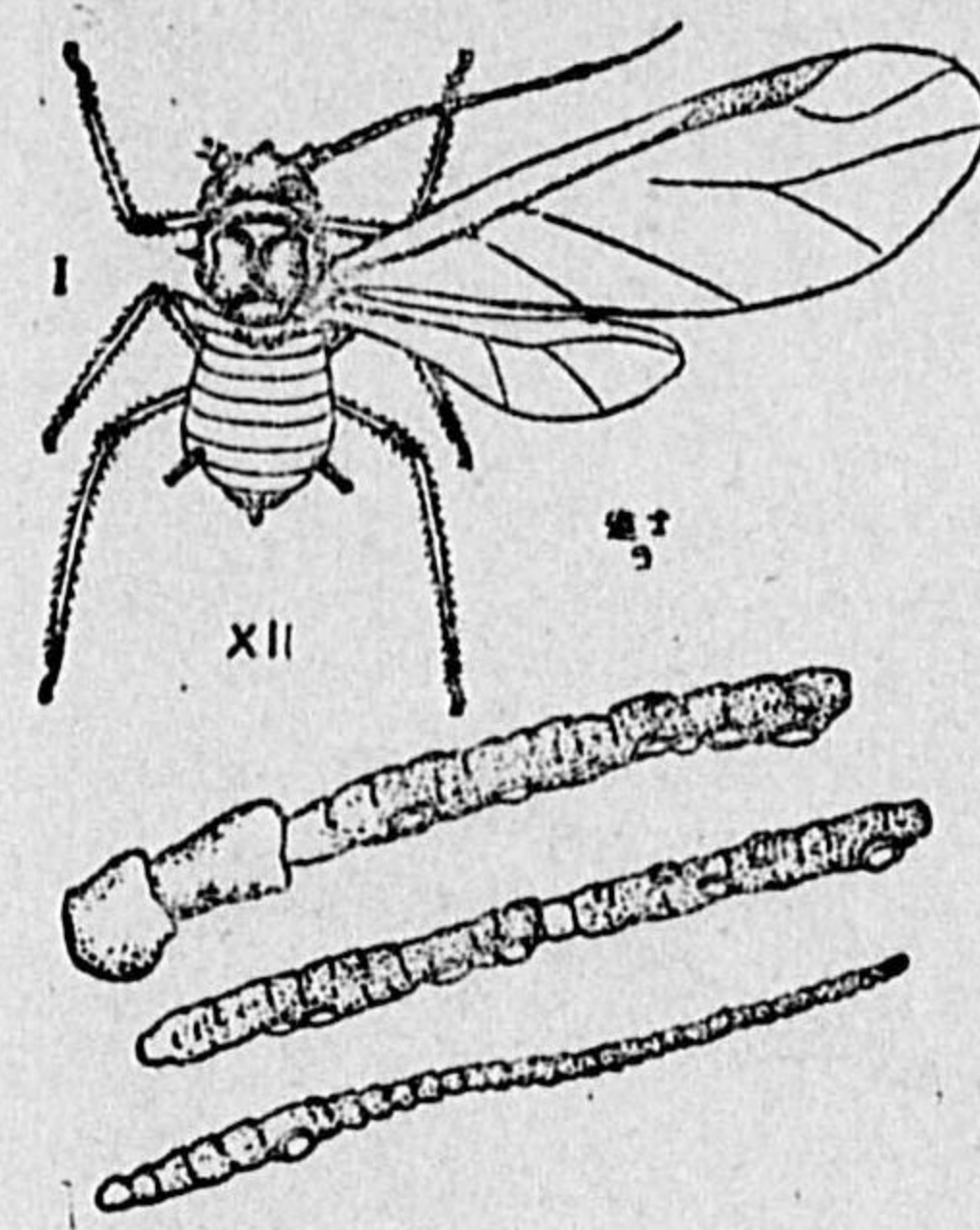
して偽瘻を爲すが秋季には古葉の裏面に多數寄生するが偽蟲瘻を營まない。

無翅胎生雌蟲

體は卵状で黄金色、觸角は5—6節より成り、第三節は第六(五)節に次ぐ長片、第六節の鞭狀部は基部の約2倍長ある。腹部の背面には黒色の斑紋が無い。角狀管は準圓筒状、尾片は準圓錐状で體と同色である。

有翅胎生雌蟲

體は小形で地色は黄色である。頭部は黒色、複眼は暗赤色。觸角は6節より成り全長に亘つて黒色である。第三節



第 70 圖  
キンミヅヒキフタマダアブラの  
有翅胎生雌蟲(上)と同觸角



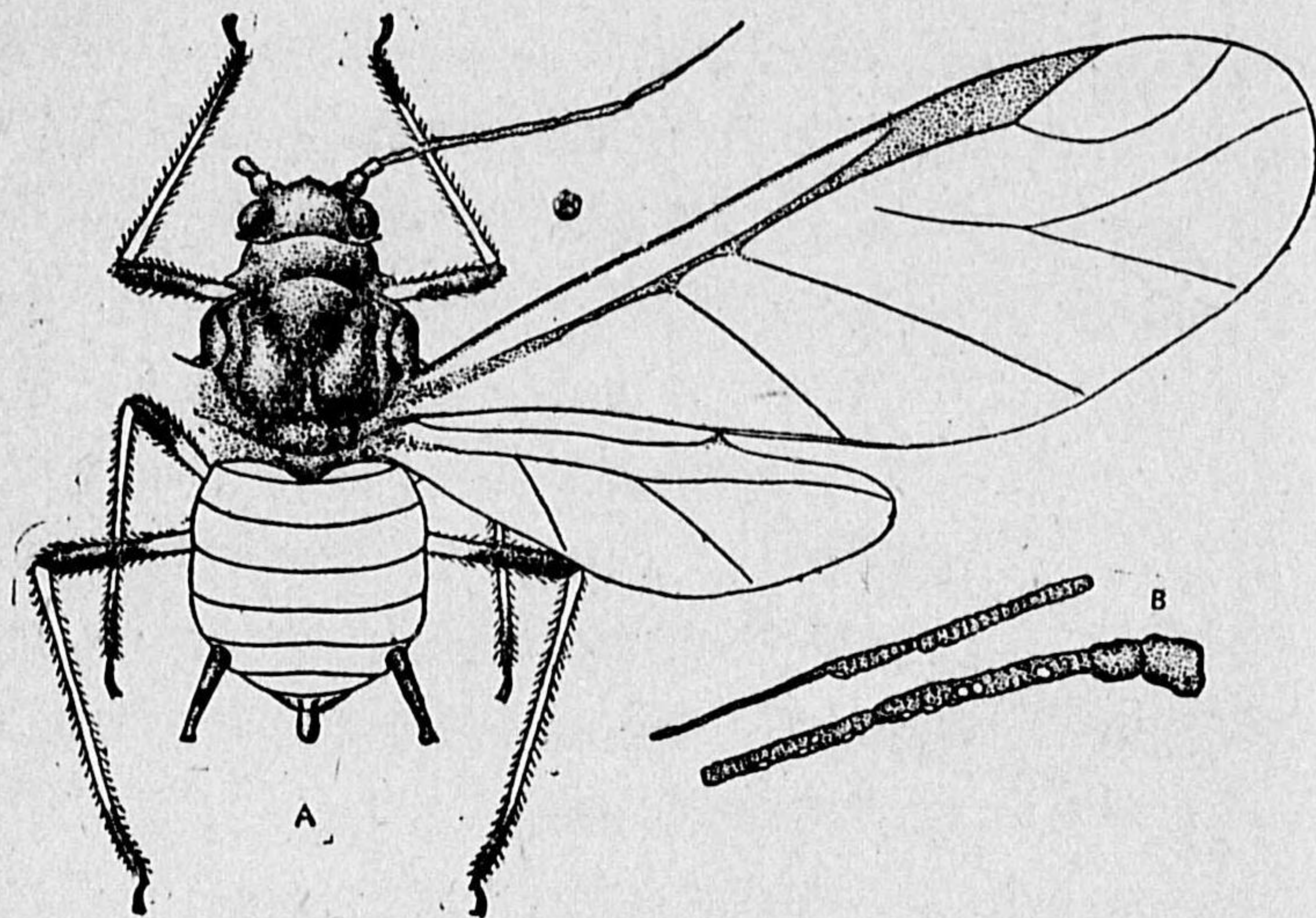
は鞭狀部に次ぐ長片で約 18 個の感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして約 6 個の圓狀感覺器を有し、第五節には 4 個の感覺器がある。胸部黒色。翅は準透明で脈は黒く、前翅の中脈は 1 回分岐して 2 枝を成してゐる。腹部は背面に黒色斑紋を缺いてゐる。角狀管は準圓筒狀で全黒、尾片は準圓錐狀で體と同色の黄色である。

(35) ナシフタマダアブラ (P. 168) *Toxoptera piricola* MATSUMURA

原記述 *Toxoptera piricola* MATSUMURA, Journ. Coll. Agri. Tohoku Imp. Univ., vol. VII, pt. 6, p. 414 (1917).

副原述 *Toxoptera piricola* HORI, Hokkaido Agri. Expt. St., Redt. no. 23 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 690 (1941).

本種はナシ(梨)特に西洋品種 *pyrus sp.* の生長端附近の嫩葉裏に寄生する



第 71 圖 ナシフタマダアブラ  
A 有翅胎生雌蟲 B 同觸角

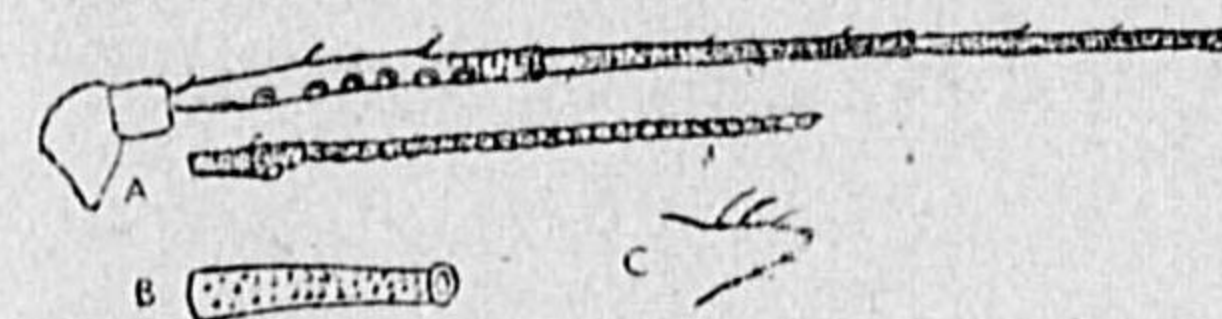
寄生された葉は半圓筒狀に裏面へ向つて捲縮する。]

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は長楕圓形で綠色又は暗褐色の 2 種の個體があるが何れも白粉を體表に着裝してゐる。觸角は 6 節より成り體よりも短く、第三節は最長片で第六節の鞭狀部と同長である。胸腹部には黒色の小斑紋があり、角狀管は準圓筒狀で全長に亘つて黒色である。尾片もまた黒色である。

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體は長卵狀で地色は煉瓦褐色乃至褐色で黒色斑紋を具へる。頭部は黒色、複眼は濃赤色。觸角は 6 節より成り、全長に亘りて黒色、第三節は第四第五兩節の和と約同長で 20 乃至 24 個の感覺器を具へ、第四節



第 72 圖  
ナシフタマダアブラ  
有翅胎生雌蟲の A 觸角 B 角狀管 C 尾片

は第五節よりも長くして約 7 個の感覺器を、第五節は約 4 個の感覺器を具へてゐる。腹部の背面には多數の黒色斑紋を具へてゐる。翅は準透明で前翅の中脈は 2 枝をなしてゐる。角狀管は準圓筒狀で黒く、尾片は準圓錐狀で黒色である。

トゲトゲアブラ(肉毛蚜)亞族 SUBTRIBE CERVAPHIDINA

體は長き肉質突起體を生じ、是は無翅蟲の場合に於て特に顯著である。觸角は 5 節より成りて體よりも短く、感覺器は小形の圓形乃至半月形である。前翅の中脈は 2 回分れて 3 枝を成し、後翅は中・肘の兩脈を具へてゐる。角狀管は短きは單孔、長きは體の半よりも長く、尾片は 1 様でない。

トゲトゲアブラ(肉毛蚜)屬 Genus *Tuberocarpus* SHINJI

體は長大なる肉質指狀突起體を多數生じ、指狀體の末端よりは剛毛が生じ



てゐる。觸角は5節より成り、體よりも遙かに短く、有翅個體の第三觸角節上に半月形の感覺板がある。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は輪狀にして無毛、尾片は2葉に分れ「八」字形を呈する。

(36) **オニグルミトゲトゲアブラ** *Tubercorpus onigurumi* SHINJI

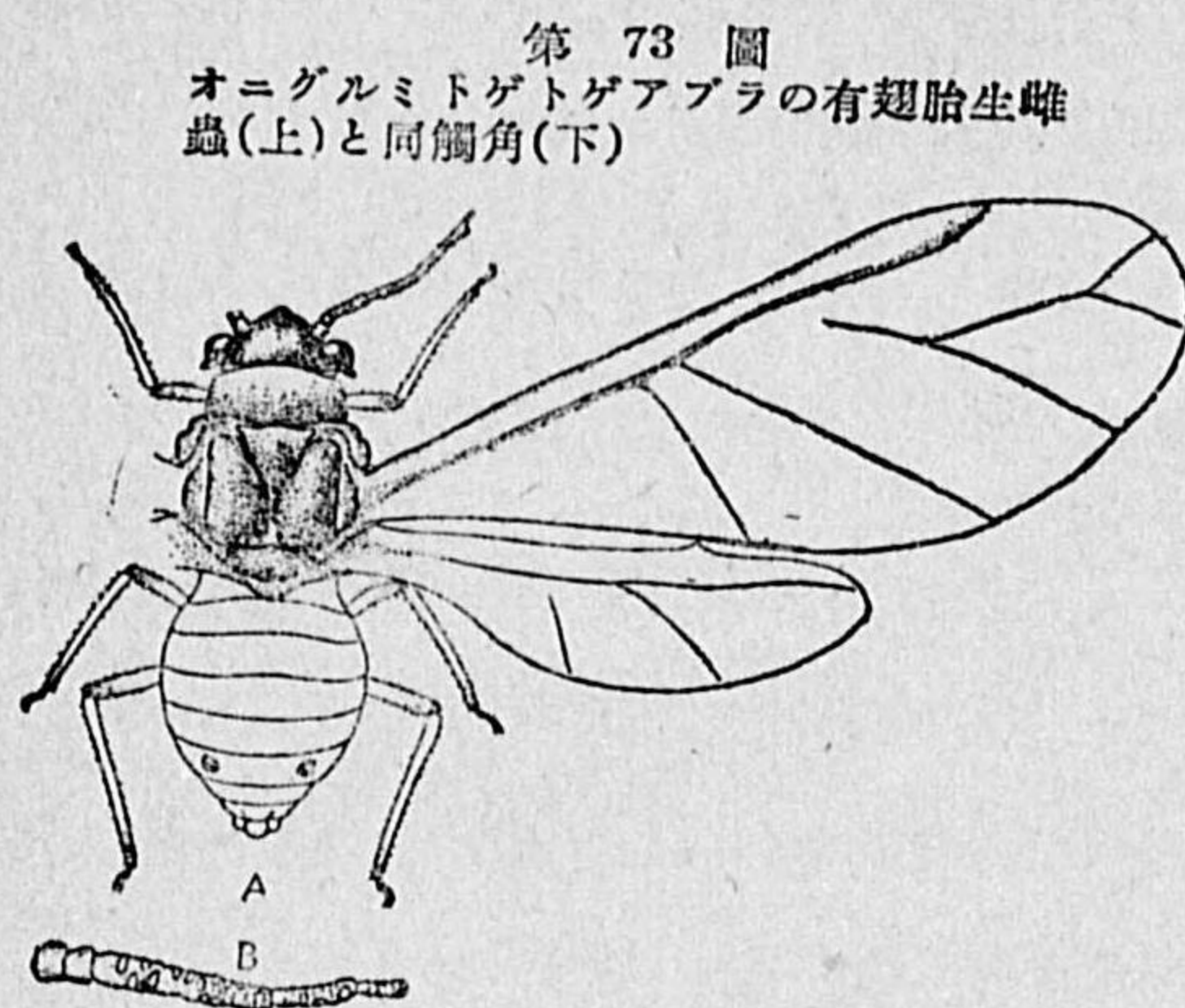
原記述 *Tubercorpus onigurumi* SHIN., Journ. Appl. Zool., IV, 3, p. 4 (1932).

副記述 *Tubercorpus onigurumi* SHIN., 日本蚜蟲總説, p. 702 (1941).

本種は「オニグルミ」の葉裏に寄生し、其の部を窪ませる。長野新潟以北岩手縣等に産する。

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は圓形乃至卵形で幾分扁平、概して黄色であるが、綠色の個體もある。體表よりは長き肉質の棘様突起體を多數生じてゐる。觸角は4節より成りて



短く、前脛節と約同長。肢脚は短小にして背面より見得られない。尾片は上尾板下に隠れ棘狀に尖つてゐる。尾板は深く2分せられてゐる。

體長 1 耗内外、觸角長 (III) 0.1 耗 (IV) 0.09 耗

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體甚だ小さく、淡綠色である。頭部は黑色、複眼は赤色にして同色の眼瘤が伴つてゐる。觸角は5節より成り全長に互つて黑色。第3節は最長片にして

第4、第5兩節の和と約同長且つ10箇内外の橢圓形感覺器を具へ、第4節は第5節よりも長くして5箇内外の感覺器を有する。肢脚は概して黑色であるが、脛節の中部は綠色。翅は準透明で、翅斑並に翅脈は黒く、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面は黑色の斑紋を缺き、角狀管は輪狀體で黑色、尾片は瘤狀をなし、體と同色。上尾板は尾片よりも小さく、黑色、尾板は八字形に2分されてゐる。

體長 1.9 耗、第三觸角節長 0.18 耗。

**ヒゲナガアブラ(長角蚜)亞族** SUBTRIBE MACROSIPHINA

額瘤は甚だ顯著。觸角は概して6節より成り、有翅蟲にありては殆んど體と同長乃至より以上長く、感覺器は準圓狀である。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅は概して中・肘の兩脈を具へてゐる。角狀管の大小形態は一様ならされ共、概して長く、尾片は準圓錐狀にして、後半部には3—4對の剛毛を生じ、尾板は圓く終り、多數の毛を生じてゐる。

**アミナシヒゲナガアブラ(無網長角蚜)屬**

Genus *Acyrthosiphum* MORDWILKO

額瘤は外方へ向ひ、觸角は6節より成り、有翅個體のもの後生感覺板は圓形である。翅は準透明、前翅の中脈は2回分れて3枝を成し、後翅には中肘の兩脈がある。角狀管は準圓筒形であるが、屢々中部が兩端部よりも細い例がある。尾片は準圓錐形である。

(37) **ヤマブキアミナシヒゲナガアブラ** *Acyrthosiphum kerriae* SHINJI

原記述 *Illinoia kerriae* SHINJI, Lansania, vol. II, no. II, no. 19, p. 137 (1930).

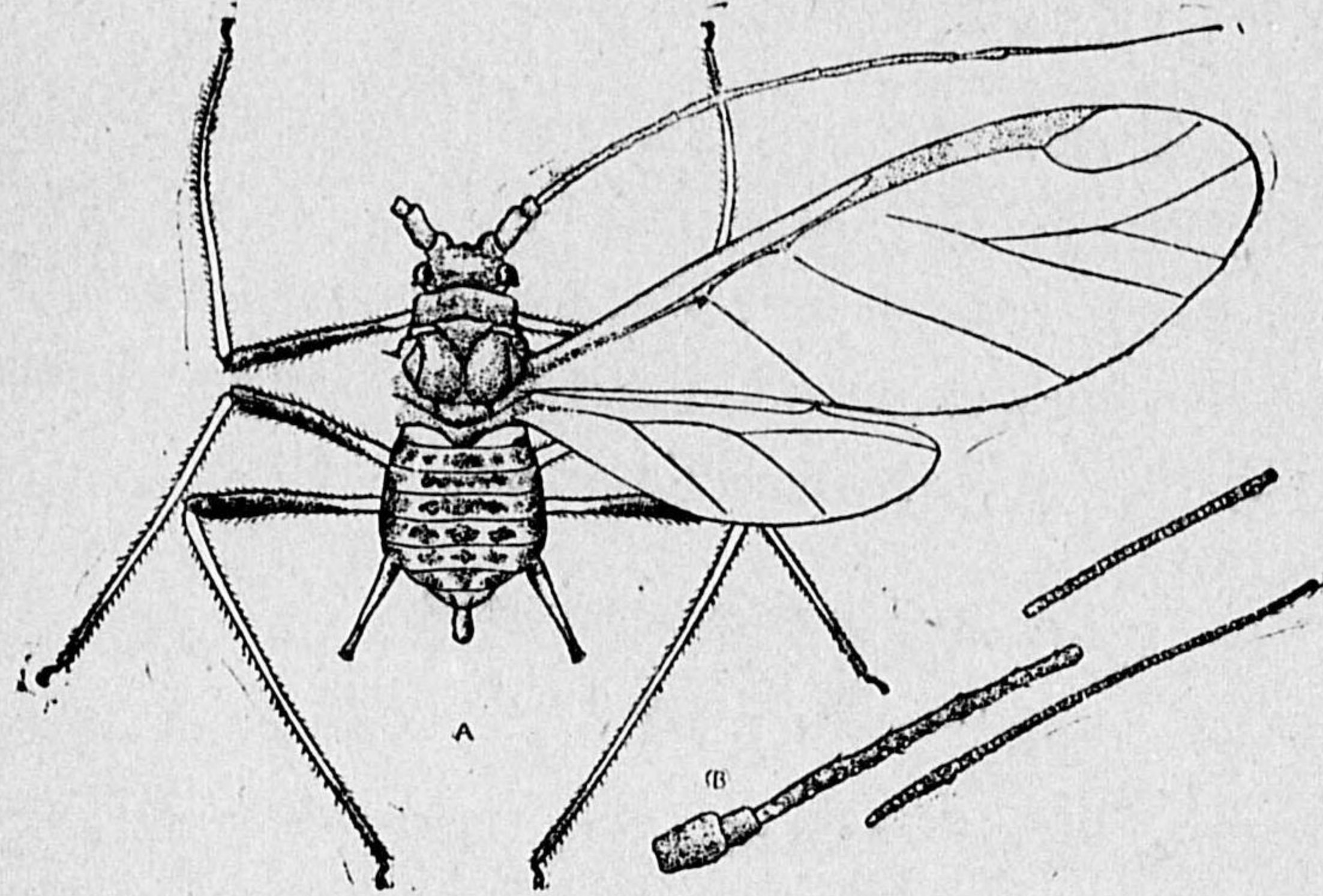


副記述 *Acyrtosiphum kerriae* 進士, 日本蚜蟲總說, p. 709 (1941).

ヤマブキ *Kerria japonica* DC. の葉裏に寄生し, 寄生部は少々老葉にありては黄色に變色するが, 嫩葉にありては捲縮して偽蟲瘻を造る。

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で寧ろ大形, 地色は黄金色で頭頂より尾端に至り體側に沿うて走る左右の2大黒色部域を有する。頭部は黄金色ではあるが兩縁部は黒色である。額瘤は顯著で黒色。複眼は眞紅色。觸角は6節より成りて體よりも長



第 74 圖 ヤマブキアミナシヒゲナガアブラ  
A 有翅胎生雌蟲 B 同觸角

く, 第三節の基半部は淡黄色, 殘部は黒色である。角狀管は準圓筒狀で尾片よりも長く, 全長に互り黒色である。尾片は長大で基半部は黄色, 後半部は黒色である。尾片はまた黒色である。

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體は黄色で黒斑を具へ, 頭部は黒色, 額瘤は顯著で黒色。複眼は暗赤色。

觸角は六節より成りて體よりも長く全長に互りて黒色, 第三節には約 40 個, 第四節には 9 個, 第五節には 15 個の圓狀感覺器がある。第六節の鞭狀部は基部の約 6 倍長ある。胸部は黒く翅脈は常規である。腹部の背面には横走黒色體がある。角狀管は準圓筒狀で黒色, 尾片また黒色である。

體長 2 耗内外, 翅長 4.2 耗内外。

(38) ヘクソカツラアミナシヒゲナガアブラ *Acyrtosiphum paederiae*  
TAKAHASHI

原記載 *Macrosiphum paederiae* TAK., *Aphid. formosa*, pt. 1, p. 11 (19-1).

異名記述 *Amphorophora paederiae* TAKAHASHI. *Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa*, XIX, p. 250 (1929).

*Acyrtosiphum paederiae* TAKAHASHI. *Aphid. Formosa*, pt. 6, p. 64 (1931), 進士, 蚜蟲總說, p. 706 (1941).

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして赤色乃至帶赤樺色である。頭部は概して, 木炭黒色, 複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴つてゐる。額瘤は顯著にして外方へ傾き黒色, 觸角は6節より成りて體よりも長く, 第一, 第二及び第六節の全長と第三—第五節の末端とは黒く殘餘の部分は灰白色である。第一節は第二節の約 2 倍大, 第二節は長幅約同大, 第三節は第五節に次ぐ長片にして 1—3 個の小圓形感覺器を具へ, 第四節は第五節よりも短く, 第六節の鞭狀部は基部の 4 倍以上に長い。

胸背は輪狀に黒く, 肢脚は基轉兩節の全長と腿脛兩節の後半部と附節と爪は黒く, 殘部は灰白色である。腹部は背面の中央が淡綠色, 殘部は淡綠色地に赤色を帯びてゐる, 各環節の背面には第六環節以後黒色帯が具つてゐる。角



狀管は準圓筒狀，末端は鑿狀でない，基半部は覆瓦狀，後半部は網狀を呈し，全長に亘り黒色である。尾片は角狀管よりも短く，準圓錐形にして黒色，約4對の剛毛を生じてゐる。尾板は薄黒い。

體長 1.8 耗，體幅 0.9 耗，

角狀管長 0.35 耗，尾片長 0.15 耗。

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體は長楕圓にして短毛を粗生し帯赤淡綠色である。頭部は幅長さに優り，黒色。額瘤は顯著にして外方へ傾き，黒色。觸角は6節より成りて體よりも長く，全長に亘り多數の毛を生じ黒色である。第六節の後半部以後，第六節に亘り黒色にして覆瓦狀を呈してゐる。第一節は第二節の約2倍大，第一節は長幅約同大，第三節は第六節に次ぐ長片にして6—8個の圓形なる感覺器を1列に具へ，第五節は第四節よりも短くして末端に近く1個の原生感覺器を具へてゐる。第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。胸部と肢脚とは薄黒乃至黒色。翅は準透明にして翅斑は黄褐色。前翅の中脈は3枝に分れ，後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は概して赤色を帯び，各節の背面には黒色の斑紋帯がある。角狀管は準圓筒狀なれども基部は末端よりも幅大，基半部は覆瓦狀を呈し，後半部は網狀であり，全長に亘り黒色である。尾片は準圓錐狀にして黒色，約3對の剛毛を生じてゐ，尾板は黒色である。

體長 1.7 耗，體幅 0.78 耗

觸角長(I) 0.10 (II) 0.07 (III) 0.65 (IV) 0.58 (V) 0.50 (VI)

基部 0.12 鞭狀部 0.67(耗) 角狀管長 0.32 耗，尾片長 0.15 耗

本種はヘクソカヅラの葉裏に寄生し，寄生された葉は其部が窪むと同時に1側の成長が阻止されて他方のみ成長し従つて歪形を呈するに至る。

フクレアブラ(膨槽蚜)屬 Genus *Amphorophora* BUCKTON

額瘤は顯著で外方へ向ひ，内側へ突出する事は無い。觸角は6節より成つて體よりも長く，感覺器は小形で且つ圓狀の窪であり，第六節の鞭狀部は第三節と同長以上に長い。前翅の中脈は3枝に分れ，後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準圓筒狀にして後半部は1側へ膨れてゐ，尾片は準圓錐狀に長い角狀管よりは短く，尾板は圓く終つてゐる。

(39)コブシフクレアブラ *Amphorophora magnoliae* ESSIG AND KUWANA

原記述 *Rhopalosiphum magnoliae* ESSIG et KUWANA, Proc. Cal. Acad. Sci. 4th ser., VIII, p. 59 (1918).

異名記述 *Rhopalosiphum sambuci* MATSUMURA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., VII, p. 9 (1918).

*Rhopalosiphum sambucicola* TAKAHASHI, Journ. Zool. XXX, p. 372 (1918).

*Amphorophora magnoliae* SHINJI, Bull. Col. Agr. et For. Morioka, XI, (1927); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 755 (1941).

本種は「コブシ」, 「ニハトコ」及び「ツルウメモドキ」に寄生し，屢々葉の卷縮を誘致する。

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で淡綠色であるが，頭部は黄褐色を帯び，頭頂は黒色である。額瘤は顯著で外方へ向ひ，黒色である。複眼は濃赤色，眼瘤もまた同色。觸角は6節より成り，第六節の全長と第三第四第五の3節の末端部とは黒色，他部は淡綠色である。胸・腹兩部は黒色を呈せず，角狀管は第四觸角節と約同長にして中部は膨れ，末端のみ黒く，殘部は體と同色である。尾片は準圓錐形で中部は幾分膨れ，全長に亘り體と同色である。

體長 2.6 耗，角狀管長 0.5 耗，尾片長 0.4 耗。

(ロ) 有翅胎生雌蟲



體は橙黄色にして幾分赤色味を具へてゐる。頭部は割合に小さく、額瘤は外方へ傾いてゐる。複眼は赤色で同色の眼瘤を伴ひ、口吻は辛じて後肢の基節に達し、基半部は綠色、後半部は黒色である。觸角は6節より成り、全長に亘り黒色にして覆瓦状を呈し、第三節は約20個の感覺器を具へ、第四節は第三節よりも短く第五節よりも長い。第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。肢脚は概して黒色であるが、基・轉兩節の全長と腿節の基部とは淡黄色である。腹部は背板に黒色の斑紋を具へ、角狀管は準圓筒狀にして末端部は黒色、基部は淡綠色である。尾片は割合に長く、4—5對の長毛を生じ黒色である。

體長 2.8 耗内外、前翅長 4.2 耗内外、角狀管長 0.6 耗、觸角節長 (III) 1.00 耗 (IV) 0.8 耗 (V) 0.7 耗 (VI) 基部 0.2 耗 (VI) 鞭狀部 1.00 耗。

**クギケアブラ(釘毛蚜)屬 Genus Capitophorus VAN DER GOOT**

頭部の額瘤は顯著、體には釘形の剛毛を生じてゐる。觸角は6節より成り第一、第二の兩節には釘毛が生じてゐる。翅は準透明にして、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある、角狀管は準圓筒狀にして、稍細いが網状を呈する事はない。尾片は短くして圓錐形である。

(40) **タデクギケアブラ** *Capitophorus hippophaes* KOCH.

原記述 *Rhopalosiphum hippophaes* KOCH, Die Pflanzenlaus, p. 23 (1852).

副記述 *Capitophorus hippophaes* VAN DER GOOT, Beitr. Kenntn. Holland Blattl. p. 122 (1915); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 786 (1911).

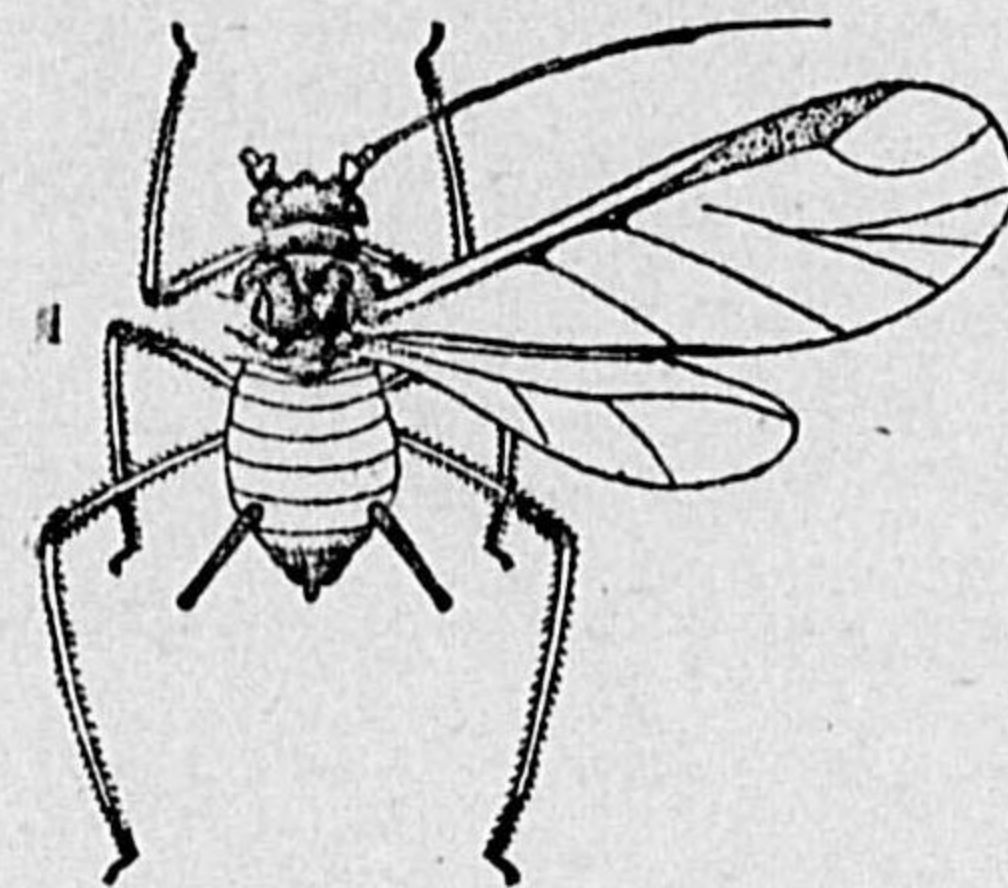
本種は夏季にはアキ *Polygonum tinctorium* LOUR. 及びサクラタデ

*P. japonicum* MEISU. に寄生し、晩秋の候にグミ *Elaeagnus pungens* THUNB. E. spp. に轉移して雄蟲と産卵性雌蟲とを生じ、次で夏グミ上に産卵せられ、此所謂冬卵は春期嫩葉の開舒と共に孵化し出て葉裏に寄生する。寄生された葉は葉筋とは直角に横に捲縮し且つ幾分肥厚する。夏季宿主のタデ葉上には此種偽蟲癭を營まない。

無翅胎生雌蟲

體は綠色で顯著な有頭(釘形)剛毛を生じてゐる。頭部は黒色を呈しない。

第 75 圖  
タデクギケアブラの有翅胎生雌蟲(上)と同觸角(下)



少數の釘形剛毛は顯著である。額瘤は顯著で1, 2の剛毛を生じ内方へ突出してゐる。口吻は末端のみが黒色、複眼及び眼瘤は赤色である。胸・腹兩部の背面には黒色部が無い。觸角は體よりも長く、6節より成り、第五第六兩節の末端と第六節の中部とは黒く、殘餘の部域は淡綠色である。第三節は第四節よりも長く、

第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長ある。角狀管は準圓筒狀で末端に近く幾分膨れ、黒色部を具へない。尾片は準圓錐狀で黒色でない。

有翅胎生雌蟲

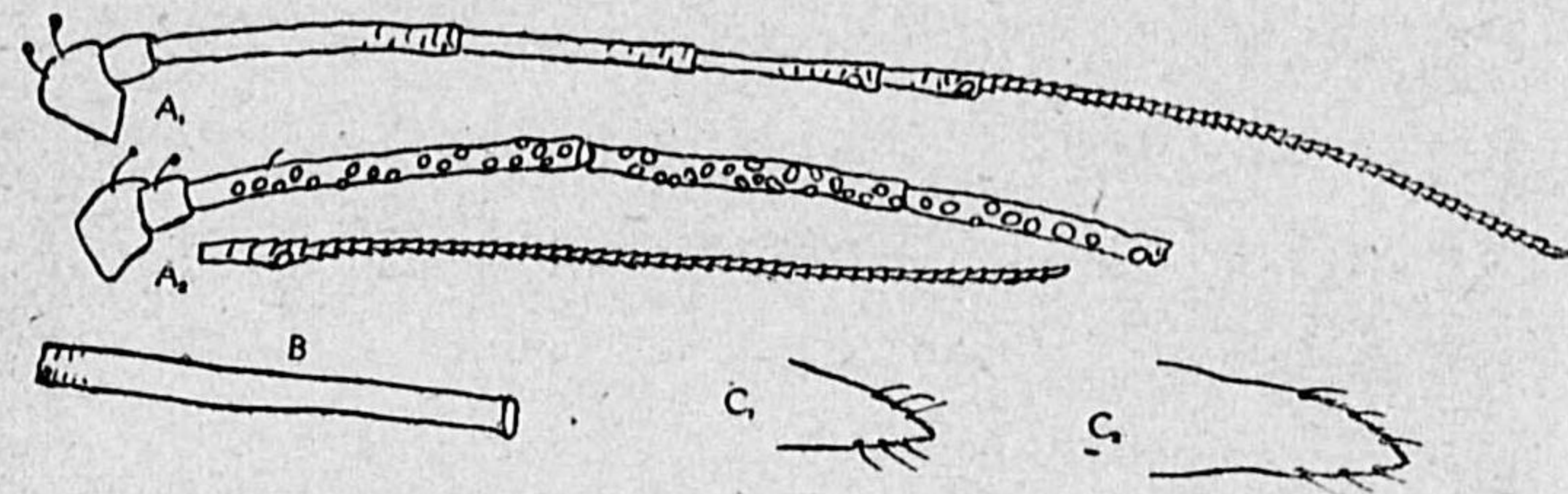
體は少數の釘形剛毛を生じてゐるが特に尾端附近のものが顯著である。頭部は黒色で少數の釘形剛毛を生じてゐる。額瘤は顯著で其内側端は瘤狀の突起體を有してゐる。口吻は中肢を越して伸び先端は黒い。複眼は濃赤色で眼瘤もまた同色。觸角は體よりも長く、6節より成り第三乃至第六節は黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片で約30個の小圓感覺器を具へ、第四節は第五節よりも幾分長くて約12個の感覺器を具へ、第五節は第六節の基部の



約2倍長で3—5個の感覺器を具へてゐ、第六節の鞭狀部は基部の約6倍長ある。胸部は黒色。翅は準透明で翅斑と脈とは薄黒い。前翅の中脈は3枝を成し後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は細長く、背面には黒色の斑紋がある。角狀管は準圓筒狀で後半部は幾分膨れ且つ黒色である。尾片は準圓錐狀で黒色。尾板は圓く終つてゐる。

體長 1.5 耗内外, 翅長 2.9 耗内外, 角狀管長 0.39 耗内外。

第 76 圖 マデクギケアブラの觸角 A, 角狀管 B, 尾片 C  
A<sub>1</sub>BC<sub>1</sub> 無翅胎生雌蟲 A<sub>2</sub>C<sub>2</sub> 有翅胎生雌蟲



ヒメヒゲナガアブラ (姫長角蚜) 屬 Genus *Macrosiphoniella* DEL GUERCIO

額瘤は顯著にして外方へ向ひ、觸角は6節より成りて長く、小形圓形の感覺器を具へてゐる。前翅の中脈は分れて3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は短大にして尾片よりあまり長からず、後半部は網狀を呈し、尾片は長大にして基部に於ける縊れ方は甚だしくない。尾板は圓く終つてゐる。本邦に7種産する。

(41) アヲヒメヒゲナガアブラ *Macrosiphoniella yomogifoliae* SHINJI

原記述 *Macrosiphum yomogifoliae* SHIN. 動物學雜誌, XXXIV, p. 788 (1922).

副記述 *Macrosiphoniella yomogifoliae* TAKAHASHI, Aphid. Formosa,

pt. 4: Dept. Agri. Gov. Res. Inst., Rept. 53, p. 61 (1931); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 810—814 (1941).

本種は蓬の成長端に近い部分の莖竝に葉に寄生し、葉の場合には之を甚だしく卷縮せしめる。

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして綠色、一般には白粉を裝着してゐて白色味を添へてゐる。複眼は濃赤色、額瘤は外方へ傾斜し、黒色である。觸角は6節より成り、體よりも幾分長い。第三節は基半部は綠色にして2—8個の感覺器を1列に具へ、第六節の鞭狀部は基部の約6倍長ある。胸・腹兩部は背面に黒色の斑紋を具へてゐる。角狀管は尾片よりも幾分短く、長さは幅の約4倍長、後半部乃至3分の1域は網狀を呈し、殘部は覆瓦狀を呈してゐる。全長に亘り黒色である。尾片は黒色にして10對内外の長毛を生じ、尾板は黒色である。

體長 1.8 耗内外, 角狀管長 0.09 耗, 尾片長 0.09 耗

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體は綠色にして白粉を裝着してゐる。頭部は黒色。額瘤は顯著にして外方へ傾き、黒色。複眼は赤色にして同色の眼瘤を伴ひ、單眼3個の周縁は赤色味を帯びてゐる。觸角は6節より成りて體よりも長く、全長に亘り黒色、第三節の末端以後は覆瓦狀を呈してゐる。第三節は第六節に次で長く16—20個の圓形なる感覺器を有し、第五節は第四節よりも僅かに短く、第六節の鞭狀部は基部の4倍以上に長い。胸部は黒色。翅は準透明にして脈と翅斑とは黒色を帯び、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈が存する。腹部は背面に黒色の斑紋を有し、角狀管は準圓筒狀にして基部と末端とは幾分膨れ、全長に亘り黒色にして基半部は覆瓦狀、後半部は網狀を呈してゐる。尾片は黒色にして5對内外の長毛を生じてゐる。

體長 1.7 耗内外。



ヒゲナガアブラ(長角蚜)属 Genus *Macrosiphum* PASSERINI

體は大形にして體毛を生じ、額瘤は顯著にして内側端は外方へ傾き、觸角は6節より成つて準圓狀の感覺器を具へ、第六節の鞭狀部は基部の數倍長ある。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準圓筒狀にして長く、或例にありて德利狀を呈してゐる。尾片は準圓錐狀にして3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終つてゐる。

(42) ヤマバウシヒゲナガアブラ *Macrosiphum cornifoliae* SHIN.

原記述 *Macrosiphum cornifoliae* SHIN., Journ. Zool. XXXVI, p. 362 (1924).

副記述 *Mac. cornifoliae* SHIN., Bull. Morioka Coll. Agri. and Forest. XI, p. 63 (1927); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 827—831 (1941).

「ヤマバウシ」*Cornus Kousa* Buerg. の葉裏に寄生して葉を裏面へ卷縮せしめて、或は杯狀を呈せしめ或は不規則な形態を呈せしめる種である。我國の東北地方に特に普通なる種である。

## 無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして淡綠色乃至灰白色。額瘤は顯著にして其内側端は外方へ傾いてゐる。口吻は中肢を越して伸び、末端のみ黒色である。複眼は赤色。觸角は6節より成りて體よりも長く、第三節の基半部は體と同色、殘部は黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片、第四・第五の兩節は約同長である。胸・腹兩部は黒色ならず、黒色の斑紋をも有しない。肢脚は長さ中庸にして、跗節と爪とのみ黒く、他部は綠色である。角狀管は準圓筒狀にして綠色若しくは幾分薄黒い。尾片は準圓錐狀にして中部は縊れ、後半部には約3對の剛毛を生じ、體と同色である。體長 2.15 耗。

## 有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形にして、地色は淡綠色。頭部は黒色。額瘤は顯著にして内側端は外方へ傾いてゐる。複眼は暗赤色。口吻は後肢の基節窩に達し、末端は黒色。觸角は6節より成りて體よりも遙かに長く、6—10個の圓狀感覺器を1列に具へ、第四・第五の兩節は約同長にして、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。胸部は薄黒く、肢脚は短毛を生じ、脛節の基半部は綠色、殘部は黒色である。翅は準透明にして脈と翅斑とは薄黒く、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色部が無い。角狀管は準圓筒狀にして末端近くは網狀を呈し、全長に互り綠色である。尾片及尾板は綠色である。體長 1.8 耗, 前翅長 3.4 耗内外。

(43) ハシバミヒゲナガアブラ *Macrosiphum corylicola* SHINJI.

原記述 *Mac. corylicola* SHIN. *Lansania* II, 12, p. 27 (1930).

副記述 *Mac. corylicola* SHIN. 日本蚜蟲總説, p. 831—835 (1941).

本種は「ハシバミ」*corylus heterophylla* FISCH の枝梢部なる幼葉裏に寄生して葉の卷縮を誘致すれども被害状態は一般に甚しくはない。

## 無翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして綠色、屢々白粉を裝着する。頭部は薄黒く、3, 4個の長毛を生じ、額瘤は顯著である。複眼は濃赤色。觸角は6節より成つて體よりも長く全長に互りて黒色、第三節は前腿節よりも長くして基半部には8個内外の小圓狀感覺器を具へてゐる。第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。胸・腹の兩部は背面に黒色の斑紋を具へない。角狀管は準圓筒狀にして前腿節と約同長、全長に互り黒色にして末端近くは網狀、殘部は覆瓦狀を呈してゐる。

尾片及尾板は綠色である。

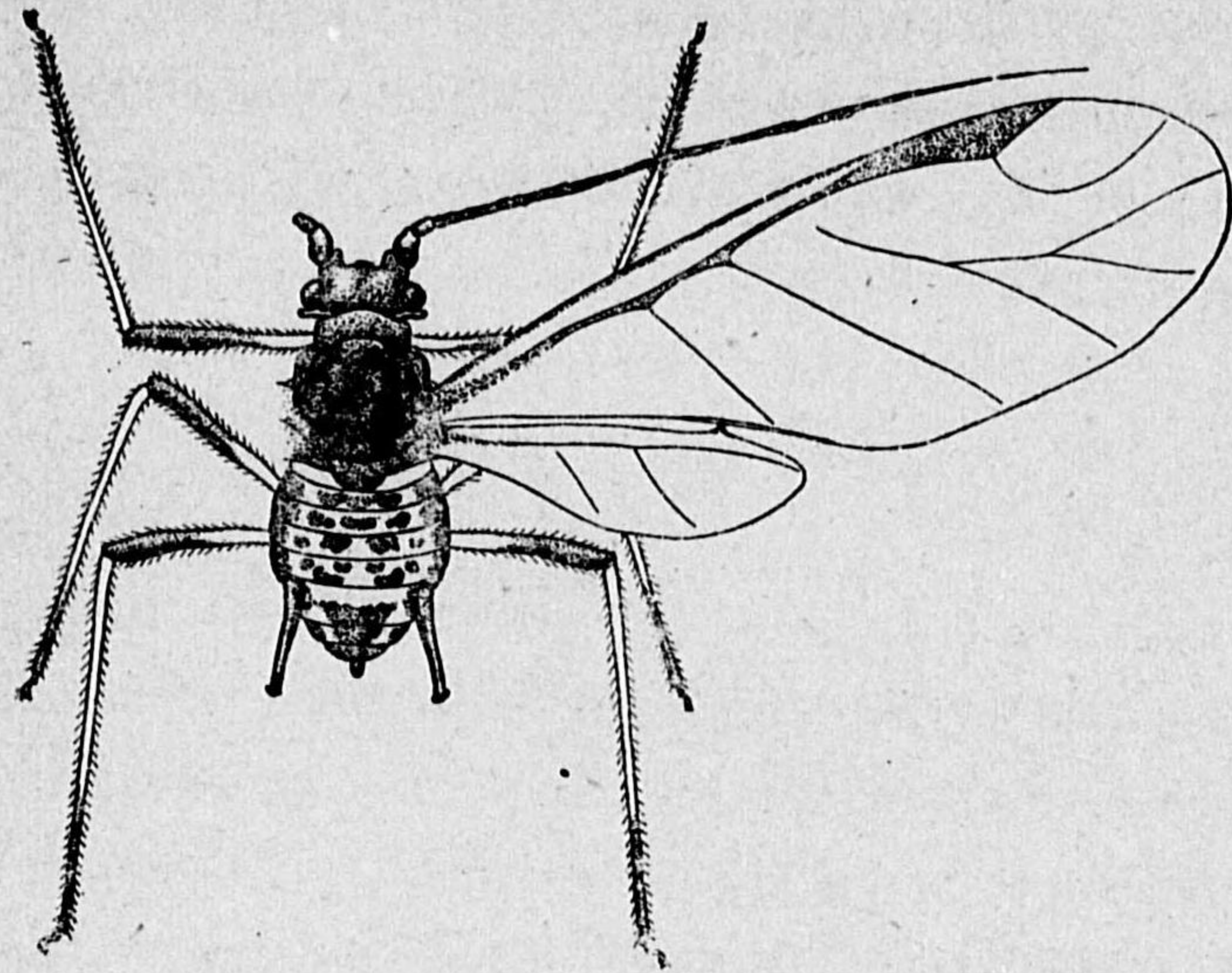


體長 2.1

## 有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形にして地色は綠色。頭部は黑色、額瘤は顯著にして黑色。觸

第 77 圖。ハシバミヒゲナガアブラの有翅胎生雌蟲



角は6節より成りて體よりも甚しく長く、黑色である。第三節は第六節に次ぐ長片にして18個内外の準圓狀感覺器を具へ、第五第六の兩節は約同長、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。胸部は黑色。翅は透明にして脈と翅斑とは黑色、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。肢脚は頑丈にして基・轉兩節竝に腿節の基本部は綠色、殘部と殘節とは黑色である。角狀管は準圓筒狀にして尾片よりも長く、末端へ向ひて細まり、全長に亘り黑色にして櫛して網狀を呈してゐる。尾片は長大にして中部が縮小、後半部には3對内外の剛毛が生じてゐる。體と同色である。

體長 2.3 前翅長 3.1 耗、觸角長 4.4 耗。

## コブアブラ (瘰蚜) 屬 Genus Myzus

體は中形にして普通毛を生じ、額瘤は顯著にして、瘤狀をなし、其内側端が突出してゐる。觸角は6節よりなり、第六節の鞭狀部は基部の2倍以上長く、第五節及び第三節上の感覺器は準圓狀で、各節ともに覆瓦狀を呈する。前翅の中脈は2回分枝して3枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準圓狀で、覆瓦狀を呈し基部より末端へと細まる。尾片は圓錐狀で中部は縮れず、約3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終り、若干の毛を生じてゐる。

(4) ヨメナコブアブラ *Myzus asteriae* SHINJI

原記述 *Myzus asteriae* 進士, 日本蚜蟲總說 p. 905—908 (1941).

本種は最近拙著日本産蚜蟲總說, 昭和十六年發行第905頁で新種として發表したものである。南は九州から北は青森縣に亘つて各地に普通な種である。一般にヨメナ *Aster indica* の生長端部の嫩葉に寄生する。本種の寄生を受けた葉は表面を内側にして縦に捲縮し且つ蟲體の體下となる部分は幾分かは裏面へ膨出し従つて縮んでくるものである。尚ほ多くの場合には生長端部の葉は皆悉く密觸するものであるから、本種に寄生されて居る草は他のものと一目して識別され得るものである。6月から10月中旬頃まで常にヨメナにのみ寄生してゐるが、採集の絶好期は4月である。

## (イ) 無翅胎生雌蟲

體は灰白色乃至淡綠色である。

## (ロ) 有翅胎生雌蟲

體の地色は淡綠色乃至灰白色である。頭部は薄黒く、額瘤は顯著にして其内側端は内方へ瘤狀をなして突出してゐる。觸角は6節より成り、體よりも



幾分長く、全長に互り概して薄黒く、第三節は第六節に次ぐ長片で 10 個の小圓感觸器を 1 列に具へ、他の節には後生感覺器は無い。胸部は薄黒く、翅は準透明にして脈と翅斑とは薄黒い。前翅の中脈は 3 枝に分れ、後翅には中肘の兩脈がある。角狀管は準圓筒狀で膨大せず、概して薄黒い。尾片は準圓錐狀で概して薄黒い。

體長 1.7 耗内外、翅長 2.2 耗内外。

(45) クサノウウコブアブラ *Myzus chelidonii* (KALTENBACH)

原記述 *Aphis chelidonii* KALT., Pflanzenl. p. 46 (1843).

改稱記述 *Muzus chelidonii* THEBALD, Plant lice Brit. 1, p. 346 (1926).

副記述 *Mygus chelidonii* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 910—913 (1941).

之亦クサノウウ *Chelidonium majus* LINNE にのみ寄生するコブアブラで汎く歐亞の諸國に産し我が國では本州・四國・九州及び北海道に分布して居る。主に成長端部に近き嫩葉裏に寄生するが比較的古い葉裡にも寄生する例がある。嫩葉裡に寄生した場合には葉は裏面へ向つて捲縮して偽蟲癭をなすものである。

體長 1.9 耗内外。

(イ) 有翅胎生雌蟲

體は長橢圓で地色は淡綠色である。頭部は薄黒く、額瘤は顯著で其内側端は瘤狀をなし内側へ傾いてゐる。複眼は顯著で暗赤色、同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は 6 節より成りて體よりも長く、第五、第六の兩節は黑色である。第三節は第六節に次ぐ長片で數本の短毛と 16 乃至 18 個の圓狀感覺器とを具へ、第四節は第五節よりも遙かに長くして感覺器を缺き、第六節の鞭狀部は基部の約 6 倍長である。胸部は黑色を帯びてゐる。肢脚は長さ中庸で腿節と脛節との基半部は黄色、殘部は黑色である。翅は準透明で脈と翅斑とは薄

く、前翅の中脈は 3 枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黑色の斑紋を缺いてゐる。角狀管は長くして尾片の末端を越して伸び、準圓筒狀にして、基部に於ける幅は末端に於ける幅の約 2 倍大である。末端近くのみが黑色である。尾片は準圓錐狀で約 3 對の長毛を生じ、概して體と同色である。

(46) サンザシコブアブラ *Myzus crataegifoliae* (SHINJI)

原記述 *Aphis crataegifoliae* SHINJI, Journ. Zool., XXXIV, p. 794 (1922).

副記述 進士, 日本蚜蟲總説, p. 917—918 (1941).

「サンザシ」の葉裏に寄生し、葉を卷縮せしめる種である。著者は嘗て九州都城市外で採集した事がある。

(イ) 有翅胎生雌蟲

體は長橢圓形にして地色は綠色である。頭部は黑色、額瘤は顯著にして黑色。觸角は體と約同長にして全長に互り黑色、第三節は第六節の鞭狀部よりも短くして 24 個内外の準圓狀感覺器を具へ、第五節は第四節よりも短くして 1—2 個の感覺器を具へ、第六節の鞭狀部は基部の約 3 倍長である。胸部は黑色。肢脚は脛節の中部が綠色、他は概して黑色を帯びてゐる。翅は準透明にして脈と翅斑とは暗褐色。前翅の中脈は 3 枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は背面に黑色の斑紋を具へ、角狀管は準圓筒狀にして覆瓦狀を呈し、黑色。尾片は準圓錐狀にして薄黒く、約 3 對の剛毛を生じてゐる。尾板は薄黒い。體長 1 耗内外、前翅長 2 耗内外。

(47) ツリフネサウコブアブラ *Myzus impatiensae* (SHINJI)

原記述 *Aphis impatiensae* SHINJI, Journ. Zool., XXXVI, 431, p. 355



(1924).

副記述 *Myzus impatiensae* Monzen, Saito Hō-on Kai Monog., 1, p. 66 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 924—927 (1941).

本種は「ツリフネサウ」及び「キツリフネサウ」の葉に寄生して葉縁を巻き且つ肥厚せしめて舟形の蟲癭を形成する。夏季宿主なく、10月10日前後に産卵性雌蟲と雄蟲とが現はれ、冬卵は「ツリフネサウ」の根部に産せられる。

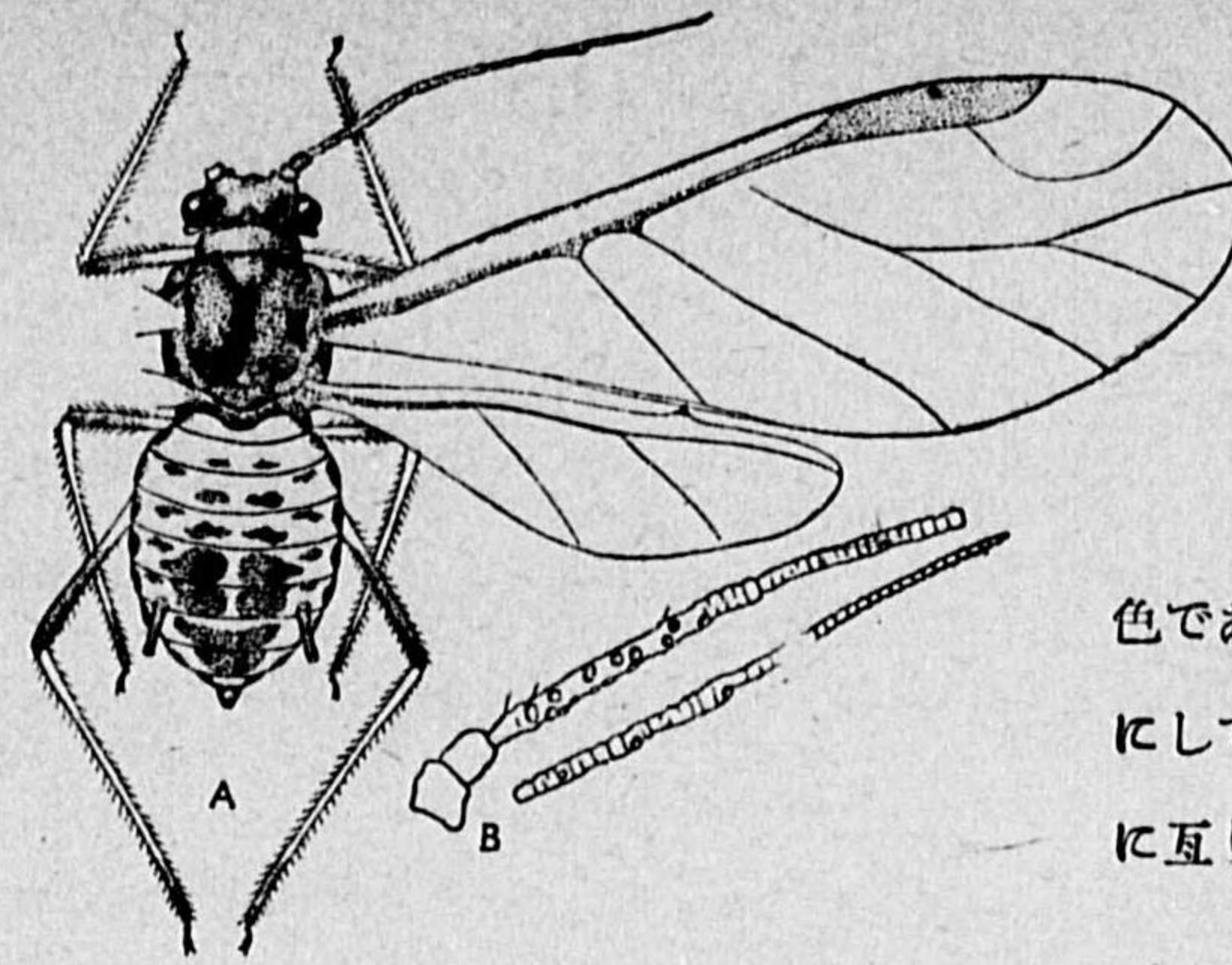
## (イ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして綠・黄・橙・赤・紅の各個體が混棲するが、之等の地色は酒精標本では脱色してゐる。頭・胸の兩部は何れも黒色の斑紋を缺いてゐる。額瘤は顯著で内側へ傾いてゐる。觸角は6節より成り體よりも幾分短い。第三節は第六節に次ぐ長片で、第五節は第四節よりも長く、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。腹部には背面各環節毎に約4個の黒褐角質の小板があり之等からは各1—數個の剛毛が生じてゐる。管狀管は短小で準圓筒狀、全長に亘つて覆瓦狀で且黒色である。尾片は準圓錐形で甚しく縊れず、黒色。尾板は黒くして圓く終つてゐる。

體長 2 耗内外, 角狀管長 0.15 耗内外。

## (ロ) 有翅胎生雌蟲

體は一般に橙黄色なるが多いが、赤色なるもの乃至綠色のものも生ずる。頭部は黒色、額瘤は顯著にして黒色である。觸角は6節より成り、全長に亘り黒色、第三節は第四第五の何れよりも長くして20箇内外の圓狀感覺器を不正齊に具へ、第四節は第五節よりも長くして5箇内外の感覺器を具へ、第六節の鞭狀部は基部の約4倍長である。複眼は濃赤色である。胸部は黒色。腹部の背面には多數の黒色斑紋と同色の斑點とが散在してゐる。肢脚は細長にして腿節の基部と脛節の末端部を除く大部分とは黄色、殘部は概して黒色である。翅は準透明にして脈は黄褐色。前翅の中脈は3枝に岐れ、後翅には中



第 78 圖 ツリフネサウコブアブラ  
A 有翅胎生雌蟲 B 同觸角

肘の兩脈がある。角狀管は準截斷型にして覆瓦狀を呈し、全長に亘り黒色である。尾片は準圓錐形にして甚しく縊れず、全長に亘り黒色である。

體長 1.7 耗 翅長 3.5 耗内外, 觸角各

節の比は (III) 0.37 (IV) 0.30 (V) 0.19 (VI) 0.12+0.55

(48) イヌザクラコブアブラ *Myzus inuzakurae* SHINJI

原記述 *Myzus inuzakurae* SHIN., Lansania I, p. 19 (1930.)

副記述 *Myzus inuzakurae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 927 (1941).

イヌザクラ *Prunus Bergeriana* MIQ. の外に椿の葉裏にも寄生するが、蟲癭はイヌザクラの葉にのみ出来る。

蟲癭 6月初旬から7月下旬に亘つて見られる。紅色乃至黄灰色で長さ2—3種、幅6—8耗、葉縁が2重に折れ重なり且つ甚しく肥厚して準鶏冠狀を呈したものであるが、普通の櫻樹に生ずる鶏冠狀蟲癭と異つて癭軸は葉軸と殆んど直角の方向をとつてゐる。

幹母 本蟲の幹母は帶濃青綠色で、尾片は準圓錐狀で短小、一般に黒色味を帯び3對の長毛を生じてゐる、角狀管は黒色で比較的短小、屢々數個の剛毛を生じてゐる。

## (イ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀乃至橢圓形にして、橙・樺・黄乃至之等の地色に赤色味を加味せる



個體がある。頭部は黒色を呈せず、額瘤は顯著にして内方へ傾き、口吻は後肢の基節窩に達せず、末端のみ黒色。觸角は體の約半長にして6節より成り、第6節は全長に互り黒色、残部は綠色である。第三節は第四第五の何れよりも長い。胸・腹兩部は共に背面には黒色部を具へず、肢脚は割合に短く、腿脛兩節の基部は體と同色、残部は黒色である。角狀管は準圓筒狀にして第五觸角節の約2倍長あり、全長に互り覆瓦狀を呈し、黒色である。尾片は圓錐狀にして黒色である。

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして若干の毛を生じ、地色は淡橙黄色にして背面には黒色の斑紋を具へてゐる。頭部は黒色。額瘤は顯著にして内側端は瘤狀を呈して突出してゐる。口吻は概ね中肢の基節窩に達し全長に互りて黒色である。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴ひ、觸角は6節より成りて體よりも長く全長に互り黒色である。第一節は第二節の約1倍半大、第二節は幅よりも幾分長く、第三節は第六節に次ぐ長片にして2-4個の小形で且つ圓形之感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭狀部は基部の5倍長ある。胸部は黒色。肢脚は常規。翅は準透明にして脈と翅斑とは濃褐色である。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の斑紋があり、角狀管は準圓筒狀にして基部より末端へ向ひ細くなり、全長に互り覆瓦狀を呈し且つ黒色。尾片は準圓錐形にして殆んど縦れず、全長に互り黒色である。

體長 1.3 耗内外、翅長 2.2 耗内外。

(49) リンゴコブアブラ *Myzus malisuctus* MATSUMURA

記述 *Myzus malisuctus* MATSUMURA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. VII, p. 16 (1918).

副記述 *Myzus malisuctus* HORI, Hokkaido Agri. Exp. St. Rept., 23, p. 91 (1929).

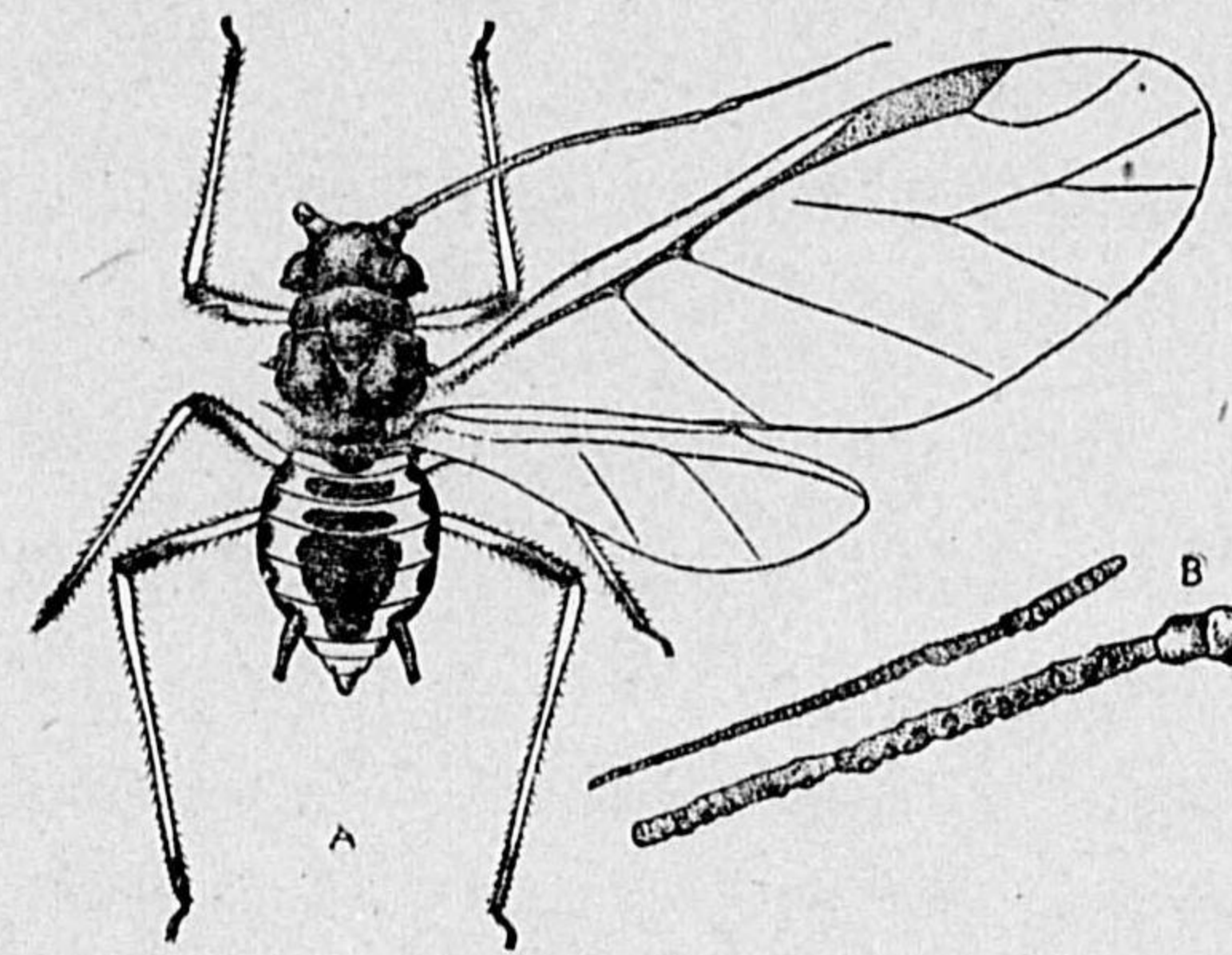
*Myzus malisuctus*, 進士, 日本蚜蟲總説, p. 939-942 (1941).

「リンゴ」 *Pirus Malus* L. var. *tomentosa* KOCH.の梢端部なる嫩葉に寄生して葉を葉裏へ向け縦に卷縮せしめる種である。夏季宿主なく、10月中旬には雄蟲と産卵性雌蟲とが生じ、次で無翅の産卵性雌蟲は芽蕾部へ冬卵を産する。北海道及東北地方に普通である。

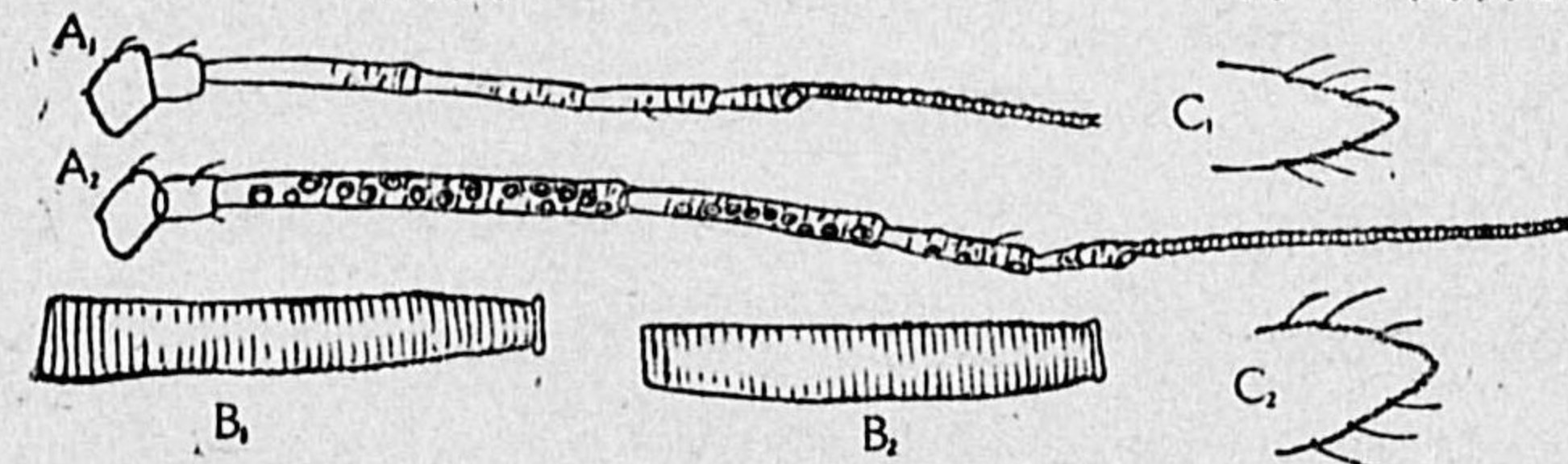
(イ) 有翅胎生雌蟲

體は長卵狀で黒色である。頭部は黒色、額瘤は顯著にして其内側端は内方へ傾き瘤狀をなして突出し黒色である。口吻は中肢の基節窩に達し概して黒

色である。複眼は顯著にして濃赤色、殆んど黒色に近く、同色の眼瘤を伴つてゐる。單眼3個の周縁もまた赤色味を帯びてゐる。觸角は6節より全長に互り黒色。第三節は第六節に次ぐ長片で22個内外の準圓狀感覺器を不



第 79 圖 リンゴコブアブラのA有翅胎生雌蟲 B同觸角



第 80 圖 リンゴコブアブラのA觸角B角狀管C尾片 A1B1C1 無翅胎生雌蟲 A2B2C2 有翅胎生雌蟲



規則に具へ、第四節は第五節よりも長くして8個内外の感覚器を有し、第五節は1個の原生感覚器のみを具へてゐる。第六節の鞭状部は基部の約6倍長である。胸部は黒色である。肢脚は長さ中庸で腿節の基部は黄色であり、残部は黒色を帯びてゐる。翅は準透明で脈と翅斑とは薄黒く、前翅の中脈は3枝をなしてゐる。腹部は濃緑色で背面には黒色の班紋がある。角状管は準圓筒状にして後半部のみが幾分か覆瓦状を呈し且黒く、基半部は薄黒い。尾片は準圓錐状で黒色乃至薄黒く、殆ど緊縊せられた部分がない。

(50) ウメコブアブラ *Myzus mumeicola* (MATSUMURA)

原記述 *Macrosiphum mumeicola* MATS., Journ. Coll. Agri. Tohoku Imp. Univ. VII, 6, p. 399 (1917).

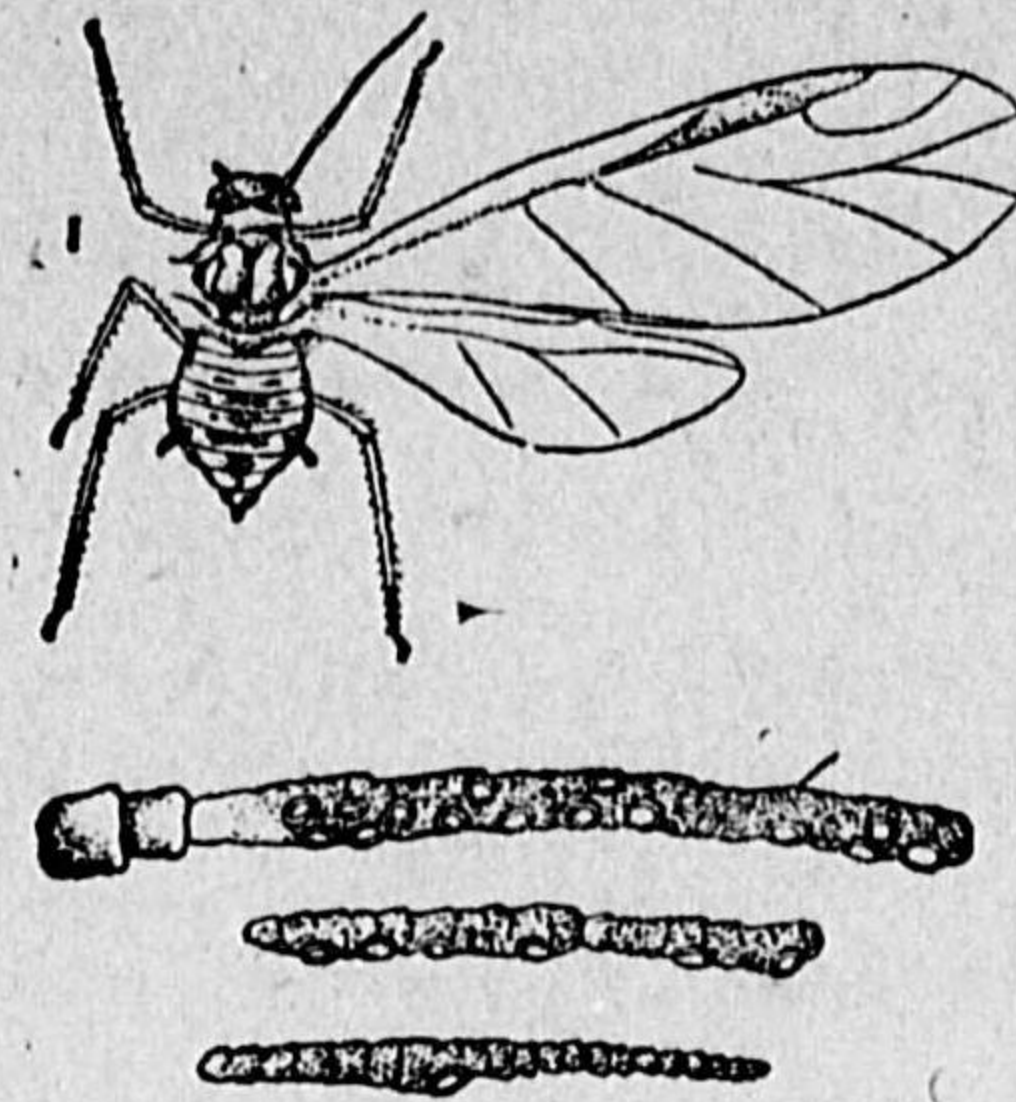
副記述 *Myzus mumeicola*, 進士, 日本蚜蟲總説, p. 946—949 (1941).

異名記述 *Myzus ume* SHINJI, Journ. Zool. XXXVI, p. 368 (1924).

「ウメノキ」*Prunus Mume* SIEB. et ZUCC. の梢端附近なる嫩葉裏に寄生する淡緑色の蚜蟲である。本蟲の寄生を受けた葉は葉裡へ向つて捲縮して偽蟲癭を營む。夏季宿主なく、雄蟲と産卵性雌蟲とは10月中旬に現はれ、交尾後産卵性雌蟲は芽蕾部へ産卵する。梅の外に「アンズ」にも寄生する。本邦各地に普通見られる種である。

(イ) 有翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形にして、地色は淡緑色又は緑色である。頭部は黒色、額瘤は顯著で其内側端は内側へ傾いてゐる。口吻は中肢窩に達し、概して黒色である。觸角は6節より成りて體よりも短い。第三節は第六節に次ぐ長片で、第六節の鞭状部と約同長且約30個の小圓感覚器を具へ、第五節は第四節よりも短くして末端に近く1個の原生感覚器を具へて居る。第六節の鞭状部は基



第81圖 ウメコブアブラの有翅胎生雌蟲と其の觸角

ある。

部の約4倍長である。胸部は黒色。肢脚は寧ろ短く全長に互つて黒色である。翅は準透明で脈と翅斑とは薄黒い。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には各環節に大形の横走黒色帯がある。角状管は準圓筒状で末端へ向つて細まり、全長に互り覆瓦状を呈し且つ黒色である。尾片は準圓錐状にして短小、中部は縊れてゐない。尾板は圓く終り、黒色で

(ロ) 無翅胎生雌蟲

體は卵状で地色は緑色乃至淡緑色である。

體長 1.6 耗内外、角状管長 0.5 耗内外。

(51) モモコブアブラ *Myzus persicae* SULZER

原記述 *Aphis persicae* SULZER, Abgeb. Gesch. Ins. p. 10 (1776).

副記述 *Myzus persicae* BUCKTON, Monog. Brit. Aphid., I, p. 178 (1875); HORI, Hokkaido Agr. Expt. Stat. rept., 23, p. 99 (1929), 進士, 日本蚜蟲總説, p. 959 (1941).

異名記述 *Myzoides persicae* VAN DER GOOT, Beitr. Kenntn. Holland Blattl. p. 170 (1915).

*Rhopalosiphum persicae* MATSUMURA, Journ. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ., VII, p. 362 (1917).

*Aphis dianthi* KALTENBACH, Monog. p. 42 (1843).

*Rhopalosiphum dianthi* KOCH, Die Pflanzenläuse, p. 42

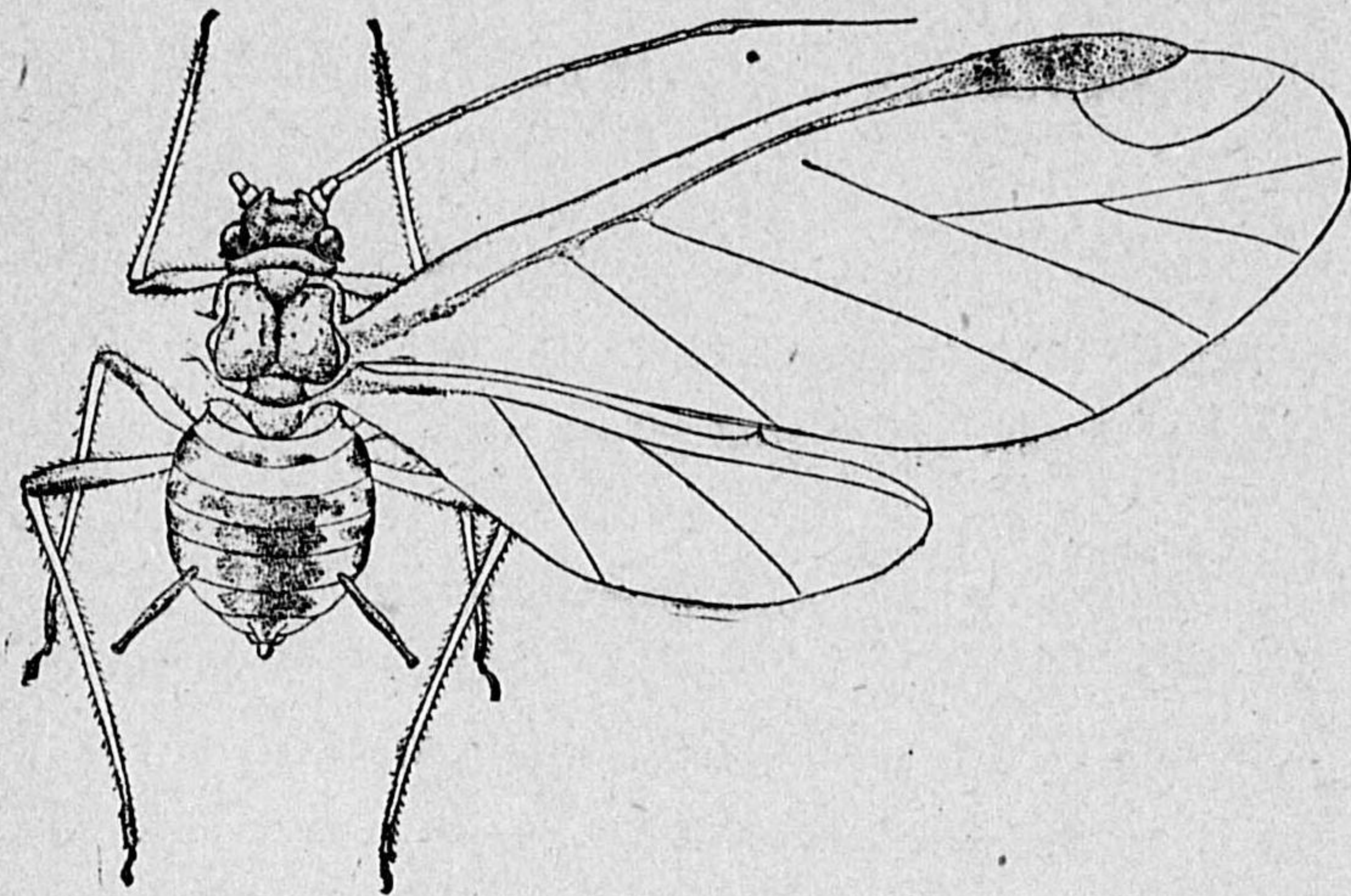


(1843).

普通にはダイコンゴブアブラと稱するものが本種である。之亦世界各地に普通で寄主植物の數もまた多いが、所謂蟲瘻を管む場合は桃特に其の成長端部の嫩葉に寄生した場合に限られてゐる。

## (イ) 有翅胎生雌蟲

體は肥大にして長楕圓形を呈し地色は少々赤色味を帯びたる淡褐色である。頭部は黒色、額瘤は顯著で其内側端は瘤狀を成して突出し黒色である。



第 82 圖 モモゴブアブラの有翅胎生雌蟲

觸角は體よりも長く、6節より成り、全長に互り黒色にして、第四乃至第六節は覆瓦狀を呈する。第三節は第六節に次ぐ長片にして12個の小圓感覺器を殆んど1列に具へ、第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭狀部は基部の約四倍長ある。胸部は背腹共に黒色である。肢脚は腿脛兩節の基部の淡綠色なるを除けば黒色。口吻は後肢の基節窩に達し概して黒色である。翅は準透明で翅斑と脈とは黒く、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈があ

る。腹部には背部に黒色の斑紋がある。角狀管は準圓筒狀であるが中部以後は膨大し爲に全體としては德利狀を呈する。全長に互り黒色である。尾片は準圓錐狀で黒く、尾板は圓く終り、覆瓦狀を呈し、黒色である。

## (ロ) 無翅胎生雌蟲

體は綠色で背面には黒色の斑紋なく、尾片は黒く、角狀管は準圓筒狀で中部が幾分細い。

體長 1.4 耗内外、角狀管長 0.5 耗内外。

(52) オホバココブアブラ *Myzus plantagifoliae* SHINJI

原記述 *Myzus plantagifoliae* SHINJI, Jour. Zool. XXXVI, p. 368 (1924).

副記述 *Myzus plantagifoliae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 970—774 (1941).

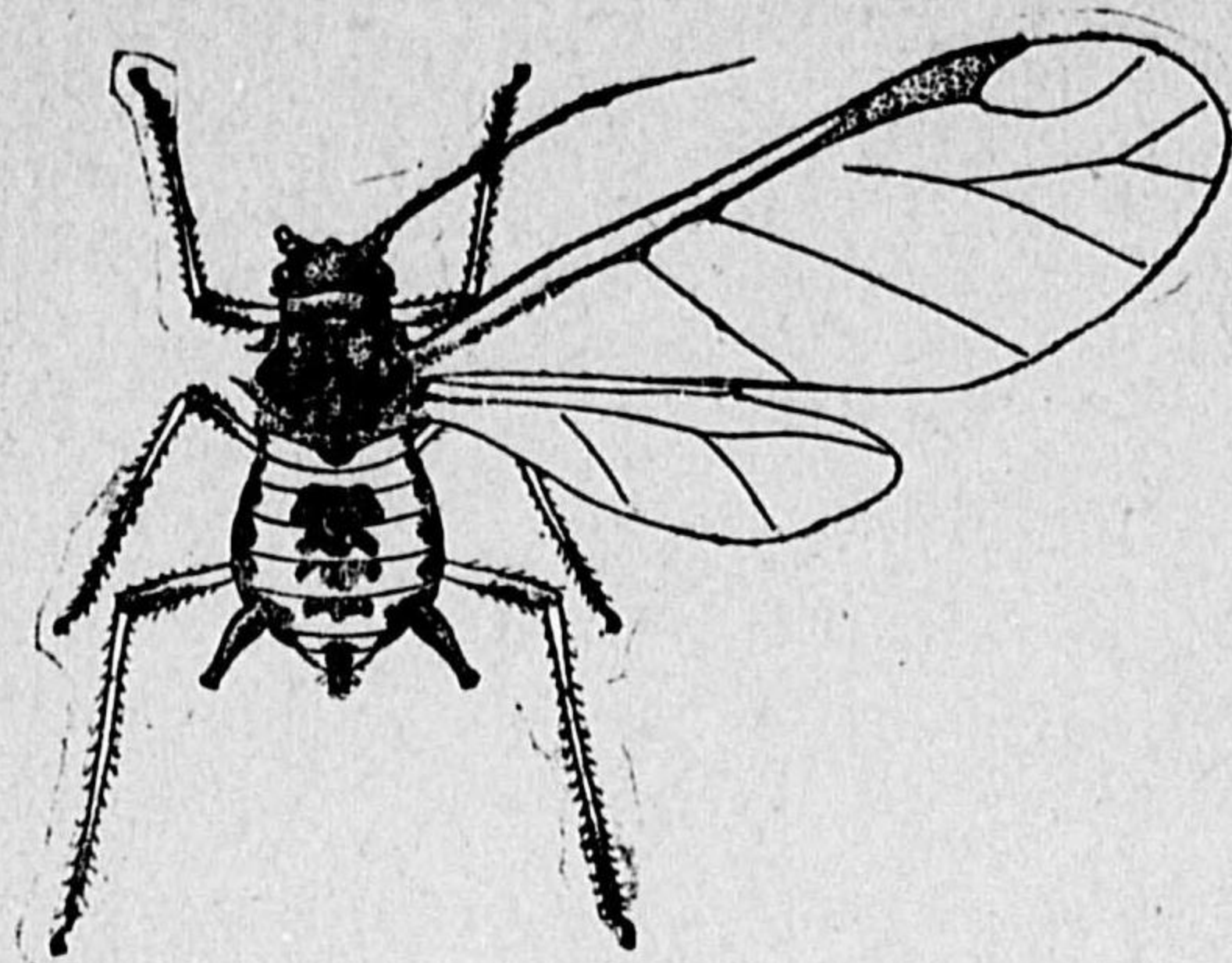
異名記述 *Myzus plantagicola* TAKAHASHI Aphid. Formosa, pt. 3, 30 (1924).

オホバコ *Plantago major* L. var. *Asiatica* DECNE の葉裏に寄生する灰白色乃至帶黃汚灰色の種である。本種に寄生されても葉は多くの場合甚しく捲縮しないが、蟲体下部となつた部分は淺く袋狀に窪み且つ幾分肥厚するが故に葉一般の外観は幾分か捲縮狀態を呈する。本州・四國・九州の各地に普通である。雄蟲と産卵性の雌蟲とが生ずるのは10月初旬である。

## 有翅胎生雌蟲

體は長卵狀で地色は琥珀色乃至淡綠色である。頭部は黒色、額瘤は顯著で其内側端は内側へ傾き瘤狀をなして突出してゐる。口吻は中肢の基節窩を過ぎて伸び、概して黒色。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を作ひ、單眼3個の周縁は濃赤色味を帯びてゐる。觸角は體と同長若くはより長くして薄黒乃至黒色、第三節は第六節に次ぐ長片で、約55個の準圓狀感覺器を不規則に具へ、





第 83 圖 オホバココブアブラの有翅胎生雌蟲

第四節は第五節よりも長くして、約 33 個の感覚器を具へ、第五節上には約 12 個の感覚器がある。第六節の鞭状部は基部の約 4 倍長である。胸部の背面は黒色。肢脚は概して黒色であるが、脛節の基半部は淡緑色である。翅は準透明で脈は薄黒く、前翅の中脈は 3 枝をなし、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の横赤帯があり、角状管は準圓筒状にして覆瓦状を呈し且つ黒色、尾片は圓錐状にして少数の長毛を生じ、黒色にして覆瓦色状を呈する。

體長 1.6 耗内外、角状管長 0.5 耗内外。

(53) コマユミコブアブラ(新稱) *Myzus Ionicerae* SHIN. n. sp.

有翅胎生雌蟲

體は濃緑色。頭・胸・觸角全長、肢の腿脛兩節の末端と跗節と爪とは黒色乃至薄黒色、殘餘の部分は緑色である。複眼は濃赤色にして同色の眼瘤を伴ひ、單眼 3 個の周縁は濃赤色である。口吻は中肢の基節を越して伸び、後半部は薄黒く、基半部は體と同色である。觸角は顯著なる額瘤より出で、6 節より成り、全長に亘り黒色にして概して覆瓦状を呈してゐる。第一節は短大にして長さは幅の約 2 倍大、第二節は第一節よりも遙かに幅小さく、幅よりも長い。第三節は最長片にして 40 個内外の卵状乃至橢圓形の感覚器を不正

齊に全長に亘りて具へ、第四節は中部にして全長の 3 分の 1 に相當する部域は薄黒く、兩端は黒色、12 個内外の橢圓形の感覚器を 1 列を成して基半部に具へ、第五節は第四節よりも短くして、中央部は薄黒く、兩端部は黒色にして末端に近く 1 個の圓状感覚器を具へ、第六節の鞭状部は基部の 5 倍長あり、兩部の境界部にある大形原生感覚器は圓状にして重圓をなしてゐる。各節の比較長は第一節 9、第二節 5、第三節 50、第四節 36、第五節 27、第六節基部 10、鞭状部 50 である。胸部は黒色、翅は準透明にして翅斑と翅脈とは黄褐色、前翅の中脈は 3 枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。肢は割合に長く、腿・脛兩節の末端と跗節と爪とは黒色、腿・脛兩節の比較長は前肢にては 40:75、中肢にては 40:70、後肢にては 45:90 である。

腹部は概して黄色にして毛は少数。角状管はモモコブアブラの有翅胎生雌蟲のものと同様に準棍棒状にして黒色、第四觸角節と約同長にして全長に亘り覆瓦状を呈してゐ、尾片は準三角形にして薄黒い。

體長 1.6 耗、幅 0.6 耗、翅長 2.4 耗、翅幅 1.1 耗、觸角長 2.2 耗、尾片長 0.8 耗。

寄生植物 コマユミ。

標型地 昭和 17 年 6 月 15 日 輕井澤夏期大學前にて採集した。

(54) ヤマハクカコブアブラ *Myzus plectranthi* SHIN.

原記述 *Myzus plectranthi* SHIN., 昆蟲第 XIII 卷, 第 1 號, 41 頁(1939)

(イ) 有翅胎生雌蟲

體は長橢圓にして若干の毛を生じ、帯黄緑色、頭部は黒色にして複眼は濃赤色。單眼の周縁は濃赤色、口吻は中肢の基節窩に達し、後方 3 分の 2 域は黒色を帯び基部は緑色、觸角は顯著なる額瘤より生じ、6 節より成り、第三一第六節は覆瓦状を呈し且つ黒色である。第三節は第四節よりも遙かに長く



して約 10 個の感覚板を不規則に且つ全長に亘つて具へ、第四節は第五節よりも長くして約 8 個の感覚器を不規則に具へ、第五節は第六節の基部よりも僅かに短く、第六節の鞭状部は基部の約 4 倍長である。胸部は背腹共に黒く、翅は準透明にして前翅の中脈は 3 枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。肢は常規にして腿節の基半部と脛節の中部とは黄色、残部は黒色である。腹部は綠色にして、背面には各節に斑帯を具へてゐる。角状管は準圓筒状にして全長に亘り覆瓦状を呈し且つ黒色である。尾片は準三角形を呈し、縊れず全長に亘り黒色である。

體長 1.2 耗内外、前翅長 2.0 耗内外、角状管長 0.1 耗。

(ロ) 無翅胎生雌蟲

體は卵状にして少數の毛を生じ、濃褐色乃至黒色。角状管竝に尾片は黒色である。

體長 1.2 耗、角状管長 0.15 耗、尾片長 0.15 耗。

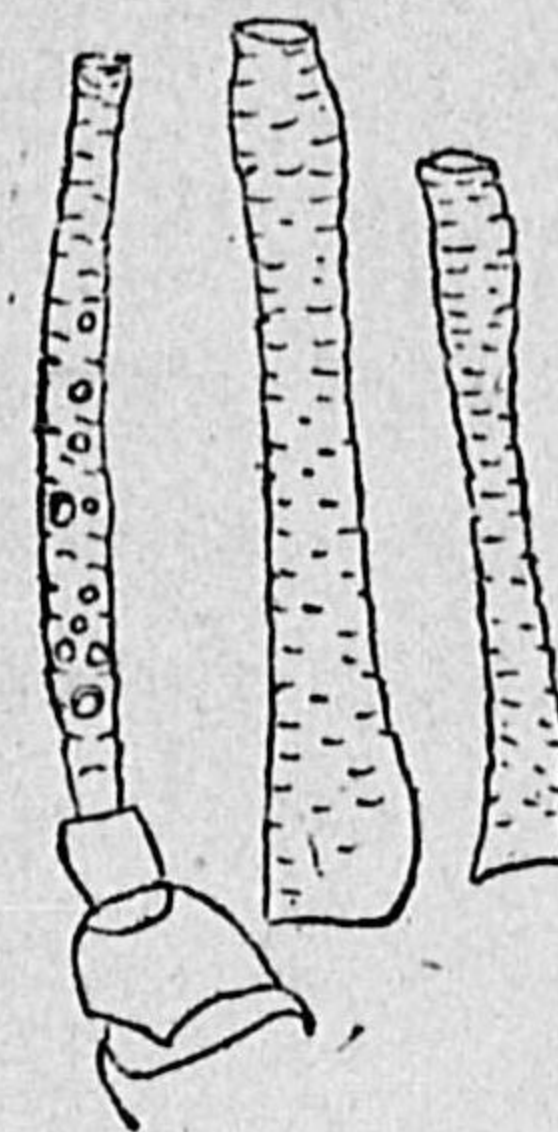
宿主植物 ヤマハクカ *Plectranthus inflexus* VAHL.

(55) サナヘタデコブアブラ(新稱) *Myzus polygonifoliae* SHIN. n. sp.

有翅胎生雌蟲

體は帶樺濃黄色。頭部は黒色を帯び、複眼は黒色、單眼は紅色。額瘤は顯著にして黒色を帯び覆瓦状を呈して居る。觸角は 6 節より成り全長に亘りて黒色にして、第三節の基部より第六節の末端に至る部域は覆瓦状を呈して居る。第三節は基半部が特に肥大して居、此の部には 3 個内外の大形にして且つ橢圓形の感覚器と小形にして準圓形のもの 3—8 個を具へてゐる。第四節は第五節よりも長くして感覚器を缺き、第五節には末端部の常位に 1 個の原生感覚器がある。第六節の鞭状部は基部の約 4 倍長、第三節とは約同長にして、基部は第五節の約半長である。

第 84 圖  
サナヘタデコブアブラ  
の無翅胎生雌蟲の頭部  
(上と角状管(下中))、  
有翅胎生雌蟲の觸角 1  
—3 節(下右)と角状管  
(下右)



胸部は黒色を呈し、翅は準透明、脈は黄褐色、前翅の中脈は 3 枝を成し、翅斑脈は短い。肢は前肢の腿節が顯著に肥大し、腿節の全部と脛節の後端部と跗節と爪とは黒く、脛節の基半部は黄色である。腹部は濃樺色にして背面の側縁には各節に大形の黒色なる斑紋を具へて居る。角状管は準圓筒状であるが基部と末端部とは膨大し、末端部附近のみ黒く、残部は黄色である。此の角状管の形態よりすれば、本種はモモコブアブラに似てゐる。尾板は圓く終り黒色、尾片は準圓錐形にして 3 對内外の長毛を生じ、黄色である。

體長 1.9 耗 翅長 3.0 耗内外

無翅胎生雌蟲

體は準卵状にして濃樺色、額瘤は顯著である。觸角は 6 節より成りて體よりも短く、第一第二の兩節は黒色、第三節の基半部は黄色、第四—第六節は黒色、第三節は最長にして第六節の鞭状部と約同長、第四節は第五節よりも長い。胸・腹兩部は濃樺色にして、肢は腿・脛兩節の基半部が黄色乃至樺色、残部は黒色。角状管は準圓筒状にして基部と末端とが肥大してゐ、末端附近のみが黒色、残部は樺色である。尾片は準圓錐形を呈し短く、黄色である。

體長 1.8 耗

宿主植物 サナヘタデ *Polygonum lapathifolium* L.

標型地 東京都荻窪町、7 月 8 日。

サナヘタデの葉を卷縮する。

(56) エホヒタデコブアブラ *Myzus polygomi-yonai* SHINJI



原記述 *Myzus polygoni-yonai* SHINJI, Journ. Zool. (Zool. Mag.) L., 2, 108 (1938).

ニホヒタデ *Polygonum visicosum* Ham. の葉裏竝に嫩葉に寄生する。本種に寄生されたニホヒタデの葉は其二等邊三角形の兩葉縁部が葉縁に沿つて裏面へ捲き込まれる事になり、従つて1葉の兩側に相稱的な2蟲瘻が生ずる。有翅胎生雌蟲は9月上旬に多く、雄蟲及び産卵性の雌蟲は10月中旬に最も多く生ずる。

(イ) 無翅胎生雌蟲

體は銚褐色で比較的太い刺毛を全體表から生じてゐる。頭部の額瘤は顯著で幾分黒色を帯び且つ數個の太い毛を生じて内側へ傾いてゐる。複眼は濃赤色。觸角は6節より成り、體よりも短く、第一第二の兩節は幾分薄黒く、第三節は黒色部を缺き、第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭狀部は基部の約5倍長である。腹部各節の背面には暗褐色の角質板が横列を成して位し、之等からは乳嘴狀突起體が生じ、其の末端からは1個の剛毛が生じてゐる。角狀管は倒圓錐形で小さく、全長に至つて覆瓦狀を呈し且つ黒色である。尾片は準圓錐形で小さいが角狀管よりは大きく黒色。尾板は圓く終り黒色である。

(ロ) 有翅胎生雌蟲

體の地色は銚赤色であるが、此色は酒精に遇へば褪出する。頭部は黒色。複眼は濃赤色で同色の眼瘤を伴ひ、單眼3個は共に赤色である。觸角は6節より成りて體と約同長、第三節は第六節に亞ぐ長片で14—16個の圓狀感覺器を具へ、第四節は第三節の約4分の3長であつて2—4個の感覺器を具へて居る。第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。肢は概して黒色であるが脛節の基部にして全長の約4分の1に當る部域は體と同色である。翅は準透明で脈と翅斑とは薄黒い。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は肥大で背面には黒褐色の小板斑があり、之等からは剛毛が生じてゐる。

角狀管は準圓筒狀で小さく、僅かに第二附節と同大、覆瓦狀を呈し且つ黒い。尾片は準圓錐狀で中央部も甚だしく縊れず、全長に亘り黒色で約3對の剛毛を生じてゐる。尾板は圓く終り黒色である。

イボアブラ(疣蚜)屬 Genus *Phorodon*

體は中形にして普通毛を着け、觸角は6節より成り、第六節の鞭狀部は基部の數倍長、感覺器は準圓狀なれ共幾分橢圓狀なる例がある。第一節は内側へ疣狀の突起を生じ、額瘤は顯著にして、無翅蟲にありては牛角狀を呈して長く内側へ突出してゐる。前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準圓筒狀にして長く、無翅蟲にては外方へ曲る事が多い。尾片は銳圓錐狀にして、3—4對の剛毛を生じ、尾板は圓く終つてゐる。

(57) ホツブイボアブラ *Phorodon humuli* (SCHRANK)

原記述 *Aphis humuli* SCHRANK, Fn. Boica, 2, 11, p. 1199 (1801).

副記述 *Aphis humuli* KALTENBACH, Monog. p. 36 (1843); KOCH, Die Pfl. p. 114 (1857).

*Phorodon humuli* BUCKTON, Monog. Brit. Aphid. 1, p. 116 (1875); THEOBALD, Plant Lice Brit. 11, p. 237 (1926); HORI, Hokkaido Agr. Exp. St. Rept. 23, p. 78 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 987—992 (1941).

異名記述 *Phorodon asacola* MATSUMURA, Journ. Coll. Agri. Sapporo, VII, p. 405 (1917).

*Phorodnn cannabis* DAS, Mem. Ind. Mus., VI, p. 199 (1918).

本種の春秋宿主はスモモ *Prunus Communis* HUDS. ウメ *Prunus MUME* SIEB et ZUCC. アンズ *P. Armeniaca* var. 'Anzu' MAXIM. で夏季宿主はカラハナサウ *Humulus lupulus* var. *Cordifolius* MAXIM. 及びカナムグラ



*H. japonicus* SIEB et ZUCC. である。夏季宿主は本種の寄生を受けても蟲癭を生ずる事が無いが、春秋宿主である「ウメ」「スモモ」「アズ」等の葉は横に裏面へ向つて捲縮し且つ肥厚して顯著な偽蟲癭を管むものである。北海道より臺灣に亘る本邦全土に汎く分布してゐるのみならず遠く歐米諸國に於てもホップ、プラム樹等の害蟲として知られてゐる。

#### 無翅胎生雌蟲

體は綠色。頭部は黒色でなく、額瘤は顯著で其の内側端は牛角状を呈して突出し、3、4の剛毛を生じてゐる。複眼及び眼瘤は赤色。口吻は後肢の基節窩に達し、末端は薄黒い。觸角は6節より成り體よりも長い。第四節の後半部以後は黒く、残部は綠色である。第三節は第六節に次ぐ長片で、第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。胸・腹兩部の背板には黒色の斑紋が無い。角狀管は準圓筒狀で細長く、末端のみ黒色である。尾片は大形で準圓錐狀、體と同色の綠色である。

體長 1.9 耗内外、角狀管長 0.6 耗内外。

#### 有翅胎生雌蟲

體は若干の長い剛毛を生じ、地色は綠色である。頭部は黒色、額瘤は顯著で其の内側端は牛角状を呈して突出する。口吻は割合に短く、辛じて中肢の基節窩に達し、基半部は綠色、後半部は黒色である。複眼は濃赤色。觸角は5節より成り、體と殆んど同長、全長に亘りて黒色にして、第三節の基半部以端は覆瓦状を呈する。第三節は第六節に次ぐ長片にして20—25個の感覺器を具へ、第五節は第四節よりも短くして末端に近く1個の原生感覺器を具へてゐる。第六節の鞭狀部は基部の約5倍長ある。胸部は黒色、肢脚は多數の毛を生じ、脛節の基部は淡綠色、他部は概して黒色である。翅は準透明であるが翅斑と脈とは黒色を帯び、前翅の中脈は3枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は淡綠色であるが、背面には黒色の斑帯と斑點とがある。

角狀管は準圓筒狀で細長く、網狀乃至覆瓦状を呈さない。尾片は準圓錐狀、著しく縊れず、黒色。尾板は圓く終り、黒色にして若干の毛を生じてゐる。

體長 2 耗内外、翅長 2.8 耗内外。

觸角長 (Ⅲ) 0.40 (Ⅳ) 0.28 (Ⅴ) 0.27 (Ⅵ) 0.09+0.49, 角狀管長 0.5 耗内外。

#### (58) ハクカイホアブラ *Phorodon menthae* BUCKTON

原記述 *Siphonophora menthae* BUCK., Monog. Brit. Aphid., 1, p. 120 (1875).

改稱記述 *Phorodon menthae* V. D. GOOT., Beitr. Kenntn., Holland. Blattläuse p. 134 (1915); THEOBALD, Plant lice Brit., I, p. 278 (1926); HORI, Hokkaido Agr. Exp. Sta., Rept. 23, p. 80 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 997 (1941).

異名記述 *Myzus menthae* TAKAHASHI, Aphid, Formosa, 2, p. 22 (1923).

ハクカ *Mentha arvensis* L. var. *vulgaris* REGEL の葉裏に寄生する寧ろ小形の疣蚜である。本種に寄生されたハクカの嫩葉は裏面へ向つて横に捲縮するが少々老葉に於ては僅かに蟲體の下部が幾分窪んで葉に收縮状を興へる程度の被害を及ぼすに過ぎない。本種もまた本邦各地のみならずして汎く歐米諸國にも分布してゐる。他の疣蚜と異り常にハクカにのみ寄生し所謂夏季宿主を有しない。

#### 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で綠色乃至淡黃色である。頭部は黒色でなく、額瘤は顯著で其の内側端は疣状をなして突出してゐる。複眼及び眼瘤は赤色。口吻は長くして後肢の基部に達し、後半部は黒色、基半部は綠色である。觸角は6節より成り



第三節の後半部以後第六節の鞭状部末端に及ぶ部分は黒色で覆瓦状、残部は緑色である。胸腹部の背面には黒色の斑紋が有る。角状管は尾片よりも遙かに長くして準圓筒状である。中肢の脛節と約同長で全長に亘り黒色である。尾片は準圓錐状で僅かに縊れ緑色である。

有翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形で頭胸兩部は黒色、腹部は銚赤褐色である。複眼は赤色。額瘤は顯著で其の内側端は小牛角状を呈して突出し黒色である。口吻は中肢に達し、黒色。觸角は體よりも長く、6節より成り、全長に亘り黒色で第三節の後半部以後は覆瓦状を呈してゐる。第三節は第六節に次ぐ長片にして34—40個の感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長きか若しくは同長にして15個内外の感覺器を具へ、第五節には1個の原生感覺器の他に4—7個の後生感覺器があり、第六節の鞭状部は基部の5—6倍長である。胸部は黒色。翅は準透明にして翅斑と脈とは黒褐色である。腹部は銚赤色にして背面には黒色の斑紋がある。角状管は準圓筒状で尾片を越して伸び、全長に亘り薄黒く、尾片は薄黒くなく、また著しく縊れてゐない。

體長 1.4 耗内外、翅長 2.7 耗内外。

(59) サクライボアブラ *Phorodon mononis* (MATSUMURA)

原記述 *Myzus mononis* MATSUMURA, Journ. Coll. Agri., Sapporo, VII, p. 402 (1917)

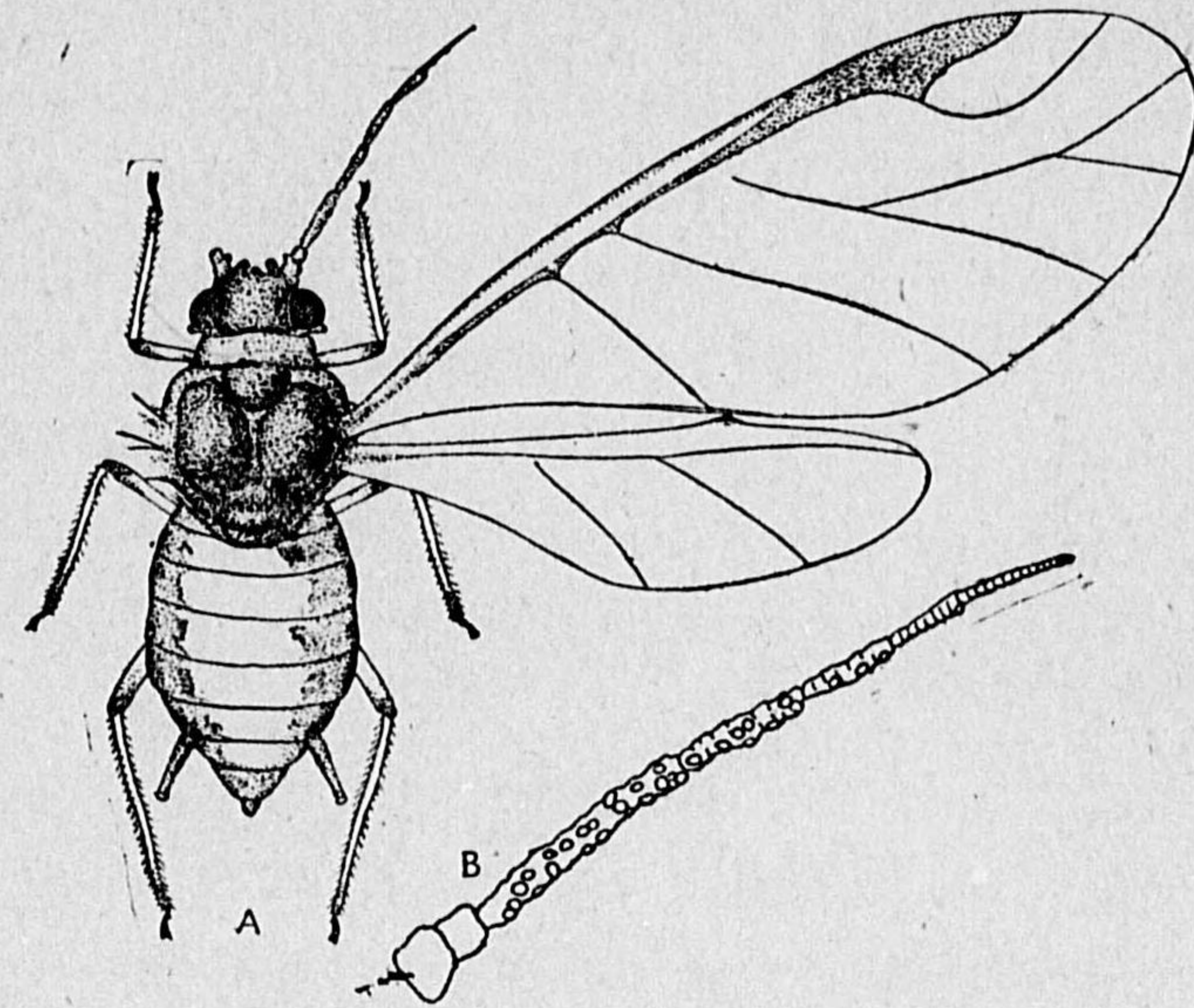
副記述 *Phorodon mononis*, 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1001—1007(1941).

モノキ *Prunus persica* var. *vulgaris* MAKINO 及び「サクランノキ」*P. yedoensis* MATS の梢端成長部の葉裏に寄生する蚜蟲である。寄生せられた葉は葉裏へ向つて、縦に長く捲縮する。夏季宿主は「ナギナタカウジユ」*Elsholtzia patrinii* GARKE にして7月頃から櫻を去つて「ナギナカカウジ

ユ」に移り、12月下旬には「ナギナタカウジユ」を去つて櫻へ歸り、茲に雄蟲と産卵性の雌蟲とが生じ、之等が交尾の結果、産卵性雌蟲は芽蕾部へ冬卵を産する。北海道・本州・四國・九州に産する。

有翅胎生雌蟲

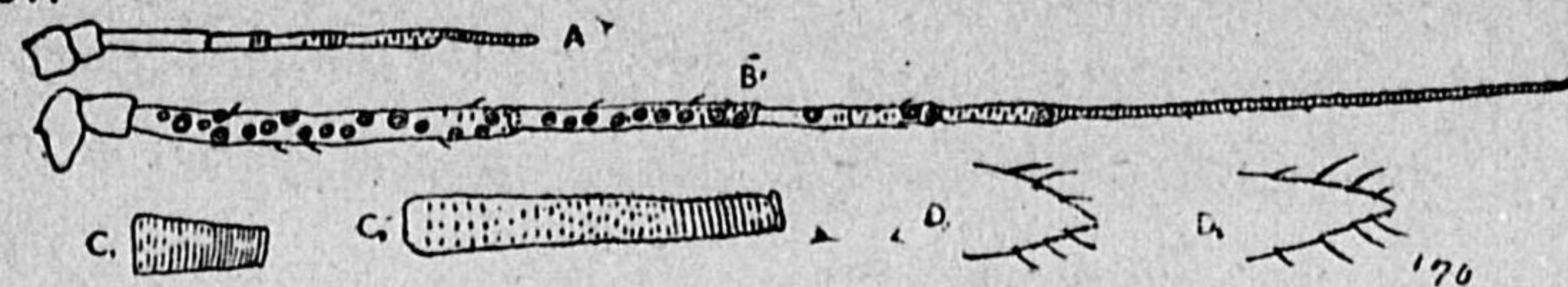
體は長楕圓形で地色は淡黄色である。頭部は黒色、額瘤は顯著で其の内側端



第 85 圖 サクライボアブラ A有翅胎生雌蟲 B同觸角

は疣状をなして突出し、觸角の第一節も疣状なる例が夏季宿主に寄生するものに於て顯著である。複眼は赤色で同色の眼瘤を伴ひ、單眼3個の周縁も赤色味を帯びてゐる。觸角は6節よりなりて體と約同長、全長に亘り黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片で、30個内外の小圓狀感覺器を不規則に散在せしめ第四節は第五節よりも長くして9乃至10個の感覺器を具へ、第五節は第六節の基部と同長で1個の原生感覺器の外に3個内外の後生感覺器を具へてゐる。第六節の鞭状部は基部の2倍半長である。角状管は準圓筒状で





第 86 圖 サクライボアブラ A, B 觸角 C, C<sub>2</sub> 角状管 D, D<sub>2</sub> 尾片  
A<sub>1</sub>, C<sub>1</sub>, D<sub>1</sub> 無翅胎生雌蟲 B, C<sub>2</sub>, D<sub>2</sub> 有翅胎生雌蟲

中部を過ぎて少々膨れてゐ、全長に亘り覆瓦状を呈し且つ黒色である。尾片は圓く終り且つ黒色である。

(60) ニハウメイボアブラ *Phorodon umefoliae* SHINJI

原記述 *Akkaia umefoliae* SHINJI, Journ. Zool. XXXVI, p. 348(1924),

副記述 *Phorodon umefoliae* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1007—1011 (1941),

本種はニハウメ *Prunus japonica* THUNB の葉裏特に生長端に近い部分の葉に寄生して 1 種の偽蟲瘻を營む種である。本種に寄生された葉は葉筋とは直角をなす面に於て葉裏へ嚮つて捲縮する。九州及本州に産し、夏季寄主がない。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で背面は龜裂状を呈し地色は赤褐色である。頭部は幾分薄黒く、額瘤は顯著で其内側端は瘤状をなして突出してゐる。複眼は濃赤色で同色の眼瘤を具へてゐる。觸角は 6 節より成り體よりも短く、第六節のみが黒い。第三節は第六節に次ぐ長片で約 2 個の感覺器を具へ、第五節は第四節よりも短く、第六節の鞭状部は基部の約 3 倍長ある。胸・腹兩部は共に背面が龜裂状を呈してゐる。角状管は長大で後腿節よりも長く準圓筒状である。外側へ向つて彎曲してゐる。全長に亘つて黒色で覆瓦状を呈してゐる。尾片は準圓錐狀で中央部にも縊れた部分が無く、黒色である。

有翅胎生雌蟲

體の地色は綠色、斑紋は黒色である。頭部は黒色、額瘤は顯著で其内側端

は疣状をなして突出し黒色である。口吻は長く、全長に亘り黒色味を帯びてゐる。複眼・單眼及び眼瘤は濃赤色。觸角は 6 節より成り、體よりも長く、全長に亘り黒色で且つ概ね覆瓦状を呈してゐる。第三節は第六節に次ぐ長片で 12 個内外の感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長い。第六節の基部は鞭状部の約 3 分の 1 長である。胸部は黒色。肢脚は概ね黒色であるが脛節の基部にして全長の 4 分の 3 域に相當する部分は白色である。翅は準透明にして脈と翅斑とは黒色味を帯びてゐる。前翅の中脈は 3 枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は背面に黒色の斑點と同色の横走帯とを具へてゐる。角状管は準圓筒状にして末端へ向ひ細まり、全長に亘り黒色にして、概して覆瓦状を呈してゐる。尾片は圓錐形で著しく縊れず、體と同色。尾板は圓く終り、黒色である。

體長 1.2 耗内外、翅長 1.9 耗内外。

トックリアブラ(德利蚜)屬 Genus *Rhopalosiphoninus* BAKER

體は大形にして體毛を生じ、額瘤は顯著にして内方へ突出し、剛毛を生じてゐる。觸角は 6 節より成りて體よりも長く、第六節の鞭状部は基部の數倍長。感覺器は小形にして準圓狀である。前翅の中脈は 3 枝に分れ、後翅には中・肘の兩脈がある。觸角は德利狀にして、基半部細く、後半部は突如として膨大し末端は再び細くなつてゐる。尾片は準圓錐狀にして寧ろ短く、3 對内外の剛毛を生じ、尾板は圓く終り、若干の毛を生じてゐる。

(61) ウツギトックリアブラ *Rhopalosiphoninus deutzifoliae* SHINJI

原記述 *Rhopalosiphoninus deutzifoliae* SHINJI, Jour. Zool. XXXVI, 431, p. 366 (1924).

副記述 *Rhop. deutzifoliae* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1025—1029 (1941).



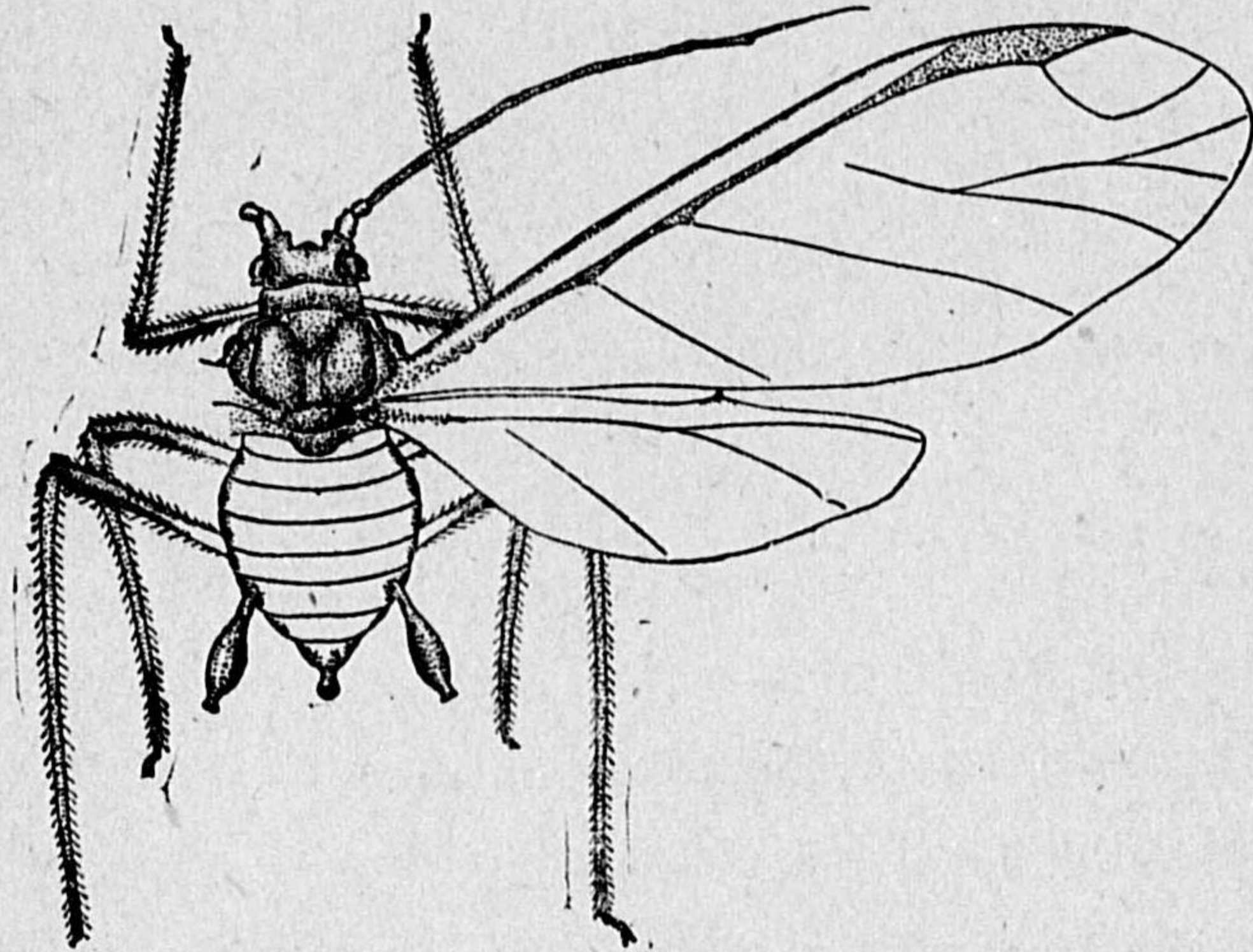
ウツギ *Deutzia scarbra* THUNB. の生長端に近い葉に寄生する事は前種に似て居るが、本種の場合には寄生された葉は縦の代りに葉軸とは直角の方向即ち横に捲縮する。東北6縣に普通の種であり、6月—9月間常にウツギにのみ寄生し、10月下旬より11月上旬にかけて雄蟲と産卵性の雌蟲とが現はれ、冬卵は芽蕾と樹皮面との中間へ産付けられる。

體長 2 耗，角狀管 0.45 耗，尾片長 0.16 耗。

(イ) 有翅胎生雌蟲

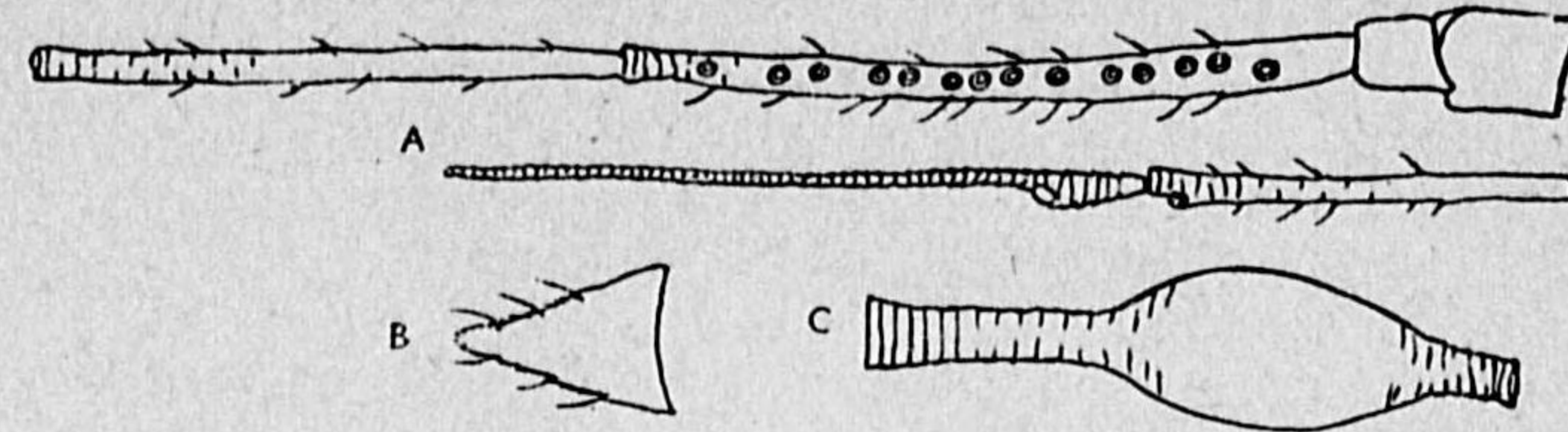
體の地色は綠色で、黑色部を具へてゐる。頭部は黒く、額瘤は顯著で、其

第 87 圖 ウツギトックリアブラの有翅胎生雌蟲



内側端は瘤状をなして突出し、内側へ傾いてゐる。口吻は中肢の基節窩に達し、末端は黒く、残部は體と同色である。複眼は顯著で赤色。觸角は6節より成り、體よりも長く、第三節の基部は綠色であるが他の部分は黒色である。第三節は第六節に次ぐ長片で約 20 個の剛毛と 15 個の大小不同なる小圓狀感覺器とを具へてゐる。第四節は第五節よりも長く、第六節の鞭狀部は

基部の約 5 倍長ある。胸部の背面には黒色の斑紋がある。肢脚は割合に長く



第 88 圖 ウツギトックリアブラの有翅胎生雌蟲の A 觸角 B 尾片 C 角狀管

腿・脛兩節の基半部は體と同色、残部は黒色である。翅は準透明で脈と翅斑とは薄黒い。前翅の中脈は 3 枝を成し、後翅には肘・中の兩脈がある。角狀管は準棍棒狀で全長に亘り黒色。尾片は準圓錐狀で中部が縊れ、全長に亘り黒色である。

メンチュウ(綿蟲)亞科 SUBFAMILY ERIOSOMATINAE

特殊の蟲癭を形成するもの多く、然らざるものは蠟腺を具へて綿様の分泌物中に生殖する。觸角は 5—6 節より成り、長毛を生ぜず、末節の鞭狀部は基部よりも長き事は稀である。感覺器は橢圓形、輪狀又は稜形にして圓形なる事は無い。前翅の中脈は 1—2 枝を成し、3 枝を成さず、後翅の斜脈は 1—2 である。角狀管は小孔又は輪狀なるか、若しくは缺如してゐる。

メンチュウ(綿蟲)族 TRIBE ERIOSOMATINI

榆(ニレ)に寄生して蟲癭を形成するか、若しくは樹枝・根部等に寄生し、綿絮物を分泌して體軀を覆ふ類である。觸角は一般に短く、有翅蟲のものには輪狀又は稜狀の感覺器がある。前翅の中脈は 2 回分枝する事なく、後翅には肘脈を缺く屬がある。角狀管は一般に小孔に過ぎないか、或は全く之を缺いてゐる。



メンチュウ(綿蟲)屬 Genus *Eriosoma* LEACH

無翅胎生雌蟲の體は一般に白色綿絮物にて覆はれ、觸角は6節より成りて體の約半長を出でず、感覺器は輪狀にして有翅蟲の觸角には各節に存し、前翅の中脈は1回分枝して2枝と成り、後翅には中・肘の兩脈がある。無翅有翅の兩個體は蠟板を具へ、角狀管は輪狀にして幾分高き基底上に在り、尾片竝に尾板は圓く終つてゐる。

(62) リンゴメンチュウ *Eriosoma lanigerum* HAUSMANN

原記述 *Aphis lanigera* HAUSMANN, Mag. f. Ins. v. Karl Illiger, vol. I, p. 426 (1802).

異名記述 *Coccus mali* BINGLEY, Animal biography, vol. III, p. 200 (1803).

*Schizoneura lanigera* HARTIG, Germars. Zeitsch. f. Ent., vol. III, p. 352 (1831).

*Myxoxyle lanigera* BLOT, Memo. Soc. Linn. d. Calvades, vol. I, p. 849 (1824).

*Eriosoma laniger* SOMONELLE, Entom. Usefull. Compendium, p. 232 (1819).

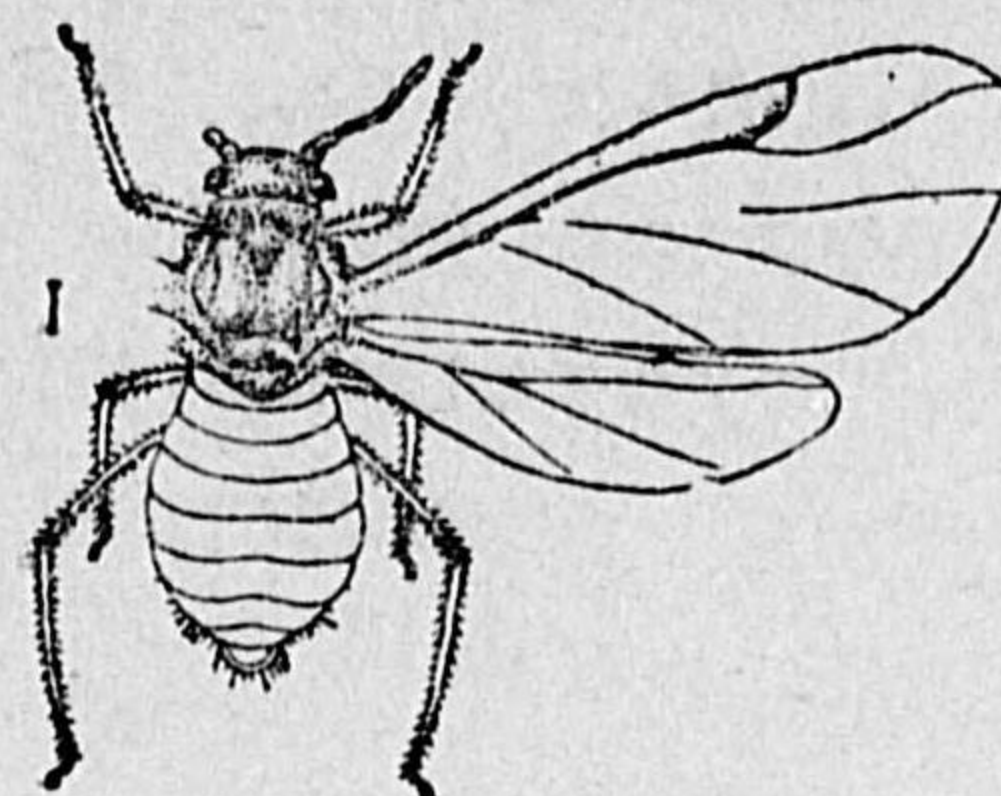
副記述 *Eriosoma lanigerum* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog. no. I, p. 20 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1059—1062 (1941).

本種は主に「リンゴ」樹の幹枝特に損傷部に群生し、寄生された部分は瘤狀をなして隆起する。一般に尾端より白色の綿絮物を分泌して體を陰蔽して居る。歐米諸國より我國にては北海道、本州及び朝鮮に分布してゐる、苹果樹の最大害虫である。

(イ) 有翅胎生雌蟲

體は顯著な體節を缺き、煉瓦褐色で一般には白色綿絮物にて覆はれて居る。複眼は紅色、眼瘤も赤色である。單眼3個の周圍は濃赤色である。口吻は後肢

第 89 圖 リンゴメンチュウの有翅胎生雌蟲(上)と同觸角(下)



の基部に達し、概して黑色である。觸角は頭・胸兩部の和よりも短く、6節より成り、全長に亘つて黑色である。其の第三節は最長片で普通には24乃至28個の輪狀感覺器を具へ、第五節は第四節よりも長くして1乃至5個の輪狀感覺器を具へ、第六節には基部に約2個の感覺器を有し、鞭狀部は瘤狀で短小である。胸部は黑色。翅は準透明で脈は黑色である。前翅の中脈は2枝を

成し、基半部は不鮮明である。後脈には中・肘の兩脈がある。肢脚は短小。背面には黑色の蠟腺と薄黑色の斑點とを具へて居る。角狀管は輪狀を成し、小孔で黑色である。

(ロ) 無翅胎生雌蟲

體は準卵狀で煉瓦褐色である。

(63) ハンセウズルコメンチュウ *Eriosoma clematis* SHIN.

原記述 *Pemphigus clematis* SHIN., Journ. Zool. (動物學雜誌) XXXIV., p. 533 (1922).

副記述 *Eriosoma clematis* SHIN., 日本蚜蟲總説 p. 1057 (1941).

A. 無翅胎生雌蟲

體は褐色にして白色綿絮様分泌物にて覆はれてゐる。口吻は中肢の基節に達し、後半部は黑色を帯びてゐる。觸角は6節より成り、第三節は最長片、



第四節は第五節よりも短い。尾片及び尾板は薄黒い。體長 1.7 耗内外。

B. 有翅胎生雌蟲

體は準卵狀で帶赤銕褐色。複眼は濃赤色にして白色の眼瘤を具てゐる。觸角は短小で、全長に亘り黒色。第三節は最長片にして 18 個内外の輪狀感覺器を具へ、第四節は第五節よりも短くして 4 個内外の感覺器を具へ、第五節には 5 個内外の感覺器がある。胸部は黒色を帯びてゐる。翅は準透明にして脈と翅斑とは暗褐色、前翅の中脈は 1 回分枝して 2 枝をなしてゐる。肘脈の基部は概して不明瞭、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部の背面には黒色の斑紋があり、角狀管は殆んど開口に近い。體長 1.25 耗内外。

(64) ナギナタカウジユメンチュウ *Eriosoma elsholtriae* SHINJI

原記述 *Eriosoma elsholtriae* SHIN. Zool. Mag. XXXXIIX, 1, p. 13 (1935).

副記述 *Eriosoma elsholtriae* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1175 (1941)

「ナギナタカウジユ」*Elsholtria patrini* GARCKE の生長端なる嫩葉裏に寄生する種である。寄生された葉は甚だしく捲縮旋捻して 1 塊をなし、蚜蟲は皺疊内にありて白色綿絮物を分泌する。

(イ) 有翅胎生雌蟲

體準卵狀にして小形、地色は淡銕褐色。口吻は中肢を越し、末端のみ黒色。複眼は赤色。觸角は 6 節より成り、頭・胸兩部の和よりは短く、全長に亘り黒色である。第三節は最長片にして第四・第五・第六の 3 節の和と約同長、15—17 個の完全なる輪狀感覺器を具へ、第四節は最短片にして 4—5 個の輪狀感覺器を具へ、第五節には 3—4 個の感覺器、第六節には 3—5 個の輪狀感覺器があり、輪狀部は瘤狀である。胸部は黒色。翅は準透明にして翅斑は黒褐色、脈は薄黒い。前翅の中脈は單 1 にして基半部は不明瞭であり、後翅には中

肘の兩脈がある。肢脚は腿節の基部の黄色なるを除けば概して黒色。腹部は銕褐色、角狀管は輪狀の小孔、尾片は瘤狀。尾板は丸く終つてゐる。體長 1.2 耗、前翅長 2.3 耗。

(ロ) 無翅胎生雌蟲

體は卵狀にして、地色は淡銕褐色、一般には白色綿絮物にて覆はれてゐる。口吻は中肢に達し、末端のみ黒色、殘部は黄色。複眼は赤色。觸角は 5 節より成りて短大、第三節は最長片にして第五節が之に次ぎ、第四節は第五節よりも短小、第五節の鞭狀部は瘤狀である。胸・腹兩部は背面に黒色の斑紋を具へず、肢脚は短いが跗節は 2 節より成つてゐる。腹部は蠟板を具へ、角狀管は小孔、尾片及び尾板は圓く終り、體と同色である。體長 1.4 耗。

ゴバイシメンチュウ(五倍子綿蟲)屬 *Genus Gobaishia* MATSUMURA

觸角は幹母にありては 5 節、有翅蟲にありては 6 節より成り、感覺器は輪狀又は半輪狀にして各節に存在し、前翅の中脈は單 1 にして分枝せず、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は單なる開口に過ぎない。

(65) ニレゴバイシメンチュウ *Gobaishia nirecola* MATSUMURA

有翅胎生雌蟲

體は長卵狀にして、地色は帶黄綠色である。頭部は黒色。口吻は中肢に達し、概して黒色。複眼は濃赤色。觸角は 6 節より成り、頭・胸兩部の和よりも長く、黒色である。第三節は第五節よりも長く、第四節は第六節よりも長い。感覺器は輪稜形にして、第三節上に 10 個、第四節上に 4 個、第五節上に 6 個、第六節上に 8 個ある。胸部は黒色。肢脚は概して薄黒い。翅は準透明にして翅斑と脈とは薄黒く、前翅の中脈は單 1 にして其基半部は退化し、後翅には中・肘の兩脈が殆んど同所より生じてゐる。角狀管は不明瞭であ



る。

(66) ニッポンゴバイシメンチュウ *Gobaishia japonica* MATSUMURA

原記述 *Gobaishia japonica* MATSUMURA, Coll. Essays Nawa, p. 75 (1917).

「ニレ」の葉裏に閉鎖形の蟲癭を形成する種である。北海道及び本州の東北部に産する。

有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形で地色は淡綠色である。頭部は黒色。口吻は中肢に達し、概して薄黒い。複眼は濃赤色。觸角は6節より成り、頭・胸兩部の和よりも長く、全長に亘り黒色である。第三節は最長片にして約12個の輪狀感覺器を具へ、第四、第五の兩節は約同長にして、前者には約8個、後者には7個内外の稜輪狀感覺器がある。胸部は黒色にして、蠟板を缺き、肢脚は概して黒色、翅は準透明にして脈は薄黒く、前翅の中脈は單1にして基部は退化してゐる。後翅には中・肘の兩脈が顯著である。體長1.4耗、前翅長2.4耗。

ヨスヂメンチュウ屬 Genus *Tetraneura* HARTIG

體は中乃至小形にして、一般には閉鎖蟲癭を形成する。觸角は無翅蟲のものは5節、有翅蟲のものは6節より成り、感覺器は狭き稜狀乃至輪狀である。前翅の中脈は單1にして分枝せず、後翅には中脈の1斜脈があり、肘脈は缺けてゐる。角狀管は小孔を成すに過ぎず、尾片は圓く終つてゐる。

(67) アキニレヨスヂメンチュウ *Tetraneura akinire* SASAKI

原記述 *Tetraneura akinire* SASAKI, Journ Zool. vol. XVI, p. 403 (1904).

副記述 *Tetraneura akinire* MATSUMURA, Coll. Essays Nawa, p. 78 (1917).

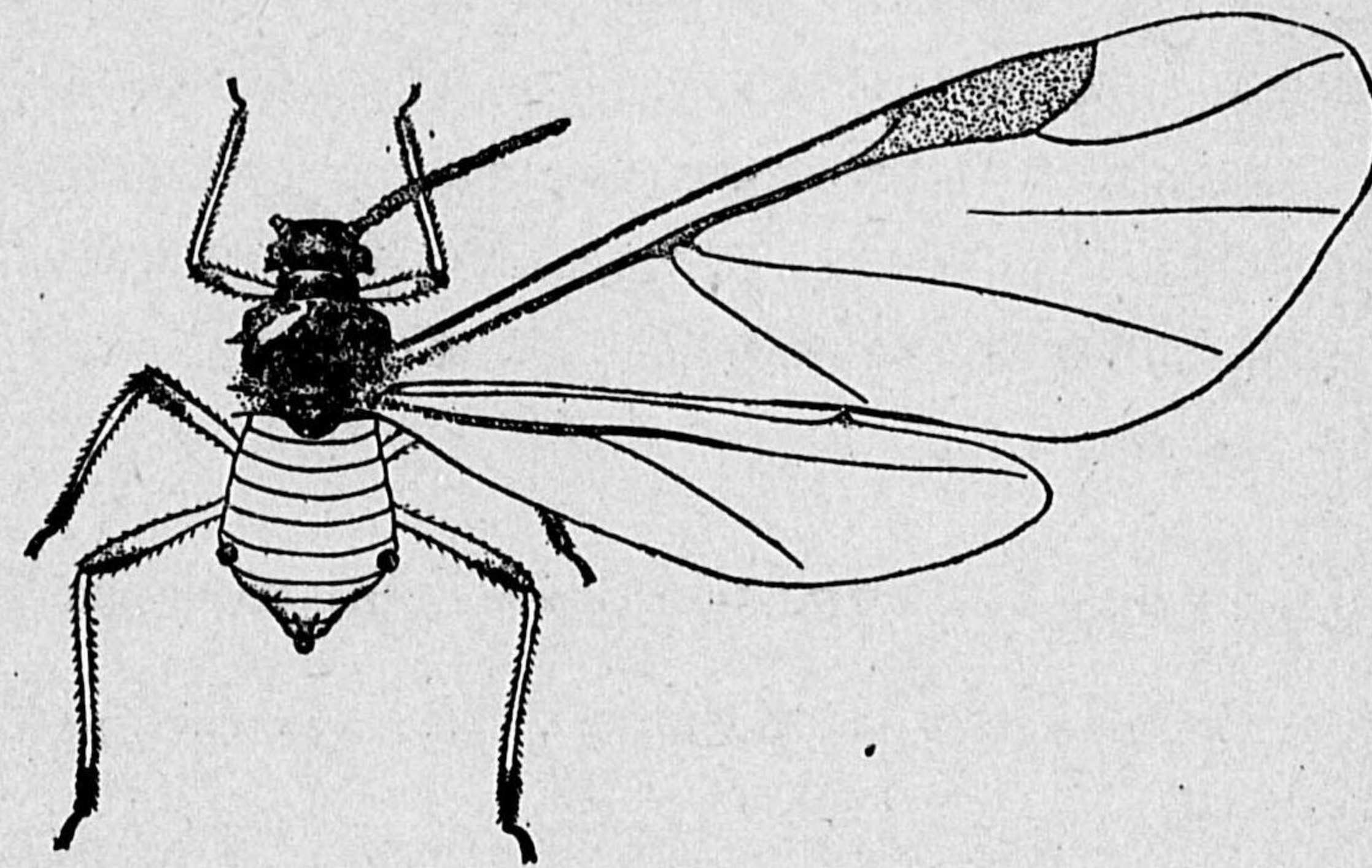
*Tetraneura akinire* MONZEN, Sasto Hō-onKai Monog. no. I, p. 28 (1929).

*Tetraneura akinire* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1066—1069 (1941).

「アキニレ」*Ulmus parvifolia* JACQ. の葉裏に寄生する。寄生場所は概して葉縁に近き部分であり、従つて此の部分の葉縁は葉表を外面とし葉縁に沿うて縦に長く捲縮して蚜蟲を内部へ卷込むものである。此種偽蟲癭をなす部分は綠色なる事もあり、また紅色を帯びる事もある。6月初旬頃までは無翅胎生雌蟲のみを産し続けるが、次で有翅胎生雌蟲が生じ、之等は未知の夏期宿主へ轉住し、10月下旬には有翅胎生雌蟲が歸りて小形の雄蟲と産卵性雌蟲とを産し、次で産卵性雌蟲は冬卵を樹皮の裂隙部へ産附する。北海道及び東北地方に産する。

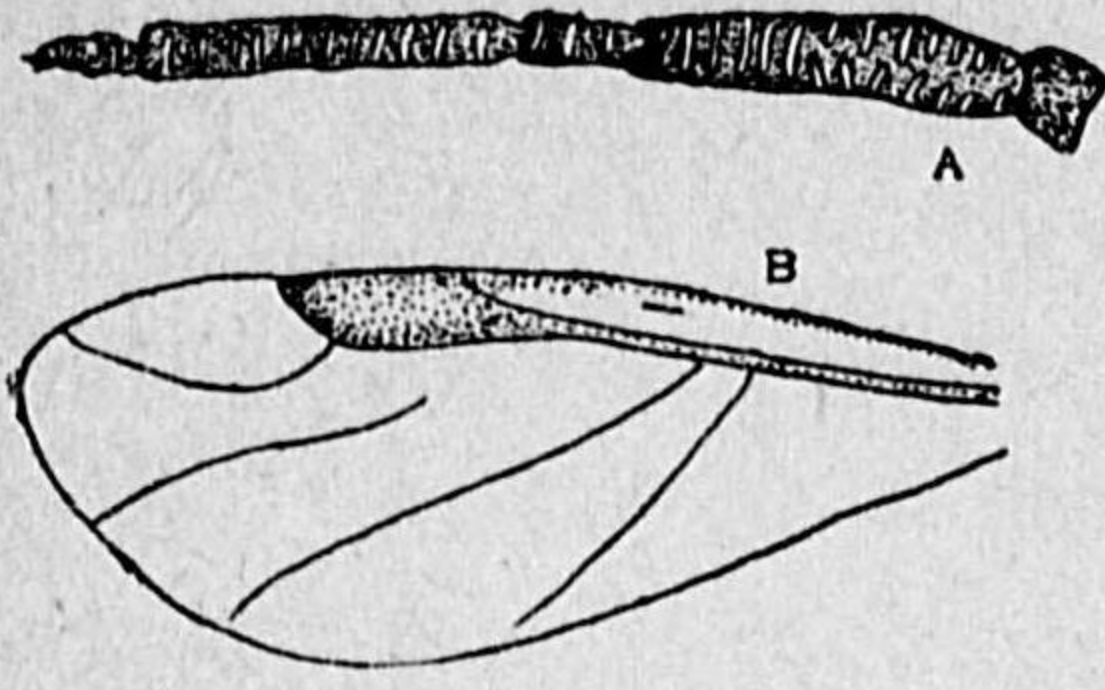
有翅胎生雌蟲

第90圖 アキニレヨスヂメンチュウの有翅胎生雌蟲





體は寧ろ小形で地色は帶黄綠色である。頭部は黒色，複眼竝に單眼は赤色を帯び，口吻は中肢に達し黒色である。觸角は頭・胸兩部の和よりも短くして



第 91 圖 アキノレヨスヂメ  
ンチユウの有翅胎生雌蟲の  
觸角Aと前翅B

6節より成り，全長に亘り黒色である。第一節は第二節よりも稍や長く，第二節は長幅約同大，第三節は最長片で第四乃至第六の3節の和よりも長く，28乃至32個の輪狀感覺器を具へ，第四，第五の兩節は約同長で共に5乃至6個の感覺器を有する。第六節の鞭狀部は瘤狀である。胸部及び肢脚は黒色。翅は準透明で脈と斑翅とは黒色を帯び，前翅の中脈は2枝に分れ，基部3分の1域は不明瞭である。後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は背面に黒色の斑紋を缺き，角狀管は輪狀で黒色。尾片及び尾板は共に圓く終り共に黒色である。

ヒトスヂタマワタムシ(一條瘿蟻)屬 Genus *Dryopeia* KIRKALDY

體は中形。有翅胎生雌蟲の觸角は6節より成り，感覺器は横走の溝狀乃至輪狀。前翅の中脈は單1にして分枝せず，後翅は中脈を缺如し，從ひて肘脈のみの1斜脈を具へるに過ぎない。角狀管は孔狀體である。春秋宿主を脱出する有翅蟲は夏季宿主なる禾木科植物及びトド松，桃，梨等の根莖へ轉移するものである。

(68) ケヤキヒトスヂタマワタムシ *Dryopeia nishiyae* MATSUMURA

原記述 *Watabura nishiyae* MATSUMURA, Coll. Essays Nawa, p. 46 (1917).

異名記述 *Pemphigus graminis* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Za-

shi), vol. XXXV, p. 302 (1923).

*Tetraneura moriokaensis* MONZEN, Morioka Soc. Bull. Alumni Soc. Morioka Coll. Agri a Forest. no. 4. reprint (1927).

*Watabura moriokaensis* MONZEN, Saito Ho-on Kai, Monog. no. 1, p. 29 (1929).

*Dryopeia nishiyae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1070—1072 (1941).

有翅胎生雌蟲

體は寧ろ長く，綠色乃至淡綠色である。頭部は黒色，口吻は辛じて中肢に達し概して黒色である。複眼は濃赤色で同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は6節から成り



第 92 圖 ケヤキヒトスヂタマワタムシ  
A<sub>1</sub>有翅胎生雌蟲の觸角A<sub>2</sub>同部の擴大

頭・胸兩部の和よりも短く，全長に亘つて黒色である。第二節は第一節よりも長く，第三節は最長片で6乃至11個の長橢圓形感覺器を有し，第四節は第五節よりも幾分長くして2乃至4個の長橢圓感覺器を具へ，第五節は第六節よりも短い。之等の最後の2節には各1個の原生感覺器がある。胸部は黒色で各環節には1對の蠟腺がある。翅は準透明で前翅には2斜脈，後翅には1脈斜がある。角狀管は單に小孔をなし，尾片及び尾板は圓く終つてゐる。

タマワタムシ(瘿蟻)族 TRIBE PEMPHIGINI

體は大形である。一般に閉鎖性眞蟲瘿を形成する類である。觸角は有翅蟲のものは6節より成り，感覺器は概して溝狀にして長く數輪をなすもの又は不整齊の形狀を呈するものがある。前翅の中脈は單1，若しくは1回分枚し，後肢には中脈のみ又は中，肘の兩脈を具へてゐる。蟲瘿を形成する春秋宿主と之を形成せざる夏季宿主との間を轉移する習性を有してゐる。

タマワタムシ(瘿蟻)屬 Genus *Pemphigus* HARTIG



體は大形にして、一般には閉鎖蟲癭を形成し、其内にありて播殖する類である。觸角は6節より成り、感覺器は楕圓形、若しくは不正形である。前翅の中脈は分枝せずして單1、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は小孔である。

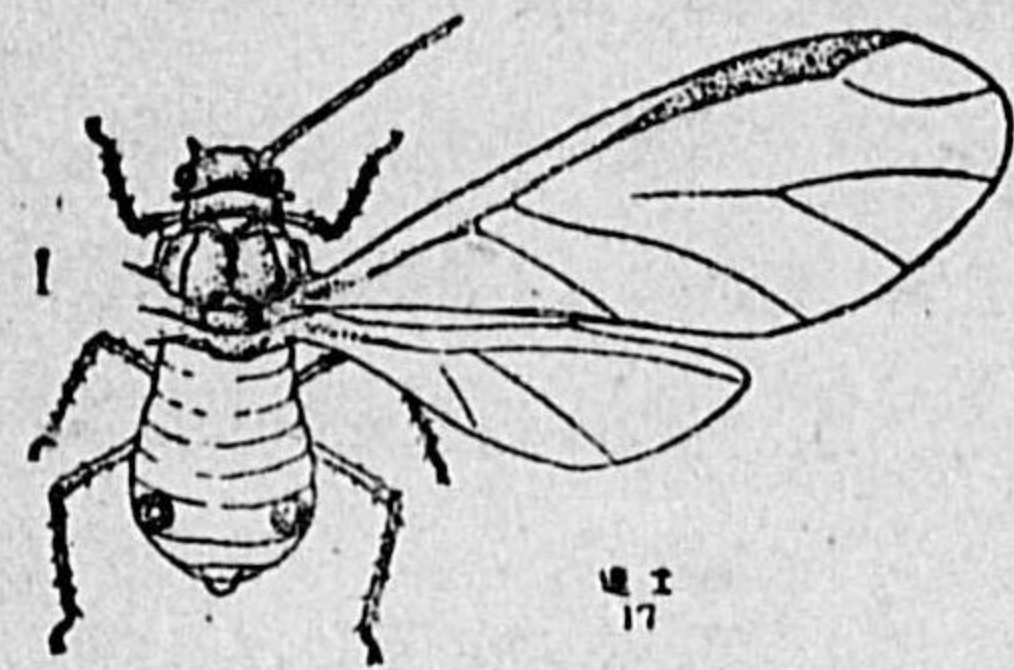
(69) **ドロハタマワタムシ** *Pemphigus niisimae* MATSUMURA

原記述 *Pemphigus niisimae* MATSUMURA, Coll. Ess. Nawa, p. 85 (1917).

副記述 *Pemphigus niisimae* MONZEN, Saito Ho-on Kai Monog. 1, p. 38 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1075—1077 (1941).

本種は「ドロノキ」*Populus balsamifera* L. var. *suaveolens* LOUD. の葉身部に約小指端大の準球狀蟲癭を營む。蟲癭は綠色で癭壁の厚さ約1耗であ

第 93 圖 ドロハタマワタムシの有翅胎生雌蟲(上)と同觸角(下)



つて内部は蟲室をなし、茲には初春の候には僅かに1個の胎生性母蟲を發見するのみであるが、7月までには蟲數數十頭を數へ、之等は皆有翅の胎生雌蟲の成體となり蟲癭を去つて其夏季宿主なる「クハクサ」*Faboua* GAUD.

var *subcordata* BUREAU. 「キンミヅヒキ」*Argrimonia* 「タウコギ」*Bidens tripartita* LINNÉ 「カラマツ」*Larix leptolepis* GORD. 等の根部へ轉移し

て蕃殖し続け、11月には再び「ドロノキ」へ飛來して兩性の個體を産するものである。

有翅胎生雌蟲

體は卵狀で長く、地色は淡綠色で黄色味を帯びてゐる。頭部は黒色。複眼は濃赤色、同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は6節より成つて全長に亘り黒色である。第一、第二の兩節は約同長である。第三節は最長片で約11個の感覺器を具へて居る。第四、第五の兩節は約等長であるか若しくは後者が幾分長く、前者には0乃至3個、後者には0乃至1個の感覺器がある。第六節は第三節に次ぐ長片で1個の卵狀感覺器を具へてゐる。胸部は黒色。肢脚は寧ろ短小で全長に亘り薄黒い。翅は準透明で翅斑と翅脈とは薄黒い。體長2.1耗、翅長2.9耗内外。

(70) **ドロタマワタムシ** *Pemphigus dorocola* MATSUMURA

原記述 *Pemphigus dorocola* MATS, Coll. Essays for Nawa, p. 84 (1917)

副記述 *Pemphigus dorocola* MONZEN, Saito Ho-on Kai Monog. no. 21, p. 34 (1929).

有翅胎生雌蟲

體は割合に長くして顯著なる毛を缺き、地色は淡綠色である。頭部は黒色、複眼は赤色で同色の眼瘤を伴つてゐる。單眼は顯著で其の周縁は赤色である。口吻は後肢に達し黒色。



第 94 圖 ドロタマワタムシの有翅胎生雌蟲の觸角

觸角は6節より成り、前脛節と跗節との和と約同長、全長に亘り黒色である。第三節は最長片にして10—16個の大形にして輪狀の感覺器を具へ、第四節は第五節よりも短くして約4個の感覺器を具へ、第五節は第四節より長けれども第六節よりは短くして約6個の輪狀感覺器を具へ、第六節には10個内外の感覺器がある。胸部は黒色、肢脚は全長に亘り概して黒色。翅は準透明で翅斑と脈とは薄黒い。前翅の中脈は單一、肘中兩脈は相接近して生ずるが癒合するところはない。後翅には中・肘の兩脈がある。腹部は淡



綠色にして黒色の斑紋を缺き、尾板は圓く終つてゐる。

體長 2.2 耗内外、翅長 2.5 耗内外。

本種はドロの小枝に木質にして準球形の蟲癭を形成する。癭内には多數の幼蟲が棲み、成蟲は 6 月下旬より 7 月にかけてドロを去り、キンミヅヒキ、オホバコ等の根莖部へ轉移し、10 月上旬には再び夏季宿主よりドロに歸る。

#### シロアブラ(白蚜)族 TRIBE MELAPHINI

皆「ヌルデ」槲類の葉に蟲癭を形成する類である。觸角は 5—6 節より成り、感覺器は一種獨特の不整齊型なる横走溝。角狀管は缺如してゐる。

#### シロアブラ(白蚜)屬 Genus *Melaphis* WALSH

體は中形。觸角は無翅胎生雌蟲のものは 5 節、有翅蟲のものは 5—6 節より成り、感覺器は卵狀又は横走溝である。前翅の中脈は單 1 にして分枝する事なく、後翅には中・肘の兩脈がある。腹部には判然たる蠟腺板がある。夏秋の候には蟲癭内で生殖し續け、晩秋の候には皆有翅蟲となつて芝類へ轉移して越年する。

#### (71) ヌルデシロアブラ *Melaphis chinensis* (BELL)

原記述 *Aphis chinensis* BELL, Pharm. Journ. VII, p. 310 (1848).

異名記述 *Schlechtendalia chinensis* LICHTENSTEIN, Stett. Ent. Zeit. XLIV, p. 240 (1883).

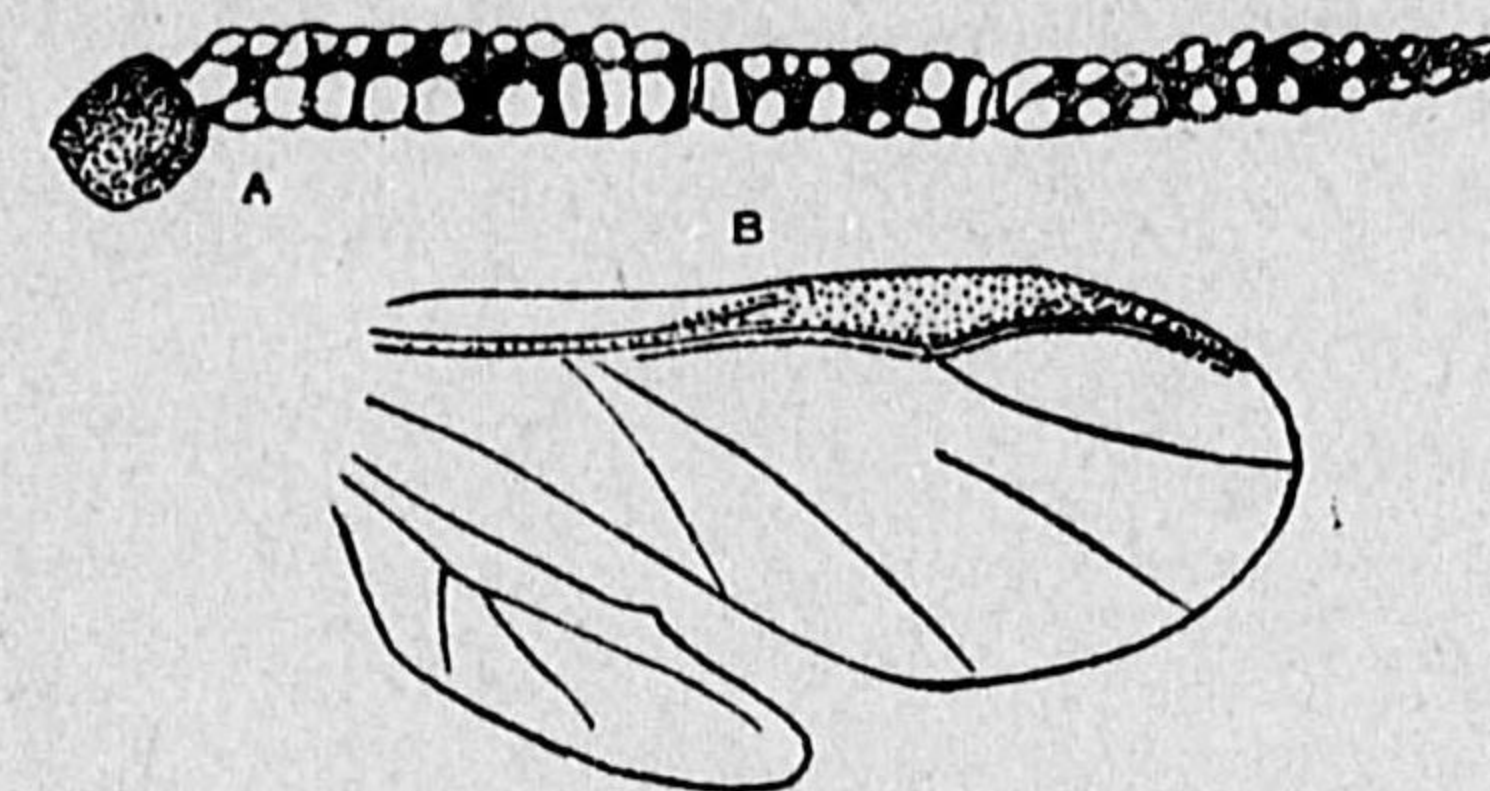
*Melaphis chinensis* BELL, Ent. News, XXVIII, p. 385 (1915); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1077—1079 (1941).

*Schlechtendalia miyabei* MATSUMURA, Coll. Ess. Nawa, p. 62 (1917).

*Schlechtendalia mimifushi* MATSUMURA, Coll. Ers. Nawa, p. 63 (1917).

#### 有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形で地色は淡綠色である。頭部は黒色である。口吻短小で辛じて中肢に達し、末端は黒色、殘部は體と同色である。觸角は 5 節より成り、體の半長にも達しない。全長に亘り黒色である。第三節は最長片で約 12 個



第 95 圖 ヌルデシロアブラの有翅胎生雌蟲  
A 觸角 B 翅

の幅廣い輪狀感覺器を具へ、第四節は第三節の約半長で 7 乃至 10 個の同様な感覺器を有し、第五節は第三節よりも短くて 10 乃至 22 個の輪狀感覺器を具へ鞭狀部は瘤狀で

ある。胸部は黒色である。肢脚は寧ろ短く、腿節の基半部は黄色、殘部は概して黒色である。翅は準透明で脈は濃褐色乃至薄黒い。前翅の中脈は單 1 で分枝せず、基半部は不鮮明である。腹部は肥大し、背腹兩面には黒色の斑紋を有しない。

體長 1.9 耗内外、翅長 2.4 耗内外。

#### ハナフシ(槲蚜)屬 Genus *Nurudea* MATSUMURA

體は小形。皆槲の葉に分枝狀閉鎖蟲癭を形成する。觸角は 5 節より成り、準卵狀の感覺器を具へてゐる。前翅の中脈は單 1 にして分枝せず、後翅には中・肘の兩脈を具へてゐる。角狀管は之を缺いてゐる。晩秋の候には皆有翅蟲となりて蟲癭を去り、芝類へ轉移し、小形種を産し、夫等が越年する。



(72) ベニハナフシアブラ *Nurudea rosae* MATSUMURA

原記述 *Nurudea rosae* MATSUMURA, Coll. Ess. Nawa, p. 70(1917).

副記述 *Nurudea rosae* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog. 1, p. 10  
(1929) 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1079—1980 (1941).

「ヌルデ」*Rhus semiarata* Mur. var. *Osbeckii* DC. の複葉の中筋上に寄生し樹状蟲癭を営む種である。蟲癭は幾分扁平なる準圓筒状なる樹幹部より樹枝状に分枝せるもの數個を出し、之等分枝體の末端は幾分扁平で且肥大して居る。表面は概して平滑で帶黄綠色乃至老熟したるものは紅色を呈する。癭壁は1耗弱の厚さにして内部の蟲室は割合に小さく、含有成蟲もまたヌルデシロアブラの場合よりも少い。我國の原産にして九州・四國・本州の各地に分布してゐるが、岩手縣には割合に稀である。商品價値も前種程でない。前種と共に同一樹上にも生ずる。

## 有翅胎生雌蟲

體は準楕圓形で顯著なる毛を缺き、地色は帶黄綠色である。頭部は黑色乃至薄黒い。口吻は中肢に達し、後半部は薄黒い。複眼は赤色で顯著、同色の眼瘤を伴ひ、單眼3個の周縁は濃赤色である。觸角は5節より成り、第三節は最長片にし約11個の輪狀感覺器を具へ、第四節は第三、第五の何れよりも短くして約7個内外の感覺器を具へ、第五節は第六節よりも僅かに短くして約10個の輪狀感覺器を具へ、第五節の鞭狀部は瘤状にして感覺器を缺いてゐる。胸部は黑色である。翅は透明にして眼は薄黒く、前翅の中脈は單1で分枝せず、後翅では肘・中の兩脈が同所より生じ後に分離してゐる。

## ハマキワタムシ(葉巻綿蟲)族 TRIBE PROCIPHINI

一般に植物の葉縁を折り重ね且其部分を肥厚變化せしめて1種の蟲癭を形

成し、其内部にありて生活する類である。觸角は幹母にありては5節、有翅蟲にありては6節より成り、感覺器は幅狭き横走溝状なるか、準卵狀型である。頭・胸部には準圓狀有對の大なる蠟腺板がある。

ハマキワタムシ(葉巻綿蟲)屬 Genus *Prociphilus* KOCH

葉を巻き膨大せしめて閉口蟲癭を形成する類にして、頭・胸の兩部には蠟腺板を具へ、觸角は無翅胎生雌蟲にありては5節、有翅胎生雌蟲にありては6節より成り、横走型溝状にして完全の輪狀に非らざる感覺器を具へてゐる。前翅の中脈は分枝せずして單1、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は之を缺いてゐる。

(73) リンゴハマキワタムシ(改稱) *Prociphilus crataegicola* SHINJI

原記述 *Prociphilus crataegicola* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi), vol. 34, p. 532. (1922).

異名記述 *Prociphilus sasakii* MONZEN, Alumni Ass. Morioka Agri, and Forestry Coll., vol. IV. Reprint (1927).

副記述 *Prociphilus crataegicola*, 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1089—1090 (1941).

「サンザシ」*Crataegus cuneata* SIEB. et ZUCC. 及「リンゴ」*Pirus Malus* L. var. *tomentosa* KOCH. の葉の1縁を葉裏方向若くは稀に葉表方向へ重ねて偽蟲癭を営み其内にありて蕃殖する種である。此蟲癭は通常肥厚して居り、蟲癭内には本種の外に蛻と水滴とが含まれ、無翅蟲は一般に體に白粉を装着してゐる。夏季宿主は未詳である。

## 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で淡綠色、頭部は黑色を帯びず、複眼は濃赤色。觸角は6節より





第 96 圖  
リンゴハマキワタムシの  
寄生せるリンゴの葉裏

成り、第三節が最長。胸腹兩部共に背面には黒色の斑紋を缺いてゐる。

有翅胎生雌蟲

體は顯著な毛を缺き、地色は淡綠色である。頭部は黒色。複眼は赤色。觸角は6節より成り體の半長よりも短い。第三節は最長片で第四・第五兩節の和と同長、15乃至20個の輪狀感覺器を具へ、第四節には5乃至10個、

第五節には約8個の溝狀感覺器がある。胸部は黒色。肢脚も概して黒色である。翅は準透明で翅斑と脈とは薄黒乃至黄褐色地に薄黒く霞んだ部分を添へてゐる。前翅の中脈は單1で分枝せず、且つ其基部は判然しない。後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は單なる小孔であつて、周縁は黒色である。尾片は圓く終り、短毛を多數生じ薄黒い。尾板は圓く終り、薄黒い。

(74) ナシハマキワタムシ *Prociphilus kuwanai* MONZEN

原記述 *Prociphilus pyri* ESSIG and KUWAN, Proc. Cal. Acad. Sci., 4th, 7, p. 106 (1918).

副記述 *Prociphilus kuwanai* MONZEN, Alum. Ass. Morioka Agr. et Forest. Coll. VI (1921); MONZEN, Saito Ho-on Kai Monog. 38 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1085—1086 (1941).

體は淡綠色である。頭部は黒色、複眼は赤色で同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は體の約半長で全長に亘つて黒色である。第三節は最長片で20乃至22個の準輪狀感覺器を具へ、第四第五の兩節は約同長で前者には約11個、後

者には約8個の準輪狀感覺器を有してをり、第六節の鞭狀部は短小、基部は第四又は第五節と約同等で原生感覺器を具へてゐない。前・中・後の胸部は概



第 97 圖  
ナシハマキワタムシ 有翅胎生雌蟲の觸角

して黒色で各1對の蠟板を具へてゐる。翅は準透明で脈は黒く、前翅の中脈は單1で分枝しない。後翅には中・肘の兩脈がある。肢は寧ろ短く、全長に亘つて黒色である。腹部は背面に黒色の斑紋がある。尾片と尾板とは共に圓く終り、黒色である。

體長 2.3 耗内外, 前翅長 2.4 耗内外。

(75) ウシコロシハマキワタムシ *Prociphilus ushikoroshi* SHINJI

原記述 *Prociphilus ushikoroshi* SHINJI, Journ. Zool. (Dobutsugaku Zasshi) vol. XXXVI, no. 431, p. 370 (1924).

異名記述 *Prociphilus pourthiacae* MONZEN, Saito Ho-on kai Monog. no. I, p. 36 (1929).

副記述 *Prociphilus ushikoroshi*, 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1091—1097 (1941).

「ウシコロシ」一名「カマツカ」*Pourthiaca villosa* DECNE の葉の葉縁を裏面へ向け捲き其内に在つて蕃殖する綿蟲である。元來嫩葉の葉縁に寄生するものであるが、數代の蕃殖を續行する間に葉は老葉となり、蟲癭化せる部分は緑色素を失ひて白化し且肥厚するものである。本州・四國・九州に分布し、所謂夏季宿主なくして常に同1宿主なる「ウシコロシ」の成長端附近の嫩葉を求めて寄生する。

無翅胎生雌蟲

體は卵狀で顯著なる黒色部乃至黒色の斑紋を具へない。觸角は6節より成



りて頭胸兩部の和よりも短く、第六節は幾分薄黒く、残部は緑色である。

有翅胎生雌蟲

體は寧ろ長楕圓狀で地色は帶黄緑色である。複眼は赤色。頭部は薄黒い。口吻は中肢の基節窩に達し黒色である。觸角は體の約半長で全長に亘り黒色である。第三節は最長片で約 20 個の半輪狀感覺器を具へ、第四、第五の兩節の和と約同長、第四節は第五節と約同長で約 4 個の半輪狀感覺器を有し、第五節は第六節よりも短くして約 4 個の感覺器を有し、第六節の鞭狀部は基部の約 3 分の 1 長である。翅は準透明で前翅の中脈は單 1、後翅には中・肘の兩脈がある。胸部は黒色。腹部は背面に黒色の斑紋を缺いてゐる。角狀管は單に小孔で周縁は黒く、尾片は圓く終り黒色である。

體長 1.2 耗内外、翅長 2 耗内外

觸角節の比較長 (III) 0.39 (IV) 0.22 (V) 0.21 (VI) 0.28 + 0.8

(76) サンザシオホハマキワタムシ *Prociphilus crataegi* TULLGREN

原記述 *Prociphilus crataegi* TULL. Arch. f. Zoologi, 14, 96, (190).

副記述 *Prociphilus crataegi* ESSIG et KUWA, Aphididae of Japan, p. 104 (1818); THEOBALD, Plantlice Great Britain, 3, p. 230 (1929).

有翅胎生雌蟲

頭・胸兩部は薄黒乃至濃褐色、腹部は淡緑色である。觸角は 6 節より成り、全長に亘り黒色、第一節は第二節よりも幾分廣いが短く、第二節は幅よりも長い。第三節は第四・第五兩節の和と約同長にして 19—24 個の溝狀感覺板を具へ、第四節は第五節と約同長にして 8—12 個の溝狀感覺板を具へ第五節には 3—8 箇の長楕圓狀感覺板がある。第六節の鞭狀部は基部の半長以下である。尾片及尾板は圓く終り若干の短毛を生じてゐる。肢脚は黒色であ

る。體長 2—2.5 耗、

無翅胎生雌蟲

體は緑色乃至淡緑色にして一般には白粉を着けてゐる。頭部は濃褐色乃至黒色に近い。觸角は 6 節より成り、第三節は第五節と約同長、第四節は第三節の約半長、第六節の鞭狀部は基部の約半長である。尾片及び尾板は圓く終つてゐる。

東京高等農林學校境内のスグリに本年多數發生した。

(77) ウグヒスカグラハマキワタムシ *Prociphilus konoi* HORI

原記述 *P. konoi* HORI, Ins. Mats., XII, 2, 3, p. 116(1938).

有翅胎生雌蟲

體は中形にして緑色。頭・胸兩部は概して黒色。複眼は黒色。口吻は中肢の基節窩を過ぎて伸び、基半部は緑色、後半部は黒色である。觸角は六節より成りて、全長に亘りて黒色、第三節は最長片、第四・第五の兩節は約等長、第二・第六節はまた同長、第一節は第二節よりは僅かに短い。各節の比は 0.7, 1, 6, 4, 1 である。感覺器は半輪狀にして第三節には 25 内外、第四節には 15 個内外、第五節には 6 箇ある。觸角第一、二、三及び第四節は約同長にして割合に幅廣く、第五第六の兩節は比較的細長である。胸部は黒色にして背腺は明瞭である。肢は概して緑色なれども腿・脛兩節の後半部と跗部と爪とは黒色。腿・脛兩節は約同長、跗節は脛節の約 4 分の 1 長である。肢は長大にして體よりも遙かに長く、長さは幅の 2 倍よりも大。前翅の中脈は單 1 にして分岐せず基部は不明瞭である。肘脈と臀脈とは離れて生じ、後翅には 2 斜脈ありてこれらは相接近して生じてゐる。腹部は緑色、尾片は圓く終り緑色である。

無翅胎生雌蟲



體は中形にして綠色，複眼は黑色，口吻は中肢の基節窩に達し概して黑色なれども，末端は少しく黑色を帯びてゐる。觸角は幹母にありては5節より成り，第三節が最長片，第六節の鞭狀部は第四節の約2分の1長，胸・腹兩部共に黑色部を有せず。肢は概して綠色なれども跗節と爪とは黑色である。

宿主植物 ウグヒスカヅラ *Lonicera japonica*

採集地 群馬縣足尾町附近草木村，東京都府中町附近に産するものも概して上記と同じけれども體は比較的細長い。本種は主に生長端に近き稚芽に寄生し葉縁を卷捲し其内にありて幹母は10頭ばかりの幼蟲を産し，幼蟲は皆有翅の成蟲となり，6月1日—6日頃に未詳の夏季宿主へ轉住する。

#### ヒラタアブラ(扁平蚜)亞科 SUBFAMILY HORMAPHIDINAE

頭部は幅大に，額瘤を缺き，觸角は有翅蟲にては4—5節無翅蟲にては3—5節より成り，有翅蟲の觸角上なる感覺器は稜形である。前翅の中脈は單1若しくは2枝をなし後翅には中脈のみ，若しくは中・肘の兩脈を，具へてゐる。無翅胎生雌蟲は粉虱に似る事が多い。

#### ヒラタアブラ(扁平蚜)族 TRIBE HORMAPHIDINI

無翅胎生雌蟲の體は扁平にして觸角は3—5節より成り，一般に粉虱に似て定着生活を営み，有翅蟲は或時期にのみ現れ，觸角は5節より成り，感覺器は各節にあり，角狀管は缺如してゐる。

#### ヒラタアブラ(扁平蚜)屬 Genus *Hamamelistes* SHIMER

觸角は無翅胎生雌蟲にありては4節，有翅胎生雌蟲にては5節より成り，感覺器は稜狀の輪形をなし，翅は静止の時には水平に保持され，前翅の中脈は分枝せずして單1，後翅には中・肘の2斜脈がある。角狀管は之を缺如し，

尾片は瘤狀に終り且若干の長毛を生じ，尾板は2葉に分れてゐる。宿主植物は「シラカンバ」である。

#### (78) カバハマキヒラタアブラ *Hamamelistes Tullgreni* DE MEYER

原記述 *Hamamelistes Tullgreni* DE MEYER, Zeitsch. f. Wiss. Insectenbiologie, vol. VIII, no. 3, p. 89 (1912).

副記述 *Hamamelistes betulae* TULLGRENI, Archiv. f. Zool., vol. V, pt. IV, (1909); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1095—1097 (1941).

異名記述 *Hamamelistes shirakabae* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog., no. I, p. 18 (1929).

「シラカバ」*Betula alba* L. の葉裏に寄生する。本種に寄生された葉は6月初旬から裏面へ幾分捲かれて杯狀となり，杯狀部は臙て綠色味を失ひて黄色乃至灰色となるものである。7月頃には多數の有翅胎生雌蟲を生じ，時には雄蟲をも生ずるものである。

#### 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で濃煉瓦褐色である。頭部は小，觸角は前脛節と約同長，4節から成つて居る。尾板はV字形を成して2葉に分れ，黑色である。尾片は瘤狀で約7個の毛を生じ黑色である。

#### 有翅胎生雌蟲

體は寧ろ小形で濃褐色，常に多少の白粉を着けてゐる。酒精に浸漬する時は赤色の液を生ずる。頭部黑色。複眼は濃赤色で黑色に見える。觸角は5節から成り，體の半長よりも短く，全長に亘つて薄黒い。第三節は最長片で第四第五の兩節の和と約同長で33乃至36個の螺旋狀感覺板を具へ，第四，第五兩節は約等長で前者には約13個乃至16個，後者には約16個の感覺器を具へて居る。胸部黑色を帯びて居る。翅は準透明で翅斑と翅脈とは暗褐



色である。前翅の中脈は単1で曲らない。後翅では中・肘の兩脈は同所から生ずる。肢脚は短小で概して黒色である。尾片並び尾板は共に黒色で前者は瘤状である。

體長 1.8 耗内外, 翅長 2.2 耗内外。

**エゴアブラ (齊墩果蚜) 屬 Genus *Astegopteryx* KARSCH**

眞の閉鎖蟲癭を營む類である。觸角は無翅胎生雌蟲にては5節, 有翅蟲のものは5節より成り, 輪状の感覺器を具へてゐる。前翅の中脈は2枝を成し, 後翅には中・肘の兩脈がある。角状管は開口をなし, 尾片は圓く終り, 尾板は2葉に分れてゐる。「タイサンボク」, 「エゴノキ」及「イスノキ」に蟲癭を營む類である。

(79) **ハクウンボクエゴアブラ** *Astegopteryx styraci* MATSUMURA

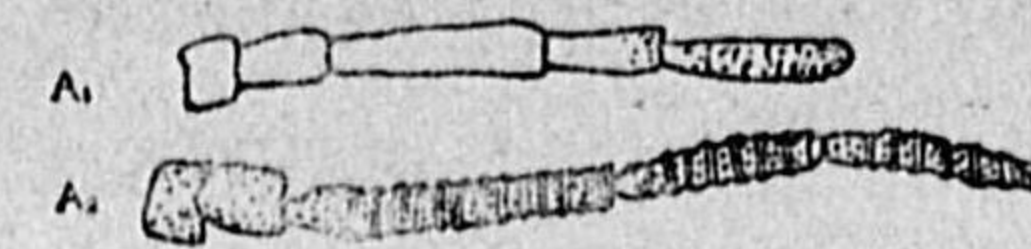
原記述 *Astegopteryx styraci* MATSUMURA, Coll. Essay f. Nawa, p. 53 (1917).

副記述 *Astegopteryx styraci* MONZEN, Saito Hō-on Kai, Monog., no. I, p. 16 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1100—1102 (1941).

ハクウンボク *Styrax Obassia* SIEB. et ZUC. に寄生して枝状扁平な蟲癭を生ずる種である。蟲癭は7月には未だ小形であるが8月中旬には老熟期に入つて綠色味を失ひ幾分黄色味を帯び來り, 次で成蟲は羽化し出て, 未詳の宿主へ轉位する。

**有翅胎生雌蟲**

體は顯著な毛を缺き, 地色は淡綠色乃至帶黃淡綠色である。頭部は黒色で兩複眼間でも幅は長さよりも大きい。口吻は中肢に達し概して黒色である。複眼は羽化當時は赤色, 順次濃赤色となる。同色の眼瘤を伴ひ, 單眼3個の



第 98 圖  
ハクウンボクヒラタアブラの觸角  
A<sub>1</sub> 無翅胎生雌蟲  
A<sub>2</sub> 有翅胎生雌蟲

周縁は赤色味を帯びてゐる。觸角は5節より成り, 頭胸兩部の和よりは短い。全長に互つて黒色である。第一第二の兩節は約同長, 第三節は最長片で約12個の輪状で, 且隆起せる感覺器を有する。第四第五の兩節は約同長であるか若くは後者が幾分前者に優つてゐる。前者には約6個, 後者には7個の感覺器がある。胸部は黒色。肢脚は長さ中庸で概して黒色である。翅は準透明で翅斑は帶黃褐色, 脈は暗褐色。前翅の中脈は基部不明瞭であるが2枝に分れてゐる。後翅には中肘の兩脈がある。角状管は單に開孔に過ぎずして周縁は黒色である。尾片及尾板は共に圓く終り, 黒色である。

體長 1.12 耗, 觸角長 (III) 0.15 (IV) 0.10 (V) 基部 0.0 (VI) 鞭状部 0.03

(80) **エゴエゴアブラ** *Astegopterys styracophila* KARSCH

原記述 *Astegopteryx styracophila* KARSCH, Ber. deutsch. Bot. Gesell, vol. VIII, p. 52 (1890).

異名記述 *Astegopteryx nekoashi* SASAKI, Ier Congr. Intern. Ent. Bruxelles, Memo. II, p. 449 (1911); MATSUMURA, Coll. Essays Nawa, p. 50 (1917), Saito-Hō-on Kai Monog., vol. I, p. 15 (1929); 進士 日本蚜蟲總説, p. 1104 (1941).

所謂エゴノネコアシと稱する蟲癭をエゴ *Styrax japonica* SIEB et ZUCC. の小枝の成長端に菊花状に群生した花瓣状體を造り, 之等花瓣状體の各々の内部に本種を含む。成蟲は7月中下旬に花瓣状體の末端に穿孔し出て未詳の宿主へ飛び去り, 11月には有翅蟲が再び「エゴノキ」に來りて雄蟲と産卵性雌蟲とを生ずる。



## 有翅胎生雌蟲

體は割合に長く、地色は帶黄綠色で顯著なる毛を缺いてゐる。頭部は黒色で複眼を合算すれば頭幅は頭長の約2倍大である。口吻は短小で第二肢に辛じて達し、概して黒色である。複眼は顯著で濃赤色、同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は5節より成り、短くして胸部を越えない。全長に互り黒色にして第一第二の兩節は約同大、第三節は第四第五の兩節の和よりも長く、第四節は第五節と約同長である。感覺器は準輪狀で第三節に30個内外、第四節に10個乃至15個、第五節には12個内外ある。胸部は太く、黒色である。肢脚は概して黒色であるが、脛節の基半部は體と同色である。翅は準透明で翅斑及翅脈は薄黒い。前翅の中脈は1回分れて2枝をなし、基部は不明瞭であるし、肘・臀の兩脈は同所から生じてゐる。後翅の中・肘兩脈は相分離して生じてゐる。角狀管は黒く、尾片及尾板は圓く終り薄黒い。

體長 1.8 耗内外、前翅長 3 耗内外。

マンサクアブラ(金縷梅蚜)屬 Genus *Mansakia* MATSUMURA

「マンサク」(金縷梅)に寄生して閉鎖蟲癭を形成する類である。觸角は有翅蟲にありては5節よりなり、感覺器は輪狀である。前翅の中脈は單1にして分枝せず、後翅には中・肘の兩脈を具へてゐる。角狀管は單なる小孔を成し、尾片は圓く終り、尾板は淺く2葉に分れてゐる。

(81) トサカマンサクアブラ *Mansakia gallifoliae* MONZEN

原記述 *Mansakiagallifoliae* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog. 1, p. 14 (1929).

副記述 *Mansakia gallifoliae* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1104—1105(1941),

「マンサク」*Hamamelis japonica* SIEB. et ZUCC. の小枝の成長端乃至側

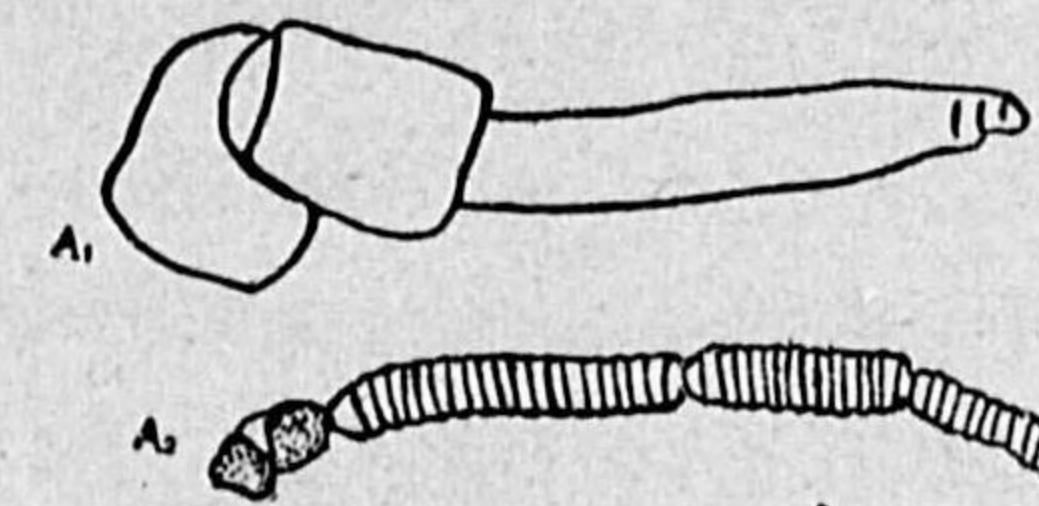
芽端に金平糖狀の蟲癭を造る。7月下旬より8月上旬に互りて、有翅胎生雌蟲が蟲癭の先端部より出でて、未知の夏季宿主へ飛び去るものである。

## 無翅胎生雌蟲

體は卵狀で淡綠色。殆んど黒色部を缺き、複眼は赤色で同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は4節より成り、第三節は最長片で第四節は疣狀である。

## 有翅胎生雌蟲

體は橢圓形で、地色は帶黄淡綠色である。頭部は薄黒くして幅は長さに優つ



第 99 圖  
トサカマンサクアブラの觸角  
A<sub>1</sub> 無翅胎生雌蟲  
A<sub>2</sub> 有翅胎生雌蟲

てゐる。口吻端は中肢に達し、後半部は黒く、基半部は概して體と同色である。複眼は赤色乃至濃赤色(老熟せるもの)にして同色の眼瘤を伴ひ、單眼3個の周縁は赤色味を添へてゐる。觸角は6節より成り、全長に互つて黒色、頭・胸兩部の

和よりも短い。第一第二の兩節は約同大、第三節は最長片で第四第五の兩節の和よりも長く、約20個の輪狀感覺器を具へてゐる。第四第五の兩節は約同長で兩者は共に10乃至15個の輪狀感覺器を具へてゐる。胸部は黒色。肢脚は寧ろ短く、全長に互つて黒色である。翅は準透明で脈と翅斑とは薄黒い。前翅の中脈は單1で分枝しない。後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は黒く、尾片は瘤狀で薄黒い。

體長 2 耗内外。

(82) イガフシマンサクアブラ *Mansakia miyabei* MATSUMURA

原記述 *Mansakia miyabei* MATSUMURA, Coll. Essays Nawa, p. 60 (1917).

副記述 *Mansakia miyabei* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog. 1, o. I,



p. 11 (1929); 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1106—1107 (1941).

異名記述 *Mansakia kagamii* MONZEN, Saito Hō-on Kai Monog. I, p. 12 (1929).

「マンサク」*Hamamelis japonica* SIEB. et ZUCC. の枝端乃至葉腋に金平糖状の蟲癭を營む種である。蟲癭は準卵状で高さ 20 耗内外, 幅 10 耗内外で, 棘状小葉を全面より突出して居, 癭壁は厚さ約 1 耗, 内部は空室にして, 初夏には僅かに 1 個の白色幼蟲を含むが 7 月下旬には生れた數十個の幼蟲乃至成蟲を容れ, 成蟲は蟲癭の末端に小孔を穿ちて飛去るが, 夏季宿主は未詳である。

無翅胎生雌蟲

體は卵状にして概して帯黄淡綠色で黑色部を具へない。觸角は 4 節より成り, 第一第二の兩節は約同大, 第三節は最長片, 第四節は略瘤状である。

有翅胎生雌蟲

體は長楕圓で地色は帯黄綠色である。頭部は黑色で顯著な毛を缺いてゐる。複眼は濃赤色乃至赤色, 同色の眼瘤を伴つてゐる。觸角は 5 節より成り, 全

第 100 圖  
イガフシマンサクアブラの有翅胎生雌蟲の觸角

長に亘つて黑色である。第一第二の兩節は約同長同幅, 第三節は第四第五兩節の和よりも短く, 約 35 個の輪状感覺器を具へ, 第四節は第五節よりも長くして 14 乃至 16 個の輪状感覺器を具へ, 第五節には約 15 個の感覺器がある。胸部は蠟板を缺き, 黑色。翅は準透明で脈と翅斑とは黒い。前翅の中脈は單 1 で分枝せず, 且基部は不鮮明, 後翅には中・肘の兩脈がある。角状管は單に小孔に過ぎず, 周縁は黑色である。

體長 1.6 耗, 觸角長 (Ⅲ) 0.20 (Ⅳ) 0.13 (Ⅴ) 0.12+0.03

ツノアブラ(角蚜)族 TRIBE OREGMINI

觸角は 4—5 節よりなりて短小, 感覺器は稜型にして高く且つ螺旋状に配置せられ, 角状管は小孔をなし, 無翅胎生雌蟲は長卵状にして, 頭・胸・腹の區劃は明瞭でなく, 粉蝨状でない。

ツノアブラ(角蚜)亞族 SUBTRIBE OREGMINA.

頭頂よりは 1 對の牛角状突起體を生じてゐる。無翅蟲は一般に多數群生し, 白色粉状物を分泌して體軀に裝着してゐる。

ヒトスチツノアブラ屬 Genus *Doraphis* HORI et MATS.

體は無翅の個體にありては圓形にして扁平且つ堅い。頭頂よりは 1 對の牛角状突起體を生じてゐる。觸角は 5 節より成りて短小, 感覺器は稜輪状である。翅は準透明で, 前翅の中脈は單 1, 後翅には 1 斜脈ある。角状管は單なる小孔であり, 尾片は瘤状, 尾板は少しく彎入してゐる。

(83) ヤマナラシヒトスチツノアブラ *Doraphis pyrifoliae* SHINJI

原記述 *Cerataphis pyrifoliae* SHINJI, Journ. Zool., XXXIV, p. 372 (1924).

異名記述 *Doraphis populi* HORI, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., vol. X, pt. 2, p. 112 (1929).

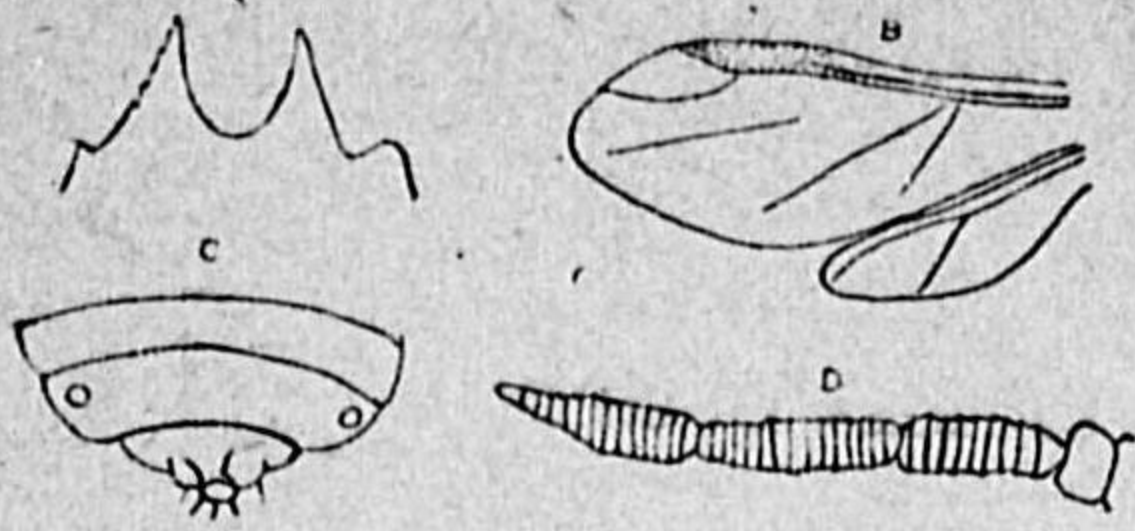
副記述 *Doraphis populi* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1108—1110 (1941).

本種はヤマナラシ *Populus tremula* L. var. *villosa* WESM. の葉裡並に小枝の皮表に寄生し, 葉裡に寄生する場合には葉全體は裏面を内側にして杯状に捲かれる。無翅胎生雌蟲は褐色であるが, 多量の白色綿絮物を分泌して爲めに灰白色を呈してゐる。

有翅胎生雌蟲



體は卵狀で割合に長く鮮褐色乃至濃煉瓦褐色である。頭部は前方へ1對の



第1(1)圖 ヤマナラシヒトスヂツノ  
アブラ A 無翅胎生雌蟲の頭頂 B,  
C, D, 有翅胎生雌蟲の前翅 B, 尾  
端 C, 觸角

長い牛角狀突起體を生じ、是は成蟲に於けるよりも仔蟲に於て特に顯著である。一般に黒色を帯びてゐる。複眼は濃赤色、口吻は辛うじて中肢を過ぎ概して黒色である。觸角は寧ろ短くして胸部を越えず、4節より成り、この第三節は最長片であつて20—25個の輪狀感覺器を具へ、第四節は第三節の半長よりは幾分長くして約11個の輪狀感覺器を具へ、輪狀部は瘤狀である。胸部は黒く、肢は概して黒色であるが腿節の基部は淡黄色なるが普通とする。翅は準透明で脈は黄褐色、前翅の中脈は單1、後翅は中脈を缺いてゐる。角狀管は輪狀で黒色、尾片は圓く終り黒い。尾板は深く分裂してゐる。

體長 2.00 耗, 觸角長 (III) 0.30 (IV) 0.20 耗。

#### マヒアブラ(舞蚜)亞族 SUBTRIBE ASTEGOPTERYCINA

頭頂は牛角狀突起體を缺き、觸角は5節より成る。皆蟲癭(閉鎖性の)を形成する類にして、晩夏には有翅胎性雌蟲生じ、之等は未知の第二宿主へ轉移するものである。

#### ムネアブラ屬 Genus *Thoracaphis* VAN DER GOOT

幼蟲の體は概して長い、成蟲には圓形に近いものが多く、無翅個體は一般に頭胸腹の區劃を明示しない。觸角は無翅個體では3節、有翅個體では5節より成り、有翅個體のもの感覺板は輪環狀である。前翅の中脈は2枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は概して小孔に過ぎず、尾片は

準圓錐形である。

#### (84) イスノキオホムネアブラ *Thoracaphis distychii* (PERGANDE)

原記述 *Nipponaphis distychii* PERGANDE, Ent. News, XVII, p. 205 (1906).

副記述 *Thoracaphis distychii* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1119—1121 (1911).

異名記述 *Nipponaphis distychii* MATSUMURA, Coll. Essay Nawa, p. 35 (1917); ESSIG and KUWANA, Proc. Cal. Acad. Sci., 4, VIII, p. 10 (1918).

イスノキ *Dystylum racemosum* SIEB et ZUCC. に寄生する蚜蟲の1種である。本種の寄生する葉は全葉が中空の無花果大の蟲癭となる。癭内には最初1胎生雌蟲を含んで居るに過ぎないが、順次に蕃殖して數十個體を産するものである。九州・中國地方に産するが、東京に於てももと西ヶ原の農事試験場敷地内に産してゐた事がある。

#### 有翅胎生雌蟲

體は長橢圓形で地色は帶黄淡綠色である。頭部は黒色。口吻は割合に短く概して黒色で、複眼は濃赤色で同色の眼瘤を具へてゐる。觸角は5節より成り頭胸兩部の和と約同長であり、全長に亘り黒色である。第三節は第四節よりも遙かに長くして約25個の輪狀感覺器を具へ、第四節には約2個、第五節には約10個の輪狀感覺器を具へてゐる。胸部は黒色である。肢脚は寧ろ短小で腿・脛兩節の基半部は黄色、殘部は黒色である。翅は準透明で脈は黒色。前翅の中脈は2枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。

體長 1.5 耗, 觸角節の比 (I) 0.02 (II) 0.02 (III) 0.2 (IV) 0.08 (V) 0.08。



(85) イスノキコムネアブラ *Thoracaphis yanonis* MATSUMURA

原記述 *Nipponaphis yanonis* MATSUMURA, Coll. Essays f. Nawa, p. 56 (1917)

副記述 *Thoracaphis yanonis* 進士, 日本蚜蟲總説 p. 1121—1122 (1941).

イスノキ *Distylium racemosum* SIEB. et ZUCC. の葉裏に小豆大準圓錐状の蟲癭を営む種で、屢々前種イスノキオホムネアブラの蟲癭上にも蟲癭を営む。

## 有翅胎生雌蟲

體は帶黃褐色。頭部は小形で薄黒い。複眼は顯著で濃赤色である。觸角は5節から成り後脛節よりも長く全長に亘つて黒色である。第三節は第四第五兩節の和よりも遙かに長くして約18個の輪狀感覺器を具へ、第四節には約4個、第五節には約6個の輪狀感覺器を具へてゐる。胸部は黒色、肢脚は寧ろ短小で脛・脛兩節の基半部は體と同色、殘部は黒色である。翅は準透明で脈は黒色、前翅の中脈は分れて2枝を成し、後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は輪狀で黒色、尾片は瘤狀で若干の毛を生じ、尾板は2葉に分れてゐる。

(86) イスノキヒメムネアブラ *Thoracaphis globuli* MONZEN

原記述 *Niponaphis globuli* MONZEN, Sci. Bull. Moriola Coll. Agr. et For. Alum. Ass., IX, p. 17 (1934).

副記述 *Thoracaphis globuli* SHIN. 日本蚜蟲總説 p. 1123 (1941).

「イスノキ」の枝に球形乃至橢圓形の蟲癭を形成する種である。

## 有翅胎生雌蟲

體は長橢圓にして地色は淡綠色である。頭部は黒色。口吻は中肢の基節窩

に達し基半部は白色、後半部は黒色である。複眼は濃赤色。觸角は5節より成り、頭胸兩部の和と約同長、全長に亘り黒色を帯びてゐる。第三節は第四第五兩節の和よりも長くして40箇内外の輪狀感覺器を具へ、第四節は第五節よりも長くして20箇内外の輪狀感覺器を具へ、第五節上には10—20個の同様な感覺器がある。胸部は黒色。肢・脚は脛・脛兩節の基部の淡黄色なるを除けば概して黒色である。翅は準透明にして脈は薄黒い。前翅の中脈は全長の約3分の2に相當する基部は不明にして2枝を存し、後翅には中・肘の兩脈がある。

體長 1.3 耗、翅長 1.9 耗。

觸角各節の比較長 (III) 0.30 (IV) 0.18 (V) 0.16。

擬粉蠹屬 Genus *Aleurodaphis* VAN DER GOOT

體は扁平にして特に幼蟲のものは粉蠹科のものに酷似してゐる。頭・胸・腹の3部は無翅蟲にありても判然してゐる。無翅蟲の眼は3個の單眼より成り、角狀管は小孔を成し、尾片は長くして末端は瘤狀。尾板は2葉に分れてゐる。體側は齒狀を呈して蠟腺を開口せしめ、前翅の中脈は2枝をなせども基部は判然せず、後肢には中・肘の兩脈がある。

(87) ヤブタバココナジラミモドキ *Aleurodaphis blumeae* VAN DER GOOT

原記述 *Aleurodaphis blumeae* VAN DER GOOT, Fauna Indes Neerl., vol. I, p. 240 (1917).

副記述 *Aleurodaphis blumeae* 進士, 日本蚜蟲總説, p. 1136—1139 (1941.)

異名記述 *Astegopteryx japonica* TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt. 2,